

平成 28 年度 事故やけがに関するアンケート調査  
報告書

平成 29 年 1 月  
鹿児島市



# 目次

第1章	調査の概要	1
第2章	乳幼児	3
第3章	一般	39
第4章	高齢者	129
第5章	総括	197
第6章	調査票	215





# 第1章 調査の概要



## 1 調査の目的

セーフコミュニティ活動による市民の認識や行動に関する変化を確認するデータ等を収集し、取組の評価や改善につなげるもの。

## 2 調査の地域

鹿児島市全域

## 3 調査方法

	全体	乳幼児	一般	高齢者
対象者			0歳～6歳で 未就学児の男女 (保護者)	16～64歳の男女
回答者		保護者回答	本人回答	本人回答
調査方法		市内に居住する市民を無作為抽出し、 郵送による発送・回収		
配布数	3,500人	1,000人	1,500人	1,000人
有効回答数	1,463人	488人	447人	528人
有効回答率	41.8%	48.8%	29.8%	52.8%

## 4 調査期間

平成28年8月1日(月)～8月19日(金)

## 5 調査の基準日

平成28年7月1日(金)

## 6 調査結果利用上の注意

- ・割合は百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある。
- ・割合は、回答人数を分母として算出している。
- ・乳幼児の間10(家庭内の安全対策の認識度及び保護者がとる安全対策)については、項目毎の比較を行うため、「器具や設備等がない等の理由で危険性が低い」への回答及び無回答を除外した割合を掲載している。



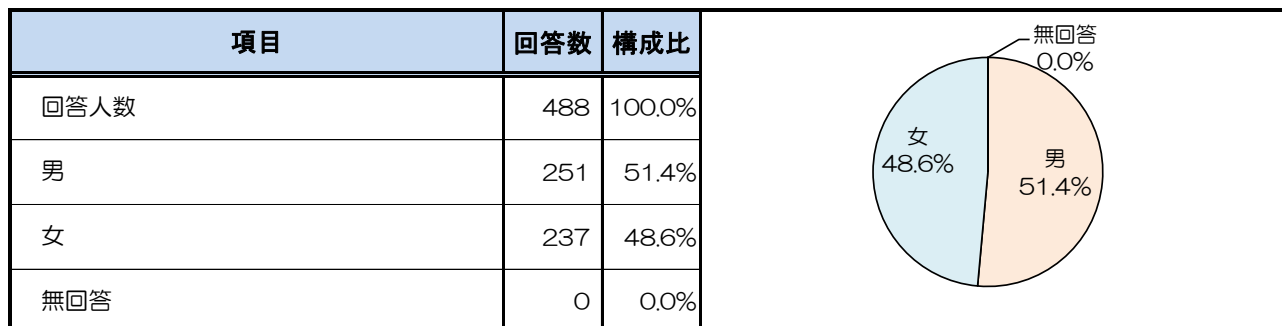
## 第2章 乳幼児



問1 対象のお子さん（封書の宛名）についてお聞きします。

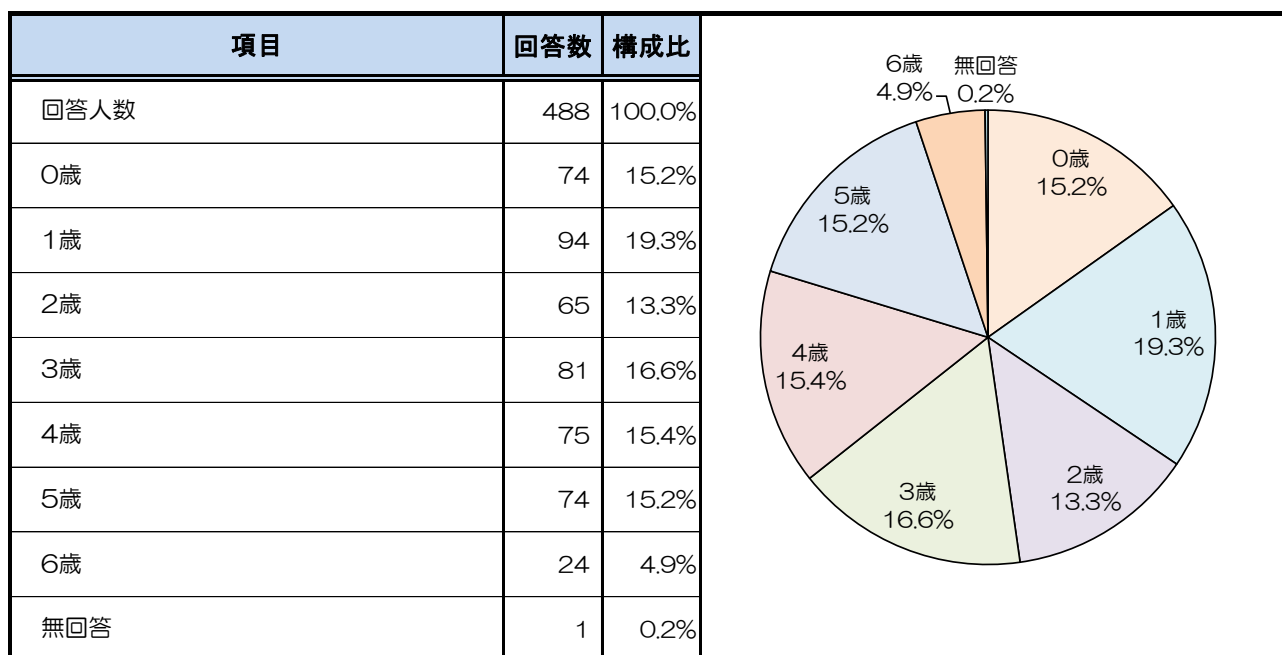
(1)対象（封書の宛名）のお子さんの性別

性別については、「男」が51.4%「女」が48.6%となっている。



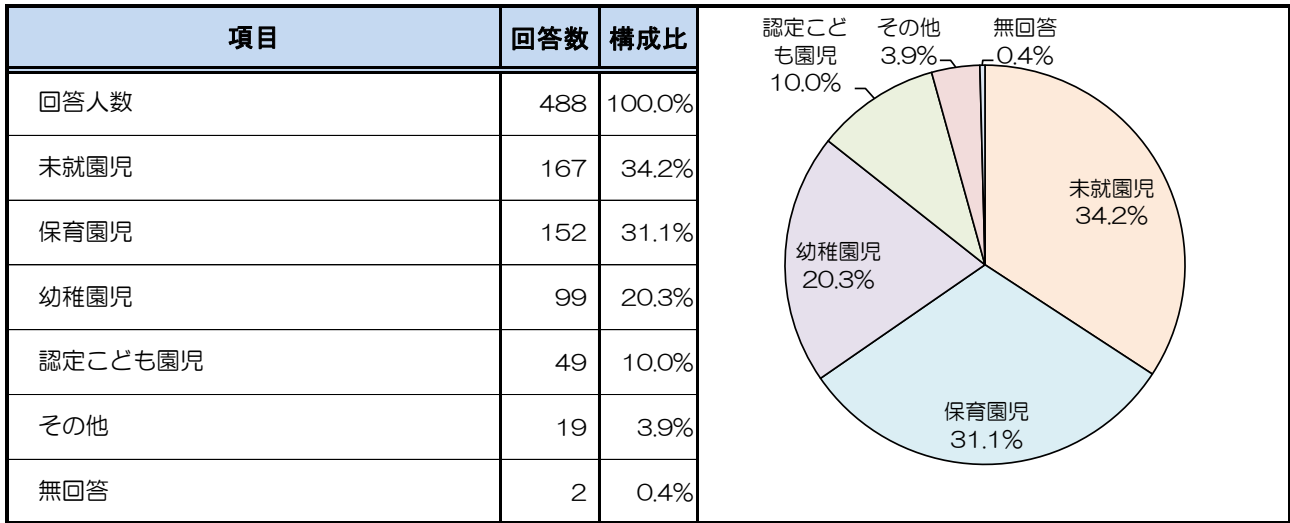
(2)対象（封書の宛名）のお子さんの年齢（平成28年7月1日現在）

年齢については、「1歳」が19.3%と最も多く、次いで、「3歳」の16.6%、「4歳」の15.4%の順となっている。



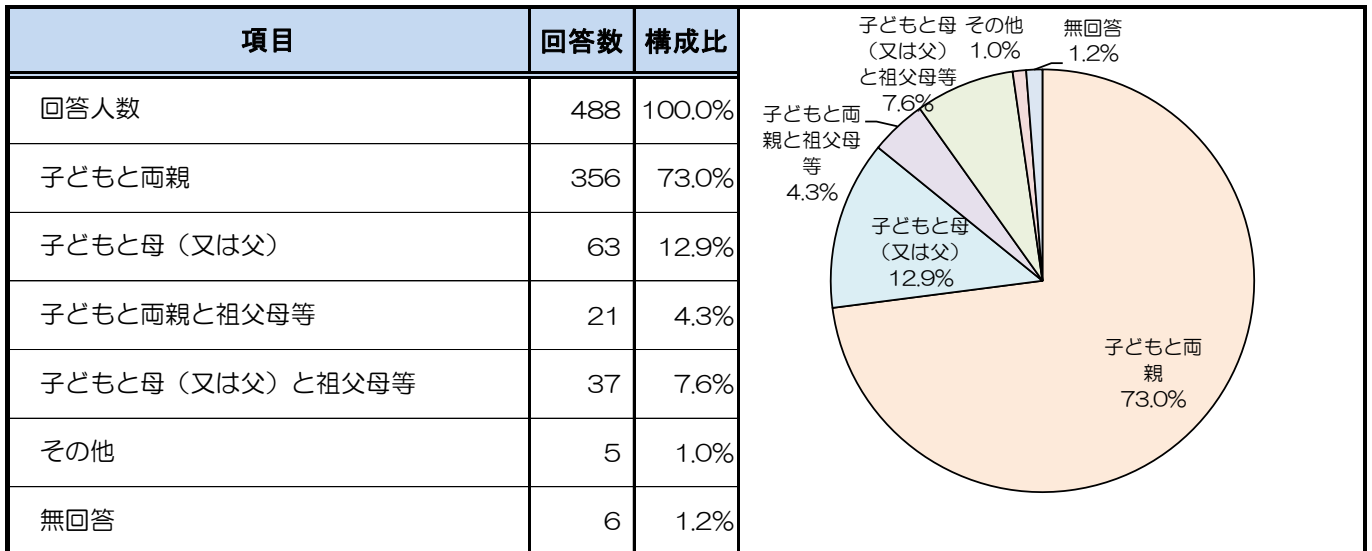
(3)対象（封書の宛名）のお子さんの就園状況（平成28年7月1日現在）

就園状況については、「未就園児」が34.2%と最も高く、次いで、「保育園児」の31.1%、「幼稚園児」の20.3%の順となっている。



(4)家族構成

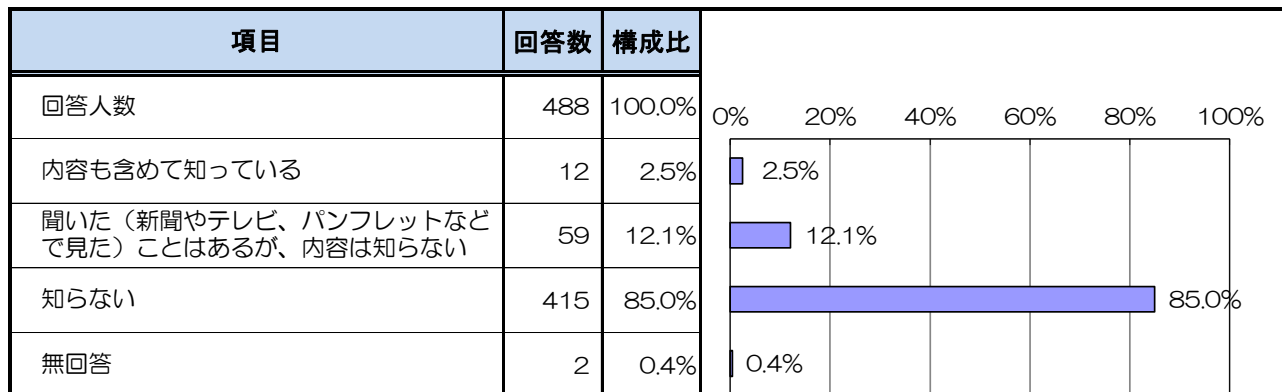
家族構成については、「子どもと両親」が73.0%と最も高く、次いで、「子どもと母（又は父）」の12.9%、「子どもと母（又は父）と祖父母等」の7.6%の順となっている。





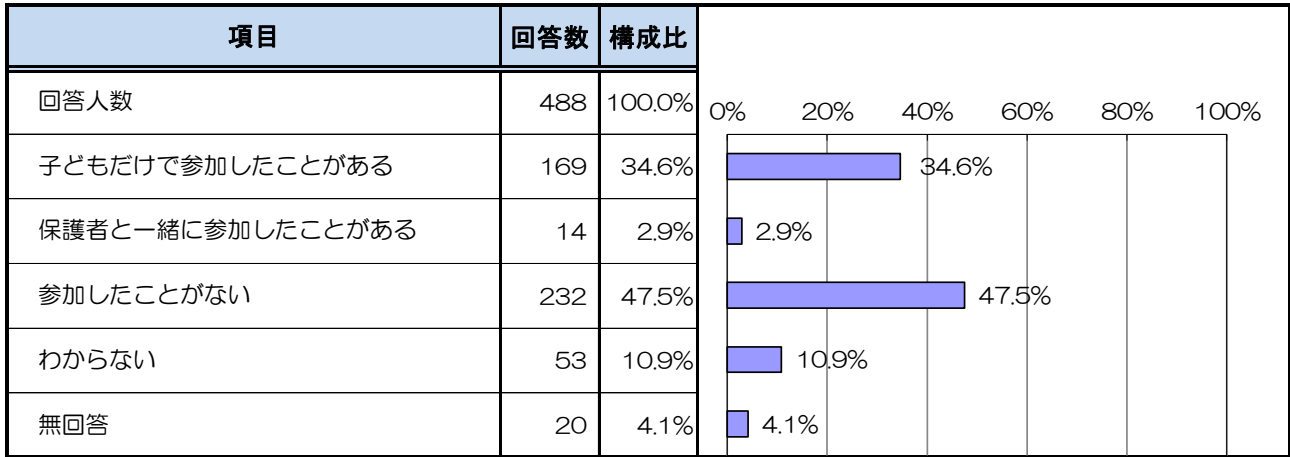
問3 あなたは、鹿児島市が「セーフコミュニティ」に取り組んでいることを知っていますか。  
(1つに○)

セーフコミュニティの認識度については、「知らない」が85.0%と最も高く、次いで、「聞いた（新聞やテレビ、パンフレットなどで見た）ことはあるが、内容は知らない」の12.1%、「内容も含めて知っている」の2.5%の順となっている。



問4 対象のお子さんは、この1年間（平成27年7月から平成28年6月まで）に交通安全教室（保育園や幼稚園等での講習会などを含む）に参加したことがありますか。（1つに○）

交通安全教室等に参加したかについては、「参加したことがない」が47.5%と最も高く、次いで、「子どもだけで参加したことがある」の34.6%、「わからない」の10.9%の順となっている。



【属性別特徴】

年齢別では、年齢が高くなるほど「参加したことがない」の割合が低く、「子どもだけで参加したことがある」の割合が高くなっている。

就園状況別では、未就学児の「参加したことがない」の割合、幼稚園児・認定こども園児の「子どもだけで参加したことがある」の割合がそれぞれ高くなっている。

項目	回答人数		年齢（1歳刻み）															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	488	100.0%	74	100.0%	94	100.0%	65	100.0%	81	100.0%	75	100.0%	74	100.0%	25	100.0%	0	-
子どもだけで参加したことがある	169	34.6%	4	5.4%	7	7.4%	10	15.4%	31	38.3%	41	54.7%	56	75.7%	20	80.0%	0	-
保護者と一緒に参加したことがある	14	2.9%	1	1.4%	1	1.1%	0	0.0%	2	2.5%	3	4.0%	6	8.1%	1	4.0%	0	-
参加したことがない	232	47.5%	64	86.5%	69	73.4%	40	61.5%	36	44.4%	16	21.3%	6	8.1%	1	4.0%	0	-
わからない	53	10.9%	3	4.1%	13	13.8%	9	13.8%	8	9.9%	12	16.0%	5	6.8%	3	12.0%	0	-
無回答	20	4.1%	2	2.7%	4	4.3%	6	9.2%	4	4.9%	3	4.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	-

項目	回答人数		就園状況											
			未就学児		保育園児		幼稚園児		認定こども園児		その他		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	488	100.0%	167	100.0%	152	100.0%	99	100.0%	49	100.0%	19	100.0%	2	100.0%
子どもだけで参加したことがある	169	34.6%	3	1.8%	64	42.1%	68	68.7%	31	63.3%	3	15.8%	0	0.0%
保護者と一緒に参加したことがある	14	2.9%	4	2.4%	1	0.7%	5	5.1%	2	4.1%	2	10.5%	0	0.0%
参加したことがない	232	47.5%	146	87.4%	49	32.2%	16	16.2%	7	14.3%	12	63.2%	2	100.0%
わからない	53	10.9%	4	2.4%	35	23.0%	6	6.1%	7	14.3%	1	5.3%	0	0.0%
無回答	20	4.1%	10	6.0%	3	2.0%	4	4.0%	2	4.1%	1	5.3%	0	0.0%

【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		年齢（1歳刻み）															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	47	100.0%	7	100.0%	13	100.0%	5	100.0%	7	100.0%	7	100.0%	7	100.0%	1	100.0%	0	-
子どもだけで参加したことがある	16	34.0%	0	0.0%	2	15.4%	1	20.0%	3	42.9%	5	71.4%	5	71.4%	0	0.0%	0	-
保護者と一緒に参加したことがある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
参加したことがない	25	53.2%	7	100.0%	9	69.2%	2	40.0%	3	42.9%	1	14.3%	2	28.6%	1	100.0%	0	-
わからない	4	8.5%	0	0.0%	1	7.7%	1	20.0%	1	14.3%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	2	4.3%	0	0.0%	1	7.7%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

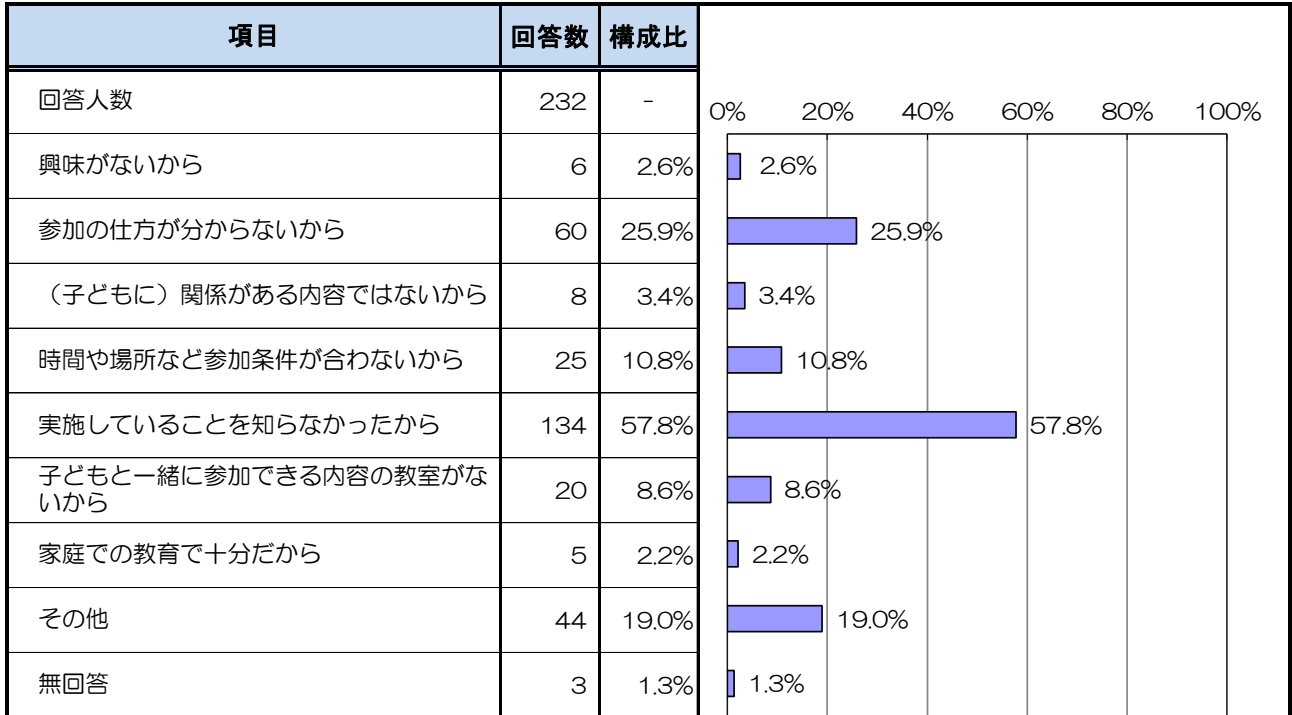
項目	回答人数		就園状況											
			未就学児		保育園児		幼稚園児		認定こども園児		その他		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	47	100.0%	16	100.0%	12	100.0%	13	100.0%	6	100.0%	0	-	0	-
子どもだけで参加したことがある	16	34.0%	0	0.0%	4	33.3%	7	53.8%	5	83.3%	0	-	0	-
保護者と一緒に参加したことがある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	-
参加したことがない	25	53.2%	15	93.8%	4	33.3%	5	38.5%	1	16.7%	0	-	0	-
わからない	4	8.5%	0	0.0%	3	25.0%	1	7.7%	0	0.0%	0	-	0	-
無回答	2	4.3%	1	6.3%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	-

【乳幼児】

※問4で『3. 参加したことがない』とご回答された方にお聞きします。

問4-1 対象のお子さんが、交通安全教室（保育園や幼稚園等での講習会などを含む）に参加したことがない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

交通安全教室等に参加したことがない理由については、「実施していることを知らなかったから」が57.8%と最も高く、次いで、「参加の仕方が分からないから」の25.9%の順となっている。



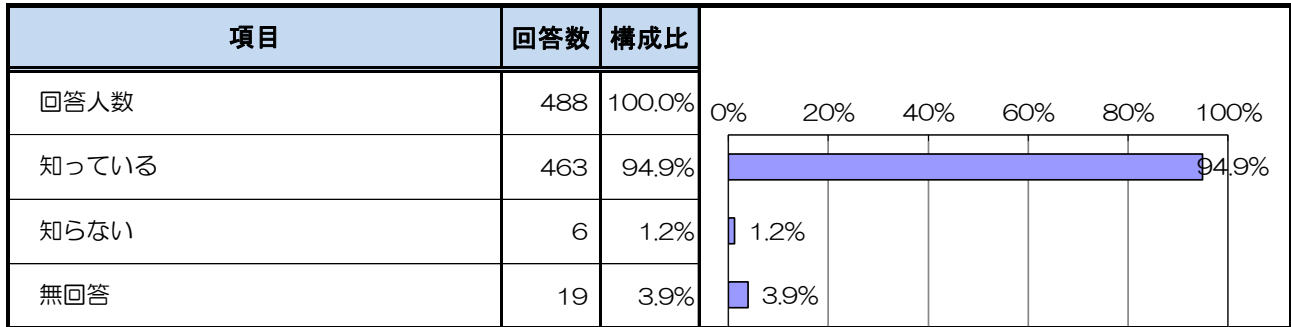
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	25	-
興味がないから	1	4.0%
参加の仕方が分からないから	8	32.0%
関係がある内容ではないから	1	4.0%
時間や場所など参加条件が合わないから	4	16.0%
実施していることを知らなかったから	14	56.0%
子どもと一緒に参加できる内容の教室がないから	4	16.0%
家庭での教育で十分だから	3	12.0%
その他	3	12.0%
無回答	0	0.0%

【乳幼児】

問5 あなたは、6歳未満の乳幼児が自動車に乗車するときに、チャイルドシートの使用が義務付けられていることを知っていますか。(1つに○)

チャイルドシート着用義務の認識度については、「知っている」が94.9%、「知らない」が1.2%となっている。



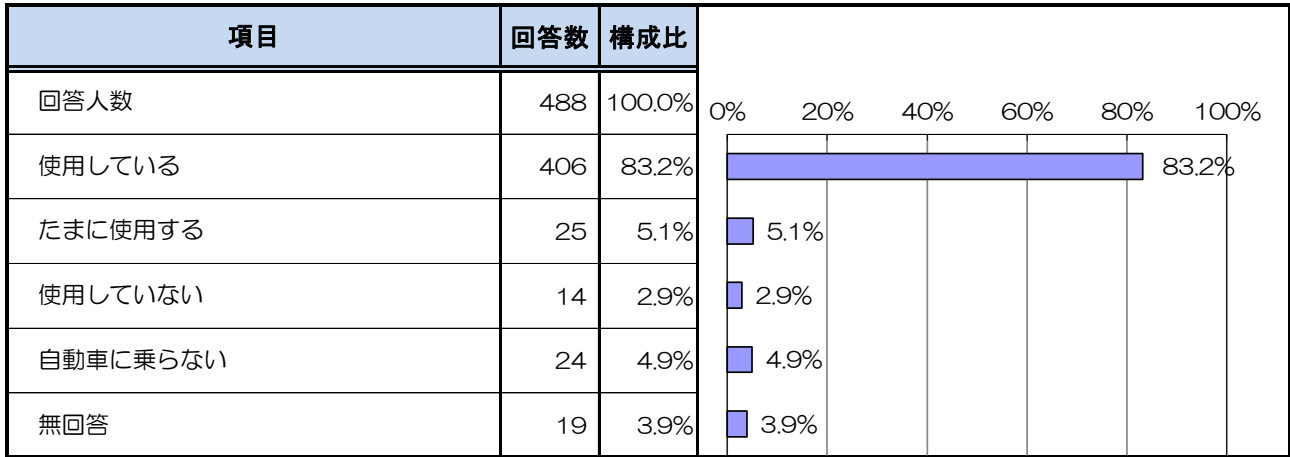
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	47	100.0%
知っている	45	95.7%
知らない	1	2.1%
無回答	1	2.1%

【乳幼児】

問6 対象のお子さんが自動車に乗車するときに、チャイルドシートを使用していますか。  
(1つに○)

チャイルドシートの使用状況については、「使用している」が83.2%と最も高く、次いで、「たまに使用する」の5.1%、「自動車に乗らない」の4.9%の順となっている。



【属性別特徴】

年齢別では、6歳時の「使用していない」の割合が他の年齢と比較して高くなっている。

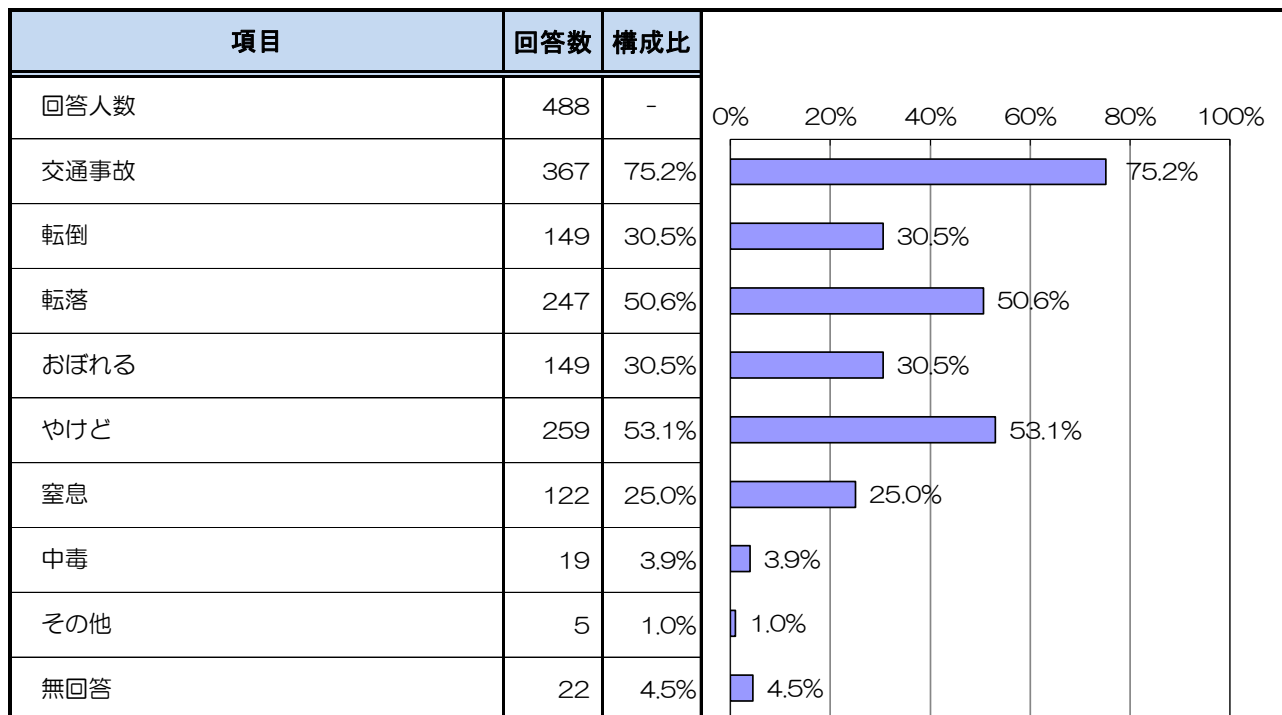
項目	回答人数		年齢（1歳刻み）															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	488	100.0%	74	100.0%	94	100.0%	65	100.0%	81	100.0%	75	100.0%	74	100.0%	25	100.0%	0	-
使用している	406	83.2%	63	85.1%	81	86.2%	54	83.1%	67	82.7%	62	82.7%	60	81.1%	19	76.0%	0	-
たまに使用する	25	5.1%	1	1.4%	2	2.1%	3	4.6%	2	2.5%	7	9.3%	7	9.5%	3	12.0%	0	-
使用していない	14	2.9%	0	0.0%	3	3.2%	0	0.0%	4	4.9%	0	0.0%	4	5.4%	3	12.0%	0	-
自動車に乗らない	24	4.9%	9	12.2%	5	5.3%	2	3.1%	4	4.9%	3	4.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	-
無回答	19	3.9%	1	1.4%	3	3.2%	6	9.2%	4	4.9%	3	4.0%	2	2.7%	0	0.0%	0	-

【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		年齢（1歳刻み）															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	47	100.0%	7	100.0%	13	100.0%	5	100.0%	7	100.0%	7	100.0%	7	100.0%	1	100.0%	0	-
使用している	42	89.4%	7	100.0%	11	84.6%	4	80.0%	6	85.7%	7	100.0%	6	85.7%	1	100.0%	0	-
たまに使用する	2	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	0	-
使用していない	1	2.1%	0	0.0%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
自動車に乗らない	1	2.1%	0	0.0%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	1	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

問7 不慮の事故とは、交通事故、転倒、転落、おぼれる、やけど、窒息、中毒などをいいますが、対象のお子さんに対し、特に注意している不慮の事故は何ですか。  
(あてはまるもの3つまで○)

保護者が注意をしている子の不慮の事故については「交通事故」が75.2%と最も多く、次いで、「やけど」の53.1%、「転落」の50.6%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男女ともに「交通事故」「やけど」「転落」が上位3項目に含まれている。

年齢別では、1歳～6歳では「交通事故」の割合が最も高くなっているが、0歳では「窒息」の割合が最も高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	488	-	251	-	237	-	0	-
交通事故	367	75.2%	189	75.3%	178	75.1%	0	-
転倒	149	30.5%	85	33.9%	64	27.0%	0	-
転落	247	50.6%	122	48.6%	125	52.7%	0	-
おぼれる	149	30.5%	78	31.1%	71	30.0%	0	-
やけど	259	53.1%	142	56.6%	117	49.4%	0	-
窒息	122	25.0%	57	22.7%	65	27.4%	0	-
中毒	19	3.9%	8	3.2%	11	4.6%	0	-
その他	5	1.0%	3	1.2%	2	0.8%	0	-
無回答	22	4.5%	10	4.0%	12	5.1%	0	-

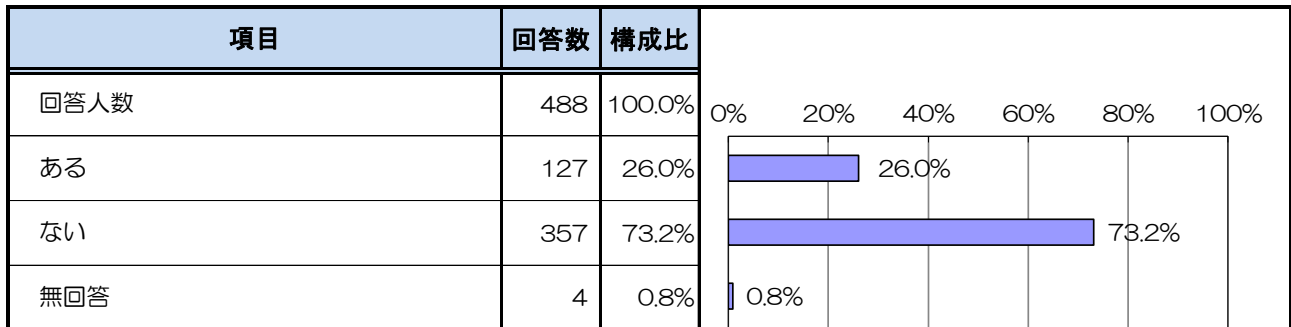
項目	回答人数		年齢（1歳刻み）															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	488	-	74	-	94	-	65	-	81	-	75	-	74	-	25	-	0	-
交通事故	367	75.2%	17	23.0%	56	59.6%	58	89.2%	76	93.8%	64	85.3%	72	97.3%	24	96.0%	0	-
転倒	149	30.5%	36	48.6%	35	37.2%	22	33.8%	19	23.5%	20	26.7%	13	17.6%	4	16.0%	0	-
転落	247	50.6%	48	64.9%	50	53.2%	30	46.2%	38	46.9%	39	52.0%	30	40.5%	12	48.0%	0	-
おぼれる	149	30.5%	11	14.9%	33	35.1%	23	35.4%	23	28.4%	21	28.0%	29	39.2%	9	36.0%	0	-
やけど	259	53.1%	20	27.0%	53	56.4%	31	47.7%	51	63.0%	44	58.7%	44	59.5%	16	64.0%	0	-
窒息	122	25.0%	53	71.6%	24	25.5%	13	20.0%	13	16.0%	11	14.7%	6	8.1%	2	8.0%	0	-
中毒	19	3.9%	5	6.8%	3	3.2%	2	3.1%	2	2.5%	3	4.0%	2	2.7%	2	8.0%	0	-
その他	5	1.0%	0	0.0%	2	2.1%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.0%	0	-
無回答	22	4.5%	5	6.8%	5	5.3%	2	3.1%	3	3.7%	5	6.7%	2	2.7%	0	0.0%	0	-



【乳幼児】

問8 対象のお子さんは、この1年間に「事故やけが」の経験がありますか。(1つに○)

子どもの事故やけがの経験の有無については、「ない」が73.2%、「ある」が26.0%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異は見られない。

年齢別では、2歳の「ある」の割合、0歳・6歳の「ない」の割合が他の年齢と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	488	100.0%	251	100.0%	237	100.0%	0	-
ある	127	26.0%	65	25.9%	62	26.2%	0	-
ない	357	73.2%	185	73.7%	172	72.6%	0	-
無回答	4	0.8%	1	0.4%	3	1.3%	0	-

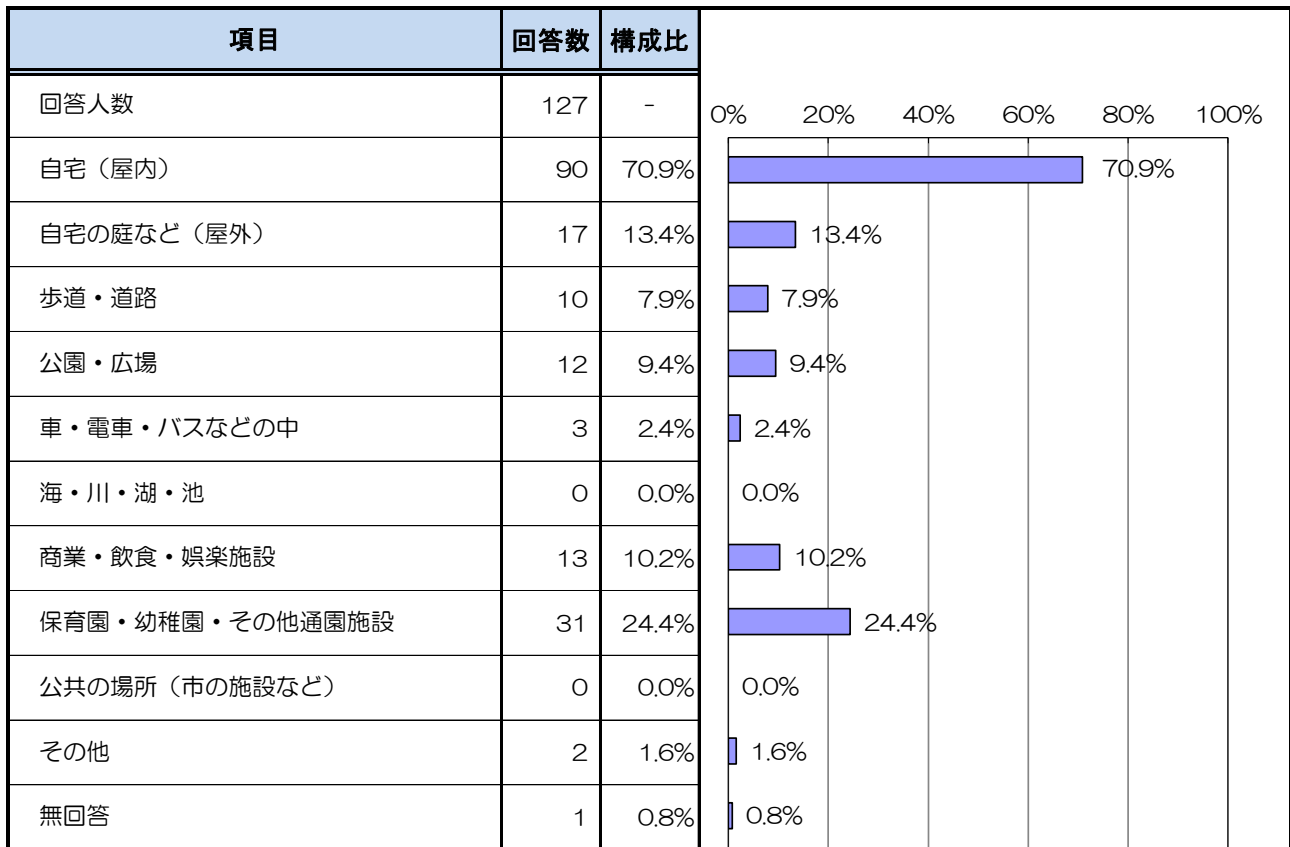
項目	回答人数		年齢(1歳刻み)															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	488	100.0%	74	100.0%	94	100.0%	65	100.0%	81	100.0%	75	100.0%	74	100.0%	25	100.0%	0	-
ある	127	26.0%	7	9.5%	29	30.9%	28	43.1%	14	17.3%	20	26.7%	25	33.8%	4	16.0%	0	-
ない	357	73.2%	65	87.8%	65	69.1%	36	55.4%	67	82.7%	54	72.0%	49	66.2%	21	84.0%	0	-
無回答	4	0.8%	2	2.7%	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

※問8で『1. ある』とご回答された方にお聞きします。

問9 対象のお子さんのこの1年間（平成27年7月～平成28年6月）にあった事故やけがについて、ア：場所、イ：種類、ウ：医療機関の受診の状況、エ：その事故やけがを未然に防ぐことができた可能性を、それぞれ1つずつ、該当する番号でご回答ください。事故やけがの経験が複数ある場合は最大2件までご回答下さい。）

ア 事故やけがをした場所

「自宅（屋内）」が70.9%と最も高く、次いで、「保育園・幼稚園・その他通園施設」の24.4%、「自宅の庭など（屋外）」の13.4%の順となっている。



## 【属性別特徴】

性別では、男女ともに「自宅（屋内）」の割合が最も高くなっているが、男性の「自宅の庭など（屋外）」の割合が女性と比較して高くなっている。

年齢別では、0歳～3歳の「自宅（屋内）」の割合、4歳～6歳の「保育園・幼稚園・その他通園施設」の割合が他の年齢と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	127	-	65	-	62	-	0	-
自宅（屋内）	90	70.9%	43	66.2%	47	75.8%	0	-
自宅の庭など（屋外）	17	13.4%	12	18.5%	5	8.1%	0	-
歩道・道路	10	7.9%	4	6.2%	6	9.7%	0	-
公園・広場	12	9.4%	6	9.2%	6	9.7%	0	-
車・電車・バスなどの中	3	2.4%	1	1.5%	2	3.2%	0	-
海・川・湖・池	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
商業・飲食・娯楽施設	13	10.2%	9	13.8%	4	6.5%	0	-
保育園・幼稚園・その他通園施設	31	24.4%	15	23.1%	16	25.8%	0	-
公共の場所（市の施設など）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
その他	2	1.6%	1	1.5%	1	1.6%	0	-
無回答	1	0.8%	1	1.5%	0	0.0%	0	-

項目	回答人数		年齢（1歳刻み）															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	127	-	7	-	29	-	28	-	14	-	20	-	25	-	4	-	0	-
自宅（屋内）	90	70.9%	8	114.3%	26	89.7%	26	92.9%	10	71.4%	8	40.0%	11	44.0%	1	25.0%	0	-
自宅の庭など（屋外）	17	13.4%	0	0.0%	3	10.3%	5	17.9%	2	14.3%	1	5.0%	6	24.0%	0	0.0%	0	-
歩道・道路	10	7.9%	0	0.0%	1	3.4%	2	7.1%	1	7.1%	4	20.0%	1	4.0%	1	25.0%	0	-
公園・広場	12	9.4%	0	0.0%	2	6.9%	0	0.0%	1	7.1%	2	10.0%	5	20.0%	2	50.0%	0	-
車・電車・バスなどの中	3	2.4%	0	0.0%	1	3.4%	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.0%	0	0.0%	0	-
海・川・湖・池	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
商業・飲食・娯楽施設	13	10.2%	0	0.0%	2	6.9%	4	14.3%	2	14.3%	1	5.0%	4	16.0%	0	0.0%	0	-
保育園・幼稚園・その他通園施設	31	24.4%	0	0.0%	4	13.8%	4	14.3%	2	14.3%	8	40.0%	10	40.0%	3	75.0%	0	-
公共の場所（市の施設など）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
その他	2	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

イ 事故やけがの種類

「転倒」が54.3%と最も高く、次いで、「やけど（熱湯、アイロンなど）」の19.7%、「転落」の18.9%の順となっている。

項目	回答数	構成比
回答人数	127	-
交通事故	0	0.0%
転倒	69	54.3%
転落	24	18.9%
おぼれた	3	2.4%
やけど（熱湯、アイロンなど）	25	19.7%
窒息（のどに食べ物をつまらせたなど）	1	0.8%
異物などの誤飲（たばこの吸殻など）	3	2.4%
中毒（洗剤を飲み込んだ、煙を吸ったなど）	0	0.0%
ドアなどに挟まった	18	14.2%
人や物との接触	9	7.1%
ハサミなどの鋭利なものでのけが	0	0.0%
虫にさされた、動物にかまれた	0	0.0%
落下物との接触	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%

【属性別特徴】

性別では、男性の「転倒」の割合が女性と比較して高くなっている。

年齢別では、1歳～6歳では「転倒」の割合が最も高くなっているが、0歳では「転落」の割合が最も高くなっている。

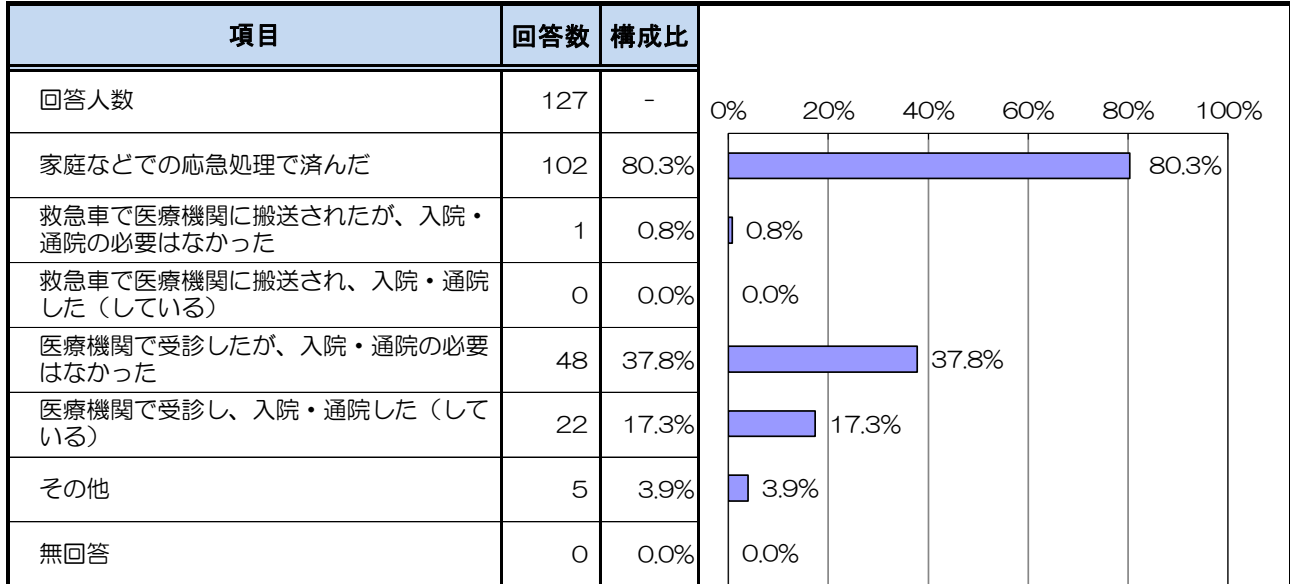
項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	127	-	65	-	62	-	0	-
交通事故	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
転倒	69	54.3%	38	58.5%	31	50.0%	0	-
転落	24	18.9%	12	18.5%	12	19.4%	0	-
おぼれた	3	2.4%	0	0.0%	3	4.8%	0	-
やけど（熱湯、アイロンなど）	25	19.7%	12	18.5%	13	21.0%	0	-
窒息（のどに食べ物をつまらせたなど）	1	0.8%	0	0.0%	1	1.6%	0	-
異物などの誤飲（たばこの吸殻など）	3	2.4%	1	1.5%	2	3.2%	0	-
中毒（洗剤を飲み込んだ、煙を吸ったなど）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
ドアなどに挟まった	18	14.2%	8	12.3%	10	16.1%	0	-
人や物との接触	9	7.1%	6	9.2%	3	4.8%	0	-
ハサミなどの鋭利なものでのけが	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
虫にさされた、動物にかまれた	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
落下物との接触	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

【乳幼児】

項目	回答人数		年齢（1歳刻み）															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	127	-	7	-	29	-	28	-	14	-	20	-	25	-	4	-	0	-
交通事故	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
転倒	69	54.3%	2	28.6%	12	41.4%	17	60.7%	7	50.0%	14	70.0%	13	52.0%	4	100.0%	0	-
転落	24	18.9%	3	42.9%	6	20.7%	4	14.3%	4	28.6%	2	10.0%	5	20.0%	0	0.0%	0	-
おぼれた	3	2.4%	0	0.0%	2	6.9%	0	0.0%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
やけど（熱湯、アイロンなど）	25	19.7%	0	0.0%	8	27.6%	7	25.0%	2	14.3%	3	15.0%	5	20.0%	0	0.0%	0	-
窒息（のどに食べ物をつまらせたなど）	1	0.8%	0	0.0%	1	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
異物などの誤飲（たばこの吸殻など）	3	2.4%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	8.0%	0	0.0%	0	-
中毒（洗剤を飲み込んだ、煙を吸ったなど）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
ドアなどに挟まった	18	14.2%	0	0.0%	0	0.0%	7	25.0%	4	28.6%	3	15.0%	4	16.0%	0	0.0%	0	-
人や物との接触	9	7.1%	0	0.0%	4	13.8%	0	0.0%	0	0.0%	4	20.0%	1	4.0%	0	0.0%	0	-
ハサミなどの鋭利なものでのけが	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
虫にさされた、動物にかまれた	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
落下物との接触	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

ウ 医療機関の受診

「家庭などでの応急処理で済んだ」が80.3%と最も高く、次いで、「医療機関で受診したが、入院・通院の必要はなかった」の37.8%、「医療機関で受診し、入院・通院した（している）」の17.3%の順となっている。



【乳幼児】

【属性別特徴】

性別では、男性の医療機関へ受診した割合が女性と比較して高くなっている。

年齢別では、5歳以外では「家庭などでの応急処理で済んだ」の割合が最も高くなっているが、5歳では「医療機関で受診したが、入院・通院の必要はなかった」の割合が最も高くなっている。

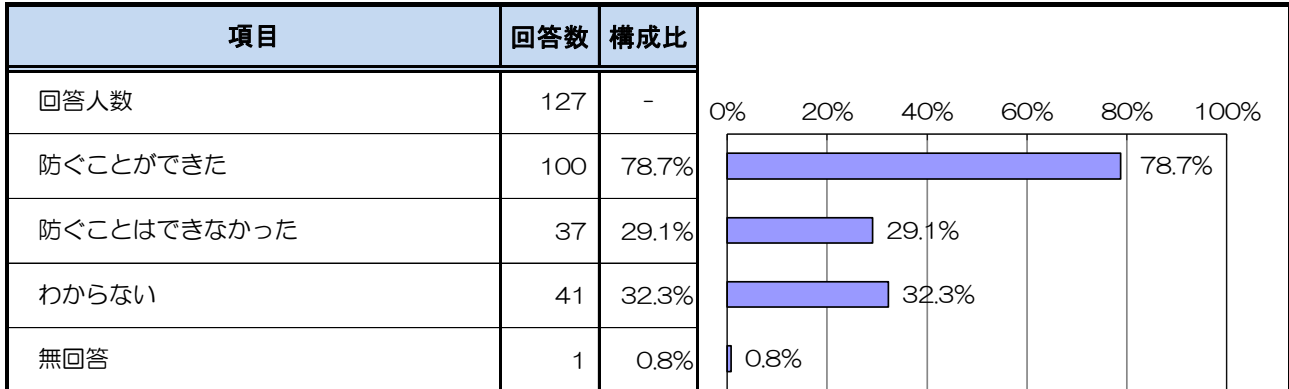
項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	127	-	65	-	62	-	0	-
家庭などでの応急処理で済んだ	102	80.3%	44	67.7%	58	93.5%	0	-
救急車で医療機関に搬送されたが、入院・通院の必要はなかった	1	0.8%	1	1.5%	0	0.0%	0	-
救急車で医療機関に搬送され、入院・通院した（している）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
医療機関で受診したが、入院・通院の必要はなかった	48	37.8%	30	46.2%	18	29.0%	0	-
医療機関で受診し、入院・通院した（している）	22	17.3%	15	23.1%	7	11.3%	0	-
その他	5	3.9%	1	1.5%	4	6.5%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

項目	回答人数		年齢（1歳刻み）															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	127	-	7	-	29	-	28	-	14	-	20	-	25	-	4	-	0	-
家庭などでの応急処理で済んだ	102	80.3%	6	85.7%	24	82.8%	24	85.7%	16	114.3%	14	70.0%	12	48.0%	6	150.0%	0	-
救急車で医療機関に搬送されたが、入院・通院の必要はなかった	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
救急車で医療機関に搬送され、入院・通院した（している）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
医療機関で受診したが、入院・通院の必要はなかった	48	37.8%	2	28.6%	11	37.9%	8	28.6%	0	0.0%	9	45.0%	17	68.0%	1	25.0%	0	-
医療機関で受診し、入院・通院した（している）	22	17.3%	0	0.0%	3	10.3%	7	25.0%	2	14.3%	2	10.0%	8	32.0%	0	0.0%	0	-
その他	5	3.9%	0	0.0%	1	3.4%	3	10.7%	0	0.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-



エ 未然に防ぐことができた可能性

「防ぐことができた」が78.7%と最も高く、次いで、「わからない」の32.3%、「防ぐことはできなかった」の29.1%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、女性の「防ぐことができた」の割合が男性と比較して高くなっている。

年齢別では、0歳～4歳では「防ぐことができた」の割合が最も高くなっているが、6歳では「わからない」の割合が最も高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	127	-	65	-	62	-	0	-
防ぐことができた	100	78.7%	48	73.8%	52	83.9%	0	-
防ぐことはできなかった	37	29.1%	20	30.8%	17	27.4%	0	-
わからない	41	32.3%	23	35.4%	18	29.0%	0	-
無回答	1	0.8%	1	1.5%	0	0.0%	0	-

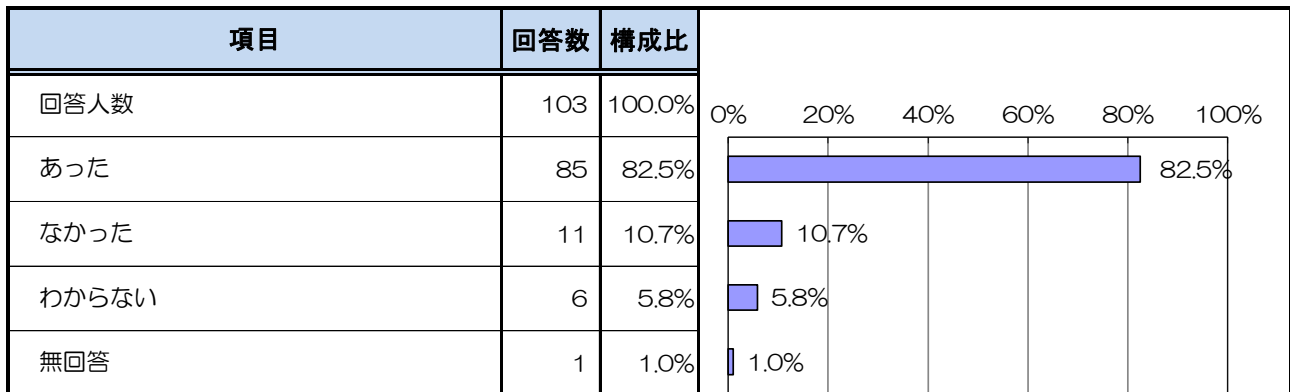
項目	回答人数		年齢（1歳刻み）															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	127	-	7	-	29	-	28	-	14	-	20	-	25	-	4	-	0	-
防ぐことができた	100	78.7%	8	114.3%	25	86.2%	26	92.9%	15	107.1%	11	55.0%	15	60.0%	0	0.0%	0	-
防ぐことはできなかった	37	29.1%	0	0.0%	5	17.2%	8	28.6%	1	7.1%	6	30.0%	15	60.0%	2	50.0%	0	-
わからない	41	32.3%	0	0.0%	8	27.6%	8	28.6%	3	21.4%	9	45.0%	8	32.0%	5	125.0%	0	-
無回答	1	0.8%	0	0.0%	1	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

※問9の『イ 事故やけがの種類』で『2. 転倒』、『3. 転落』、『4. おぼれた』、『5. やけど』、『6. 窒息』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

問9-1 問9の事故やけがの後、あなた（保護者）は対象のお子さんに対する考え方や行動の変化はありましたか。（ア・イそれぞれ1つに○）

ア 考え方の変化

「あった」が82.5%と最も高く、次いで、「なかった」の10.7%、「わからない」の5.8%の順となっている。



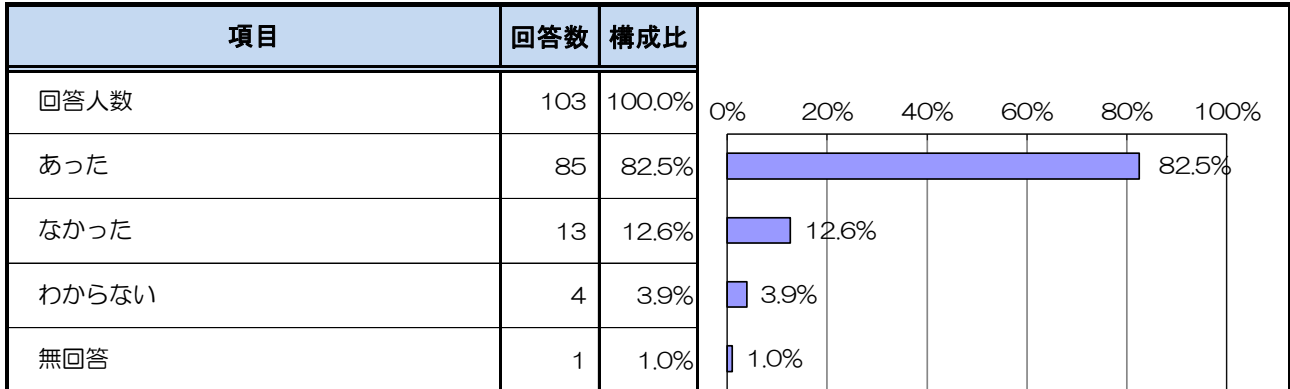
【属性別特徴】

年齢別では、0歳～5歳では「あった」の割合が最も高くなっているが、6歳では3人中2人が「なかった」と回答している。

項目	回答人数		年齢（1歳刻み）															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	103	100.0%	5	100.0%	25	100.0%	24	100.0%	12	100.0%	15	100.0%	19	100.0%	3	100.0%	0	-
あった	85	82.5%	5	100.0%	22	88.0%	24	100.0%	12	100.0%	11	73.3%	10	52.6%	1	33.3%	0	-
なかった	11	10.7%	0	0.0%	1	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	20.0%	5	26.3%	2	66.7%	0	-
わからない	6	5.8%	0	0.0%	2	8.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	21.1%	0	0.0%	0	-
無回答	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

イ 行動の変化

「あった」が82.5%と最も高く、次いで、「なかった」の12.6%、「わからない」の3.9%の順となっている。



【属性別特徴】

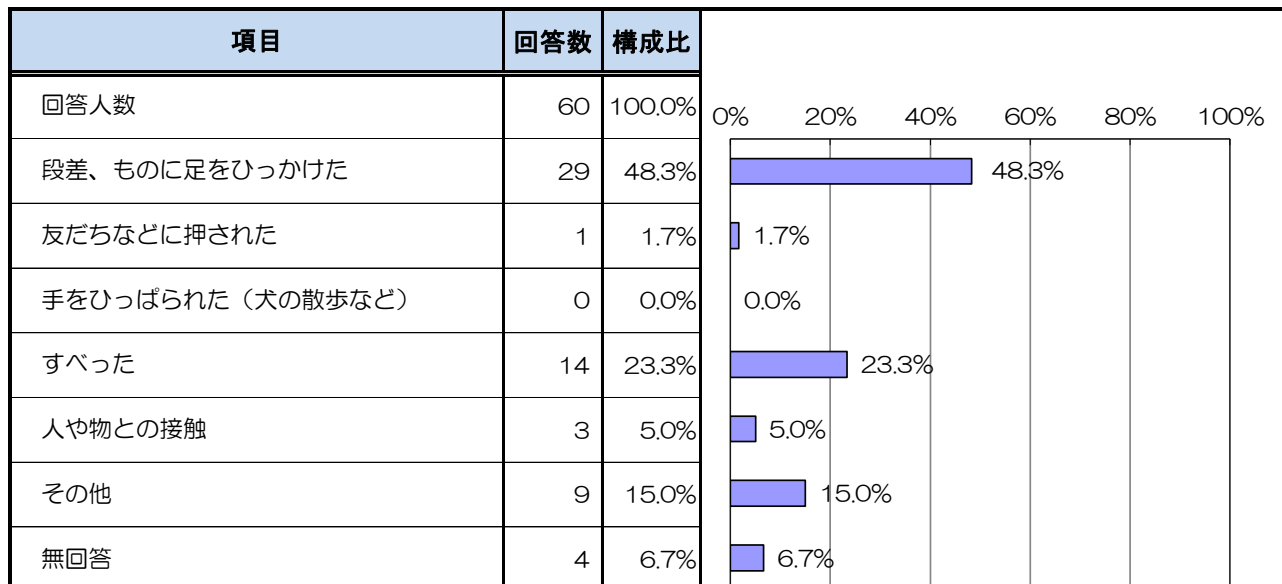
年齢別では、0歳～5歳では「あった」の割合が最も高くなっているが、6歳では3人中2人が「なかった」と回答している。

項目	回答人数		年齢（1歳刻み）															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	103	100.0%	5	100.0%	25	100.0%	24	100.0%	12	100.0%	15	100.0%	19	100.0%	3	100.0%	0	-
あった	85	82.5%	5	100.0%	22	88.0%	24	100.0%	12	100.0%	11	73.3%	10	52.6%	1	33.3%	0	-
なかった	13	12.6%	0	0.0%	1	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	20.0%	7	36.8%	2	66.7%	0	-
わからない	4	3.9%	0	0.0%	2	8.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	10.5%	0	0.0%	0	-
無回答	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

※問9の『イ 事故やけがの種類』で『2. 転倒』とご回答された方にお聞きします。

問9-2 転倒の原因（1つに○）

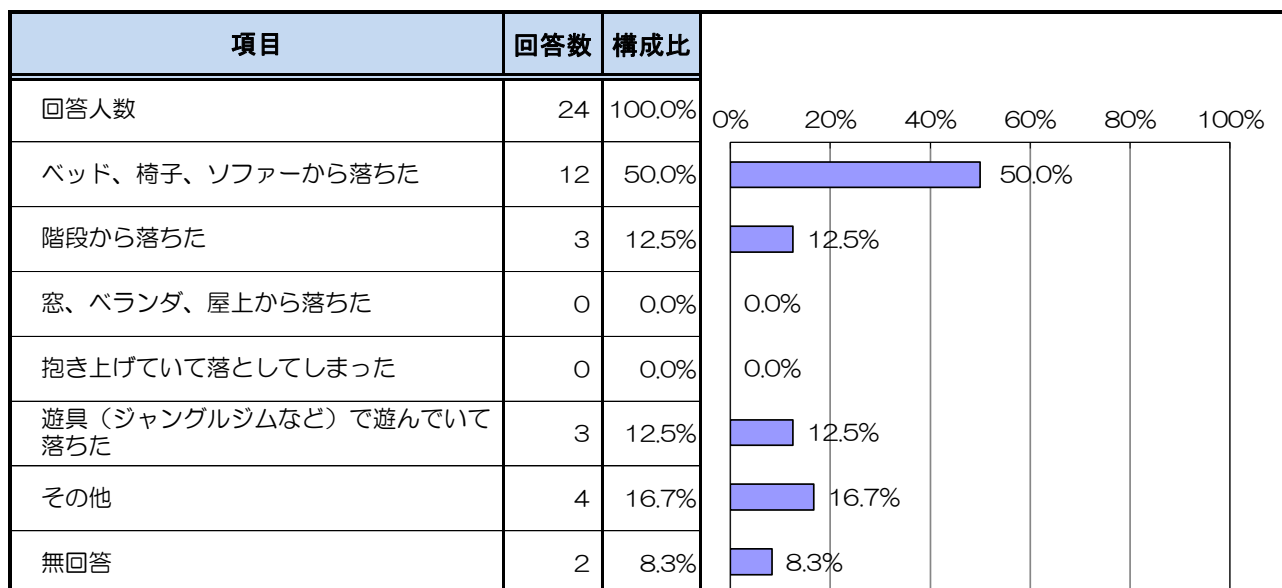
子どもの転倒の原因については、「段差、ものに足をひっかけた」が48.3%と最も高く、次いで、「すべった」の23.3%の順となっている。



※問9の『イ 事故やけがの種類』で『3. 転落』とご回答された方にお聞きします。

問9-3 転落の原因（1つに○）

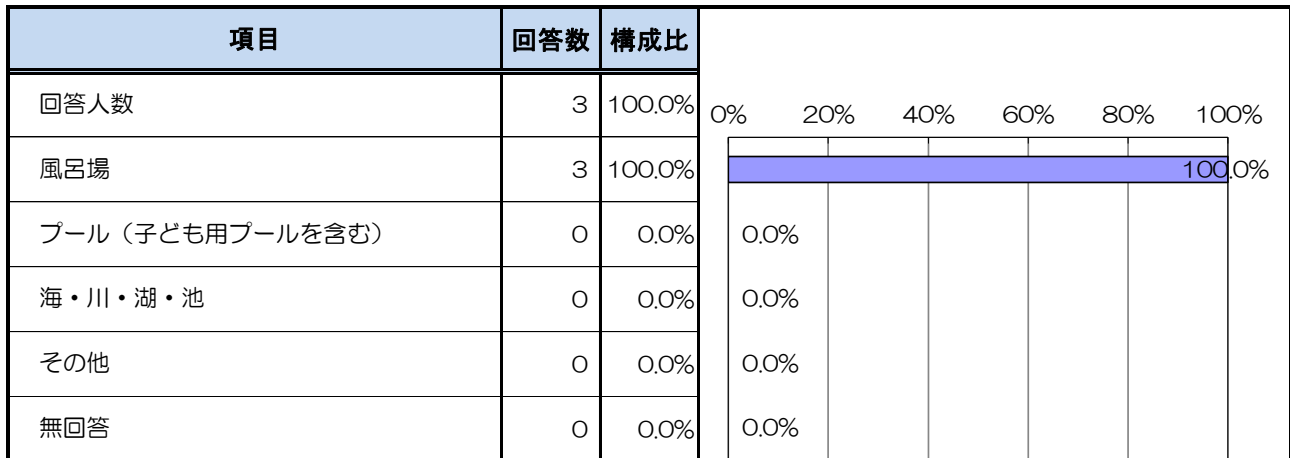
子どもの転落の原因については、「ベッド、椅子、ソファから落ちた」が50.0%と最も高くなっている。



※問9の『イ 事故やけがの種類』で『4. おぼれた』とご回答された方にお聞きします。

問9-4 おぼれた場所（1つに○）

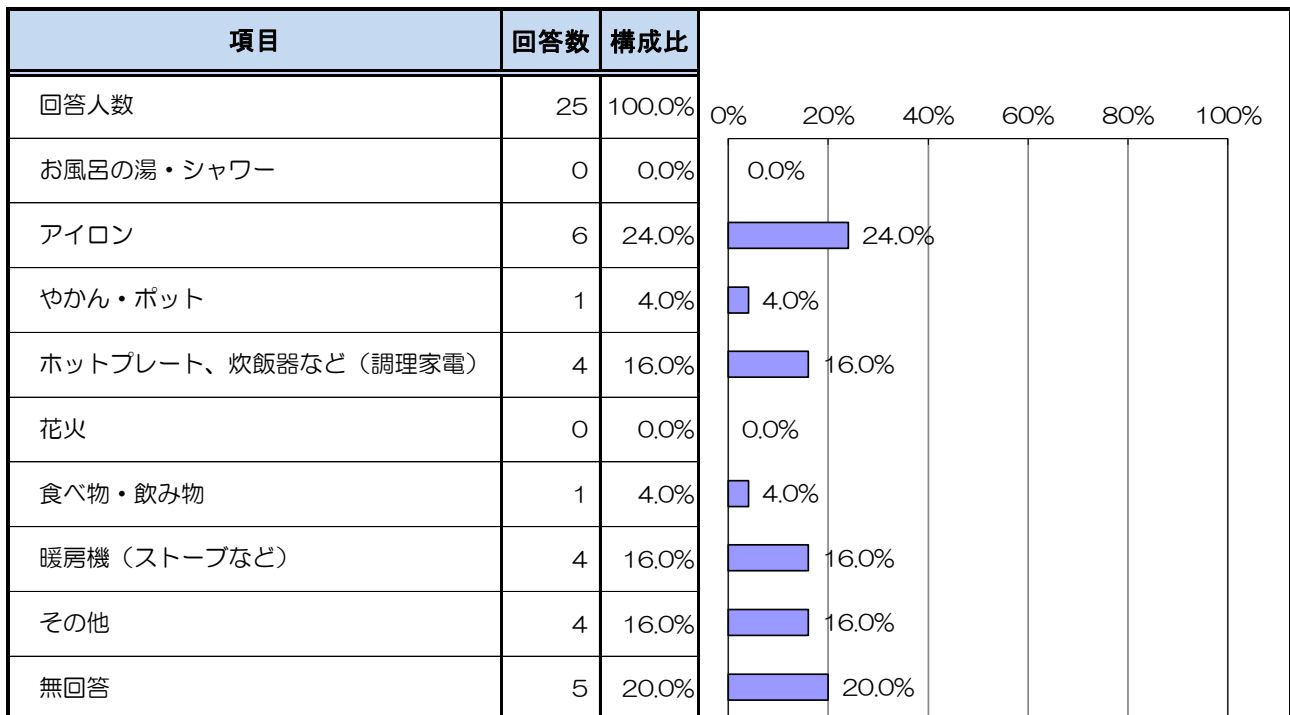
子どものおぼれた場所については、「風呂場」のみに回答が得られた。



※問9の『イ 事故やけがの種類』で『5. やけど』とご回答された方にお聞きします。

問9-5 やけどの原因（1つに○）

子どもをやけどの原因については、「アイロン」が24.0%と最も高くなっている。



※問9の『イ 事故やけがの種類』で『6. 窒息』とご回答された方にお聞きします。

問9-6 窒息の原因・状況（1つに○）

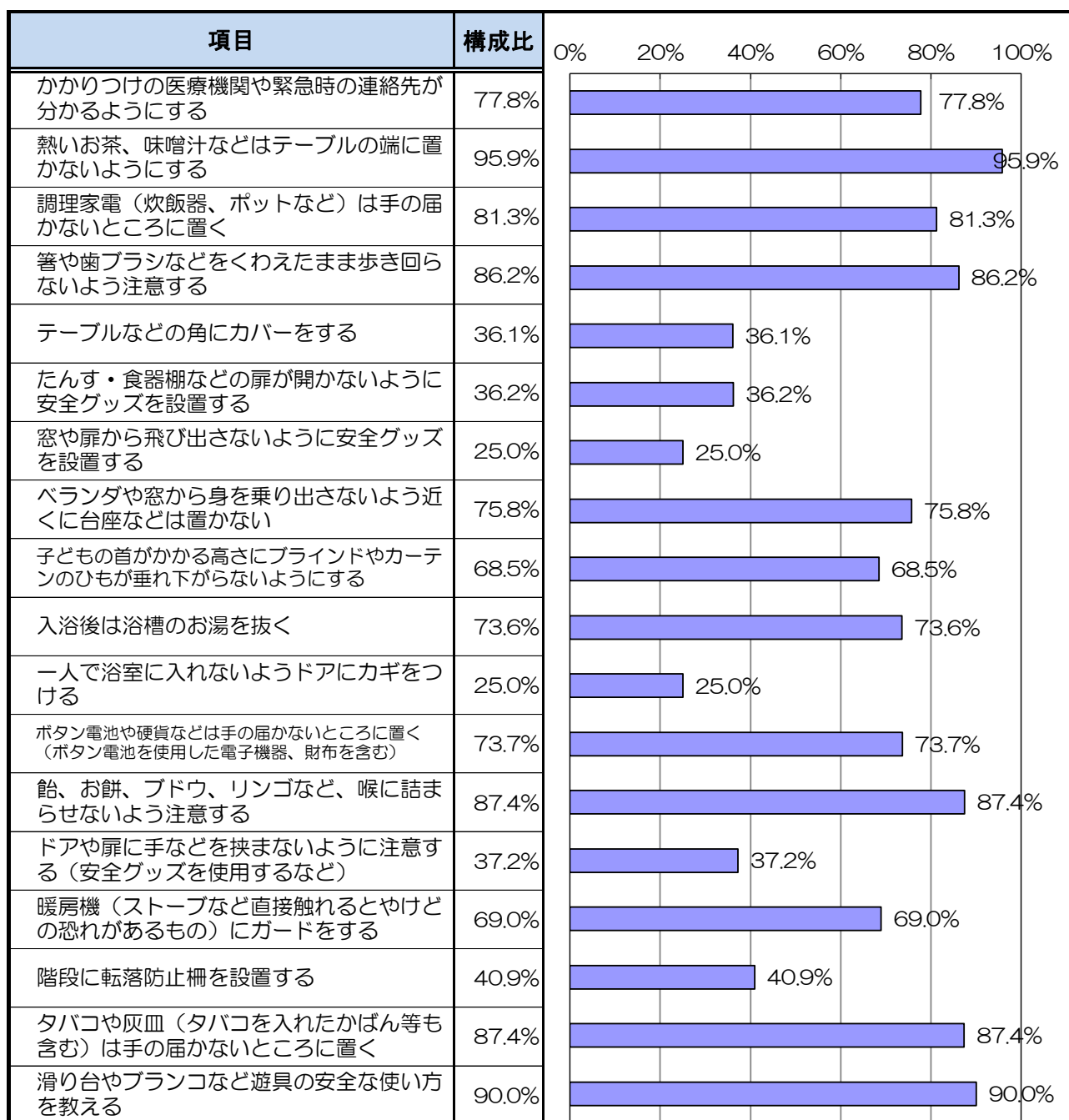
子どもの窒息の原因・状況については、「その他」のみに回答が得られた。

項目	回答数	構成比	0% 20% 40% 60% 80% 100%					
回答人数	1	100.0%						
食べ物を詰ませた	0	0.0%	0.0%					
手元にあったものを口に入れてしまい、詰ませた	0	0.0%	0.0%					
おう吐物が鼻・口をふさいだ	0	0.0%	0.0%					
うつぶせ寝	0	0.0%	0.0%					
ビニール袋等を頭にかぶった・かぶされた	0	0.0%	0.0%					
添い寝で、親の腕等が鼻・口をふさいだ	0	0.0%	0.0%					
紐が首にまきついた	0	0.0%	0.0%					
その他	1	100.0%	100.0%					
無回答	0	0.0%	0.0%					

問 10 あなた(保護者)の家庭内における子どもの安全対策についてお聞きします。1～18の対策がそれぞれ必要だと思いますか。また、実際にその対策をとっていますか。(1～18の項目ごとに1つに○)

(必要だと思い対策をとっている)

「熱いお茶、味噌汁などはテーブルの端に置かないようにする」が95.9%と最も高く、次いで、「滑り台やブランコなど遊具の安全な使い方を教える」の90.0%、「飴、お餅、ブドウ、リンゴなど、喉に詰まらせないように注意する」「タバコや灰皿は手の届かないところに置く」の87.4%の順となっている。



## 【属性別特徴】

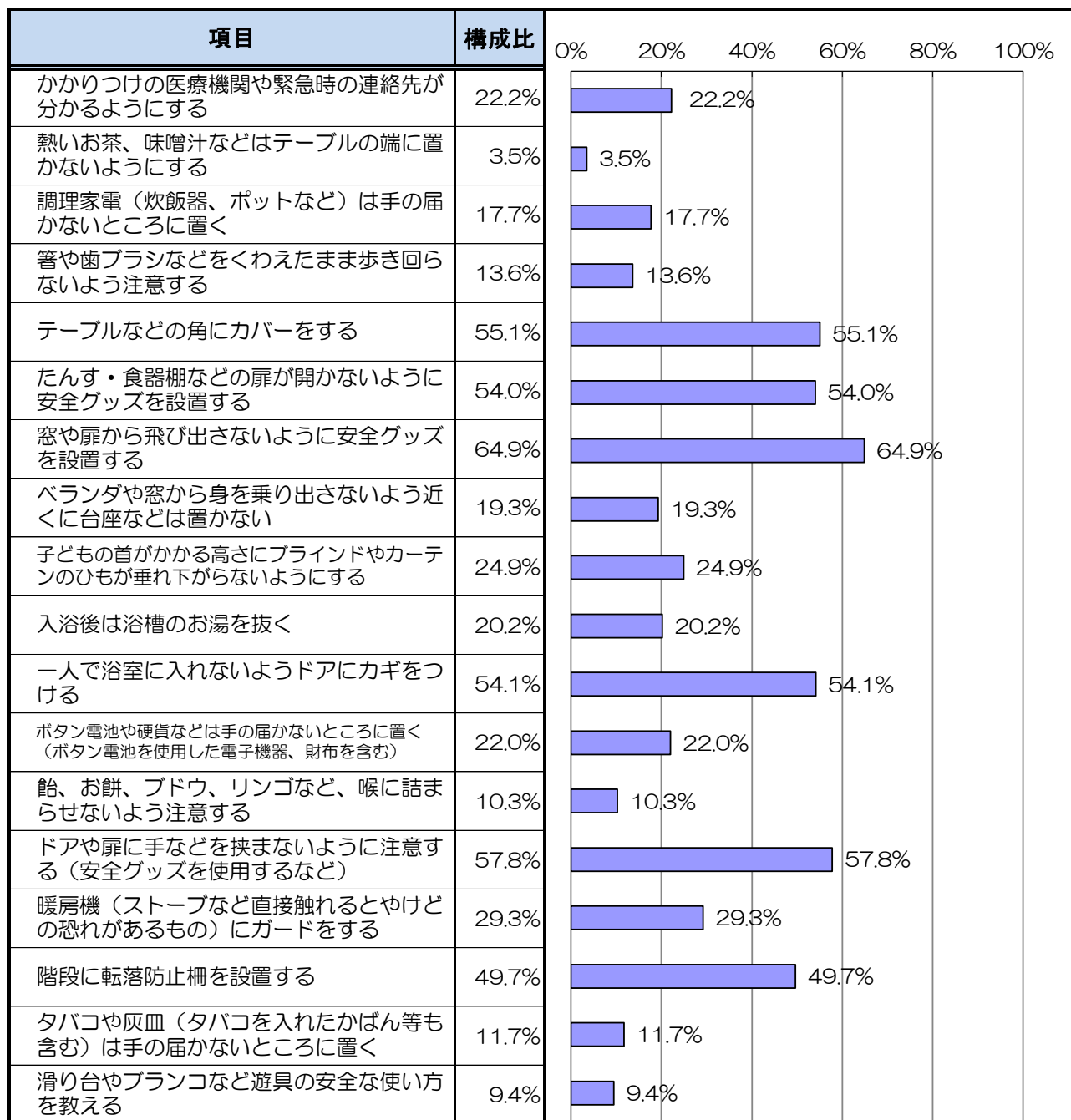
年齢別では、0歳～5歳では「熱いお茶、味噌汁などはテーブルの端に置かないようにする」の割合が最も高くなっているが、6歳では「かかりつけの医療機関や緊急時の連絡先が分かるようにする」の割合が最も高くなっている。

項目	全体	年齢（1歳刻み）							
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	無回答
		割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
かかりつけの医療機関や緊急時の連絡先が分かるようにする	77.8%	72.6%	85.1%	70.8%	76.5%	68.0%	83.8%	100.0%	-
熱いお茶、味噌汁などはテーブルの端に置かないようにする	95.9%	90.3%	98.9%	96.9%	96.3%	97.3%	94.6%	96.0%	-
調理家電（炊飯器、ポットなど）は手の届かないところに置く	81.3%	81.9%	88.3%	89.2%	84.0%	74.7%	67.6%	84.0%	-
箸や歯ブラシなどをくわえたまま歩き回らないよう注意する	86.2%	67.6%	81.9%	84.6%	91.4%	94.7%	94.6%	92.0%	-
テーブルなどの角にカバーをする	36.1%	27.8%	49.5%	43.1%	35.8%	36.0%	24.3%	28.0%	-
たんす・食器棚などの扉が開かないように安全グッズを設置する	36.2%	25.0%	57.4%	38.5%	41.3%	31.1%	16.4%	40.0%	-
窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置する	25.0%	26.4%	32.3%	26.2%	27.2%	24.0%	13.5%	20.8%	-
ベランダや窓から身を乗り出さないよう近くに台座などは置かない	75.8%	59.7%	79.6%	73.8%	83.8%	78.4%	78.4%	72.0%	-
子どもの首がかかる高さにブラインドやカーテンのひもが垂れ下がらないようにする	68.5%	55.6%	74.5%	71.4%	76.5%	65.8%	66.2%	64.0%	-
入浴後は浴槽のお湯を抜く	73.6%	66.7%	80.9%	83.1%	75.0%	73.3%	67.6%	56.0%	-
一人で浴室に入れないようドアにカギをつける	25.0%	20.8%	32.3%	29.2%	25.9%	25.3%	17.8%	16.0%	-
ボタン電池や硬貨などは手の届かないところに置く（ボタン電池を使用した電子機器、財布を含む）	73.7%	77.8%	85.1%	70.8%	80.2%	74.7%	52.7%	64.0%	-
飴、お餅、ブドウ、リンゴなど、喉に詰まらせないように注意する	87.4%	70.8%	95.7%	89.2%	95.1%	92.0%	81.1%	80.0%	-
ドアや扉に手などを挟まないように注意する（安全グッズを使用するなど）	37.2%	43.1%	46.8%	33.8%	39.5%	36.0%	25.7%	24.0%	-
暖房機（ストーブなど直接触れるとやけどの恐れがあるもの）にガードをする	69.0%	44.7%	77.4%	80.4%	65.2%	71.8%	74.4%	70.6%	-
階段に転落防止柵を設置する	40.9%	29.5%	64.2%	37.5%	31.0%	48.9%	30.2%	35.3%	-
タバコや灰皿（タバコを入れたかばん等も含む）は手の届かないところに置く	87.4%	75.7%	95.2%	90.0%	93.3%	91.4%	77.1%	92.3%	-
滑り台やブランコなど遊具の安全な使い方を教える	90.0%	40.0%	90.0%	90.3%	96.2%	95.9%	90.3%	92.0%	-



(必要だと思うが、対策をとっていない)

「窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置する」が64.9%と最も高く、次いで、「ドアや扉に手などを挟まないように注意する」の57.8%、「テーブルなどの角にカバーをする」の55.1%の順となっている。



## 【属性別特徴】

年齢別では、0歳では「たんす・食器棚などの扉が開かないように安全グッズを設置する」、1歳～3歳、5歳では「窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置する」、4歳では「窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置する」「ドアや扉に手などを挟まないように注意する」、6歳では「ドアや扉に手などを挟まないように注意する」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

項目	全体	年齢（1歳刻み）							
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	無回答
		割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
かかりつけの医療機関や緊急時の連絡先が分かるようにする	22.2%	27.4%	14.9%	29.2%	23.5%	32.0%	16.2%	0.0%	-
熱いお茶、味噌汁などはテーブルの端に置かないようにする	3.5%	9.7%	1.1%	3.1%	1.2%	2.7%	4.1%	4.0%	-
調理家電（炊飯器、ポットなど）は手の届かないところに置く	17.7%	18.1%	11.7%	10.8%	16.0%	24.0%	28.4%	12.0%	-
箸や歯ブラシなどをくわえたまま歩き回らないよう注意する	13.6%	31.0%	18.1%	15.4%	8.6%	5.3%	5.4%	8.0%	-
テーブルなどの角にカバーをする	55.1%	69.4%	41.9%	49.2%	55.6%	58.7%	58.1%	56.0%	-
たんす・食器棚などの扉が開かないように安全グッズを設置する	54.0%	72.2%	36.2%	56.9%	51.3%	60.8%	57.5%	40.0%	-
窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置する	64.9%	69.4%	58.1%	67.7%	66.7%	61.3%	70.3%	58.3%	-
ベランダや窓から身を乗り出さないよう近くに台座などは置かない	19.3%	37.5%	12.9%	23.1%	13.8%	13.5%	16.2%	24.0%	-
子どもの首がかかる高さにブラインドやカーテンのひもが垂れ下がらないようにする	24.9%	38.9%	20.2%	22.2%	18.5%	27.4%	23.0%	28.0%	-
入浴後は浴槽のお湯を抜く	20.2%	26.4%	14.9%	12.3%	18.8%	20.0%	21.6%	44.0%	-
一人で浴室に入れないようドアにカギをつける	54.1%	66.7%	54.8%	52.3%	54.3%	53.3%	43.8%	52.0%	-
ボタン電池や硬貨などは手の届かないところに置く（ボタン電池を使用した電子機器、財布を含む）	22.0%	20.8%	14.9%	26.2%	18.5%	21.3%	32.4%	24.0%	-
飴、お餅、ブドウ、リンゴなど、喉に詰まらせないよう注意する	10.3%	25.0%	4.3%	10.8%	3.7%	6.7%	12.2%	16.0%	-
ドアや扉に手などを挟まないように注意する（安全グッズを使用するなど）	57.8%	54.2%	51.1%	58.5%	59.3%	61.3%	60.8%	68.0%	-
暖房機（ストーブなど直接触れるとやけどの恐れがあるもの）にガードをする	29.3%	53.2%	22.6%	17.4%	32.6%	25.6%	25.6%	23.5%	-
階段に転落防止柵を設置する	49.7%	68.2%	32.1%	55.0%	54.8%	42.6%	51.2%	47.1%	-
タバコや灰皿（タバコを入れたかばん等も含む）は手の届かないところに置く	11.7%	24.3%	4.8%	10.0%	6.7%	8.6%	17.1%	7.7%	-
滑り台やブランコなど遊具の安全な使い方を教える	9.4%	60.0%	10.0%	9.7%	2.5%	4.1%	8.3%	8.0%	-

(必要だと思わないが、対策をとっている)

「入浴後は浴槽のお湯を抜く」「一人で浴室に入れないようドアにカギをつける」が1.9%と最も高く、次いで、「たんす・食器棚などの扉が開かないように安全グッズを設置する」の1.7%の順となっている。

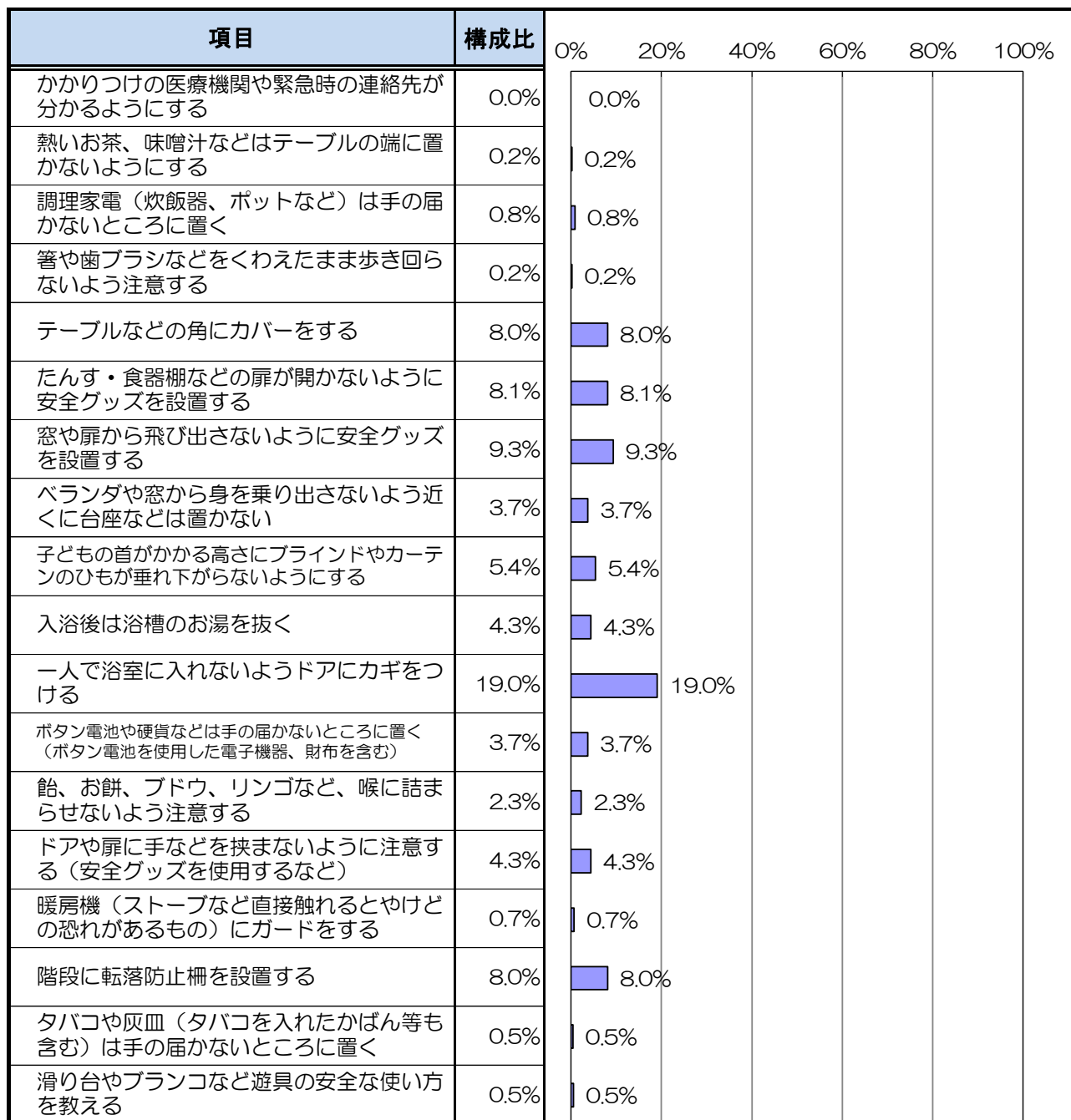
項目	構成比	0%	20%	40%	60%	80%	100%
かかりつけの医療機関や緊急時の連絡先が分かるようにする	0.0%	0.0%					
熱いお茶、味噌汁などはテーブルの端に置かないようにする	0.4%	0.4%					
調理家電（炊飯器、ポットなど）は手の届かないところに置く	0.2%	0.2%					
箸や歯ブラシなどをくわえたまま歩き回らないよう注意する	0.0%	0.0%					
テーブルなどの角にカバーをする	0.8%	0.8%					
たんす・食器棚などの扉が開かないように安全グッズを設置する	1.7%	1.7%					
窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置する	0.8%	0.8%					
ベランダや窓から身を乗り出さないよう近くに台座などは置かない	1.2%	1.2%					
子どもの首がかかる高さにブラインドやカーテンのひもが垂れ下がらないようにする	1.2%	1.2%					
入浴後は浴槽のお湯を抜く	1.9%	1.9%					
一人で浴室に入れないようドアにカギをつける	1.9%	1.9%					
ボタン電池や硬貨などは手の届かないところに置く（ボタン電池を使用した電子機器、財布を含む）	0.6%	0.6%					
飴、お餅、ブドウ、リンゴなど、喉に詰まらせないよう注意する	0.0%	0.0%					
ドアや扉に手などを挟まないように注意する（安全グッズを使用するなど）	0.6%	0.6%					
暖房機（ストーブなど直接触れるとやけどの恐れがあるもの）にガードをする	1.0%	1.0%					
階段に転落防止柵を設置する	1.4%	1.4%					
タバコや灰皿（タバコを入れたかばん等も含む）は手の届かないところに置く	0.5%	0.5%					
滑り台やブランコなど遊具の安全な使い方を教える	0.0%	0.0%					

## 【属性別特徴】

項目	全体	年齢（1歳刻み）							
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	無回答
		割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
かかりつけの医療機関や緊急時の連絡先が分かるようにする	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-
熱いお茶、味噌汁などはテーブルの端に置かないようにする	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	-
調理家電（炊飯器、ポットなど）は手の届かないところに置く	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	-
箸や歯ブラシなどをくわえたまま歩き回らないよう注意する	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-
テーブルなどの角にカバーをする	0.8%	1.4%	0.0%	0.0%	1.2%	2.7%	0.0%	0.0%	-
たんす・食器棚などの扉が開かないように安全グッズを設置する	1.7%	0.0%	0.0%	1.5%	3.8%	2.7%	2.7%	0.0%	-
窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置する	0.8%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	2.7%	0.0%	4.2%	-
ベランダや窓から身を乗り出さないよう近くに台座などは置かない	1.2%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	2.7%	4.1%	0.0%	-
子どもの首がかかる高さにブラインドやカーテンのひもが垂れ下がらないようにする	1.2%	1.4%	0.0%	1.6%	2.5%	2.7%	0.0%	0.0%	-
入浴後は浴槽のお湯を抜く	1.9%	1.4%	2.1%	4.6%	0.0%	0.0%	4.1%	0.0%	-
一人で浴室に入れないようドアにカギをつける	1.9%	1.4%	0.0%	3.1%	1.2%	0.0%	4.1%	8.0%	-
ボタン電池や硬貨などは手の届かないところに置く（ボタン電池を使用した電子機器、財布を含む）	0.6%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	1.4%	4.0%	-
飴、お餅、フドウ、リンゴなど、喉に詰まらせないように注意する	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-
ドアや扉に手などを挟まないように注意する（安全グッズを使用するなど）	0.6%	1.4%	1.1%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-
暖房機（ストーブなど直接触れるとやけどの恐れがあるもの）にガードをする	1.0%	2.1%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	-
階段に転落防止柵を設置する	1.4%	2.3%	1.9%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	-
タバコや灰皿（タバコを入れたかばん等も含む）は手の届かないところに置く	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	-
滑り台やブランコなど遊具の安全な使い方を教える	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-

(必要だと思わないし、対策もとっていない)

「一人で浴室に入れられないようドアにカギをつける」が19.0%と最も高く、次いで、「窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置する」の9.3%、「たんす・食器棚などの扉が開かないように安全グッズを設置する」の8.1%の順となっている。



【属性別特徴】

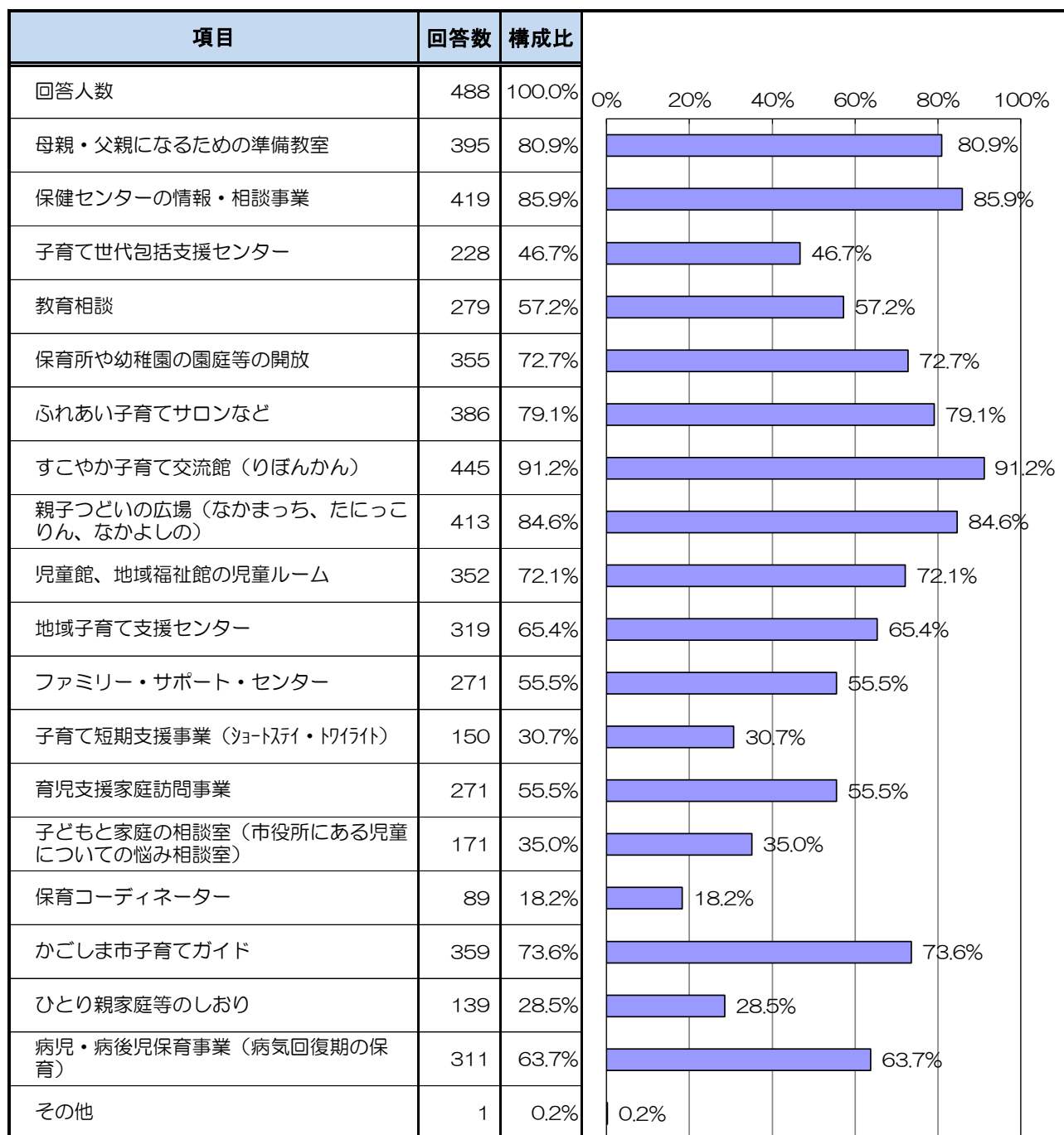
年齢別では、5歳の「たんす・食器棚などの扉が開かないように安全グッズを設置する」「一人で浴室に入れないようドアにカギをつける」「階段に転落防止柵を設置する」の割合、6歳の「たんす・食器棚などの扉が開かないように安全グッズを設置する」の割合が他の年齢と比較して高くなっている。

項目	全体	年齢（1歳刻み）							
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	無回答
		割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
かかりつけの医療機関や緊急時の連絡先が分かるようにする	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-
熱いお茶、味噌汁などはテーブルの端に置かないようにする	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	-
調理家電（炊飯器、ポットなど）は手の届かないところに置く	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.1%	4.0%	-
箸や歯ブラシなどをくわえたまま歩き回らないよう注意する	0.2%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-
テーブルなどの角にカバーをする	8.0%	1.4%	8.6%	7.7%	7.4%	2.7%	17.6%	16.0%	-
たんす・食器棚などの扉が開かないように安全グッズを設置する	8.1%	2.8%	6.4%	3.1%	3.8%	5.4%	23.3%	20.0%	-
窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置する	9.3%	4.2%	9.7%	4.6%	6.2%	12.0%	16.2%	16.7%	-
ベランダや窓から身を乗り出さないよう近くに台座などは置かない	3.7%	2.8%	7.5%	1.5%	2.5%	5.4%	1.4%	4.0%	-
子どもの首がかかる高さにブラインドやカーテンのひもが垂れ下がらないようにする	5.4%	4.2%	5.3%	4.8%	2.5%	4.1%	10.8%	8.0%	-
入浴後は浴槽のお湯を抜く	4.3%	5.6%	2.1%	0.0%	6.3%	6.7%	6.8%	0.0%	-
一人で浴室に入れないようドアにカギをつける	19.0%	11.1%	12.9%	15.4%	18.5%	21.3%	34.2%	24.0%	-
ボタン電池や硬貨などは手の届かないところに置く（ボタン電池を使用した電子機器、財布を含む）	3.7%	1.4%	0.0%	1.5%	1.2%	4.0%	13.5%	8.0%	-
飴、お餅、ブドウ、リンゴなど、喉に詰まらせないように注意する	2.3%	4.2%	0.0%	0.0%	1.2%	1.3%	6.8%	4.0%	-
ドアや扉に手などを挟まないように注意する（安全グッズを使用するなど）	4.3%	1.4%	1.1%	6.2%	1.2%	2.7%	13.5%	8.0%	-
暖房機（ストーブなど直接触れるとやけどの恐れがあるもの）にガードをする	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	2.6%	0.0%	0.0%	-
階段に転落防止柵を設置する	8.0%	0.0%	1.9%	5.0%	14.3%	8.5%	18.6%	11.8%	-
タバコや灰皿（タバコを入れたかばん等も含む）は手の届かないところに置く	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	-
滑り台やブランコなど遊具の安全な使い方を教える	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	1.4%	0.0%	-

問 11 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるものをお答えください。  
 (1～19の事業ごとに、ア・イそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○)

### ア 知っている

「すこやか子育て交流館（りぼんかん）」が91.2%と最も高く、次いで、「保健センターの情報・相談事業」の85.9%、「親子つどいの広場（なかまっち、たにっこりん、なかよしの）」の84.6%の順となっている。



## 【属性別特徴】

年齢別では、0歳では「保健センターの情報・相談事業」、1歳・2歳・4歳・5歳では「すこやか子育て交流館（りぼんかん）」、3歳では「保健センターの情報・相談事業」「すこやか子育て交流館（りぼんかん）」、6歳では「保健センターの情報・相談事業」「ふれあい子育てサロンなど」「すこやか子育て交流館（りぼんかん）」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

項目	全体	年齢（1歳刻み）							
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	無回答
		割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
母親・父親になるための準備教室	80.9%	78.4%	79.8%	76.9%	80.2%	81.3%	86.5%	88.0%	-
保健センターの情報・相談事業	85.9%	85.1%	77.7%	87.7%	92.6%	86.7%	85.1%	92.0%	-
子育て世代包括支援センター	46.7%	47.3%	37.2%	49.2%	51.9%	50.7%	44.6%	52.0%	-
教育相談	57.2%	50.0%	43.6%	58.5%	59.3%	60.0%	66.2%	84.0%	-
保育所や幼稚園の園庭等の開放	72.7%	52.7%	68.1%	81.5%	75.3%	85.3%	75.7%	72.0%	-
ふれあい子育てサロンなど	79.1%	64.9%	75.5%	75.4%	80.2%	85.3%	89.2%	92.0%	-
すこやか子育て交流館（りぼんかん）	91.2%	81.1%	89.4%	95.4%	92.6%	93.3%	95.9%	92.0%	-
親子つどいの広場（なかまっち、たにっこりん、なかよしの）	84.6%	70.3%	76.6%	93.8%	87.7%	90.7%	90.5%	88.0%	-
児童館、地域福祉館の児童ルーム	72.1%	62.2%	62.8%	72.3%	70.4%	88.0%	74.3%	88.0%	-
地域子育て支援センター	65.4%	58.1%	63.8%	63.1%	66.7%	73.3%	63.5%	76.0%	-
ファミリー・サポート・センター	55.5%	44.6%	52.1%	55.4%	60.5%	62.7%	60.8%	48.0%	-
子育て短期支援事業（ショートステイ・トイ付付）	30.7%	27.0%	27.7%	20.0%	29.6%	44.0%	31.1%	44.0%	-
育児支援家庭訪問事業	55.5%	63.5%	51.1%	47.7%	55.6%	62.7%	52.7%	56.0%	-
子どもと家庭の相談室（市役所にある児童についての悩み相談室）	35.0%	35.1%	29.8%	41.5%	34.6%	40.0%	31.1%	36.0%	-
保育コーディネーター	18.2%	20.3%	18.1%	16.9%	18.5%	21.3%	14.9%	16.0%	-
かごしま子育てガイド	73.6%	63.5%	64.9%	75.4%	74.1%	81.3%	86.5%	68.0%	-
ひとり親家庭等のしおり	28.5%	28.4%	29.8%	30.8%	23.5%	32.0%	24.3%	36.0%	-
病児・病後児保育事業（病気回復期の保育）	63.7%	43.2%	61.7%	58.5%	69.1%	77.3%	68.9%	72.0%	-
その他	0.2%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-



## イ これまでに利用したことがある

「すこやか子育て交流館（りぼんかん）」が 63.5%と最も高く、次いで、「親子つどいの広場（なかまっち、たにっこりん、なかよしの）」の 54.1%、「母親・父親になるための準備教室」の 47.7%の順となっている。

項目	回答数	構成比
回答人数	488	100.0%
母親・父親になるための準備教室	233	47.7%
保健センターの情報・相談事業	191	39.1%
子育て世代包括支援センター	64	13.1%
教育相談	43	8.8%
保育所や幼稚園の園庭等の開放	184	37.7%
ふれあい子育てサロンなど	176	36.1%
すこやか子育て交流館（りぼんかん）	310	63.5%
親子つどいの広場（なかまっち、たにっこりん、なかよしの）	264	54.1%
児童館、地域福祉館の児童ルーム	136	27.9%
地域子育て支援センター	83	17.0%
ファミリー・サポート・センター	21	4.3%
子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライト）	5	1.0%
育児支援家庭訪問事業	106	21.7%
子どもと家庭の相談室（市役所にある児童についての悩み相談室）	11	2.3%
保育コーディネーター	18	3.7%
かごしま市子育てガイド	170	34.8%
ひとり親家庭等のしおり	42	8.6%
病児・病後児保育事業（病気回復期の保育）	64	13.1%
その他	1	0.2%

## 【属性別特徴】

年齢別では、0歳では「母親・父親になるための準備教室」、1歳では「すこやか子育て交流館（りぼんかん）」「親子つどいの広場（なかまっち、たにっこりん、なかよしの）」、2歳～6歳では「すこやか子育て交流館（りぼんかん）」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

項目	全体	年齢（1歳刻み）							
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	無回答
		割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
母親・父親になるための準備教室	47.7%	44.6%	41.1%	48.4%	45.7%	54.7%	51.4%	56.0%	-
保健センターの情報・相談事業	39.1%	41.9%	36.8%	37.5%	40.7%	41.3%	36.5%	40.0%	-
子育て世代包括支援センター	13.1%	12.2%	14.7%	17.2%	13.6%	14.7%	8.1%	8.0%	-
教育相談	8.8%	8.1%	5.3%	7.8%	9.9%	10.7%	13.5%	4.0%	-
保育所や幼稚園の園庭等の開放	37.7%	9.5%	27.4%	37.5%	43.2%	57.3%	50.0%	48.0%	-
ふれあい子育てサロンなど	36.1%	16.2%	35.8%	34.4%	39.5%	42.7%	41.9%	52.0%	-
すこやか子育て交流館（りぼんかん）	63.5%	25.7%	53.7%	71.9%	75.3%	76.0%	77.0%	76.0%	-
親子つどいの広場（なかまっち、たにっこりん、なかよしの）	54.1%	24.3%	53.7%	68.8%	64.2%	57.3%	55.4%	60.0%	-
児童館、地域福祉館の児童ルーム	27.9%	18.9%	21.1%	20.3%	34.6%	36.0%	28.4%	52.0%	-
地域子育て支援センター	17.0%	14.9%	16.8%	12.5%	19.8%	21.3%	13.5%	24.0%	-
ファミリー・サポート・センター	4.3%	2.7%	3.2%	1.6%	7.4%	6.7%	2.7%	8.0%	-
子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイブ）	1.0%	0.0%	1.1%	0.0%	1.2%	2.7%	0.0%	4.0%	-
育児支援家庭訪問事業	21.7%	18.9%	23.2%	20.3%	25.9%	25.3%	18.9%	12.0%	-
子どもと家庭の相談室（市役所にある児童についての悩み相談室）	2.3%	0.0%	2.1%	1.6%	1.2%	5.3%	2.7%	4.0%	-
保育コーディネーター	3.7%	4.1%	6.3%	1.6%	2.5%	2.7%	4.1%	4.0%	-
かごしま市子育てガイド	34.8%	23.0%	30.5%	32.8%	37.0%	46.7%	40.5%	32.0%	-
ひとり親家庭等のしおり	8.6%	12.2%	8.4%	12.5%	8.6%	4.0%	5.4%	12.0%	-
病児・病後児保育事業（病気回復期の保育）	13.1%	9.5%	12.6%	10.9%	12.3%	20.0%	12.2%	16.0%	-
その他	0.2%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-

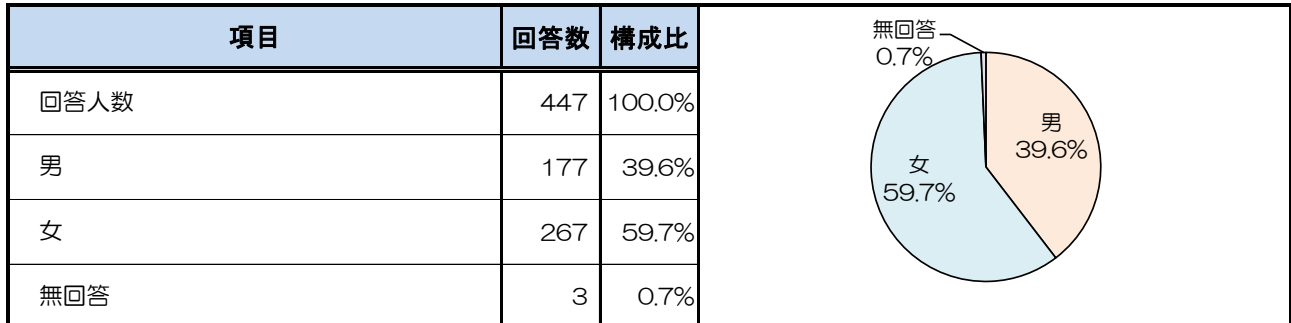
## 第 3 章 一般



問1 あなた（封書の宛名の方）の性別などについてお聞きします。

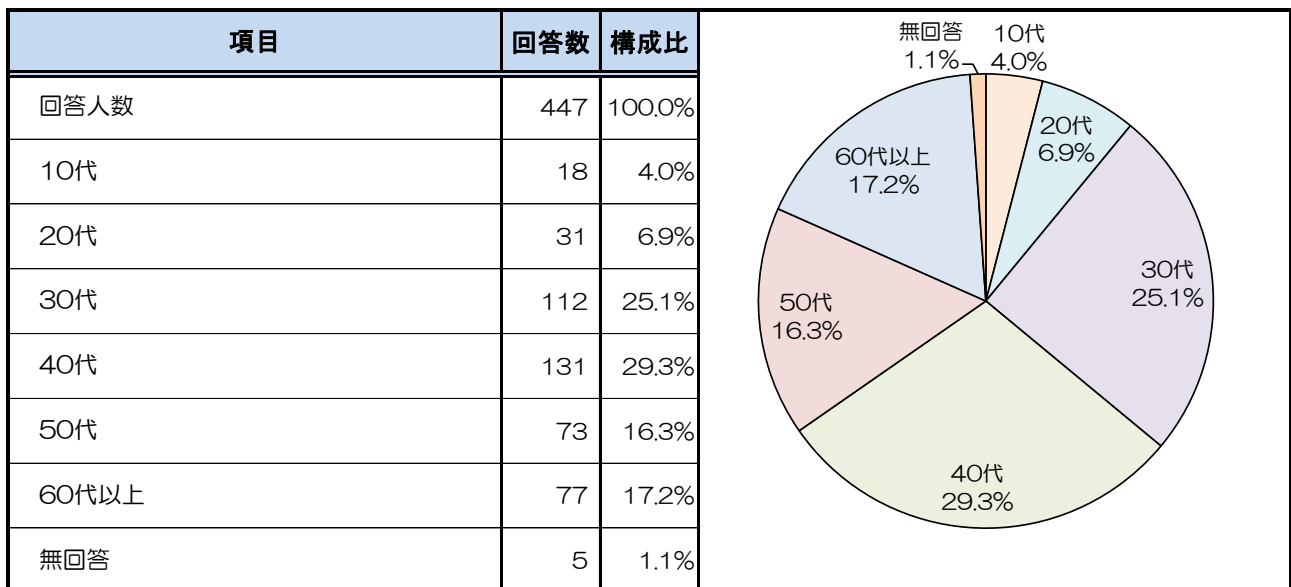
(1) 対象（封書の宛名）の方の性別

性別については、「女」が59.7%、「男」が39.6%となっている。



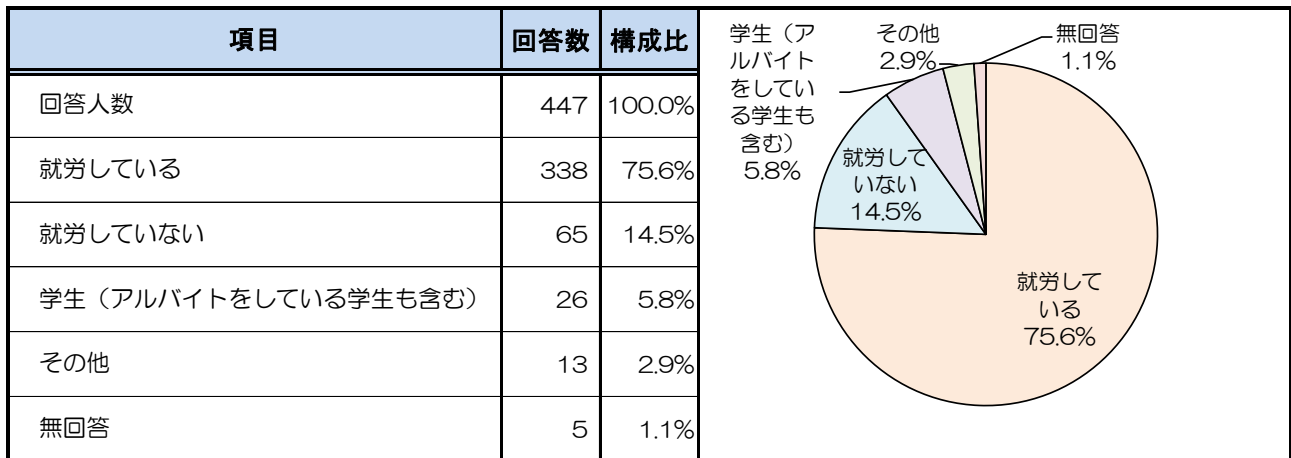
(2) 対象（封書の宛名）の方の年齢（平成28年7月1日現在）

年齢については、「40代」が29.3%と最も高く、次いで、「30代」の25.1%、「60代以上」の17.2%の順となっている。



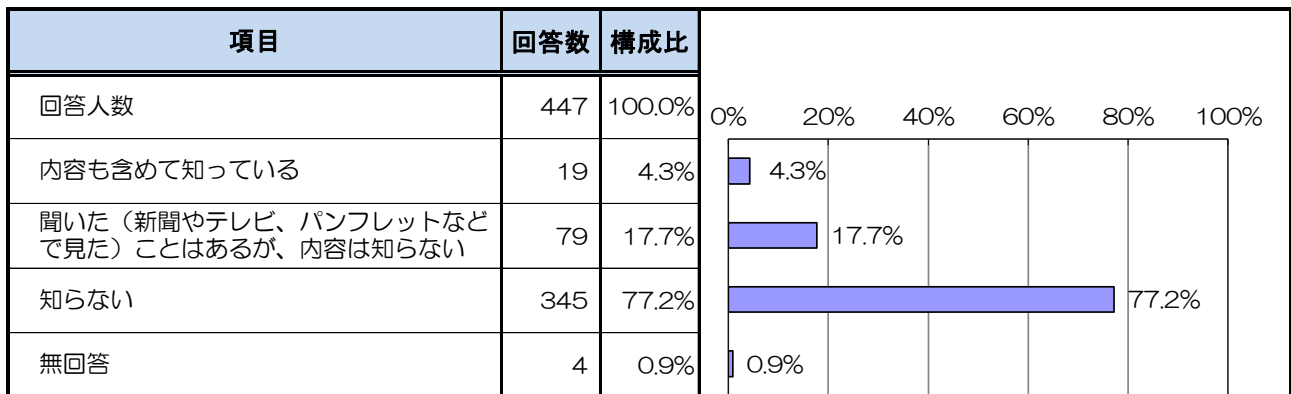
(3)対象（封書の宛名）の方の就労状況（平成28年7月1日現在）

就労状況については、「就労している」が75.6%と最も高く、次いで、「就労していない」の14.5%、「学生（アルバイトをしている学生も含む）」の5.8%の順となっている。



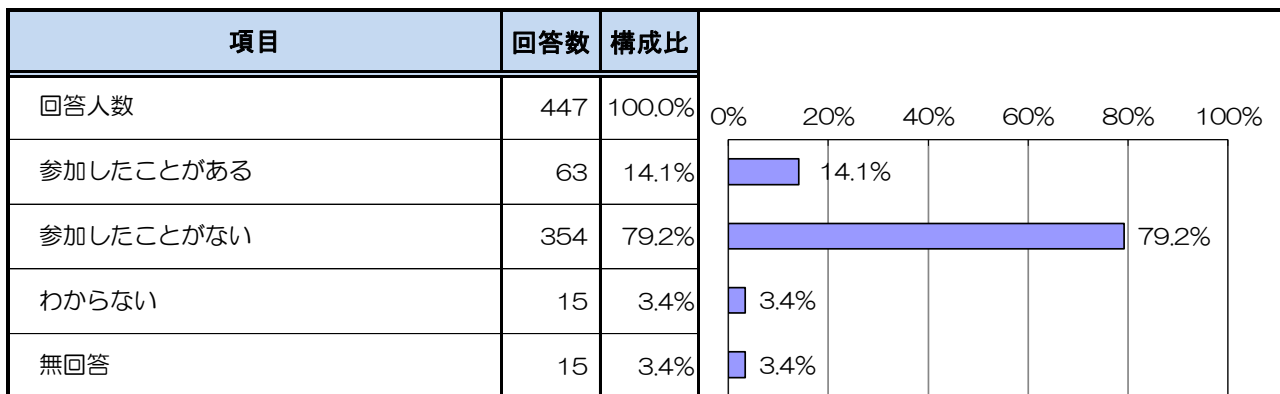
問3 あなたは、鹿児島市が「セーフコミュニティ」に取り組んでいることを知っていますか。（1つに○）

セーフコミュニティの認識度については、「知らない」が77.2%と最も高く、次いで、「聞いた（新聞やテレビ、パンフレットなどで見た）ことはあるが、内容は知らない」の17.7%、「内容も含めて知っている」の4.3%の順となっている。



問4 あなたは、この1年間（平成27年7月から平成28年6月まで）に交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがありますか。（1つに○）

交通安全教室等に参加したかについては、「参加したことがない」が79.2%、「参加したことがある」が14.1%となっている。



【属性別特徴】

年代別では、10代の「参加したことがある」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

就労状況別では、学生の「参加したことがある」の割合が他の就労状況と比較して高くなっている。

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
参加したことがある	63	14.1%	6	33.3%	5	16.1%	10	8.9%	22	16.8%	11	15.1%	9	11.7%	0	0.0%
参加したことがない	354	79.2%	8	44.4%	25	80.6%	94	83.9%	101	77.1%	60	82.2%	62	80.5%	4	80.0%
わからない	15	3.4%	3	16.7%	1	3.2%	3	2.7%	3	2.3%	1	1.4%	3	3.9%	1	20.0%
無回答	15	3.4%	1	5.6%	0	0.0%	5	4.5%	5	3.8%	1	1.4%	3	3.9%	0	0.0%

項目	回答人数		就労状況									
			就労している		就労していない		学生		その他		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	338	100.0%	65	100.0%	26	100.0%	13	100.0%	5	100.0%
参加したことがある	63	14.1%	48	14.2%	6	9.2%	8	30.8%	1	7.7%	0	0.0%
参加したことがない	354	79.2%	274	81.1%	53	81.5%	14	53.8%	9	69.2%	4	80.0%
わからない	15	3.4%	7	2.1%	1	1.5%	4	15.4%	2	15.4%	1	20.0%
無回答	15	3.4%	9	2.7%	5	7.7%	0	0.0%	1	7.7%	0	0.0%

【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	64	100.0%	3	100.0%	8	100.0%	10	100.0%	10	100.0%	12	100.0%	20	100.0%	1	100.0%
参加したことがある	9	14.1%	1	33.3%	2	25.0%	1	10.0%	1	10.0%	0	0.0%	4	20.0%	0	0.0%
参加したことがない	53	82.8%	2	66.7%	6	75.0%	7	70.0%	9	90.0%	12	100.0%	16	80.0%	1	100.0%
わからない	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

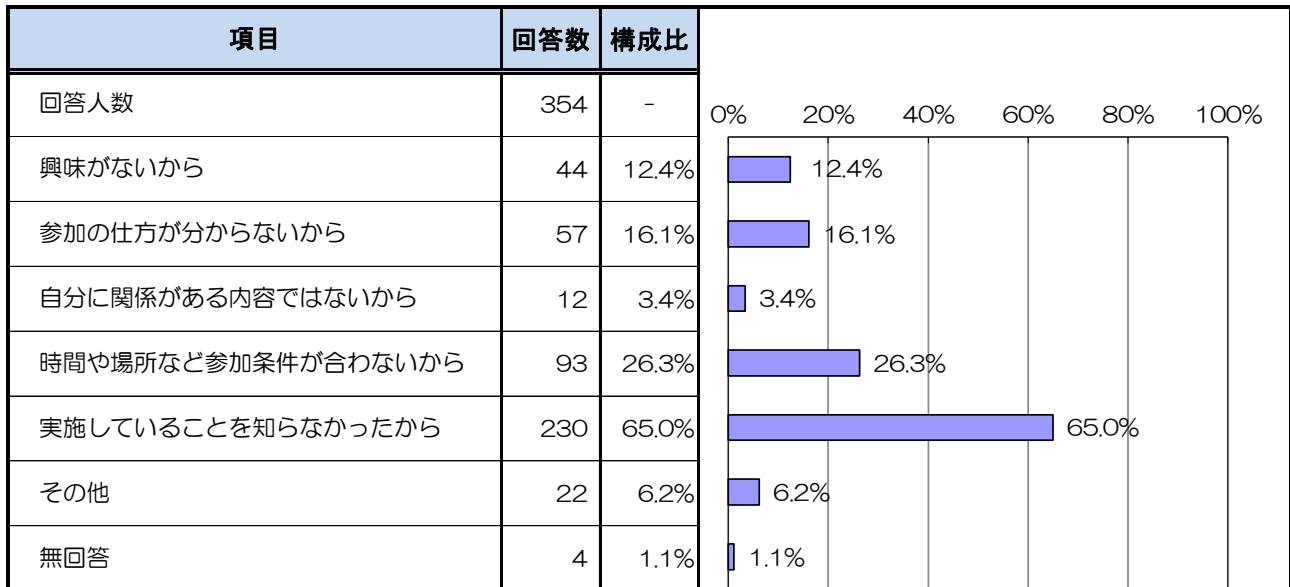
項目	回答人数		就労状況									
			就労している		就労していない		学生		その他		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	64	100.0%	46	100.0%	11	100.0%	4	100.0%	3	100.0%	0	-
参加したことがある	9	14.1%	7	15.2%	1	9.1%	1	25.0%	0	0.0%	0	-
参加したことがない	53	82.8%	37	80.4%	10	90.9%	3	75.0%	3	100.0%	0	-
わからない	1	1.6%	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	1	1.6%	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-



※問4で『2. 参加したことがない』とご回答された方にお聞きします。

問4-1 あなたが、交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがない理由は何ですか。  
（あてはまるものすべてに○）

交通安全教室等に参加したことがない理由については、「実施していることを知らなかったから」が65.0%と最も高く、次いで、「時間や場所など参加条件が合わないから」の26.3%、「参加の仕方が分からないから」の16.1%の順となっている。



【属性別特徴】

年代別では、すべての年代で「実施していることを知らなかったから」の割合が最も高くなっている。就労状況別では、学生の「興味がないから」の割合が他の就労状況と比較して高くなっている。

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	354	-	8	-	25	-	94	-	101	-	60	-	62	-	4	-
興味がないから	44	12.4%	1	12.5%	4	16.0%	15	16.0%	11	10.9%	5	8.3%	7	11.3%	1	25.0%
参加の仕方が分からないから	57	16.1%	0	0.0%	4	16.0%	17	18.1%	18	17.8%	9	15.0%	8	12.9%	1	25.0%
自分に関係がある内容ではないから	12	3.4%	0	0.0%	1	4.0%	3	3.2%	2	2.0%	1	1.7%	5	8.1%	0	0.0%
時間や場所など参加条件が合わないから	93	26.3%	2	25.0%	9	36.0%	23	24.5%	23	22.8%	18	30.0%	17	27.4%	1	25.0%
実施していることを知らなかったから	230	65.0%	4	50.0%	18	72.0%	57	60.6%	74	73.3%	35	58.3%	39	62.9%	3	75.0%
その他	22	6.2%	2	25.0%	0	0.0%	6	6.4%	5	5.0%	4	6.7%	5	8.1%	0	0.0%
無回答	4	1.1%	0	0.0%	1	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.3%	1	1.6%	0	0.0%

項目	回答人数		就労状況									
			就労している		就労していない		学生		その他		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	354	-	274	-	53	-	14	-	9	-	4	-
興味がないから	44	12.4%	29	10.6%	8	15.1%	4	28.6%	2	22.2%	1	25.0%
参加の仕方が分からないから	57	16.1%	45	16.4%	7	13.2%	2	14.3%	1	11.1%	2	50.0%
自分に関係がある内容ではないから	12	3.4%	7	2.6%	4	7.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%
時間や場所など参加条件が合わないから	93	26.3%	75	27.4%	10	18.9%	4	28.6%	1	11.1%	3	75.0%
実施していることを知らなかったから	230	65.0%	177	64.6%	35	66.0%	9	64.3%	7	77.8%	2	50.0%
その他	22	6.2%	16	5.8%	4	7.5%	2	14.3%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	1.1%	4	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

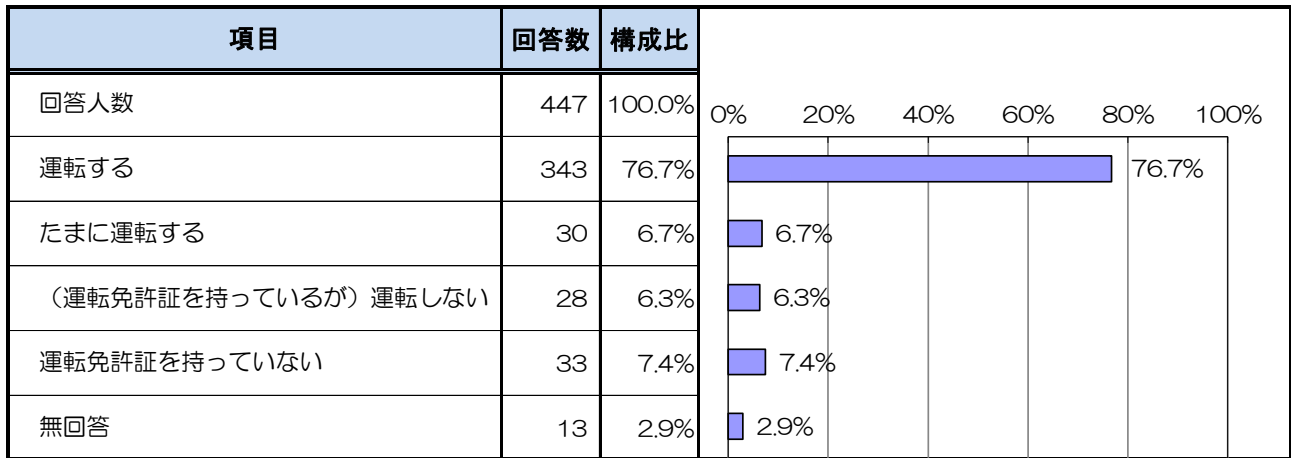
## 【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	53	-	2	-	6	-	7	-	9	-	12	-	16	-	1	-
興味がなから	5	9.4%	0	0.0%	1	16.7%	1	14.3%	0	0.0%	2	16.7%	0	0.0%	1	100.0%
参加の仕方が分からないから	7	13.2%	0	0.0%	0	0.0%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	4	25.0%	1	100.0%
自分に関係がある内容ではないから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
時間や場所など参加条件が合わないから	15	28.3%	1	50.0%	3	50.0%	1	14.3%	2	22.2%	2	16.7%	6	37.5%	0	0.0%
実施していることを知らなかったから	36	67.9%	1	50.0%	3	50.0%	4	57.1%	8	88.9%	9	75.0%	10	62.5%	1	100.0%
その他	2	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%	0	0.0%
無回答	1	1.9%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

項目	回答人数		就労状況									
			就労している		就労していない		学生		その他		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	53	-	37	-	10	-	3	-	3	-	0	-
興味がなから	5	9.4%	2	5.4%	1	10.0%	1	33.3%	1	33.3%	0	-
参加の仕方が分からないから	7	13.2%	4	10.8%	1	10.0%	1	33.3%	1	33.3%	0	-
自分に関係がある内容ではないから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
時間や場所など参加条件が合わないから	15	28.3%	12	32.4%	1	10.0%	1	33.3%	1	33.3%	0	-
実施していることを知らなかったから	36	67.9%	27	73.0%	6	60.0%	2	66.7%	1	33.3%	0	-
その他	2	3.8%	1	2.7%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	1	1.9%	1	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

問5 あなたは、自動車を運転しますか。(1つに○)

自動車の運転については、「運転する」が76.7%と最も高く、次いで、「運転免許証を持っていない」の7.4%、「たまに運転する」の6.7%の順となっている。



【モデル地区（吉野小校区）】

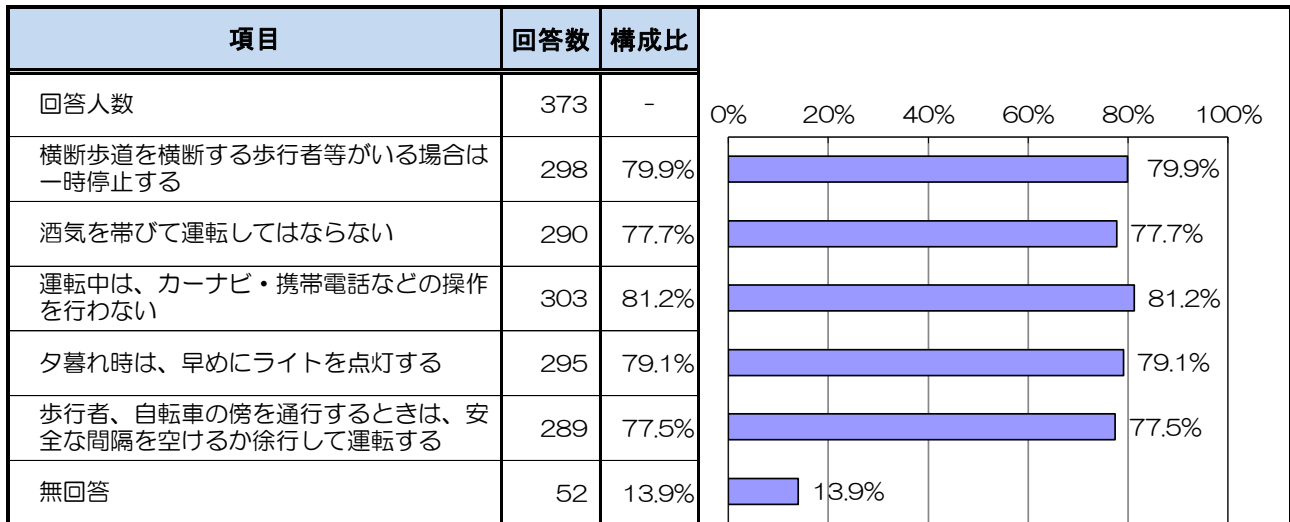
項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	64	100.0%
運転する	48	75.0%
たまに運転する	3	4.7%
(運転免許証を持っているが) 運転しない	4	6.3%
運転免許証を持っていない	8	12.5%
無回答	1	1.6%

※問5で『1. 運転する』『2. たまに運転する』とご回答された方にお聞きします。

問5-1 あなたは、次の自動車の運転に関する交通ルール・マナーを知っていますか。また、実際に守っていますか。(あてはまるものすべてに○)

ア 知っている

「運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない」が81.2%と最も高く、次いで、「横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する」の79.9%、「夕暮れ時は、早めにライトを点灯する」の79.1%の順となっている。



## 【属性別特徴】

性別では、大きな差異は見られない。

年代別では、他の年代と比較して、20代の「夕暮れ時は、早めにライトを点灯する」の割合が高い一方、50代以上の割合が低くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	373	-	156	-	215	-	2	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	298	79.9%	125	80.1%	172	80.0%	1	50.0%
酒気を帯びて運転してはならない	290	77.7%	121	77.6%	168	78.1%	1	50.0%
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	303	81.2%	127	81.4%	175	81.4%	1	50.0%
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	295	79.1%	122	78.2%	172	80.0%	1	50.0%
歩行者、自転車の傍を通行するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	289	77.5%	122	78.2%	166	77.2%	1	50.0%
無回答	52	13.9%	23	14.7%	28	13.0%	1	50.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	373	-	2	-	24	-	96	-	119	-	60	-	69	-	3	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	298	79.9%	2	100.0%	21	87.5%	77	80.2%	101	84.9%	44	73.3%	51	73.9%	2	66.7%
酒気を帯びて運転してはならない	290	77.7%	1	50.0%	20	83.3%	74	77.1%	100	84.0%	42	70.0%	51	73.9%	2	66.7%
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	303	81.2%	1	50.0%	21	87.5%	79	82.3%	103	86.6%	47	78.3%	50	72.5%	2	66.7%
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	295	79.1%	1	50.0%	22	91.7%	78	81.3%	103	86.6%	41	68.3%	48	69.6%	2	66.7%
歩行者、自転車の傍を通行するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	289	77.5%	1	50.0%	20	83.3%	75	78.1%	100	84.0%	43	71.7%	48	69.6%	2	66.7%
無回答	52	13.9%	0	0.0%	2	8.3%	12	12.5%	13	10.9%	9	15.0%	15	21.7%	1	33.3%

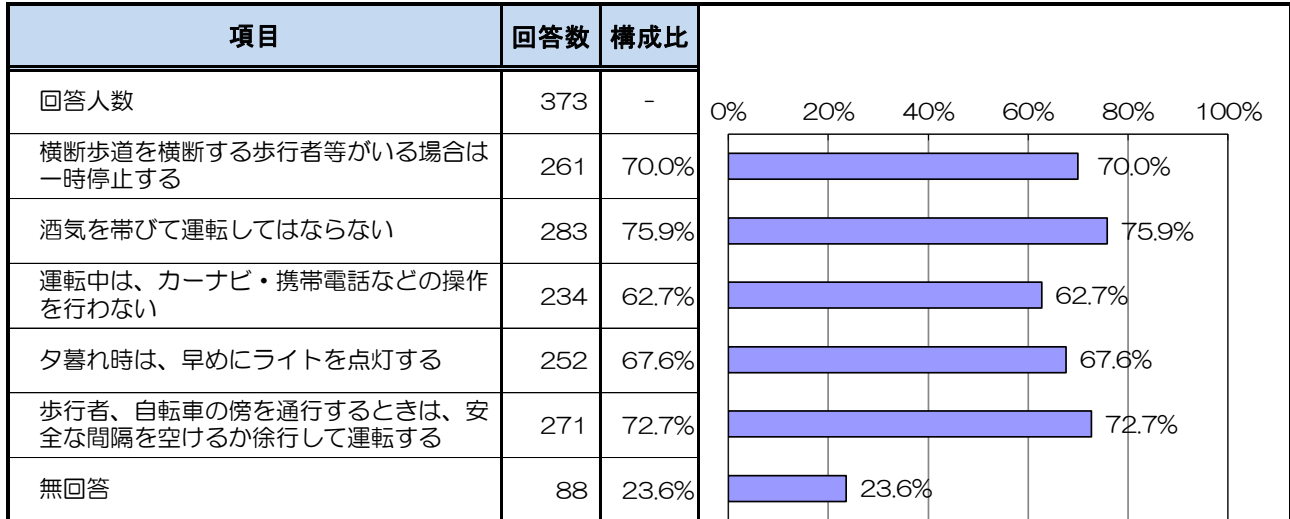
## 【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	51	-	21	-	30	-	0	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	41	80.4%	16	76.2%	25	83.3%	0	-
酒気を帯びて運転してはならない	38	74.5%	14	66.7%	24	80.0%	0	-
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	40	78.4%	15	71.4%	25	83.3%	0	-
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	37	72.5%	15	71.4%	22	73.3%	0	-
歩行者、自転車の傍を通行するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	38	74.5%	16	76.2%	22	73.3%	0	-
無回答	8	15.7%	4	19.0%	4	13.3%	0	-

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	51	-	0	-	6	-	7	-	9	-	11	-	18	-	0	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	41	80.4%	0	-	5	83.3%	5	71.4%	9	100.0%	9	81.8%	13	72.2%	0	-
酒気を帯びて運転してはならない	38	74.5%	0	-	4	66.7%	5	71.4%	9	100.0%	8	72.7%	12	66.7%	0	-
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	40	78.4%	0	-	4	66.7%	5	71.4%	9	100.0%	10	90.9%	12	66.7%	0	-
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	37	72.5%	0	-	5	83.3%	5	71.4%	8	88.9%	8	72.7%	11	61.1%	0	-
歩行者、自転車の傍を通行するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	38	74.5%	0	-	4	66.7%	5	71.4%	8	88.9%	9	81.8%	12	66.7%	0	-
無回答	8	15.7%	0	-	1	16.7%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	5	27.8%	0	-

## イ 守っている

「酒気を帯びて運転してはならない」が75.9%と最も高く、次いで、「歩行者、自転車の傍を通行するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する」の72.7%、「横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する」の70.0%の順となっている。





## 【属性別特徴】

性別では、すべての項目において、女性の遵守度が男性と比較して高くなっている。  
年代別では、すべての項目において、40代の遵守度が他の年代と比較して低くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	373	-	156	-	215	-	2	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	261	70.0%	104	66.7%	155	72.1%	2	100.0%
酒気を帯びて運転してはならない	283	75.9%	112	71.8%	169	78.6%	2	100.0%
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	234	62.7%	95	60.9%	138	64.2%	1	50.0%
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	252	67.6%	101	64.7%	149	69.3%	2	100.0%
歩行者、自転車の傍を通行するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	271	72.7%	107	68.6%	163	75.8%	1	50.0%
無回答	88	23.6%	42	26.9%	46	21.4%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	373	-	2	-	24	-	96	-	119	-	60	-	69	-	3	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	261	70.0%	0	0.0%	20	83.3%	66	68.8%	76	63.9%	43	71.7%	53	76.8%	3	100.0%
酒気を帯びて運転してはならない	283	75.9%	1	50.0%	21	87.5%	73	76.0%	81	68.1%	48	80.0%	56	81.2%	3	100.0%
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	234	62.7%	1	50.0%	18	75.0%	59	61.5%	66	55.5%	37	61.7%	51	73.9%	2	66.7%
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	252	67.6%	1	50.0%	18	75.0%	61	63.5%	71	59.7%	44	73.3%	54	78.3%	3	100.0%
歩行者、自転車の傍を通行するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	271	72.7%	1	50.0%	19	79.2%	70	72.9%	78	65.5%	46	76.7%	55	79.7%	2	66.7%
無回答	88	23.6%	1	50.0%	3	12.5%	23	24.0%	38	31.9%	12	20.0%	11	15.9%	0	0.0%

【モデル地区（吉野小校区）】

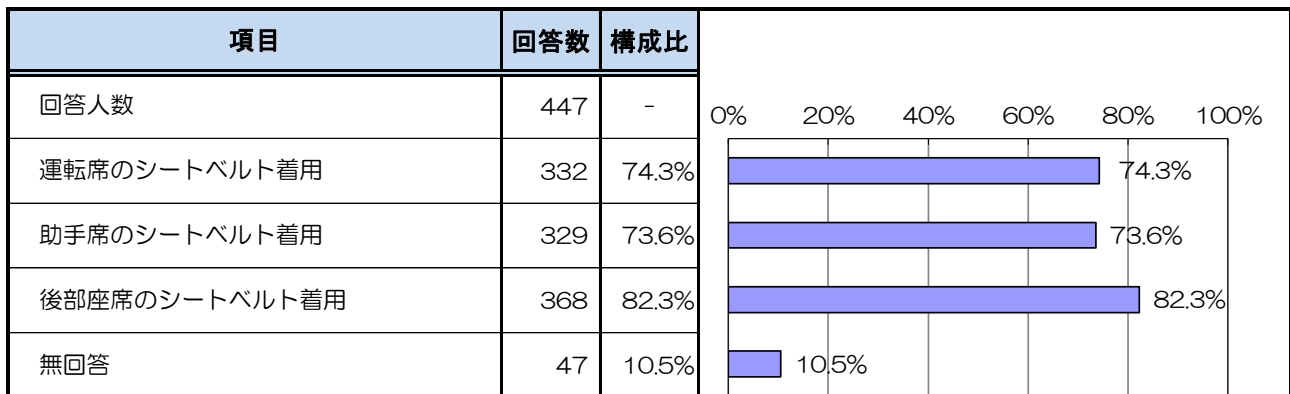
項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	51	-	21	-	30	-	0	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	41	80.4%	16	76.2%	25	83.3%	0	-
酒気を帯びて運転してはならない	44	86.3%	18	85.7%	26	86.7%	0	-
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	37	72.5%	17	81.0%	20	66.7%	0	-
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	41	80.4%	17	81.0%	24	80.0%	0	-
歩行者、自転車の傍を通行するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	40	78.4%	16	76.2%	24	80.0%	0	-
無回答	7	13.7%	3	14.3%	4	13.3%	0	-

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	51	-	0	-	6	-	7	-	9	-	11	-	18	-	0	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	41	80.4%	0	-	4	66.7%	6	85.7%	7	77.8%	9	81.8%	15	83.3%	0	-
酒気を帯びて運転してはならない	44	86.3%	0	-	5	83.3%	6	85.7%	7	77.8%	10	90.9%	16	88.9%	0	-
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	37	72.5%	0	-	5	83.3%	5	71.4%	6	66.7%	6	54.5%	15	83.3%	0	-
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	41	80.4%	0	-	4	66.7%	6	85.7%	7	77.8%	9	81.8%	15	83.3%	0	-
歩行者、自転車の傍を通行するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	40	78.4%	0	-	5	83.3%	5	71.4%	7	77.8%	8	72.7%	15	83.3%	0	-
無回答	7	13.7%	0	-	1	16.7%	1	14.3%	2	22.2%	1	9.1%	2	11.1%	0	-

問6 あなたは、自動車を運転するときに、後部座席同乗者も含め、全席でシートベルトを着用しなければならないことを知っていますか。また、実際に着用していますか。  
(あてはまるものすべてに○)

ア 知っている

「後部座席のシートベルト着用」が82.3%と最も高く、次いで、「運転席のシートベルト着用」の74.3%、「助手席のシートベルト着用」の73.6%の順となっている。



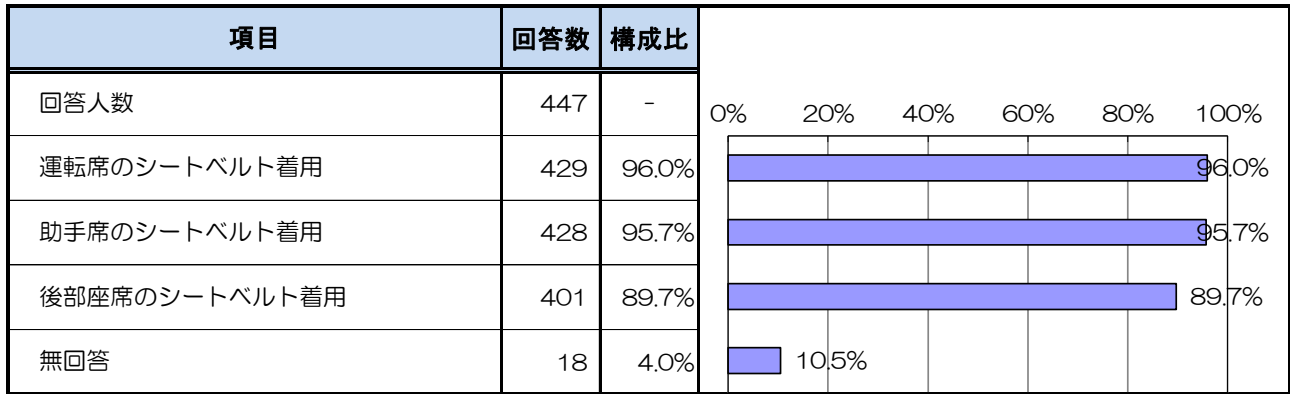
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	64	-
運転席のシートベルト着用	45	70.3%
助手席のシートベルト着用	44	68.8%
後部座席のシートベルト着用	45	70.3%
無回答	13	20.3%

【参考】

問6において、「イ. 着用している」のみへの回答が一定数見られたため、「ア. 知っている」「イ. 着用している」のいずれかに回答した場合を「知っている」と仮定した場合の集計結果を以下に示す。

「運転席のシートベルト着用」が96.0%と最も高く、次いで、「助手席のシートベルト着用」の95.7%、「後部座席のシートベルト着用」の89.7%の順となっている。

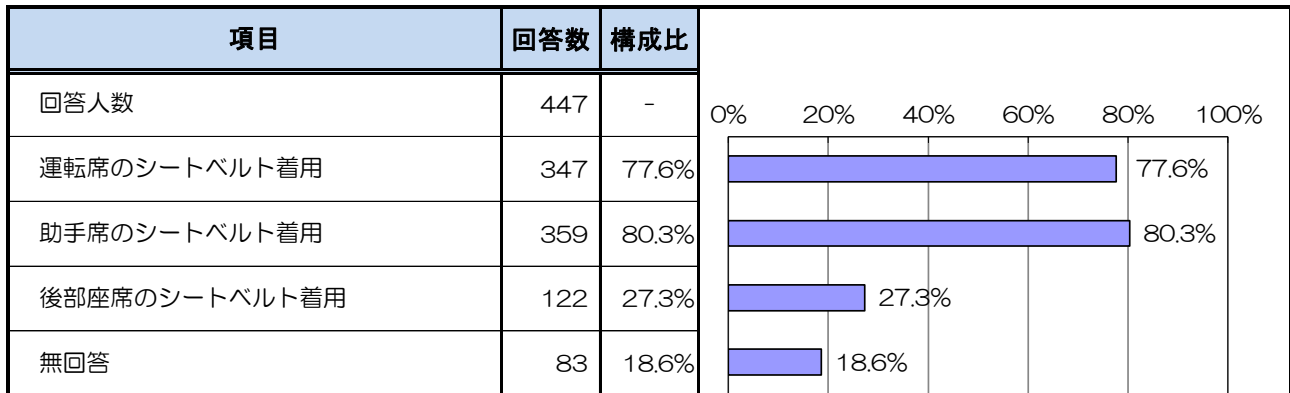


【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	64	-
運転席のシートベルト着用	59	92.2%
助手席のシートベルト着用	58	90.6%
後部座席のシートベルト着用	53	82.8%
無回答	5	7.8%

イ 着用している

「助手席のシートベルト着用」が80.3%と最も高く、次いで、「運転席のシートベルト着用」の77.6%、「後部座席のシートベルト着用」の27.3%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異は見られない。

年代別では、10代の「運転席のシートベルト着用」「助手席のシートベルト着用」の割合が他の年代と比較して低くなっている。また、30代以上の「後部座席のシートベルト着用」の割合が他の年代と比較して低くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	-	177	-	267	-	3	-
運転席のシートベルト着用	347	77.6%	133	75.1%	211	79.0%	3	100.0%
助手席のシートベルト着用	359	80.3%	136	76.8%	220	82.4%	3	100.0%
後部座席のシートベルト着用	122	27.3%	49	27.7%	72	27.0%	1	33.3%
無回答	83	18.6%	38	21.5%	45	16.9%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	-	18	-	31	-	112	-	131	-	73	-	77	-	5	-
運転席のシートベルト着用	347	77.6%	10	55.6%	24	77.4%	90	80.4%	102	77.9%	54	74.0%	63	81.8%	4	80.0%
助手席のシートベルト着用	359	80.3%	12	66.7%	25	80.6%	90	80.4%	107	81.7%	57	78.1%	63	81.8%	5	100.0%
後部座席のシートベルト着用	122	27.3%	6	33.3%	11	35.5%	28	25.0%	33	25.2%	21	28.8%	22	28.6%	1	20.0%
無回答	83	18.6%	6	33.3%	6	19.4%	21	18.8%	24	18.3%	13	17.8%	13	16.9%	0	0.0%

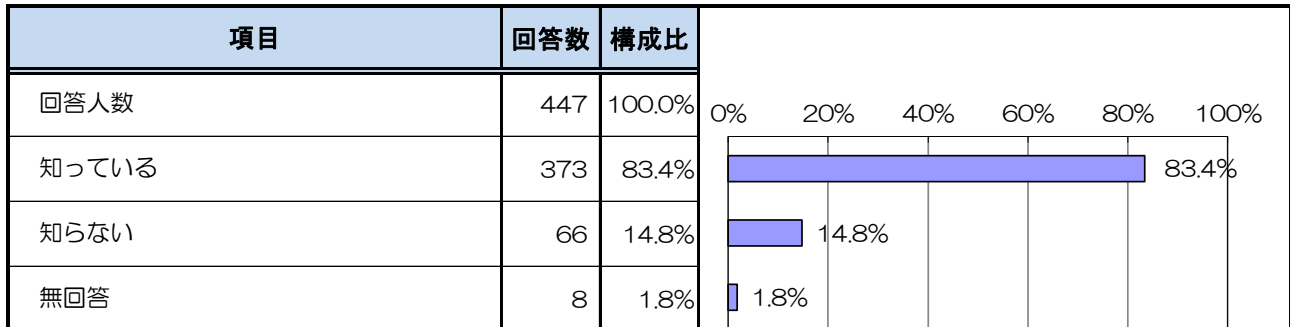
## 【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	64	-	24	-	40	-	0	-
運転席のシートベルト着用	50	78.1%	20	83.3%	30	75.0%	0	-
助手席のシートベルト着用	52	81.3%	20	83.3%	32	80.0%	0	-
後部座席のシートベルト着用	24	37.5%	10	41.7%	14	35.0%	0	-
無回答	11	17.2%	3	12.5%	8	20.0%	0	-

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	64	-	3	-	8	-	10	-	10	-	12	-	20	-	1	-
運転席のシートベルト着用	50	78.1%	0	0.0%	6	75.0%	8	80.0%	9	90.0%	11	91.7%	16	80.0%	0	0.0%
助手席のシートベルト着用	52	81.3%	1	33.3%	6	75.0%	7	70.0%	10	100.0%	11	91.7%	16	80.0%	1	100.0%
後部座席のシートベルト着用	24	37.5%	1	33.3%	3	37.5%	3	30.0%	7	70.0%	4	33.3%	6	30.0%	0	0.0%
無回答	11	17.2%	2	66.7%	2	25.0%	2	20.0%	0	0.0%	1	8.3%	4	20.0%	0	0.0%

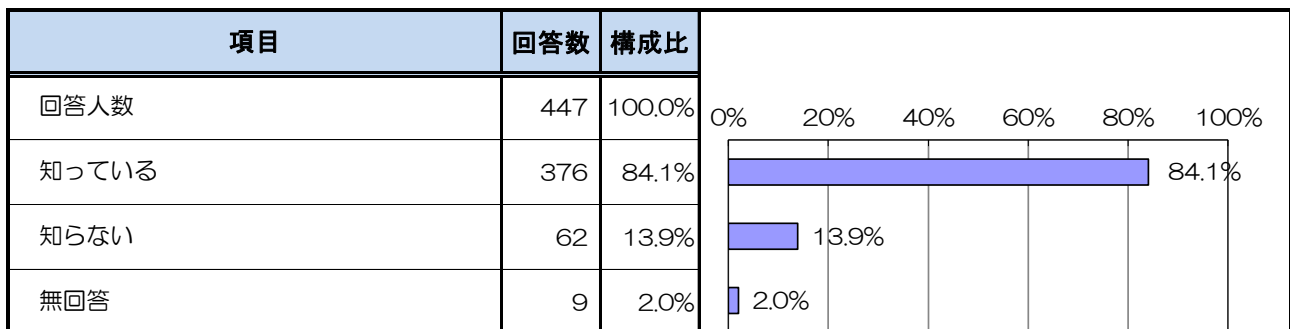
### 問7 あなたは、認知症は病気によるものだと知っていますか。(1つに○)

認知症が病気によるものであることについては、「知っている」が83.4%、「知らない」が14.8%となっている。



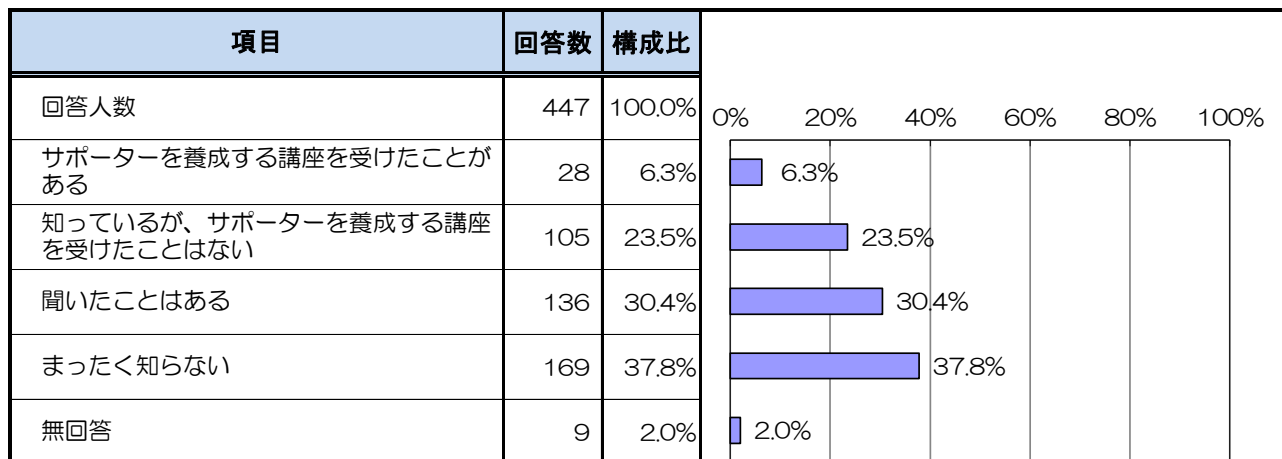
### 問8 あなたは、認知症への理解不足が高齢者の方への虐待につながることを知っていますか。(1つに○)

認知症への理解不足が高齢者への虐待につながることを知ることについては、「知っている」が84.1%、「知らない」が13.9%となっている。



**問9 認知症サポーター（認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者）についてご存知ですか。（1つに○）**

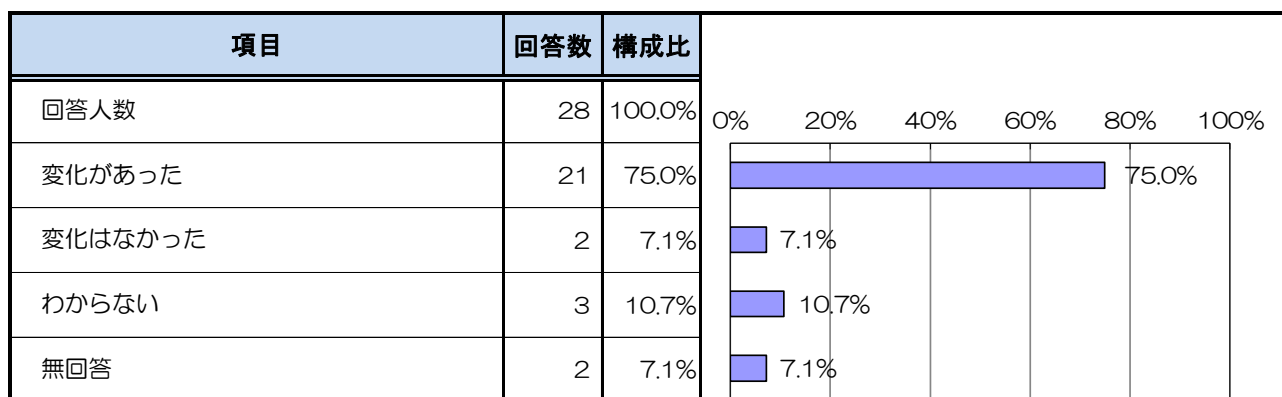
認知症サポーターについては、「まったく知らない」が37.8%と最も高く、次いで、「聞いたことはある」の30.4%、「知っているが、サポーターを養成する講座を受けたことはない」の23.5%の順となっている。



※問9で『1. サポーターを養成する講座を受けたことがある』とご回答された方にお聞きします。

**問9-1 あなたは、「認知症サポーター養成講座」を受講して、認知症の方への対応に変化がありましたか。（1つに○）**

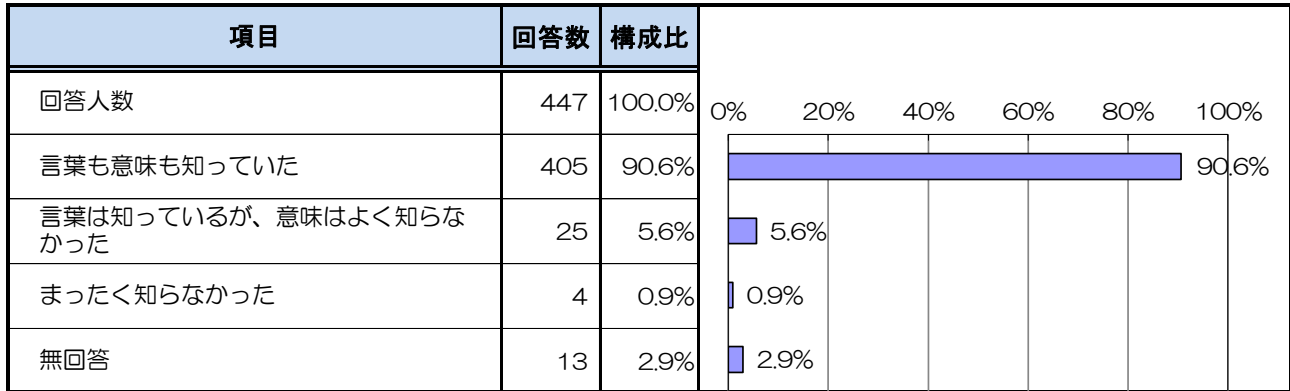
「認知症サポーター養成講座」受講後の認知症の方への対応の変化については、「変化があった」が75.0%と最も高く、次いで、「わからない」の10.7%、「変化はなかった」の7.1%の順となっている。





問 10 配偶者等からの暴力（DV）の認識についてお伺いします。（1つに○）

配偶者等からの暴力（DV）の認識については、「言葉も意味も知っていた」が 90.6%となっており、多くの人が認識していることが伺える。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異は見られない。

年代別では、20代の「言葉も意味も知っていた」の割合が最も高くなっている。

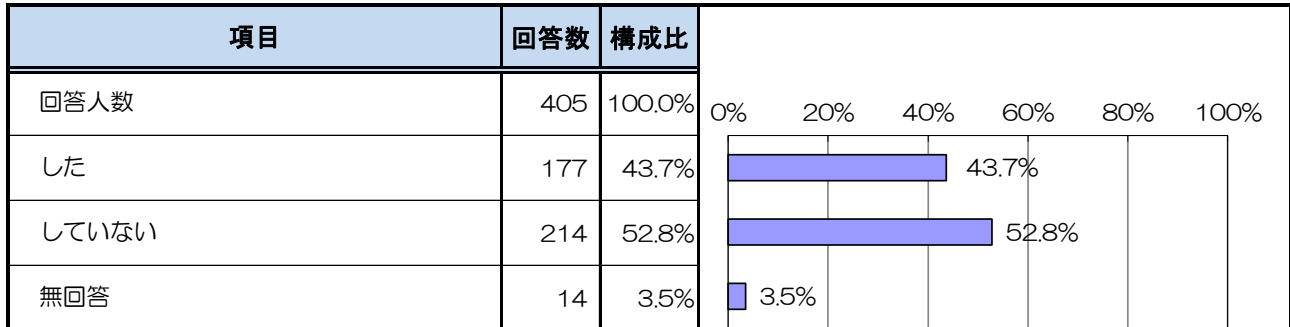
項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
言葉も意味も知っていた	405	90.6%	157	88.7%	245	91.8%	3	100.0%
言葉は知っているが、意味はよく知らなかった	25	5.6%	13	7.3%	12	4.5%	0	0.0%
まったく知らなかった	4	0.9%	2	1.1%	2	0.7%	0	0.0%
無回答	13	2.9%	5	2.8%	8	3.0%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
言葉も意味も知っていた	405	90.6%	15	83.3%	29	93.5%	101	90.2%	121	92.4%	67	91.8%	67	87.0%	5	100.0%
言葉は知っているが、意味はよく知らなかった	25	5.6%	2	11.1%	1	3.2%	5	4.5%	7	5.3%	2	2.7%	8	10.4%	0	0.0%
まったく知らなかった	4	0.9%	1	5.6%	0	0.0%	2	1.8%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	13	2.9%	0	0.0%	1	3.2%	4	3.6%	3	2.3%	3	4.1%	2	2.6%	0	0.0%

※問 10 で『1. 言葉も意味も知っていた』とご回答された方にお聞きします。

問 11 あなたは、配偶者等からの暴力（DV）の意味を知ったあとにア～エのようなことをしましたか。（1つに○）

ア 自分と結婚（交際）相手の関係や身近なカップルの状況について改めて考えた「していない」が52.8%、「した」が43.7%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女性の「した」の割合が男性と比較して高くなっている。

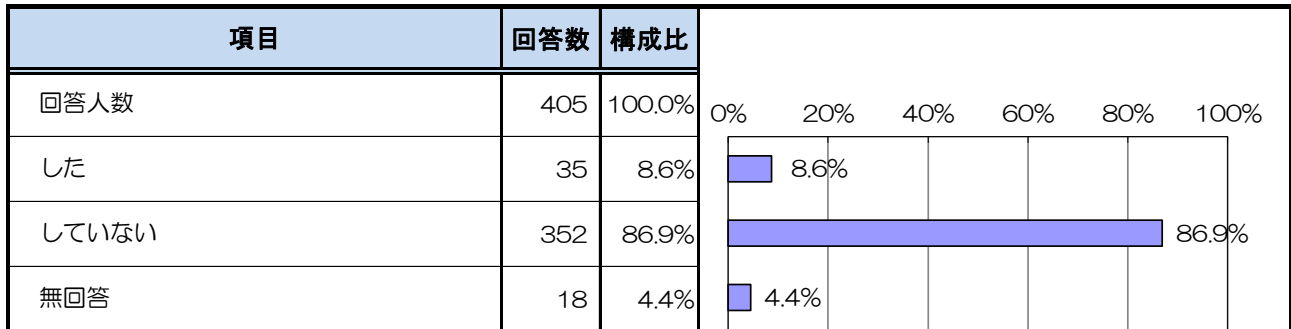
年代別では、「した」の割合は30代が最も高く、「していない」の割合は60代以上が最も高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	405	100.0%	157	100.0%	245	100.0%	3	100.0%
した	177	43.7%	57	36.3%	119	48.6%	1	33.3%
していない	214	52.8%	96	61.1%	116	47.3%	2	66.7%
無回答	14	3.5%	4	2.5%	10	4.1%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	405	100.0%	15	100.0%	29	100.0%	101	100.0%	121	100.0%	67	100.0%	67	100.0%	5	100.0%
した	177	43.7%	4	26.7%	12	41.4%	56	55.4%	52	43.0%	30	44.8%	21	31.3%	2	40.0%
していない	214	52.8%	8	53.3%	16	55.2%	42	41.6%	65	53.7%	37	55.2%	43	64.2%	3	60.0%
無回答	14	3.5%	3	20.0%	1	3.4%	3	3.0%	4	3.3%	0	0.0%	3	4.5%	0	0.0%

イ 実際に誰かに相談した

「していない」が86.9%、「した」が8.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女性の「した」の割合が男性と比較して高くなっている。

年代別では、年代が高くなるほど「した」の割合が低くなる傾向が見られる。

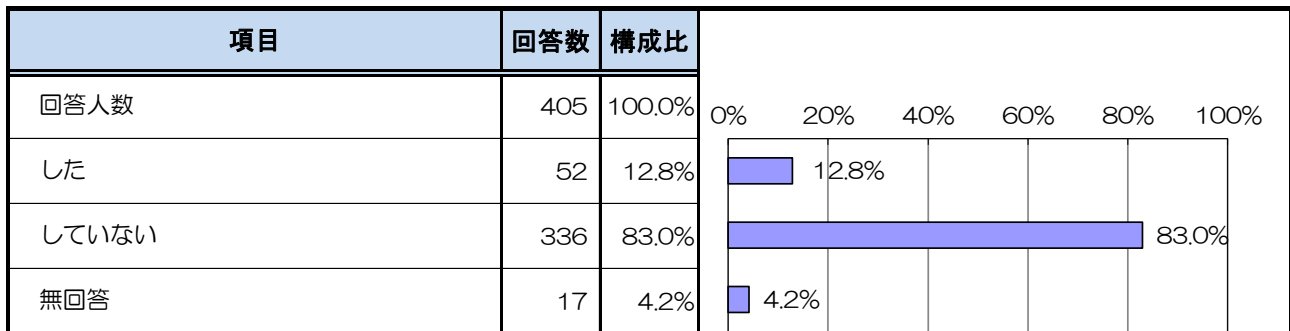
項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	405	100.0%	157	100.0%	245	100.0%	3	100.0%
した	35	8.6%	7	4.5%	27	11.0%	1	33.3%
していない	352	86.9%	146	93.0%	204	83.3%	2	66.7%
無回答	18	4.4%	4	2.5%	14	5.7%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	405	100.0%	15	100.0%	29	100.0%	101	100.0%	121	100.0%	67	100.0%	67	100.0%	5	100.0%
した	35	8.6%	2	13.3%	3	10.3%	11	10.9%	11	9.1%	5	7.5%	2	3.0%	1	20.0%
していない	352	86.9%	10	66.7%	25	86.2%	87	86.1%	106	87.6%	61	91.0%	59	88.1%	4	80.0%
無回答	18	4.4%	3	20.0%	1	3.4%	3	3.0%	4	3.3%	1	1.5%	6	9.0%	0	0.0%

【一般】

ウ 結婚（交際）相手とDVにあたる行為について話し合った

「していない」が83.0%、「した」が12.8%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異は見られない。

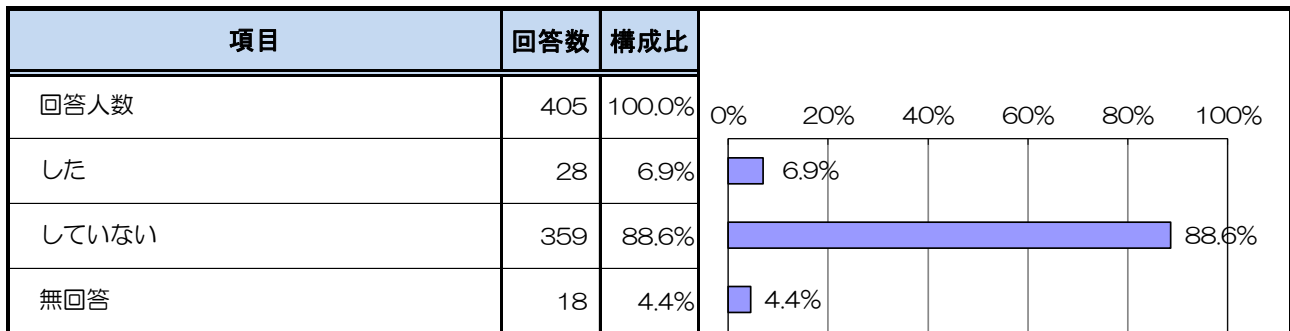
年代別では、30代の「した」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	405	100.0%	157	100.0%	245	100.0%	3	100.0%
した	52	12.8%	18	11.5%	33	13.5%	1	33.3%
していない	336	83.0%	134	85.4%	200	81.6%	2	66.7%
無回答	17	4.2%	5	3.2%	12	4.9%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	405	100.0%	15	100.0%	29	100.0%	101	100.0%	121	100.0%	67	100.0%	67	100.0%	5	100.0%
した	52	12.8%	1	6.7%	4	13.8%	22	21.8%	12	9.9%	6	9.0%	6	9.0%	1	20.0%
していない	336	83.0%	10	66.7%	24	82.8%	76	75.2%	106	87.6%	60	89.6%	56	83.6%	4	80.0%
無回答	17	4.2%	4	26.7%	1	3.4%	3	3.0%	3	2.5%	1	1.5%	5	7.5%	0	0.0%

【一般】

エ DV被害者ではないかと思う知り合いに相談場所を教えるなど助言した「していない」が88.6%、「した」が6.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女性の「した」の割合が男性と比較して高くなっている。

年代別では、30代・40代の「した」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	405	100.0%	157	100.0%	245	100.0%	3	100.0%
した	28	6.9%	5	3.2%	23	9.4%	0	0.0%
していない	359	88.6%	147	93.6%	209	85.3%	3	100.0%
無回答	18	4.4%	5	3.2%	13	5.3%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	405	100.0%	15	100.0%	29	100.0%	101	100.0%	121	100.0%	67	100.0%	67	100.0%	5	100.0%
した	28	6.9%	1	6.7%	1	3.4%	11	10.9%	12	9.9%	1	1.5%	2	3.0%	0	0.0%
していない	359	88.6%	11	73.3%	27	93.1%	87	86.1%	105	86.8%	65	97.0%	59	88.1%	5	100.0%
無回答	18	4.4%	3	20.0%	1	3.4%	3	3.0%	4	3.3%	1	1.5%	6	9.0%	0	0.0%

問12 あなたは、次のようなことが配偶者や恋人など親密な関係にある者の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。(暴力だと思うものすべてに○)

暴力だと思うことについては、「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」が96.2%と最も高く、次いで、「刃物を突きつけて、おどす」の96.0%、「足でける」の93.3%の順となっており、「身体的暴力」についての認知に比べ、「精神的暴力」についての認知が進んでいないことが伺える。

項目	回答数	構成比
回答人数	447	-
平手で打つ	387	86.6%
足でける	417	93.3%
身体を傷つける可能性のある物でなぐる	430	96.2%
なぐるふりをして、おどす	361	80.8%
刃物を突きつけて、おどす	429	96.0%
大声でどなる	326	72.9%
他の異性と話をすることや会うことを妨害する	294	65.8%
家族や友人と話をすることや会うことを妨害する	316	70.7%
長時間無視する	292	65.3%
交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	320	71.6%
「誰のおかげで生活できているんだ」など言葉でおどす	382	85.5%
家計に必要な生活費を渡さない	360	80.5%
外出を制限する	350	78.3%
いやがっているのに性的な行為を強要する	410	91.7%
避妊に協力しない	356	79.6%
無回答	10	2.2%

## 【属性別特徴】

性別では、男女ともに「身体を傷つける可能性のある物でなくる」の割合が最も高い一方、女性では「長時間無視する」が、男性では、「他の異性と話をすることや会うことを妨害する」の割合が最も低く、身体的暴力に比べ、精神的暴力に対する認識が低い傾向が見られる。

年代別においても、すべての年代で同様の傾向が見られる。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	-	177	-	267	-	3	-
平手で打つ	387	86.6%	159	89.8%	225	84.3%	3	100.0%
足でける	417	93.3%	169	95.5%	245	91.8%	3	100.0%
身体を傷つける可能性のある物でなくる	430	96.2%	169	95.5%	258	96.6%	3	100.0%
なくるふりをして、おどす	361	80.8%	146	82.5%	213	79.8%	2	66.7%
刃物を突きつけて、おどす	429	96.0%	169	95.5%	257	96.3%	3	100.0%
大声でどなる	326	72.9%	127	71.8%	196	73.4%	3	100.0%
他の異性と話をすることや会うことを妨害する	294	65.8%	114	64.4%	178	66.7%	2	66.7%
家族や友人と話をすることや会うことを妨害する	316	70.7%	119	67.2%	195	73.0%	2	66.7%
長時間無視する	292	65.3%	122	68.9%	168	62.9%	2	66.7%
交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	320	71.6%	119	67.2%	198	74.2%	3	100.0%
「誰のおかげで生活できているんだ」など言葉でおどす	382	85.5%	148	83.6%	231	86.5%	3	100.0%
家計に必要な生活費を渡さない	360	80.5%	136	76.8%	221	82.8%	3	100.0%
外出を制限する	350	78.3%	133	75.1%	214	80.1%	3	100.0%
いやがっているのに性的な行為を強要する	410	91.7%	160	90.4%	247	92.5%	3	100.0%
避妊に協力しない	356	79.6%	141	79.7%	212	79.4%	3	100.0%
無回答	10	2.2%	5	2.8%	5	1.9%	0	0.0%

【一般】

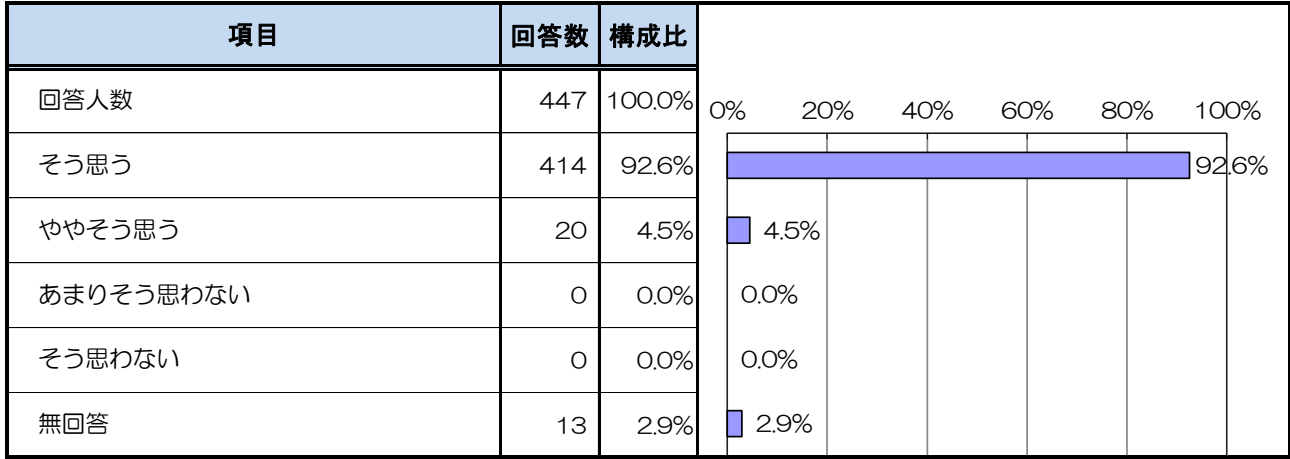
項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	-	18	-	31	-	112	-	131	-	73	-	77	-	5	-
平手で打つ	387	86.6%	12	66.7%	25	80.6%	99	88.4%	114	87.0%	66	90.4%	67	87.0%	4	80.0%
足でける	417	93.3%	15	83.3%	26	83.9%	107	95.5%	124	94.7%	70	95.9%	70	90.9%	5	100.0%
身体を傷つける可能性のある物でなくる	430	96.2%	18	100.0%	30	96.8%	107	95.5%	124	94.7%	72	98.6%	74	96.1%	5	100.0%
なくるふりをして、おどす	361	80.8%	12	66.7%	24	77.4%	95	84.8%	110	84.0%	61	83.6%	56	72.7%	3	60.0%
刃物を突きつけて、おどす	429	96.0%	16	88.9%	28	90.3%	107	95.5%	127	96.9%	72	98.6%	74	96.1%	5	100.0%
大声でとなる	326	72.9%	8	44.4%	19	61.3%	81	72.3%	101	77.1%	57	78.1%	56	72.7%	4	80.0%
他の異性と話をすることや会うことを妨害する	294	65.8%	14	77.8%	18	58.1%	70	62.5%	83	63.4%	56	76.7%	50	64.9%	3	60.0%
家族や友人と話をすることや会うことを妨害する	316	70.7%	15	83.3%	21	67.7%	84	75.0%	86	65.6%	58	79.5%	49	63.6%	3	60.0%
長時間無視する	292	65.3%	11	61.1%	14	45.2%	79	70.5%	80	61.1%	58	79.5%	47	61.0%	3	60.0%
交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	320	71.6%	14	77.8%	25	80.6%	81	72.3%	82	62.6%	60	82.2%	54	70.1%	4	80.0%
「誰のおかげで生活できているんだ」など言葉でおどす	382	85.5%	16	88.9%	26	83.9%	95	84.8%	114	87.0%	67	91.8%	60	77.9%	4	80.0%
家計に必要な生活費を渡さない	360	80.5%	13	72.2%	24	77.4%	93	83.0%	105	80.2%	63	86.3%	57	74.0%	5	100.0%
外出を制限する	350	78.3%	13	72.2%	24	77.4%	92	82.1%	101	77.1%	60	82.2%	56	72.7%	4	80.0%
いやがっているのに性的な行為を強要する	410	91.7%	18	100.0%	29	93.5%	101	90.2%	123	93.9%	69	94.5%	65	84.4%	5	100.0%
避妊に協力しない	356	79.6%	15	83.3%	27	87.1%	90	80.4%	106	80.9%	64	87.7%	49	63.6%	5	100.0%
無回答	10	2.2%	0	0.0%	1	3.2%	3	2.7%	3	2.3%	1	1.4%	2	2.6%	0	0.0%



問 13 配偶者等からの暴力（DV）について、あなたはどのように思いますか。（1つに○）

ア DVは人権を侵害する行為であると思う

「そう思う」が92.6%と最も高く、次いで、「ややそう思う」の4.5%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男女ともに「そう思う」の割合が9割を超えている。

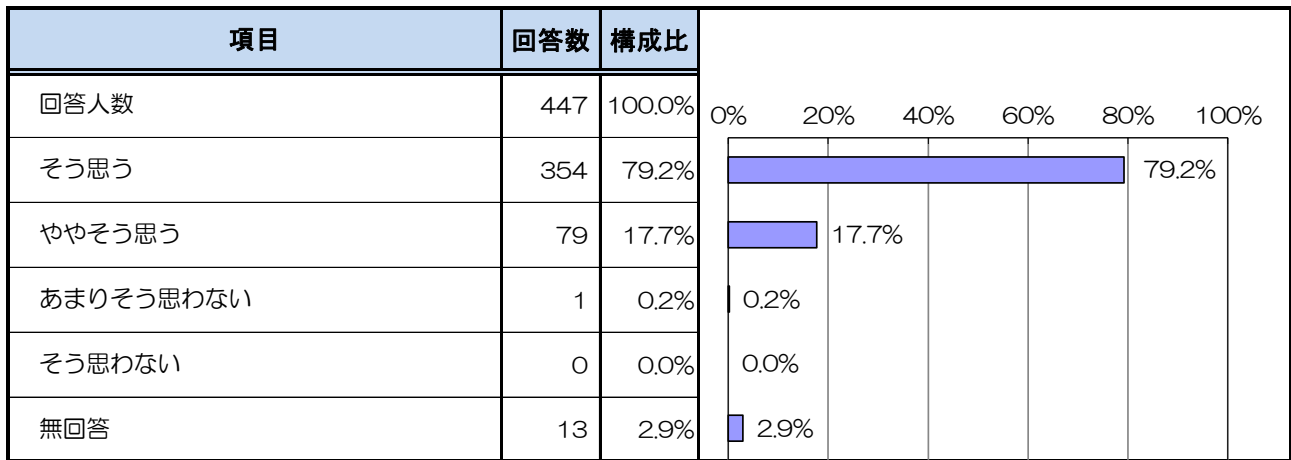
年代別では、大きな差異は見られない。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
そう思う	414	92.6%	161	91.0%	250	93.6%	3	100.0%
ややそう思う	20	4.5%	10	5.6%	10	3.7%	0	0.0%
あまりそう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	13	2.9%	6	3.4%	7	2.6%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
そう思う	414	92.6%	16	88.9%	29	93.5%	105	93.8%	122	93.1%	69	94.5%	68	88.3%	5	100.0%
ややそう思う	20	4.5%	2	11.1%	1	3.2%	4	3.6%	5	3.8%	3	4.1%	5	6.5%	0	0.0%
あまりそう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	13	2.9%	0	0.0%	1	3.2%	3	2.7%	4	3.1%	1	1.4%	4	5.2%	0	0.0%

イ どんな理由があっても暴力をふるうべきではないと思う

「そう思う」が79.2%と最も高く、次いで、「ややそう思う」の17.7%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異は見られない。

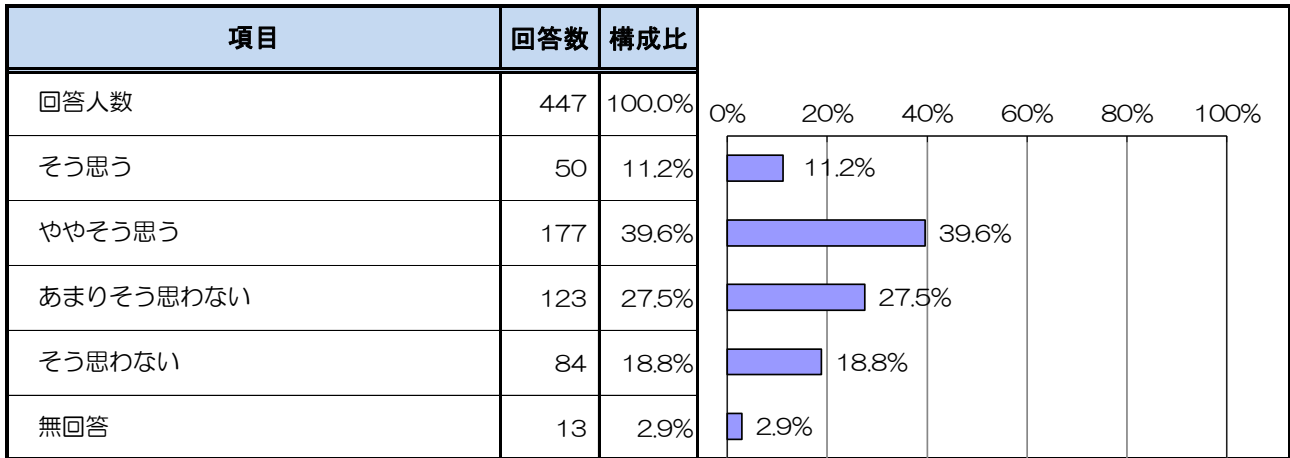
年代別では、50代の「そう思う」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
そう思う	354	79.2%	139	78.5%	212	79.4%	3	100.0%
ややそう思う	79	17.7%	31	17.5%	48	18.0%	0	0.0%
あまりそう思わない	1	0.2%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%
そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	13	2.9%	6	3.4%	7	2.6%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
そう思う	354	79.2%	14	77.8%	23	74.2%	92	82.1%	97	74.0%	64	87.7%	59	76.6%	5	100.0%
ややそう思う	79	17.7%	4	22.2%	6	19.4%	17	15.2%	30	22.9%	8	11.0%	14	18.2%	0	0.0%
あまりそう思わない	1	0.2%	0	0.0%	1	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	13	2.9%	0	0.0%	1	3.2%	3	2.7%	4	3.1%	1	1.4%	4	5.2%	0	0.0%

ウ 暴力をふるわれる方にも問題があると思う

「ややそう思う」が 39.6%と最も高く、次いで、「あまりそう思わない」の 27.5%、「そう思わない」の 18.8%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、女性の「そう思わない」の割合が男性と比較して高くなっている。

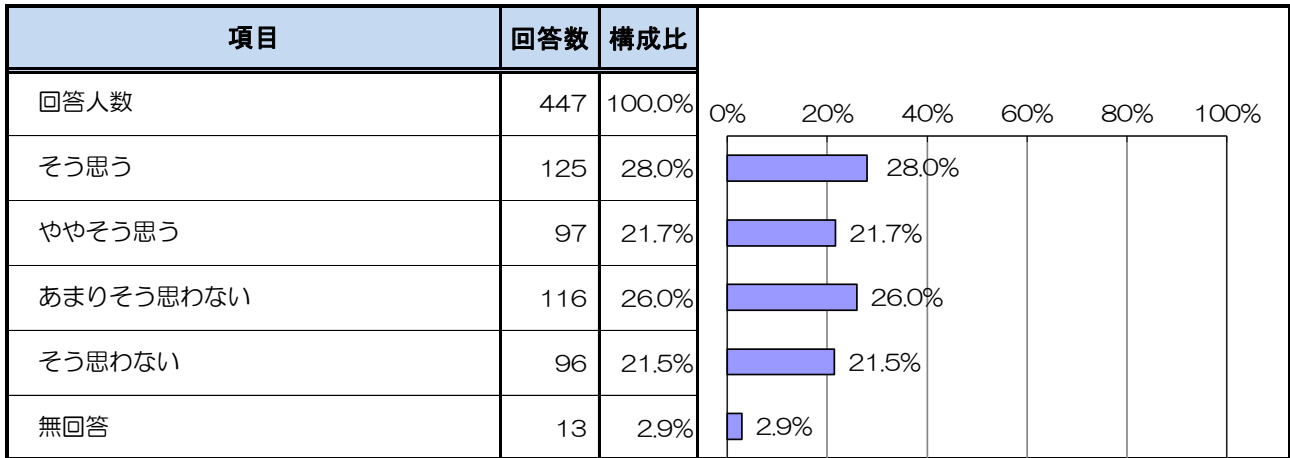
年代別では、60代以上の「そう思う」「ややそう思う」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
そう思う	50	11.2%	24	13.6%	26	9.7%	0	0.0%
ややそう思う	177	39.6%	67	37.9%	108	40.4%	2	66.7%
あまりそう思わない	123	27.5%	53	29.9%	70	26.2%	0	0.0%
そう思わない	84	18.8%	27	15.3%	56	21.0%	1	33.3%
無回答	13	2.9%	6	3.4%	7	2.6%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
そう思う	50	11.2%	1	5.6%	1	3.2%	13	11.6%	13	9.9%	9	12.3%	13	16.9%	0	0.0%
ややそう思う	177	39.6%	6	33.3%	14	45.2%	36	32.1%	54	41.2%	29	39.7%	35	45.5%	3	60.0%
あまりそう思わない	123	27.5%	9	50.0%	12	38.7%	32	28.6%	38	29.0%	17	23.3%	14	18.2%	1	20.0%
そう思わない	84	18.8%	2	11.1%	3	9.7%	28	25.0%	22	16.8%	17	23.3%	11	14.3%	1	20.0%
無回答	13	2.9%	0	0.0%	1	3.2%	3	2.7%	4	3.1%	1	1.4%	4	5.2%	0	0.0%

エ 暴力をふるう相手から別れたいと思えばいつでも別れられると思う

「そう思う」が28.0%と最も高く、次いで、「あまりそう思わない」の26.0%、「ややそう思う」の21.7%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、女性の「そう思わない」の割合が男性と比較して高くなっている。

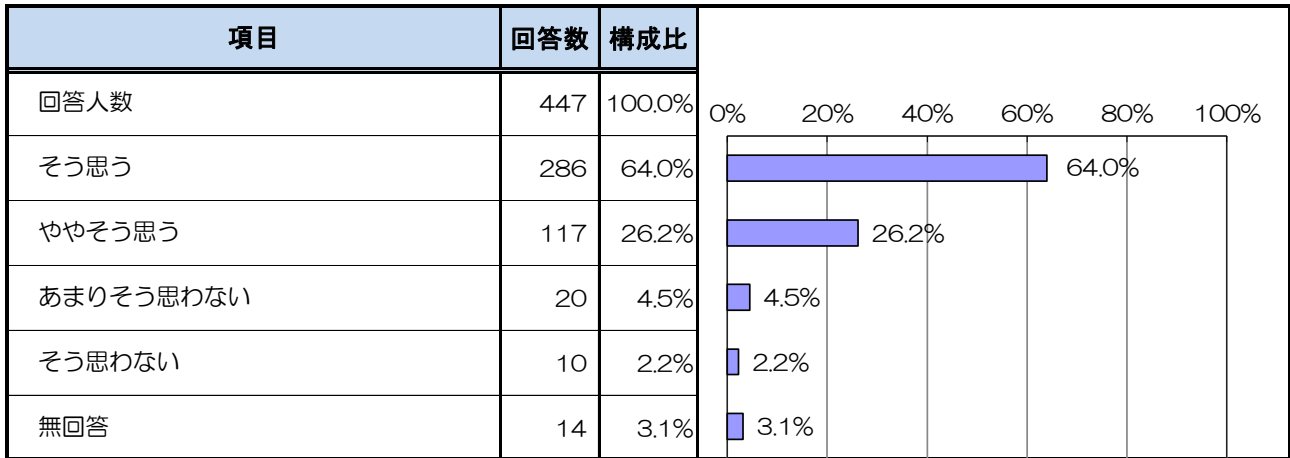
年代別では、20代～40代の「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
そう思う	125	28.0%	55	31.1%	70	26.2%	0	0.0%
ややそう思う	97	21.7%	34	19.2%	63	23.6%	0	0.0%
あまりそう思わない	116	26.0%	51	28.8%	63	23.6%	2	66.7%
そう思わない	96	21.5%	31	17.5%	64	24.0%	1	33.3%
無回答	13	2.9%	6	3.4%	7	2.6%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
そう思う	125	28.0%	3	16.7%	7	22.6%	35	31.3%	29	22.1%	24	32.9%	27	35.1%	0	0.0%
ややそう思う	97	21.7%	8	44.4%	6	19.4%	16	14.3%	28	21.4%	20	27.4%	18	23.4%	1	20.0%
あまりそう思わない	116	26.0%	5	27.8%	11	35.5%	29	25.9%	32	24.4%	15	20.5%	21	27.3%	3	60.0%
そう思わない	96	21.5%	2	11.1%	6	19.4%	29	25.9%	38	29.0%	13	17.8%	7	9.1%	1	20.0%
無回答	13	2.9%	0	0.0%	1	3.2%	3	2.7%	4	3.1%	1	1.4%	4	5.2%	0	0.0%

オ DVは個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だと思う

「そう思う」が64.0%と最も高く、次いで、「ややそう思う」の26.2%、「あまりそう思わない」の4.5%の順となっている。



【属性別特徴】

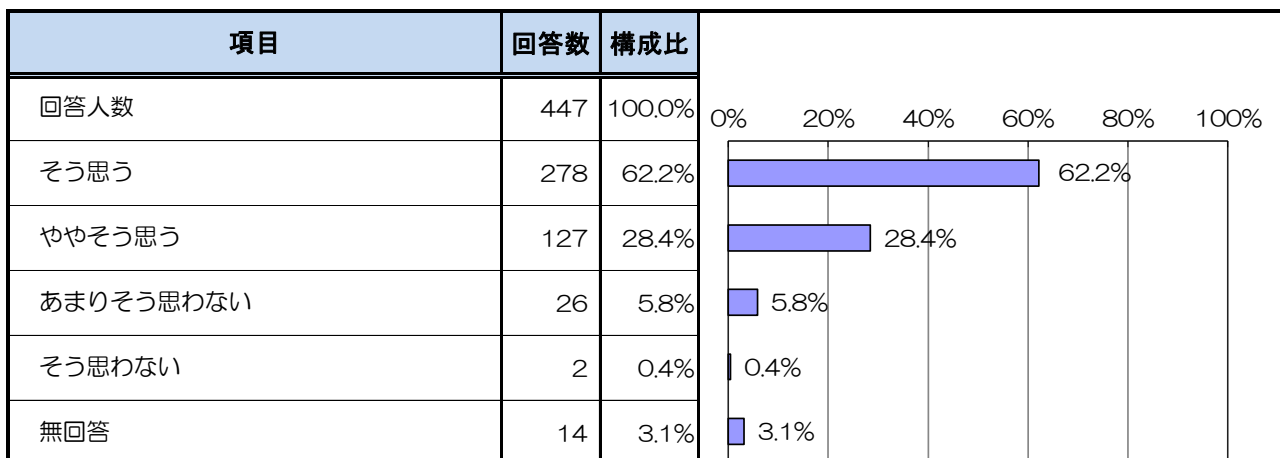
性別では、女性の「そう思う」「ややそう思う」の割合が男性と比較して高くなっている。年代別では、60代以上の「そう思う」の割合が他の年代と比較して低くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
そう思う	286	64.0%	109	61.6%	175	65.5%	2	66.7%
ややそう思う	117	26.2%	43	24.3%	73	27.3%	1	33.3%
あまりそう思わない	20	4.5%	12	6.8%	8	3.0%	0	0.0%
そう思わない	10	2.2%	7	4.0%	3	1.1%	0	0.0%
無回答	14	3.1%	6	3.4%	8	3.0%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
そう思う	286	64.0%	13	72.2%	24	77.4%	79	70.5%	80	61.1%	49	67.1%	38	49.4%	3	60.0%
ややそう思う	117	26.2%	4	22.2%	5	16.1%	22	19.6%	40	30.5%	13	17.8%	31	40.3%	2	40.0%
あまりそう思わない	20	4.5%	0	0.0%	1	3.2%	4	3.6%	5	3.8%	7	9.6%	3	3.9%	0	0.0%
そう思わない	10	2.2%	1	5.6%	0	0.0%	4	3.6%	2	1.5%	2	2.7%	1	1.3%	0	0.0%
無回答	14	3.1%	0	0.0%	1	3.2%	3	2.7%	4	3.1%	2	2.7%	4	5.2%	0	0.0%

カ 夫婦間の暴力であっても、警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきであると思う

「そう思う」が62.2%と最も高く、次いで、「ややそう思う」の28.4%、「あまりそう思わない」の5.8%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、女性の「そう思う」の割合が男性と比較して高くなっている。

年代別では、他の年代と比較して、50代の「そう思う」の割合が高く、60代以上の「そう思う」の割合が低くなっている。

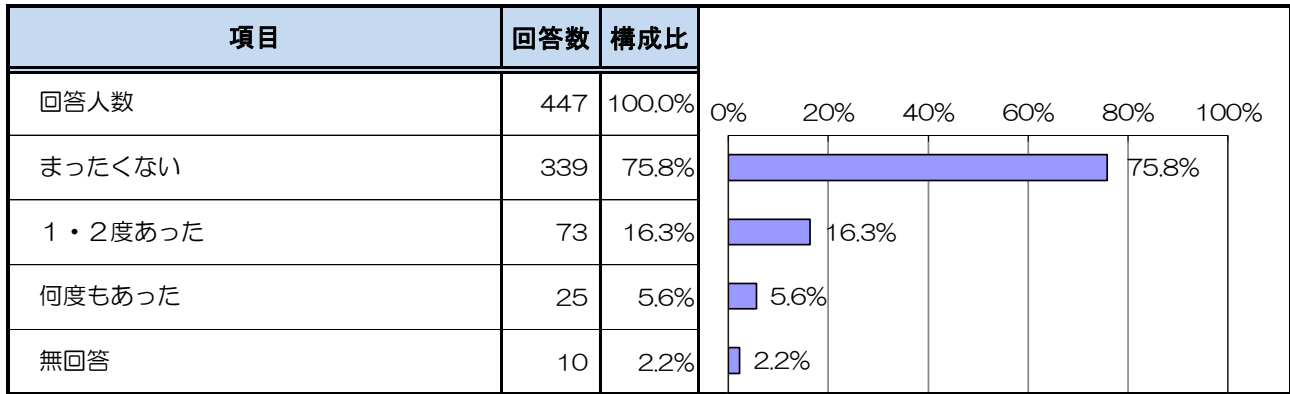
項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
そう思う	278	62.2%	104	58.8%	173	64.8%	1	33.3%
ややそう思う	127	28.4%	52	29.4%	74	27.7%	1	33.3%
あまりそう思わない	26	5.8%	13	7.3%	12	4.5%	1	33.3%
そう思わない	2	0.4%	1	0.6%	1	0.4%	0	0.0%
無回答	14	3.1%	7	4.0%	7	2.6%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
そう思う	278	62.2%	10	55.6%	18	58.1%	78	69.6%	83	63.4%	56	76.7%	31	40.3%	2	40.0%
ややそう思う	127	28.4%	7	38.9%	10	32.3%	28	25.0%	37	28.2%	9	12.3%	34	44.2%	2	40.0%
あまりそう思わない	26	5.8%	1	5.6%	2	6.5%	3	2.7%	6	4.6%	6	8.2%	7	9.1%	1	20.0%
そう思わない	2	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	14	3.1%	0	0.0%	1	3.2%	3	2.7%	4	3.1%	1	1.4%	5	6.5%	0	0.0%

問 14 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。  
(1つに○)

### ア 身体的な暴力を受けた経験

「まったくない」が75.8%と最も高く、次いで、「1・2度あった」の16.3%、「何度もあった」の5.6%の順となっている。



### 【属性別特徴】

性別では、女性の「1・2度あった」「何度もあった」の割合が男性と比較して高くなっている。

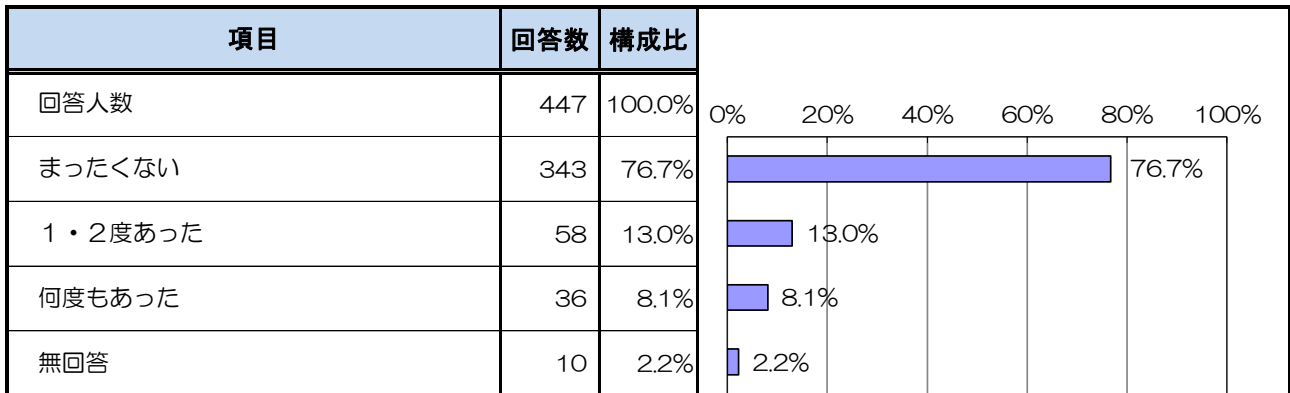
年代別では、身体的な暴力を受けた経験があるのは、40代が最も多く、次いで、30代、50代の順となっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
まったくない	339	75.8%	146	82.5%	192	71.9%	1	33.3%
1・2度あった	73	16.3%	23	13.0%	49	18.4%	1	33.3%
何度もあった	25	5.6%	3	1.7%	21	7.9%	1	33.3%
無回答	10	2.2%	5	2.8%	5	1.9%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
まったくない	339	75.8%	14	77.8%	26	83.9%	84	75.0%	95	72.5%	56	76.7%	61	79.2%	3	60.0%
1・2度あった	73	16.3%	2	11.1%	2	6.5%	16	14.3%	30	22.9%	13	17.8%	9	11.7%	1	20.0%
何度もあった	25	5.6%	1	5.6%	2	6.5%	10	8.9%	6	4.6%	3	4.1%	2	2.6%	1	20.0%
無回答	10	2.2%	1	5.6%	1	3.2%	2	1.8%	0	0.0%	1	1.4%	5	6.5%	0	0.0%

イ 精神的な暴力を受けた経験

「まったくない」が76.7%と最も高く、次いで、「1・2度あった」の13.0%、「何度もあった」の8.1%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、女性の「1・2度あった」「何どもあった」の割合が男性と比較して高くなっている。

年代別では、精神的な暴力を受けた経験があるのは、40代が最も多く、次いで、30代、50代の順となっている。

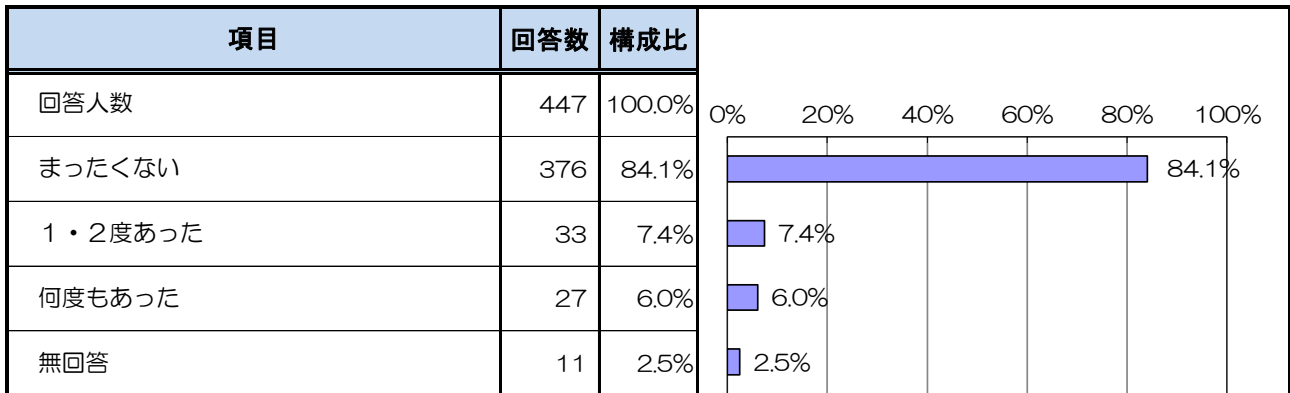
項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
まったくない	343	76.7%	149	84.2%	192	71.9%	2	66.7%
1・2度あった	58	13.0%	19	10.7%	38	14.2%	1	33.3%
何どもあった	36	8.1%	4	2.3%	32	12.0%	0	0.0%
無回答	10	2.2%	5	2.8%	5	1.9%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
まったくない	343	76.7%	16	88.9%	26	83.9%	83	74.1%	97	74.0%	55	75.3%	62	80.5%	4	80.0%
1・2度あった	58	13.0%	1	5.6%	2	6.5%	10	8.9%	25	19.1%	10	13.7%	9	11.7%	1	20.0%
何どもあった	36	8.1%	0	0.0%	2	6.5%	17	15.2%	9	6.9%	7	9.6%	1	1.3%	0	0.0%
無回答	10	2.2%	1	5.6%	1	3.2%	2	1.8%	0	0.0%	1	1.4%	5	6.5%	0	0.0%



ウ 経済的な暴力を受けた経験

「まったくない」が84.1%と最も高く、次いで、「1・2度あった」の7.4%、「何度もあった」の6.0%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、女性の「1・2度あった」「何度もあった」の割合が男性と比較して高くなっている。

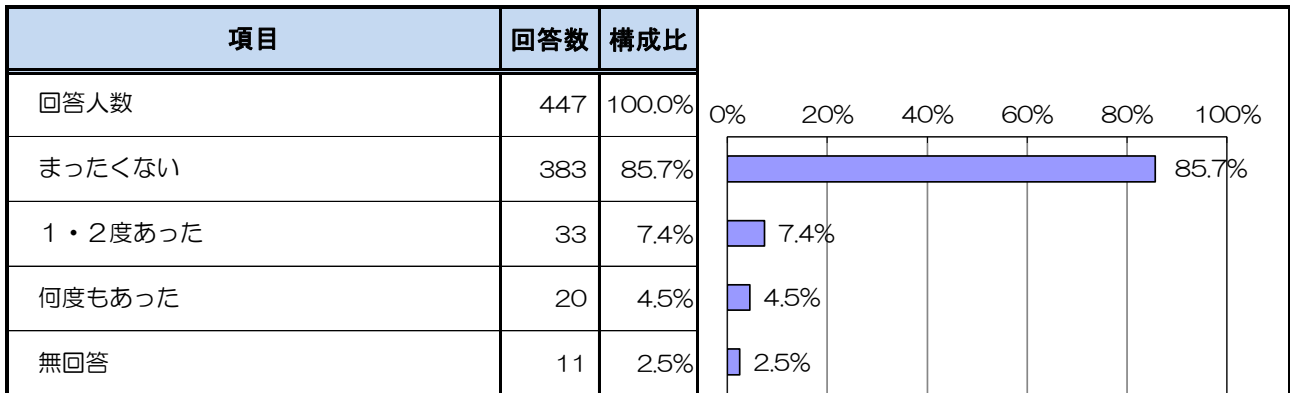
年代別では、経済的な暴力を受けた経験があるのは、50代が最も多く、次いで、40代、30代の順となっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
まったくない	376	84.1%	164	92.7%	210	78.7%	2	66.7%
1・2度あった	33	7.4%	5	2.8%	27	10.1%	1	33.3%
何度もあった	27	6.0%	3	1.7%	24	9.0%	0	0.0%
無回答	11	2.5%	5	2.8%	6	2.2%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
まったくない	376	84.1%	16	88.9%	29	93.5%	92	82.1%	109	83.2%	59	80.8%	67	87.0%	4	80.0%
1・2度あった	33	7.4%	0	0.0%	1	3.2%	8	7.1%	11	8.4%	9	12.3%	3	3.9%	1	20.0%
何度もあった	27	6.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	8.9%	11	8.4%	4	5.5%	2	2.6%	0	0.0%
無回答	11	2.5%	2	11.1%	1	3.2%	2	1.8%	0	0.0%	1	1.4%	5	6.5%	0	0.0%

エ 性的な暴力を受けた経験

「まったくない」が85.7%と最も高く、次いで、「1・2度あった」の7.4%、「何度もあった」の4.5%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、女性の「1・2度あった」「何どもあった」の割合が男性と比較して高くなっている。

年代別では、性的な暴力を受けた経験があるのは、30代が最も多く、次いで、50代、40代の順となっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
まったくない	383	85.7%	166	93.8%	214	80.1%	3	100.0%
1・2度あった	33	7.4%	6	3.4%	27	10.1%	0	0.0%
何どもあった	20	4.5%	0	0.0%	20	7.5%	0	0.0%
無回答	11	2.5%	5	2.8%	6	2.2%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
まったくない	383	85.7%	17	94.4%	28	90.3%	92	82.1%	115	87.8%	62	84.9%	64	83.1%	5	100.0%
1・2度あった	33	7.4%	0	0.0%	0	0.0%	9	8.0%	8	6.1%	8	11.0%	8	10.4%	0	0.0%
何どもあった	20	4.5%	0	0.0%	2	6.5%	8	7.1%	8	6.1%	2	2.7%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	11	2.5%	1	5.6%	1	3.2%	3	2.7%	0	0.0%	1	1.4%	5	6.5%	0	0.0%

【一般】

※問 14 のア～エのいずれかの項目で『2. 1・2度あった』または『3. 何度もあった』とご回答された方にお聞きします。

問 14-1 あなたはその相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。  
(1つに○)

配偶者等からの重篤な暴力（DV）の経験については、「ない」が80.1%、「ある」が15.1%となっている。

項目	回答数	構成比
回答人数	146	100.0%
ある	22	15.1%
ない	117	80.1%
無回答	7	4.8%

【属性別特徴】

性別では、女性の「ある」の割合が男性と比較して高くなっている。

年代別では、30代の「ある」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

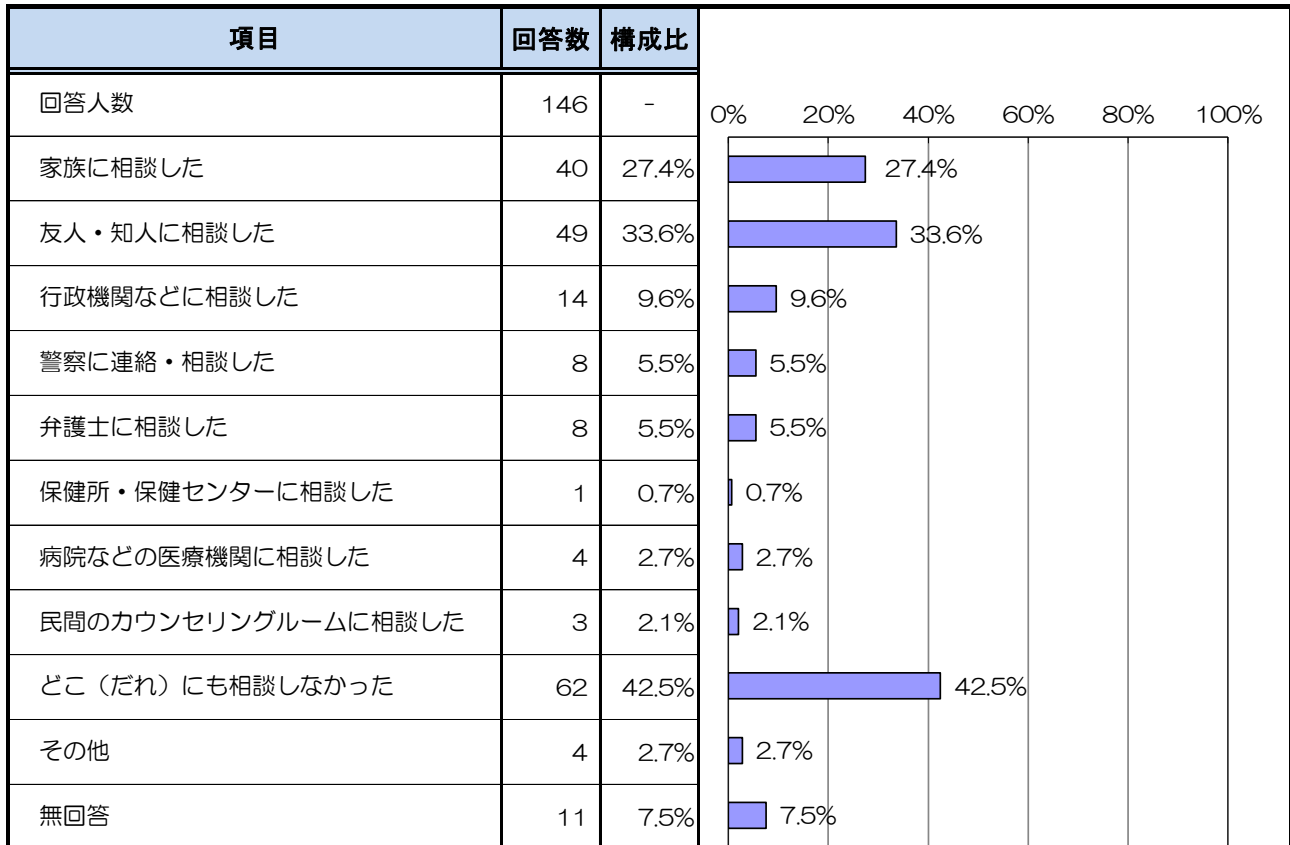
項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	146	100.0%	37	100.0%	107	100.0%	2	100.0%
ある	22	15.1%	1	2.7%	20	18.7%	1	50.0%
ない	117	80.1%	34	91.9%	82	76.6%	1	50.0%
無回答	7	4.8%	2	5.4%	5	4.7%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	146	100.0%	3	100.0%	5	100.0%	38	100.0%	52	100.0%	28	100.0%	18	100.0%	2	100.0%
ある	22	15.1%	0	0.0%	1	20.0%	9	23.7%	7	13.5%	3	10.7%	1	5.6%	1	50.0%
ない	117	80.1%	3	100.0%	3	60.0%	27	71.1%	44	84.6%	23	82.1%	16	88.9%	1	50.0%
無回答	7	4.8%	0	0.0%	1	20.0%	2	5.3%	1	1.9%	2	7.1%	1	5.6%	0	0.0%

※問 14 のア～エのいずれかの項目で『2. 1・2度あった』または『3. 何度もあった』とご回答された方にお聞きします。

問 14-2 あなたはこれまでに、配偶者等からの暴力（DV）について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（あてはまるものすべてに○）

配偶者等からの暴力（DV）の相談状況については、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が42.5%と最も高く、次いで、「友人・知人に相談した」の33.6%、「家族に相談した」の27.4%の順となっている。



## 【属性別特徴】

性別では、男性の「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が女性と比較して高くなっている。

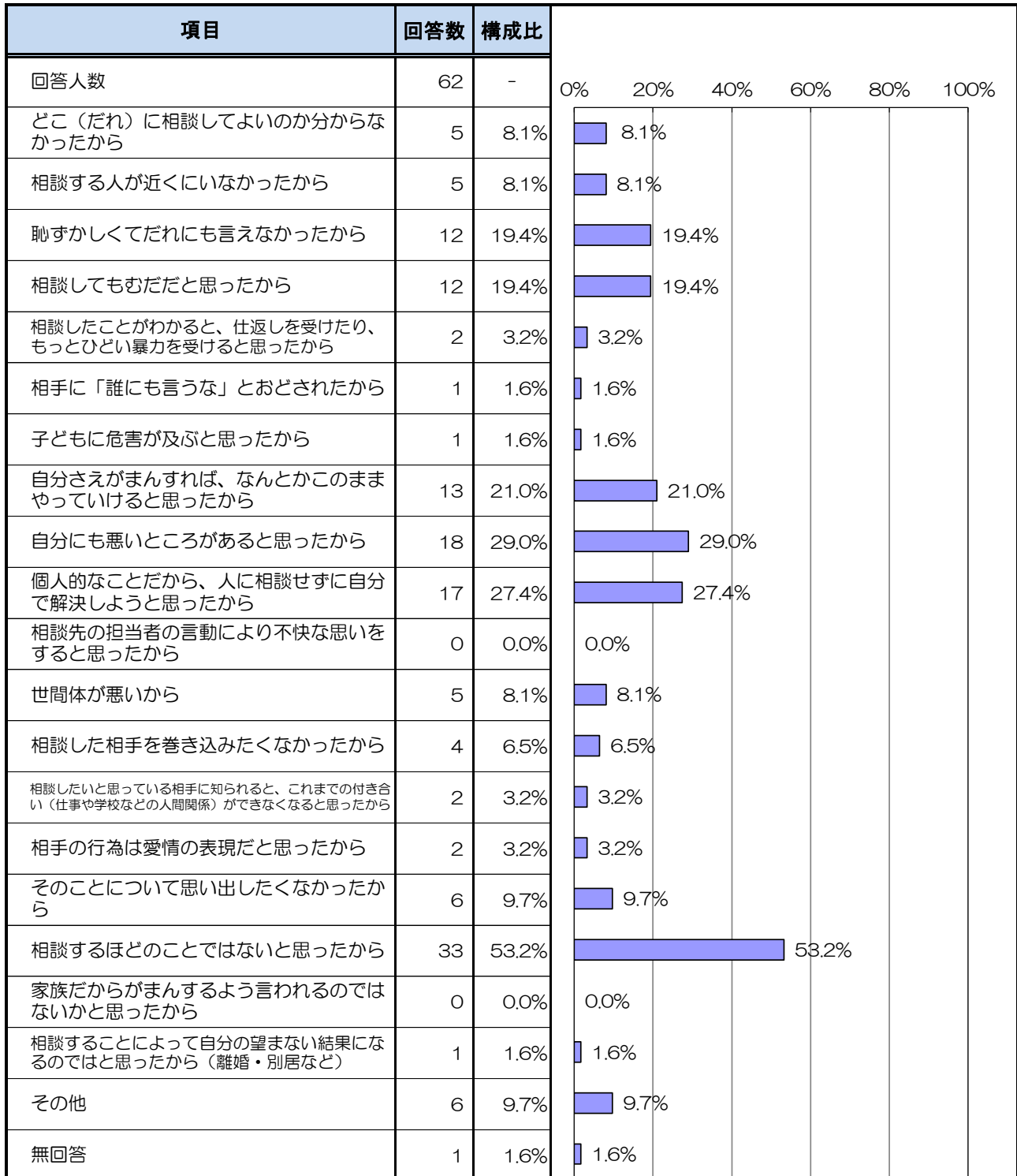
年代別では、60代以上の「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	146	-	37	-	107	-	2	-
家族に相談した	40	27.4%	4	10.8%	36	33.6%	0	0.0%
友人・知人に相談した	49	33.6%	5	13.5%	43	40.2%	1	50.0%
行政機関などに相談した	14	9.6%	0	0.0%	13	12.1%	1	50.0%
警察に連絡・相談した	8	5.5%	1	2.7%	7	6.5%	0	0.0%
弁護士に相談した	8	5.5%	0	0.0%	8	7.5%	0	0.0%
保健所・保健センターに相談した	1	0.7%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%
病院などの医療機関に相談した（医師など）	4	2.7%	0	0.0%	4	3.7%	0	0.0%
民間のカウンセリングルームに相談した	3	2.1%	1	2.7%	2	1.9%	0	0.0%
どこ（だれ）にも相談しなかった	62	42.5%	26	70.3%	35	32.7%	1	50.0%
その他	4	2.7%	1	2.7%	3	2.8%	0	0.0%
無回答	11	7.5%	3	8.1%	8	7.5%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	146	-	3	-	5	-	38	-	52	-	28	-	18	-	2	-
家族に相談した	40	27.4%	1	33.3%	1	20.0%	15	39.5%	15	28.8%	6	21.4%	2	11.1%	0	0.0%
友人・知人に相談した	49	33.6%	1	33.3%	2	40.0%	12	31.6%	20	38.5%	9	32.1%	4	22.2%	1	50.0%
行政機関などに相談した	14	9.6%	0	0.0%	0	0.0%	8	21.1%	3	5.8%	1	3.6%	1	5.6%	1	50.0%
警察に連絡・相談した	8	5.5%	0	0.0%	0	0.0%	6	15.8%	2	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
弁護士に相談した	8	5.5%	0	0.0%	0	0.0%	6	15.8%	2	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保健所・保健センターに相談した	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
病院などの医療機関に相談した（医師など）	4	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	3	7.9%	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
民間のカウンセリングルームに相談した	3	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.6%	2	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
どこ（だれ）にも相談しなかった	62	42.5%	0	0.0%	1	20.0%	17	44.7%	23	44.2%	10	35.7%	10	55.6%	1	50.0%
その他	4	2.7%	1	33.3%	0	0.0%	1	2.6%	0	0.0%	1	3.6%	1	5.6%	0	0.0%
無回答	11	7.5%	1	33.3%	1	20.0%	1	2.6%	2	3.8%	3	10.7%	3	16.7%	0	0.0%

※問 14-2 で『9. どこ（だれ）にも相談しなかった』とご回答された方にお聞きします。  
 問 14-3 どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。（あてはまるものすべてに○）

配偶者等からの暴力（DV）を相談しない理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が 53.2%と最も高く、次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」の 29.0%、「個人的なことだから、人に相談せずに自分で解決しようと思ったから」の 27.4%の順となっている。



## 【属性別特徴】

性別では、男性の「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が女性と比較して高くなっている。

年代別では、30代以上の「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	62	-	26	-	35	-	1	-
どこ(だれ)に相談してよいか分からなかったから	5	8.1%	0	0.0%	5	14.3%	0	0.0%
相談する人が近くにいなかったから	5	8.1%	0	0.0%	5	14.3%	0	0.0%
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	12	19.4%	2	7.7%	9	25.7%	1	100.0%
相談してもむだだと思ったから	12	19.4%	2	7.7%	10	28.6%	0	0.0%
相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	2	3.2%	0	0.0%	2	5.7%	0	0.0%
相手に「誰にも言うな」とおどされたから	1	1.6%	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%
子どもに危害が及ぶと思ったから	1	1.6%	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	13	21.0%	2	7.7%	11	31.4%	0	0.0%
自分にも悪いところがあると思ったから	18	29.0%	8	30.8%	10	28.6%	0	0.0%
個人的なことだから、人に相談せずに自分で解決しようと思ったから	17	27.4%	7	26.9%	10	28.6%	0	0.0%
相談先の担当者の言動により不快な思いをすと思ったから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
世間体が悪いから	5	8.1%	2	7.7%	3	8.6%	0	0.0%
相談した相手を巻き込みたくなかったから	4	6.5%	1	3.8%	3	8.6%	0	0.0%
相談したいと思っている相手に知られると、これまでの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから	2	3.2%	0	0.0%	2	5.7%	0	0.0%
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	2	3.2%	1	3.8%	1	2.9%	0	0.0%
そのことについて思い出さなくなかったから	6	9.7%	1	3.8%	5	14.3%	0	0.0%
相談するほどのことではないと思ったから	33	53.2%	21	80.8%	12	34.3%	0	0.0%
家族だからがまんするよう言われるのではないかと思ったから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
相談することによって自分の望まない結果になるのではと思ったから(離婚・別居など)	1	1.6%	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%
その他	6	9.7%	1	3.8%	5	14.3%	0	0.0%
無回答	1	1.6%	1	3.8%	0	0.0%	0	0.0%

【一般】

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	62	-	0	-	1	-	17	-	23	-	10	-	10	-	1	-
どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから	5	8.1%	0	-	0	0.0%	3	17.6%	2	8.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
相談する人が近くにいなかったから	5	8.1%	0	-	0	0.0%	3	17.6%	1	4.3%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	12	19.4%	0	-	1	100.0%	3	17.6%	4	17.4%	2	20.0%	1	10.0%	1	100.0%
相談してもむだだと思ったから	12	19.4%	0	-	1	100.0%	4	23.5%	5	21.7%	2	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい罵詈雑言を受けると思ったから	2	3.2%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	2	8.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
相手に「誰にも言うな」とおどされたから	1	1.6%	0	-	0	0.0%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもに危害が及ぶと思ったから	1	1.6%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	13	21.0%	0	-	1	100.0%	5	29.4%	5	21.7%	1	10.0%	1	10.0%	0	0.0%
自分にも悪いところがあると思ったから	18	29.0%	0	-	1	100.0%	4	23.5%	7	30.4%	3	30.0%	3	30.0%	0	0.0%
個人的なことだから、人に相談せずに自分で解決しようと思ったから	17	27.4%	0	-	0	0.0%	6	35.3%	5	21.7%	4	40.0%	2	20.0%	0	0.0%
相談先の担当者の言動により不快な思いをすと思ったから	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
世間体が悪いから	5	8.1%	0	-	0	0.0%	1	5.9%	0	0.0%	2	20.0%	2	20.0%	0	0.0%
相談した相手を巻き込みたくなかったから	4	6.5%	0	-	0	0.0%	2	11.8%	1	4.3%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
相談したいと思っている相手に知られると、これまでの付き合い（仕事や学校など）の人間関係ができなくなると思ったから	2	3.2%	0	-	0	0.0%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	2	3.2%	0	-	0	0.0%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%
そのことについて思い出したくなかったから	6	9.7%	0	-	1	100.0%	2	11.8%	2	8.7%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
相談するほどのことではないと思ったから	33	53.2%	0	-	0	0.0%	9	52.9%	13	56.5%	5	50.0%	6	60.0%	0	0.0%
家族だからがまんするよう言われるのではないかと思ったから	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
相談することによって自分の望まない結果になるのではと思ったから（離婚・別居など）	1	1.6%	0	-	0	0.0%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	6	9.7%	0	-	0	0.0%	3	17.6%	2	8.7%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	1.6%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

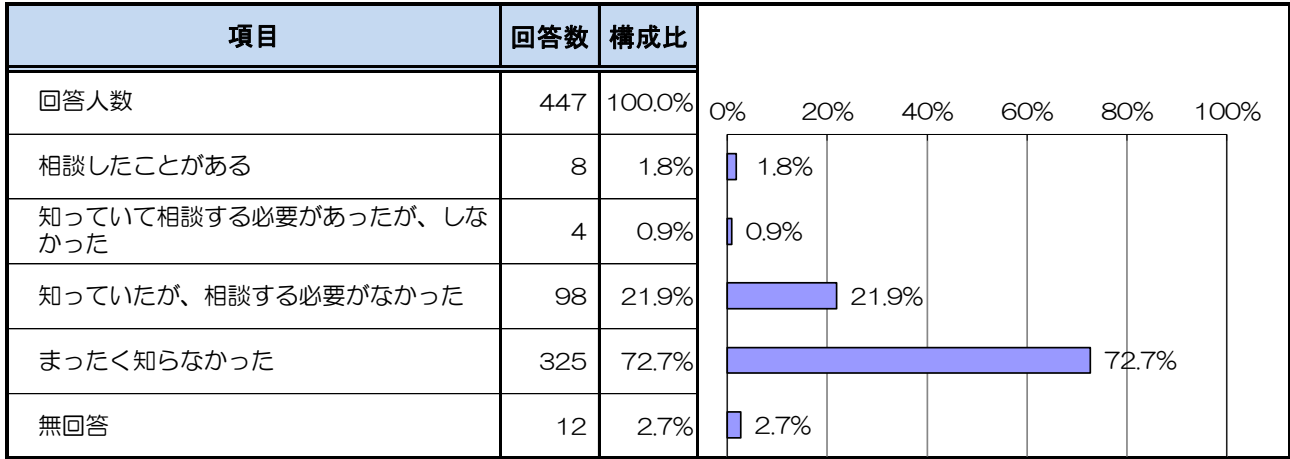


問 15 配偶者等からの暴力（DV）についての具体的な相談先や鹿児島市などが発行しているDVに関するリーフレット等について、知っていますか。（1つに○）

（1）DVについての具体的な相談先について

ア サンエールかごしま相談室

「まったく知らなかった」が72.7%と最も高く、次いで、「知っていたが、相談する必要がなかった」の21.9%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「まったく知らなかった」の割合が女性と比較して高くなっている。

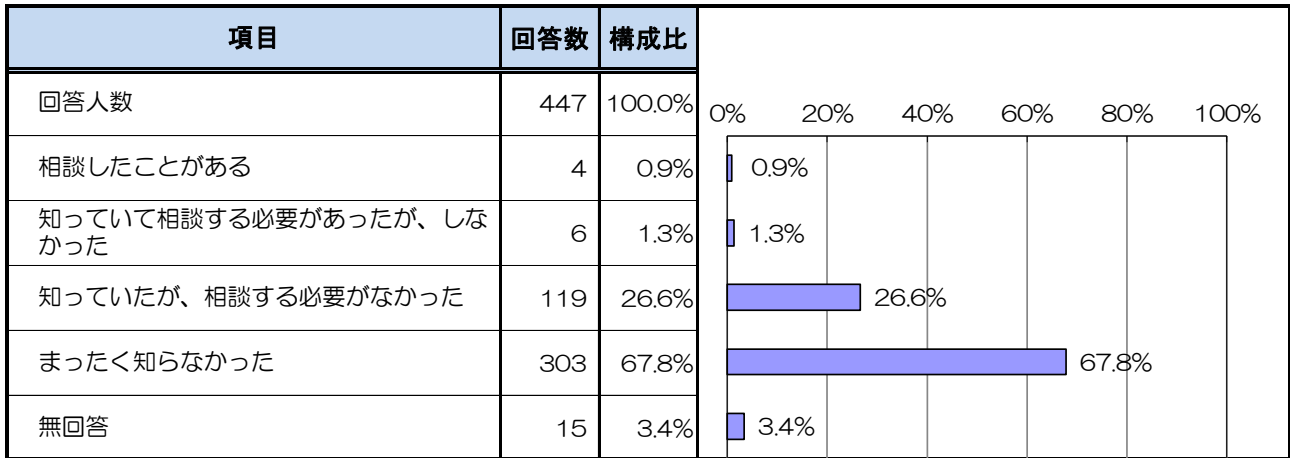
年代別では、40代の「まったく知らなかった」の割合が他の年代と比較して低くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
相談したことがある	8	1.8%	0	0.0%	8	3.0%	0	0.0%
知っていて相談する必要があったが、しなかった	4	0.9%	2	1.1%	2	0.7%	0	0.0%
知っていたが、相談する必要がなかった	98	21.9%	33	18.6%	65	24.3%	0	0.0%
まったく知らなかった	325	72.7%	140	79.1%	183	68.5%	2	66.7%
無回答	12	2.7%	2	1.1%	9	3.4%	1	33.3%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
相談したことがある	8	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	6	5.4%	2	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
知っていて相談する必要があったが、しなかった	4	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.8%	1	0.8%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
知っていたが、相談する必要がなかった	98	21.9%	4	22.2%	6	19.4%	19	17.0%	35	26.7%	15	20.5%	19	24.7%	0	0.0%
まったく知らなかった	325	72.7%	14	77.8%	24	77.4%	84	75.0%	89	67.9%	56	76.7%	54	70.1%	4	80.0%
無回答	12	2.7%	0	0.0%	1	3.2%	1	0.9%	4	3.1%	1	1.4%	4	5.2%	1	20.0%

イ 鹿児島市役所内のこどもと女性の相談室

「まったく知らなかった」が 67.8%と最も高く、次いで、「知っていたが、相談する必要がなかった」の 26.6%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「まったく知らなかった」の割合が女性と比較して高くなっている。

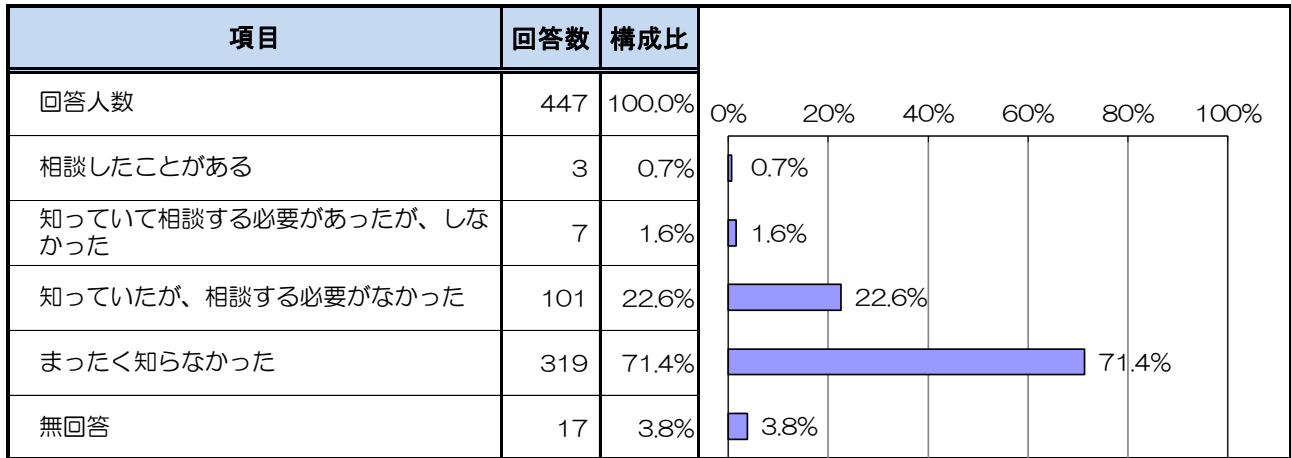
年代別では、10代・20代の「まったく知らなかった」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
相談したことがある	4	0.9%	0	0.0%	4	1.5%	0	0.0%
知っていて相談する必要があったが、しなかった	6	1.3%	2	1.1%	4	1.5%	0	0.0%
知っていたが、相談する必要がなかった	119	26.6%	38	21.5%	80	30.0%	1	33.3%
まったく知らなかった	303	67.8%	135	76.3%	167	62.5%	1	33.3%
無回答	15	3.4%	2	1.1%	12	4.5%	1	33.3%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
相談したことがある	4	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%
知っていて相談する必要があったが、しなかった	6	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.7%	2	1.5%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
知っていたが、相談する必要がなかった	119	26.6%	2	11.1%	4	12.9%	28	25.0%	38	29.0%	21	28.8%	24	31.2%	2	40.0%
まったく知らなかった	303	67.8%	16	88.9%	26	83.9%	77	68.8%	86	65.6%	50	68.5%	46	59.7%	2	40.0%
無回答	15	3.4%	0	0.0%	1	3.2%	1	0.9%	5	3.8%	1	1.4%	6	7.8%	1	20.0%

ウ 鹿児島県女性相談センター

「まったく知らなかった」が71.4%と最も高く、次いで、「知っていたが、相談する必要がなかった」の22.6%の順となっている。



【属性別特徴】

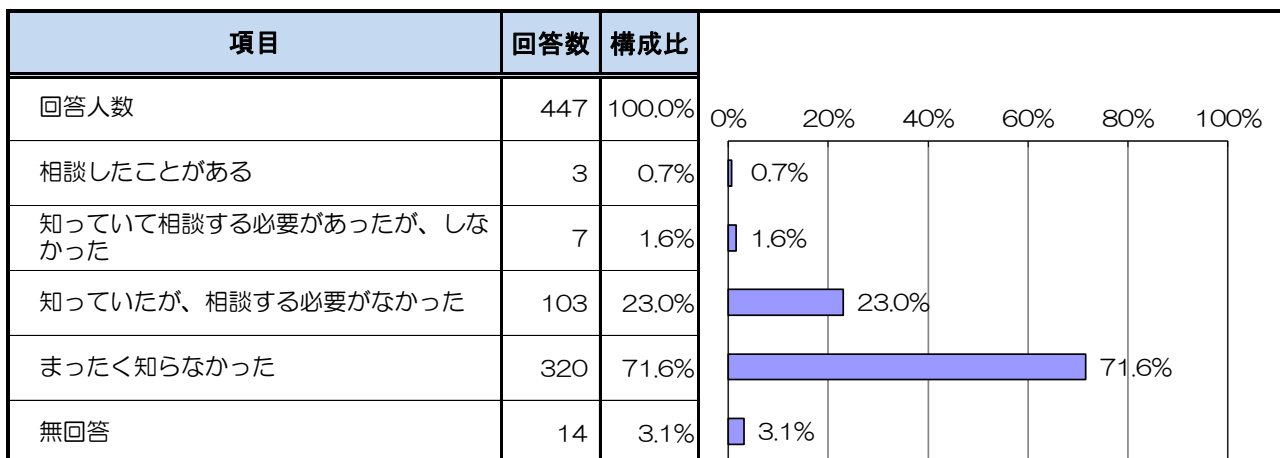
性別では、男性の「まったく知らなかった」の割合が女性と比較して高くなっている。  
 年代別では、20代の「まったく知らなかった」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
相談したことがある	3	0.7%	0	0.0%	3	1.1%	0	0.0%
知っていて相談する必要があったが、しなかった	7	1.6%	2	1.1%	5	1.9%	0	0.0%
知っていたが、相談する必要がなかった	101	22.6%	32	18.1%	69	25.8%	0	0.0%
まったく知らなかった	319	71.4%	141	79.7%	176	65.9%	2	66.7%
無回答	17	3.8%	2	1.1%	14	5.2%	1	33.3%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
相談したことがある	3	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
知っていて相談する必要があったが、しなかった	7	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	4	3.6%	2	1.5%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
知っていたが、相談する必要がなかった	101	22.6%	3	16.7%	4	12.9%	22	19.6%	28	21.4%	22	30.1%	21	27.3%	1	20.0%
まったく知らなかった	319	71.4%	14	77.8%	26	83.9%	82	73.2%	96	73.3%	48	65.8%	50	64.9%	3	60.0%
無回答	17	3.8%	1	5.6%	1	3.2%	1	0.9%	5	3.8%	2	2.7%	6	7.8%	1	20.0%

エ かごしま県民交流センター内の鹿児島県男女共同参画センター

「まったく知らなかった」が71.6%と最も高く、次いで、「知っていたが、相談する必要がなかった」の23.0%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「まったく知らなかった」の割合が女性と比較して高くなっている。

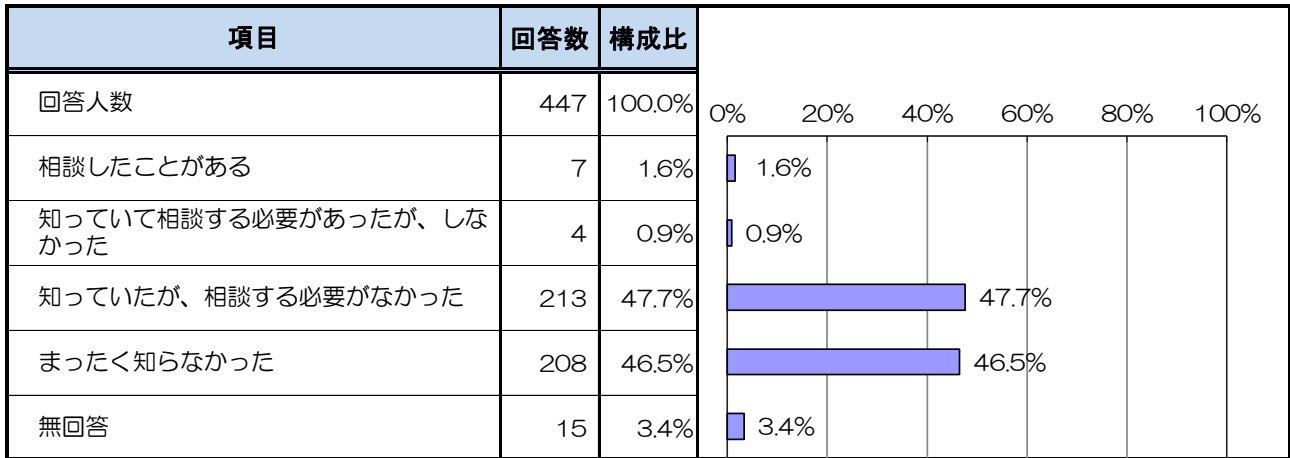
年代別では、10代・20代の「まったく知らなかった」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
相談したことがある	3	0.7%	0	0.0%	3	1.1%	0	0.0%
知っていて相談する必要があったが、しなかった	7	1.6%	2	1.1%	5	1.9%	0	0.0%
知っていたが、相談する必要がなかった	103	23.0%	39	22.0%	64	24.0%	0	0.0%
まったく知らなかった	320	71.6%	134	75.7%	184	68.9%	2	66.7%
無回答	14	3.1%	2	1.1%	11	4.1%	1	33.3%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
相談したことがある	3	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
知っていて相談する必要があったが、しなかった	7	1.6%	0	0.0%	1	3.2%	3	2.7%	2	1.5%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
知っていたが、相談する必要がなかった	103	23.0%	4	22.2%	5	16.1%	23	20.5%	32	24.4%	19	26.0%	18	23.4%	2	40.0%
まったく知らなかった	320	71.6%	14	77.8%	24	77.4%	82	73.2%	92	70.2%	52	71.2%	54	70.1%	2	40.0%
無回答	14	3.1%	0	0.0%	1	3.2%	1	0.9%	5	3.8%	1	1.4%	5	6.5%	1	20.0%

オ 警察署の生活安全課

「知っていたが、相談する必要がなかった」が47.7%と最も高く、次いで、「まったく知らなかった」の46.5%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「まったく知らなかった」の割合が女性と比較して高くなっている。

年代別では、10代・20代の「まったく知らなかった」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
相談したことがある	7	1.6%	0	0.0%	7	2.6%	0	0.0%
知っていて相談する必要があったが、しなかった	4	0.9%	2	1.1%	2	0.7%	0	0.0%
知っていたが、相談する必要がなかった	213	47.7%	83	46.9%	129	48.3%	1	33.3%
まったく知らなかった	208	46.5%	90	50.8%	117	43.8%	1	33.3%
無回答	15	3.4%	2	1.1%	12	4.5%	1	33.3%

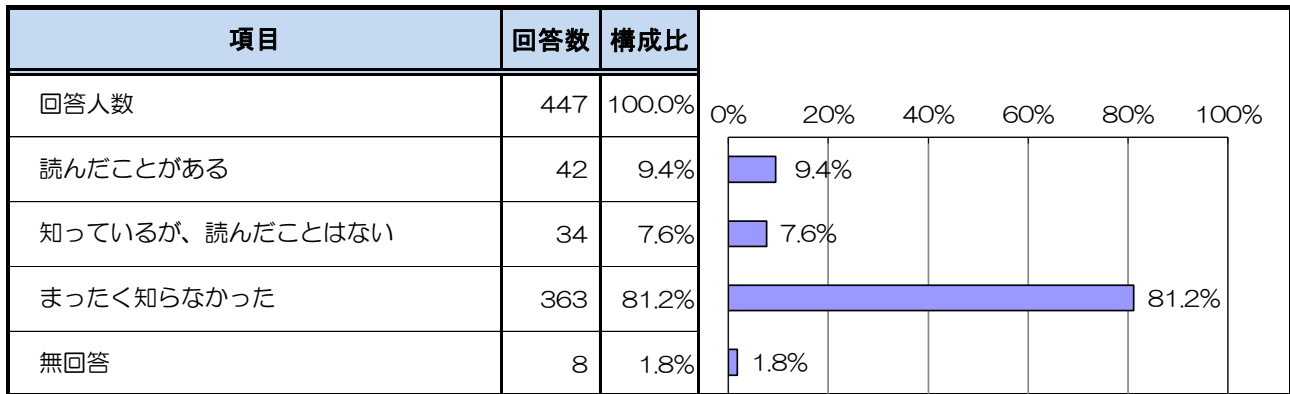
項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
相談したことがある	7	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	5	4.5%	1	0.8%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
知っていて相談する必要があったが、しなかった	4	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	2	1.5%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
知っていたが、相談する必要がなかった	213	47.7%	7	38.9%	11	35.5%	46	41.1%	65	49.6%	40	54.8%	41	53.2%	3	60.0%
まったく知らなかった	208	46.5%	11	61.1%	19	61.3%	59	52.7%	58	44.3%	29	39.7%	31	40.3%	1	20.0%
無回答	15	3.4%	0	0.0%	1	3.2%	1	0.9%	5	3.8%	2	2.7%	5	6.5%	1	20.0%

【一般】

(2) 病院や金融機関、公共施設等に設置している鹿児島市などが発行しているDVの相談先を紹介するリーフレット等について

ア カードサイズDVリーフレット（鹿児島市）

「まったく知らなかった」が81.2%と最も高く、次いで、「読んだことがある」の9.4%、「知っているが、読んだことはない」の7.6%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「まったく知らなかった」の割合が女性と比較して高くなっている。

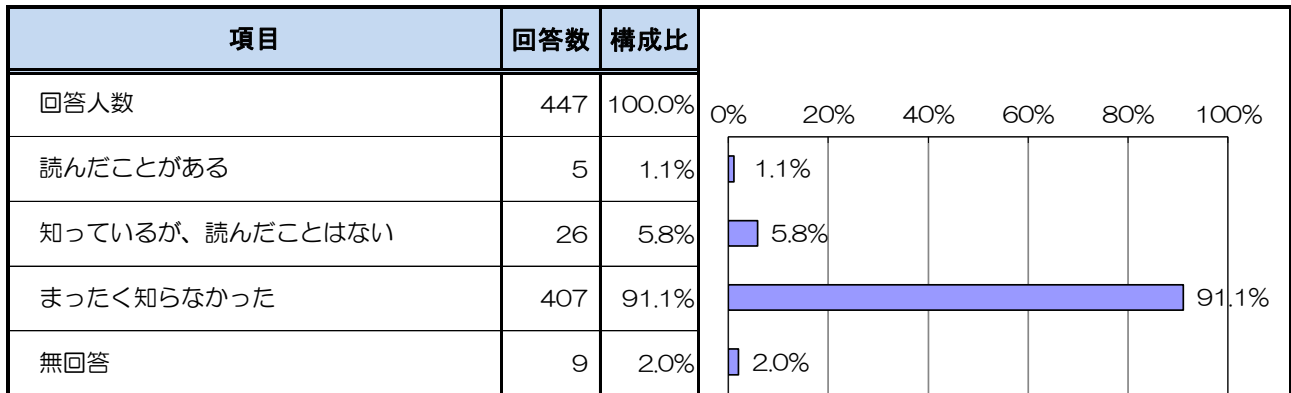
年代別では、10代・60代以上の「まったく知らなかった」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
読んだことがある	42	9.4%	10	5.6%	32	12.0%	0	0.0%
知っているが、読んだことはない	34	7.6%	14	7.9%	20	7.5%	0	0.0%
まったく知らなかった	363	81.2%	151	85.3%	209	78.3%	3	100.0%
無回答	8	1.8%	2	1.1%	6	2.2%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
読んだことがある	42	9.4%	1	5.6%	3	9.7%	14	12.5%	15	11.5%	6	8.2%	3	3.9%	0	0.0%
知っているが、読んだことはない	34	7.6%	1	5.6%	2	6.5%	8	7.1%	11	8.4%	8	11.0%	4	5.2%	0	0.0%
まったく知らなかった	363	81.2%	16	88.9%	25	80.6%	89	79.5%	104	79.4%	58	79.5%	66	85.7%	5	100.0%
無回答	8	1.8%	0	0.0%	1	3.2%	1	0.9%	1	0.8%	1	1.4%	4	5.2%	0	0.0%

イ 男性相談カード（鹿児島市）

「まったく知らなかった」が91.1%と最も高く、次いで、「知っているが、読んだことはない」の5.8%の順となっている。



【属性別特徴】

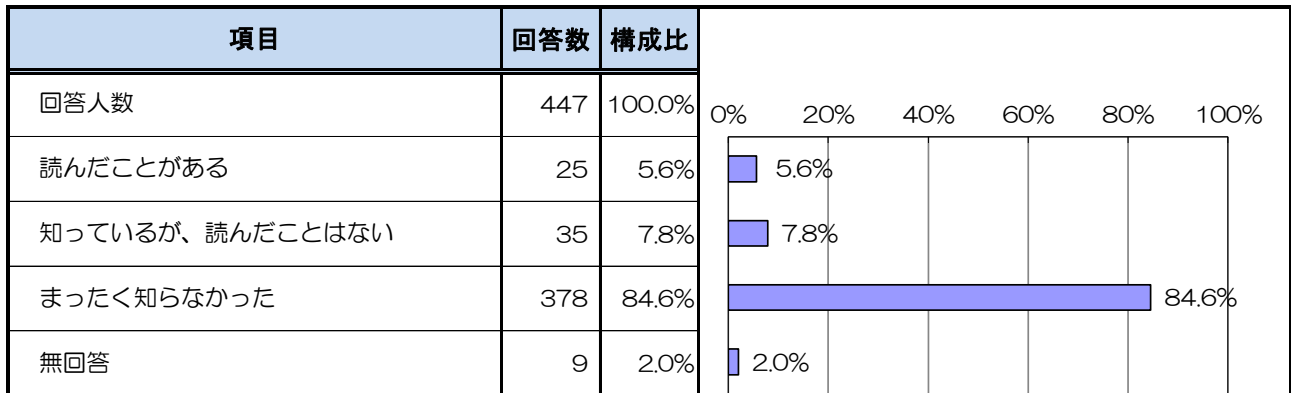
性別・年代別では、大きな差異は見られない。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
読んだことがある	5	1.1%	1	0.6%	4	1.5%	0	0.0%
知っているが、読んだことはない	26	5.8%	12	6.8%	14	5.2%	0	0.0%
まったく知らなかった	407	91.1%	162	91.5%	242	90.6%	3	100.0%
無回答	9	2.0%	2	1.1%	7	2.6%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
読んだことがある	5	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.7%	1	0.8%	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%
知っているが、読んだことはない	26	5.8%	2	11.1%	3	9.7%	6	5.4%	7	5.3%	4	5.5%	4	5.2%	0	0.0%
まったく知らなかった	407	91.1%	16	88.9%	27	87.1%	102	91.1%	122	93.1%	68	93.2%	67	87.0%	5	100.0%
無回答	9	2.0%	0	0.0%	1	3.2%	1	0.9%	1	0.8%	1	1.4%	5	6.5%	0	0.0%

ウ DVリーフレット（鹿児島県）

「まったく知らなかった」が84.6%と最も高く、次いで、「知っているが、読んだことはない」の7.8%、「読んだことがある」の5.6%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「まったく知らなかった」の割合が女性と比較して高くなっている。  
年代別では、大きな差異は見られない。

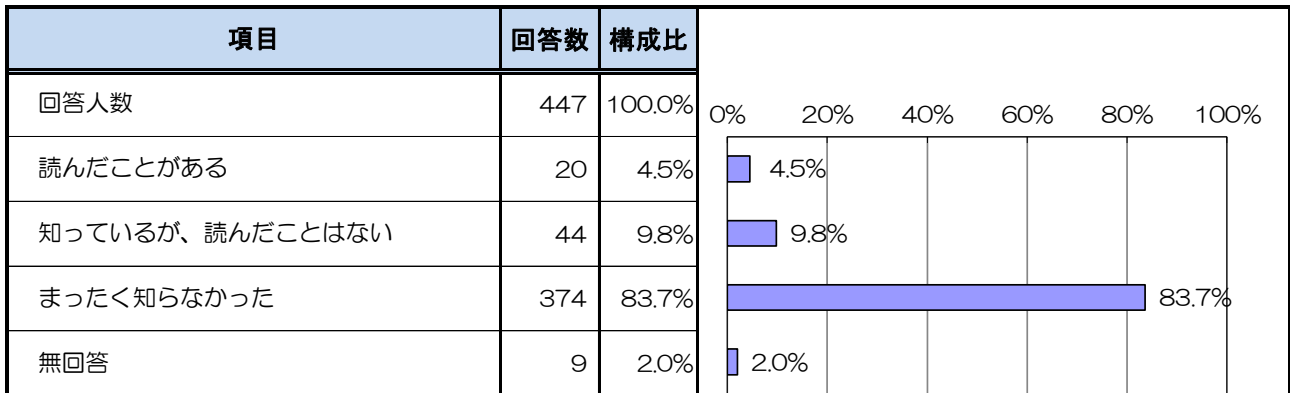
項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
読んだことがある	25	5.6%	6	3.4%	19	7.1%	0	0.0%
知っているが、読んだことはない	35	7.8%	14	7.9%	21	7.9%	0	0.0%
まったく知らなかった	378	84.6%	155	87.6%	220	82.4%	3	100.0%
無回答	9	2.0%	2	1.1%	7	2.6%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
読んだことがある	25	5.6%	2	11.1%	1	3.2%	8	7.1%	10	7.6%	2	2.7%	2	2.6%	0	0.0%
知っているが、読んだことはない	35	7.8%	1	5.6%	3	9.7%	9	8.0%	9	6.9%	7	9.6%	6	7.8%	0	0.0%
まったく知らなかった	378	84.6%	15	83.3%	26	83.9%	94	83.9%	111	84.7%	63	86.3%	64	83.1%	5	100.0%
無回答	9	2.0%	0	0.0%	1	3.2%	1	0.9%	1	0.8%	1	1.4%	5	6.5%	0	0.0%



エ デートDV啓発誌（鹿児島県）

「まったく知らなかった」が83.7%と最も高く、次いで、「知っているが、読んだことはない」の9.8%、「読んだことがある」の4.5%の順となっている。



【属性別特徴】

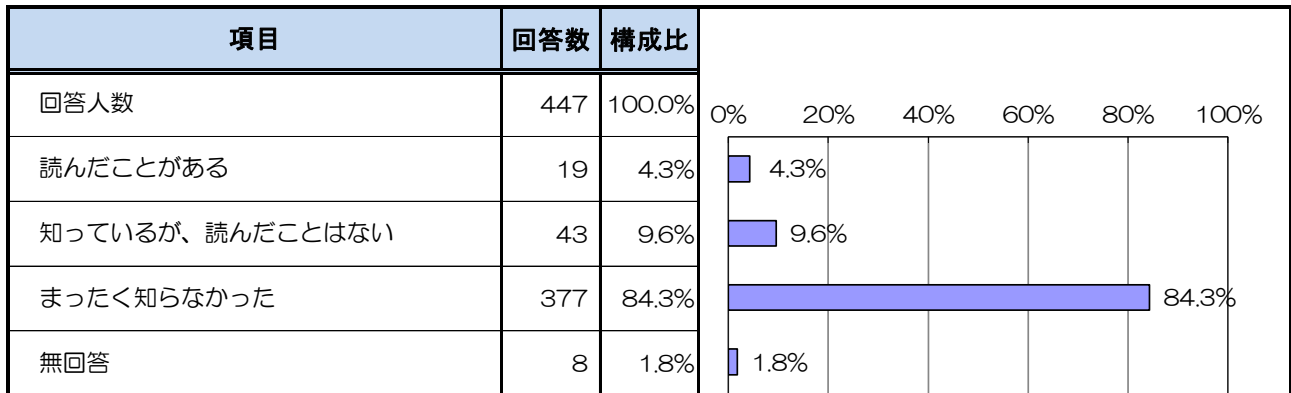
性別では、男性の「まったく知らなかった」の割合が女性と比較して高くなっている。  
年代別では、大きな差異は見られない。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
読んだことがある	20	4.5%	5	2.8%	15	5.6%	0	0.0%
知っているが、読んだことはない	44	9.8%	15	8.5%	29	10.9%	0	0.0%
まったく知らなかった	374	83.7%	155	87.6%	216	80.9%	3	100.0%
無回答	9	2.0%	2	1.1%	7	2.6%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
読んだことがある	20	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	6	5.4%	9	6.9%	3	4.1%	2	2.6%	0	0.0%
知っているが、読んだことはない	44	9.8%	3	16.7%	4	12.9%	12	10.7%	13	9.9%	6	8.2%	5	6.5%	1	20.0%
まったく知らなかった	374	83.7%	15	83.3%	26	83.9%	93	83.0%	108	82.4%	63	86.3%	65	84.4%	4	80.0%
無回答	9	2.0%	0	0.0%	1	3.2%	1	0.9%	1	0.8%	1	1.4%	5	6.5%	0	0.0%

オ DVリーフレット（鹿児島県女性相談センター）

「まったく知らなかった」が84.3%と最も高く、次いで、「知っているが、読んだことはない」の9.6%、「読んだことがある」の4.3%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「まったく知らなかった」の割合が女性と比較して高くなっている。  
年代別では、50代の「まったく知らなかった」の割合が他の年代と比較して低くなっている。

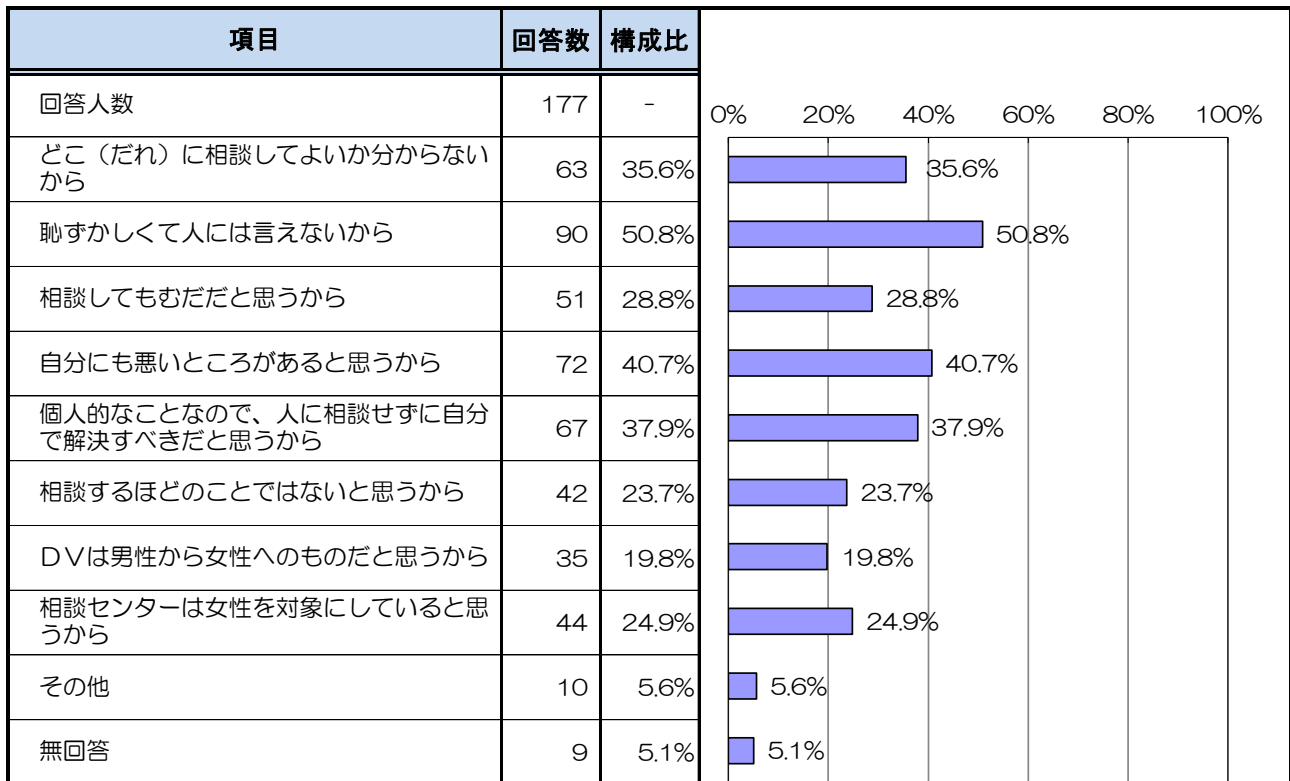
項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%
読んだことがある	19	4.3%	2	1.1%	17	6.4%	0	0.0%
知っているが、読んだことはない	43	9.6%	15	8.5%	28	10.5%	0	0.0%
まったく知らなかった	377	84.3%	158	89.3%	216	80.9%	3	100.0%
無回答	8	1.8%	2	1.1%	6	2.2%	0	0.0%

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	18	100.0%	31	100.0%	112	100.0%	131	100.0%	73	100.0%	77	100.0%	5	100.0%
読んだことがある	19	4.3%	0	0.0%	1	3.2%	7	6.3%	6	4.6%	4	5.5%	1	1.3%	0	0.0%
知っているが、読んだことはない	43	9.6%	2	11.1%	2	6.5%	9	8.0%	11	8.4%	10	13.7%	8	10.4%	1	20.0%
まったく知らなかった	377	84.3%	16	88.9%	27	87.1%	95	84.8%	113	86.3%	58	79.5%	64	83.1%	4	80.0%
無回答	8	1.8%	0	0.0%	1	3.2%	1	0.9%	1	0.8%	1	1.4%	4	5.2%	0	0.0%

※男性のみお答えください。

問 16 多くの男性は、配偶者等からの暴力（DV）を受けても相談しない傾向にあるようです。その理由は何だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）

配偶者等からの暴力（DV）を男性が相談しない理由については、「恥ずかしくて人には言えないから」が50.8%と最も高く、次いで、「自分にも悪いところがあると思うから」の40.7%、「個人的なことなので、人に相談せずに自分で解決すべきだと思うから」の37.9%の順となっている。



## 【属性別特徴】

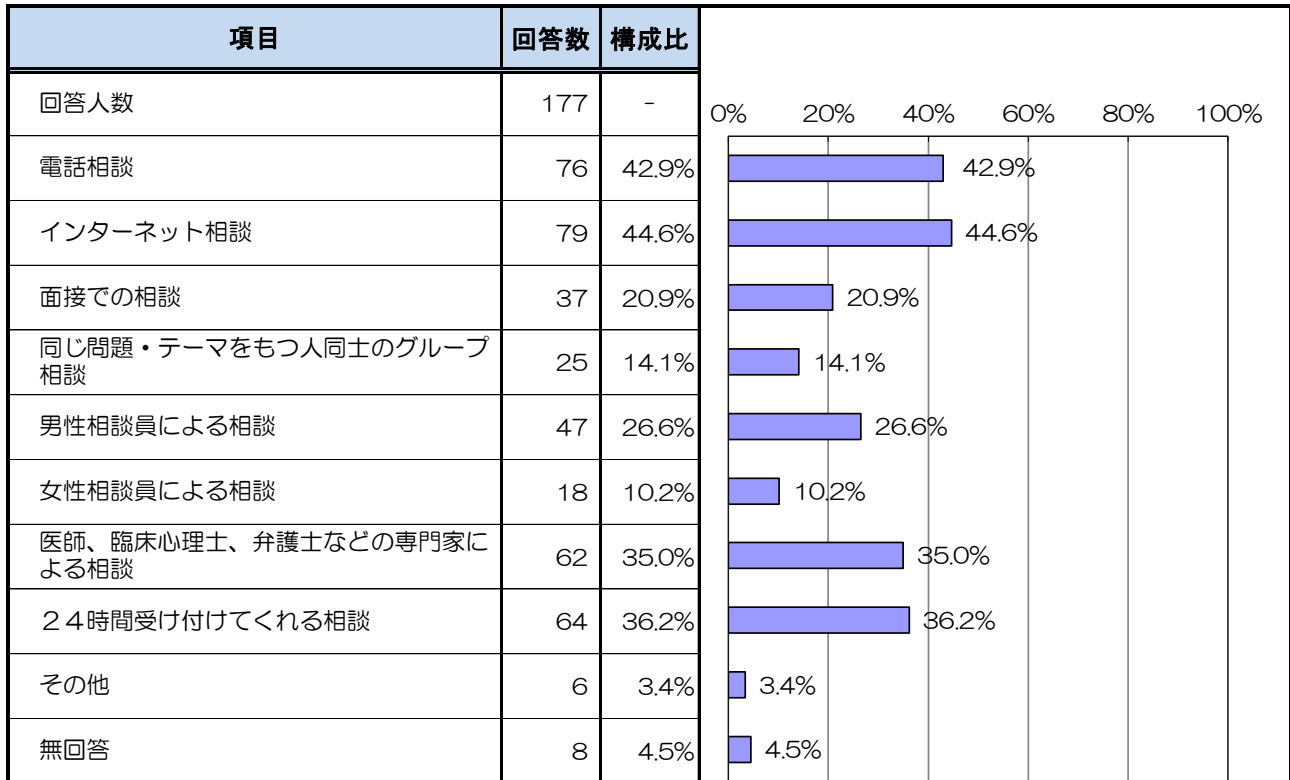
年代別では、10代では「どこ（だれ）に相談してよいか分からないから」「恥ずかしくて人には言えないから」、20代では「自分にも悪いところがあると思うから」「個人的なことなので、人に相談せずに自分で解決すべきだと思うから」、30代以上では「恥ずかしくて人には言えないから」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	177	-	7	-	13	-	47	-	55	-	24	-	31	-	0	-
どこ（だれ）に相談してよいか分からないから	63	35.6%	3	42.9%	5	38.5%	19	40.4%	21	38.2%	6	25.0%	9	29.0%	0	-
恥ずかしくて人には言えないから	90	50.8%	3	42.9%	5	38.5%	27	57.4%	28	50.9%	14	58.3%	13	41.9%	0	-
相談してもむだだと思うから	51	28.8%	2	28.6%	5	38.5%	10	21.3%	20	36.4%	6	25.0%	8	25.8%	0	-
自分にも悪いところがあると思うから	72	40.7%	2	28.6%	8	61.5%	20	42.6%	23	41.8%	11	45.8%	8	25.8%	0	-
個人的なことなので、人に相談せずに自分で解決すべきだと思うから	67	37.9%	2	28.6%	8	61.5%	15	31.9%	17	30.9%	13	54.2%	12	38.7%	0	-
相談するほどのことではないと思うから	42	23.7%	2	28.6%	3	23.1%	7	14.9%	14	25.5%	7	29.2%	9	29.0%	0	-
DVは男性から女性へのものだと思うから	35	19.8%	0	0.0%	4	30.8%	7	14.9%	11	20.0%	6	25.0%	7	22.6%	0	-
相談センターは女性を対象にしていると思うから	44	24.9%	1	14.3%	2	15.4%	12	25.5%	14	25.5%	6	25.0%	9	29.0%	0	-
その他	10	5.6%	1	14.3%	0	0.0%	4	8.5%	1	1.8%	1	4.2%	3	9.7%	0	-
無回答	9	5.1%	0	0.0%	1	7.7%	3	6.4%	1	1.8%	0	0.0%	4	12.9%	0	-

※男性のみお答えください。

問17 男性の方には、どのような相談先が利用しやすいと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

男性が相談しやすい手段や相談相手については、「インターネット相談」が44.6%と最も高く、次いで、「電話相談」の42.9%、「24時間受け付けてくれる相談」の36.2%の順となっている。



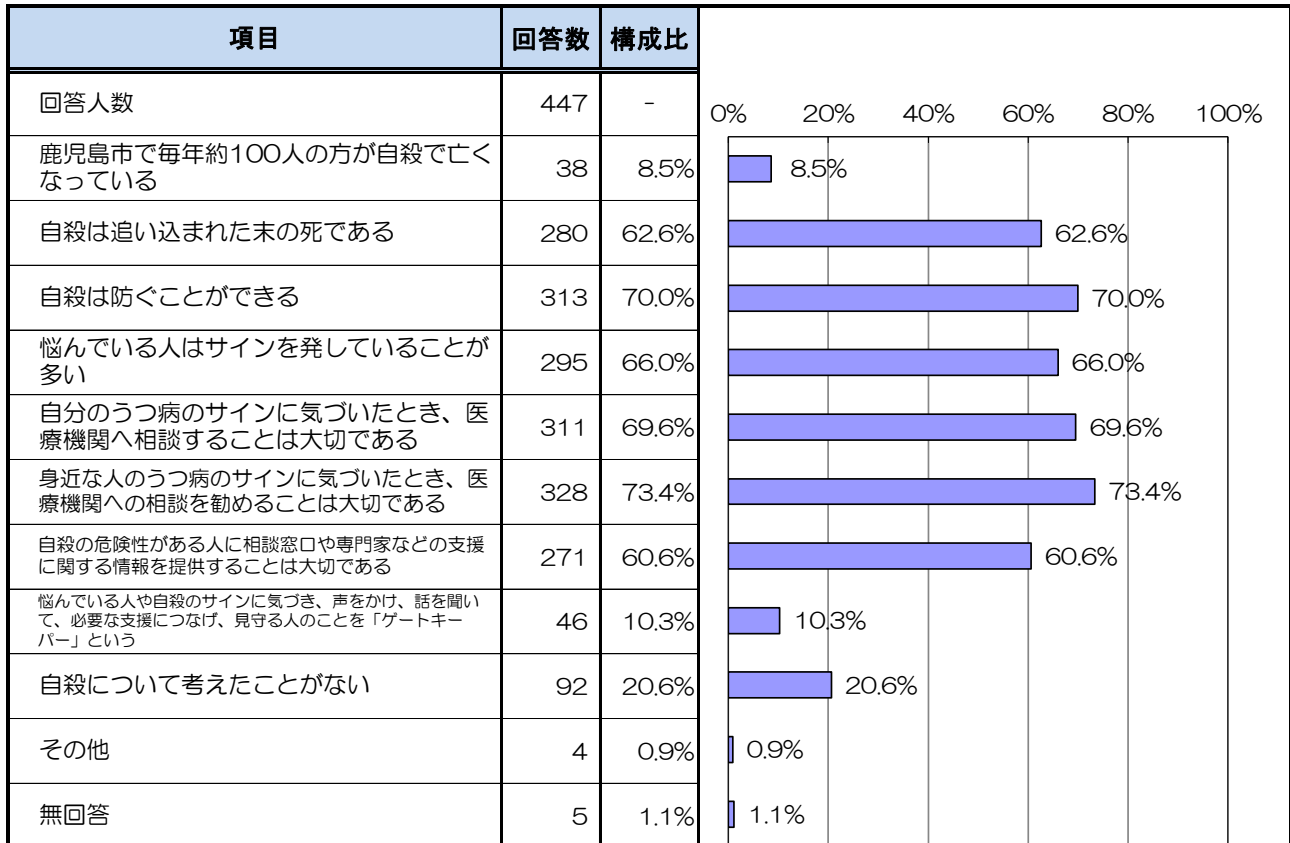
## 【属性別特徴】

年代別では、10代では「電話相談」「同じ問題・テーマをもつ人同士のグループ相談」「24時間受け付けてくれる相談」、20代では「24時間受け付けてくれる相談」、30代・40代では「インターネット相談」、50代以上では「電話相談」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

項目	回答人数		年代													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	177	-	7	-	13	-	47	-	55	-	24	-	31	-	0	-
電話相談	76	42.9%	3	42.9%	3	23.1%	15	31.9%	26	47.3%	12	50.0%	17	54.8%	0	-
インターネット相談	79	44.6%	1	14.3%	6	46.2%	21	44.7%	31	56.4%	7	29.2%	13	41.9%	0	-
面接での相談	37	20.9%	2	28.6%	2	15.4%	7	14.9%	14	25.5%	3	12.5%	9	29.0%	0	-
同じ問題・テーマをもつ人同士のグループ相談	25	14.1%	3	42.9%	2	15.4%	10	21.3%	6	10.9%	1	4.2%	3	9.7%	0	-
男性相談員による相談	47	26.6%	1	14.3%	4	30.8%	12	25.5%	15	27.3%	9	37.5%	6	19.4%	0	-
女性相談員による相談	18	10.2%	1	14.3%	1	7.7%	4	8.5%	10	18.2%	1	4.2%	1	3.2%	0	-
医師、臨床心理士、弁護士などの専門家による相談	62	35.0%	1	14.3%	4	30.8%	16	34.0%	19	34.5%	11	45.8%	11	35.5%	0	-
24時間受け付けてくれる相談	64	36.2%	3	42.9%	7	53.8%	17	36.2%	25	45.5%	6	25.0%	6	19.4%	0	-
その他	6	3.4%	0	0.0%	2	15.4%	2	4.3%	1	1.8%	0	0.0%	1	3.2%	0	-
無回答	8	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	4	8.5%	1	1.8%	0	0.0%	3	9.7%	0	-

## 問 18 自殺について知っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

自殺についての認識度については、「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である」が73.4%と最も高く、次いで、「自殺は防ぐことができる」の70.0%、「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」の69.6%の順となっている。



## 【属性別特徴】

性別では、女性の「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である」「自殺の危険性がある人に相談窓口や専門家などの支援に関する情報を提供することは大切である」の割合が男性と比較して高くなっている。

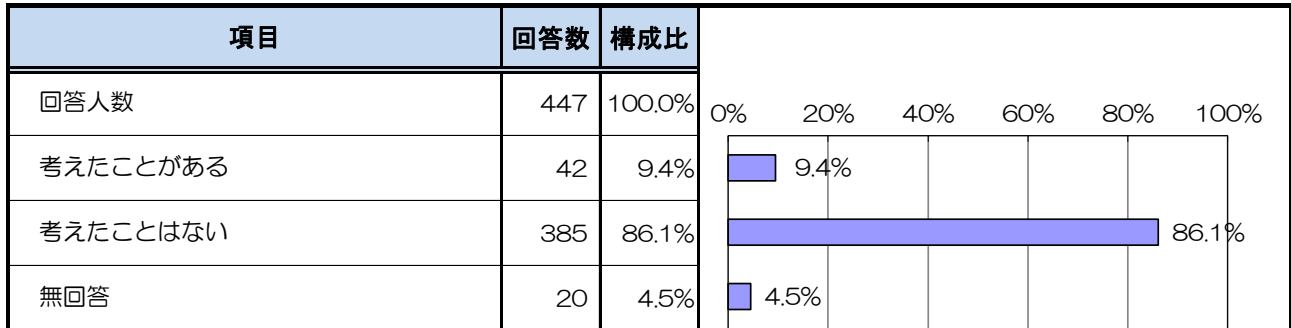
年齢別では、40歳以上の「自殺について考えたことがない」の割合が40歳未満と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		40歳未満		40歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	-	177	-	267	-	3	-	161	-	281	-	5	-
鹿児島市で毎年約100人の方が自殺で亡くなっている	38	8.5%	17	9.6%	21	7.9%	0	0.0%	15	9.3%	23	8.2%	0	0.0%
自殺は追い込まれた末の死である	280	62.6%	110	62.1%	169	63.3%	1	33.3%	99	61.5%	180	64.1%	1	20.0%
自殺は防ぐことができる	313	70.0%	120	67.8%	191	71.5%	2	66.7%	113	70.2%	197	70.1%	3	60.0%
悩んでいる人はサインを発していることが多い	295	66.0%	106	59.9%	186	69.7%	3	100.0%	111	68.9%	179	63.7%	5	100.0%
自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である	311	69.6%	107	60.5%	202	75.7%	2	66.7%	109	67.7%	199	70.8%	3	60.0%
身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である	328	73.4%	110	62.1%	217	81.3%	1	33.3%	113	70.2%	212	75.4%	3	60.0%
自殺の危険性がある人に相談窓口や専門家などの支援に関する情報を提供することは大切である	271	60.6%	81	45.8%	189	70.8%	1	33.3%	97	60.2%	171	60.9%	3	60.0%
悩んでいる人や自殺のサインに気づき、声をかけ、耳を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のことを「ゲートキーパー」という	46	10.3%	14	7.9%	32	12.0%	0	0.0%	22	13.7%	24	8.5%	0	0.0%
自殺について考えたことがない	92	20.6%	35	19.8%	56	21.0%	1	33.3%	23	14.3%	68	24.2%	1	20.0%
その他	4	0.9%	0	0.0%	4	1.5%	0	0.0%	3	1.9%	1	0.4%	0	0.0%
無回答	5	1.1%	3	1.7%	2	0.7%	0	0.0%	3	1.9%	2	0.7%	0	0.0%



問 19 あなたは、この1年間（平成27年7月から平成28年6月まで）で自殺したい(死にたい)と考えたことがありますか。（1つに○）

自殺したいと考えたことがあるかについては、「考えたことはない」が86.1%、「考えたことがある」が9.4%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女性の「考えたことがある」の割合が男性と比較して高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「考えたことがある」の割合が40歳以上と比較して高くなっている。

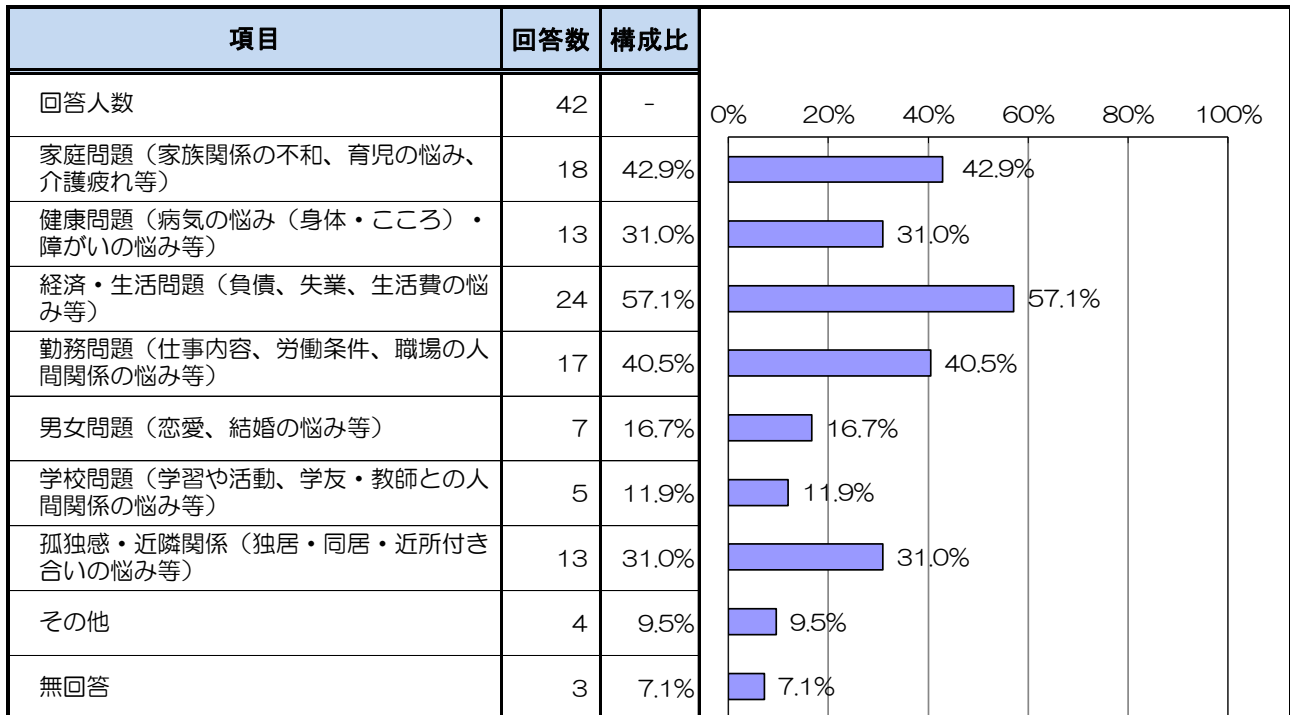
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		40歳未満		40歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%	161	100.0%	281	100.0%	5	100.0%
考えたことがある	42	9.4%	11	6.2%	30	11.2%	1	33.3%	22	13.7%	19	6.8%	1	20.0%
考えたことはない	385	86.1%	154	87.0%	229	85.8%	2	66.7%	128	79.5%	253	90.0%	4	80.0%
無回答	20	4.5%	12	6.8%	8	3.0%	0	0.0%	11	6.8%	9	3.2%	0	0.0%

※問 19 で『1. 考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

問 19-1 自殺を考えたときの原因は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけ、最もあてはまるものには◎を1つつけてください。

#### ア 自殺を考えたときの原因

「経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）」が 57.1%と最も高く、次いで、「家庭問題（家族関係の不和、育児の悩み、介護疲れ等）」の 42.9%、「勤務問題（仕事内容、労働条件、職場の人間関係の悩み等）」の 40.5%の順となっている。



## 【属性別特徴】

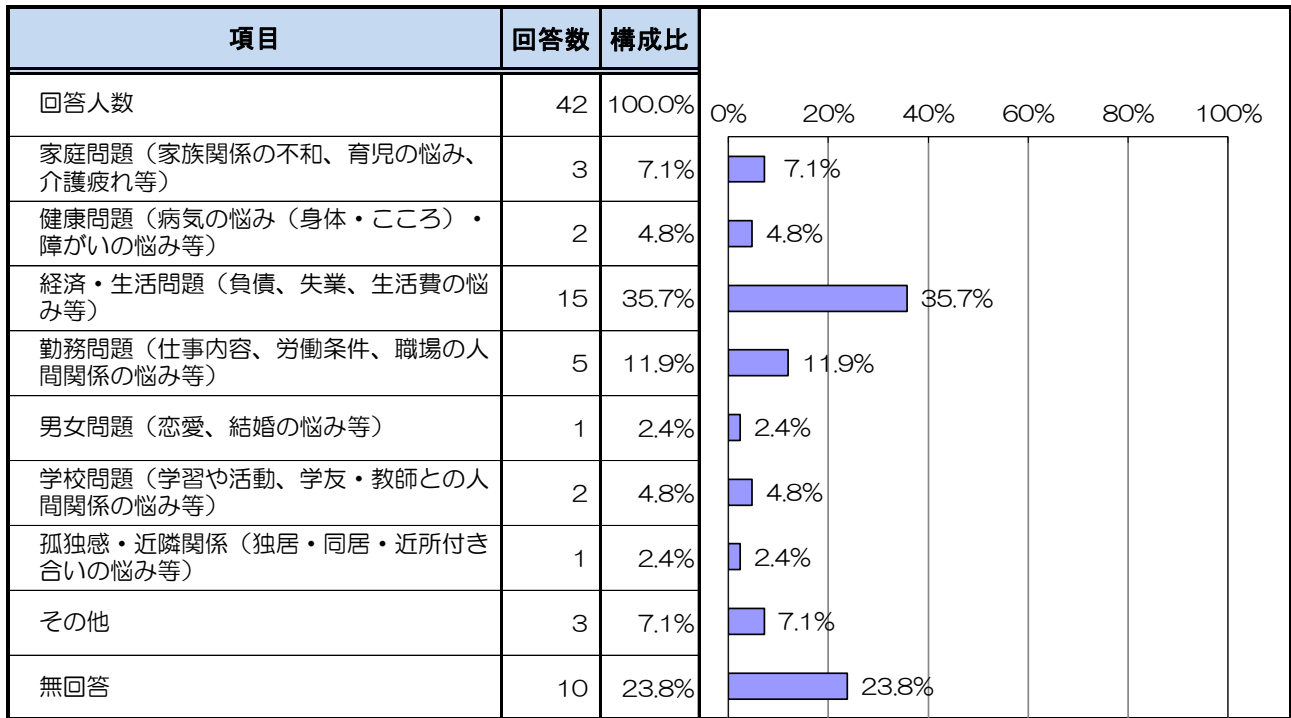
性別では、男性の「勤務問題（仕事内容、労働条件、職場の人間関係の悩み等）」の割合、女性の「家庭問題（家族関係の不和、育児の悩み、介護疲れ等）」「孤独感・近隣関係（独居・同居・近所付き合いの悩み等）」がそれぞれ異性と比較して高くなっている。

年齢別では、40歳以上の「家庭問題（家族関係の不和、育児の悩み、介護疲れ等）」「健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み）等）」「勤務問題（仕事内容、労働条件、職場の人間関係の悩み等）」の割合が40歳未満と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		40歳未満		40歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	42	-	11	-	30	-	1	-	22	-	19	-	1	-
家庭問題（家族関係の不和、育児の悩み、介護疲れ等）	18	42.9%	1	9.1%	16	53.3%	1	100.0%	8	36.4%	9	47.4%	1	100.0%
健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）	13	31.0%	4	36.4%	8	26.7%	1	100.0%	5	22.7%	7	36.8%	1	100.0%
経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）	24	57.1%	7	63.6%	17	56.7%	0	0.0%	12	54.5%	12	63.2%	0	0.0%
勤務問題（仕事内容、労働条件、職場の人間関係の悩み等）	17	40.5%	6	54.5%	11	36.7%	0	0.0%	8	36.4%	9	47.4%	0	0.0%
男女問題（恋愛、結婚の悩み等）	7	16.7%	0	0.0%	7	23.3%	0	0.0%	3	13.6%	4	21.1%	0	0.0%
学校問題（学習や活動、学友・教師との人間関係の悩み等）	5	11.9%	1	9.1%	4	13.3%	0	0.0%	3	13.6%	2	10.5%	0	0.0%
孤独感・近隣関係（独居・同居・近所付き合いの悩み等）	13	31.0%	2	18.2%	10	33.3%	1	100.0%	7	31.8%	5	26.3%	1	100.0%
その他	4	9.5%	2	18.2%	2	6.7%	0	0.0%	3	13.6%	1	5.3%	0	0.0%
無回答	3	7.1%	1	9.1%	2	6.7%	0	0.0%	3	13.6%	0	0.0%	0	0.0%

イ 自殺を考えたときの一番の原因

「経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）」が35.7%と最も高くなっている。



【属性別特徴】

性別では、男性では「勤務問題（仕事内容、労働条件、職場の人間関係の悩み等）」、女性では「経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

年齢別では、40歳未満・40歳以上の「経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）」の割合が最も高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		40歳未満		40歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	42	100.0%	11	100.0%	30	100.0%	1	100.0%	22	100.0%	19	100.0%	1	100.0%
家庭問題（家族関係の不和、育児の悩み、介護疲れ等）	3	7.1%	0	0.0%	3	10.0%	0	0.0%	2	9.1%	1	5.3%	0	0.0%
健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）	2	4.8%	1	9.1%	1	3.3%	0	0.0%	1	4.5%	1	5.3%	0	0.0%
経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）	15	35.7%	2	18.2%	12	40.0%	1	100.0%	7	31.8%	7	36.8%	1	100.0%
勤務問題（仕事内容、労働条件、職場の人間関係の悩み等）	5	11.9%	3	27.3%	2	6.7%	0	0.0%	3	13.6%	2	10.5%	0	0.0%
男女問題（恋愛、結婚の悩み等）	1	2.4%	0	0.0%	1	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	0	0.0%
学校問題（学習や活動、学友・教師との人間関係の悩み等）	2	4.8%	1	9.1%	1	3.3%	0	0.0%	2	9.1%	0	0.0%	0	0.0%
孤独感・近隣関係（独居・同居・近所付き合いの悩み等）	1	2.4%	0	0.0%	1	3.3%	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%
その他	3	7.1%	1	9.1%	2	6.7%	0	0.0%	2	9.1%	1	5.3%	0	0.0%
無回答	10	23.8%	3	27.3%	7	23.3%	0	0.0%	4	18.2%	6	31.6%	0	0.0%

※問 19 で『1. 考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

問 19-2 あなたは、自殺をしたいと思ったときにだれか（どこか）に相談しましたか。  
（あてはまるものすべてに○）

自殺したいと考えたときの相談先については、「相談していない」が 69.0%と最も高く、次いで、「友人・知人」の 23.8%、「配偶者以外の家族」の 9.5%の順となっている。

項目	回答数	構成比
回答人数	42	-
配偶者	2	4.8%
配偶者以外の家族	4	9.5%
友人・知人	10	23.8%
学校	0	0.0%
職場	0	0.0%
医療機関	3	7.1%
相談機関（市役所・いのちの電話など）	0	0.0%
ゲートキーパー	0	0.0%
相談していない	29	69.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%

## 【属性別特徴】

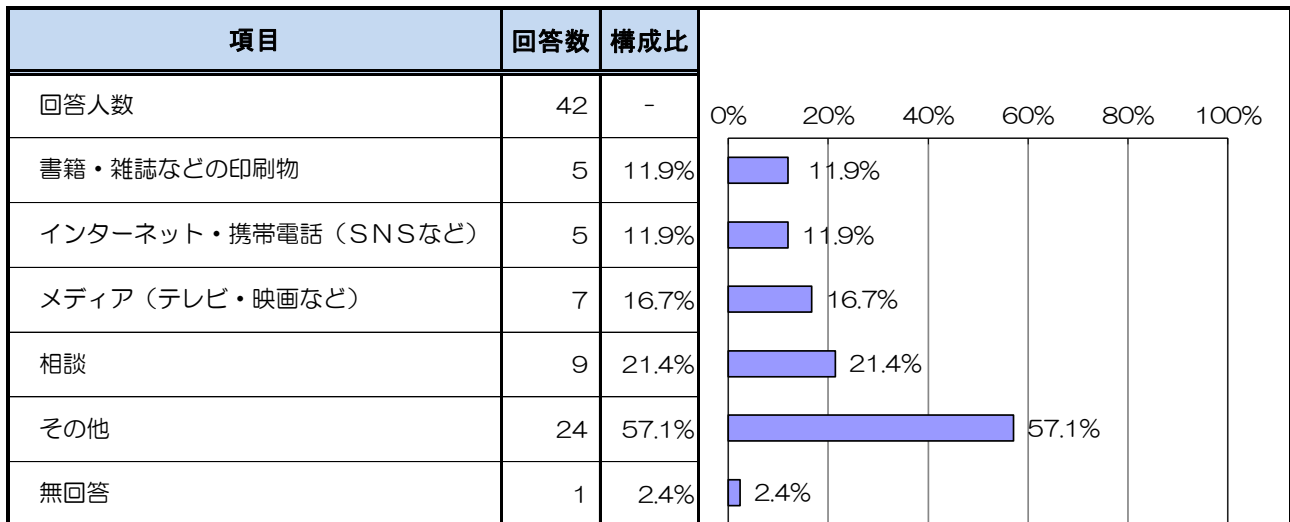
性別では、男性の「相談していない」の割合が女性と比較して高くなっている。  
年齢別では、大きな差異は見られない。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		40歳未満		40歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	42	-	11	-	30	-	1	-	22	-	19	-	1	-
配偶者	2	4.8%	1	9.1%	0	0.0%	1	100.0%	1	4.5%	0	0.0%	1	100.0%
配偶者以外の家族	4	9.5%	0	0.0%	3	10.0%	1	100.0%	2	9.1%	1	5.3%	1	100.0%
友人・知人	10	23.8%	2	18.2%	7	23.3%	1	100.0%	5	22.7%	4	21.1%	1	100.0%
学校	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
職場	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医療機関	3	7.1%	1	9.1%	1	3.3%	1	100.0%	1	4.5%	1	5.3%	1	100.0%
相談機関（市役所・いのちの電話など）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゲートキーパー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
相談していない	29	69.0%	9	81.8%	20	66.7%	0	0.0%	15	68.2%	14	73.7%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

※問 19 で『1. 考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

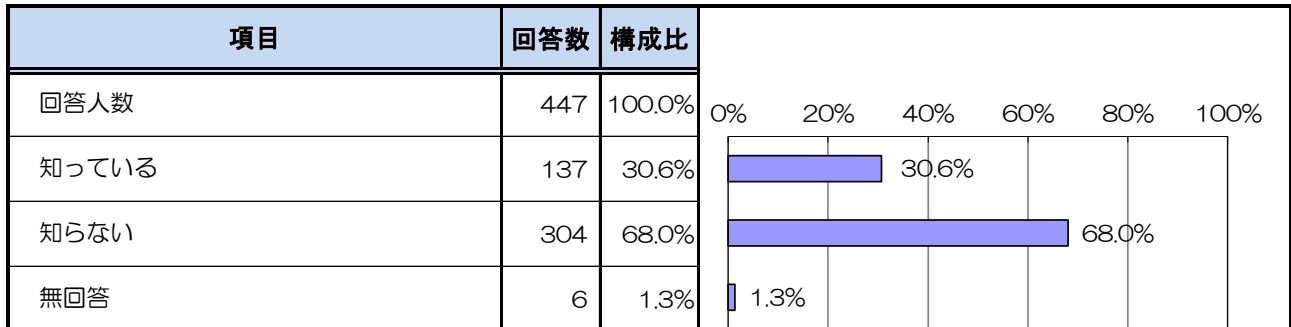
問 19-3 あなたが、自殺したいと思った時に踏みとどまることができた要因は何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

自殺を踏みとどまることができた要因については、「その他」を除くと、「相談」が 21.4%と最も高く、次いで、「メディア（テレビ・映画など）」の 16.7%、「書籍・雑誌などの印刷物」「インターネット・携帯電話（SNSなど）」の 11.9%の順となっている。



問 20 自殺に関して相談ができる場所を知っていますか。(1つに○)

自殺に関する相談先を知っているかについては、「知らない」が68.0%、「知っている」が30.6%となっている。



【属性別特徴】

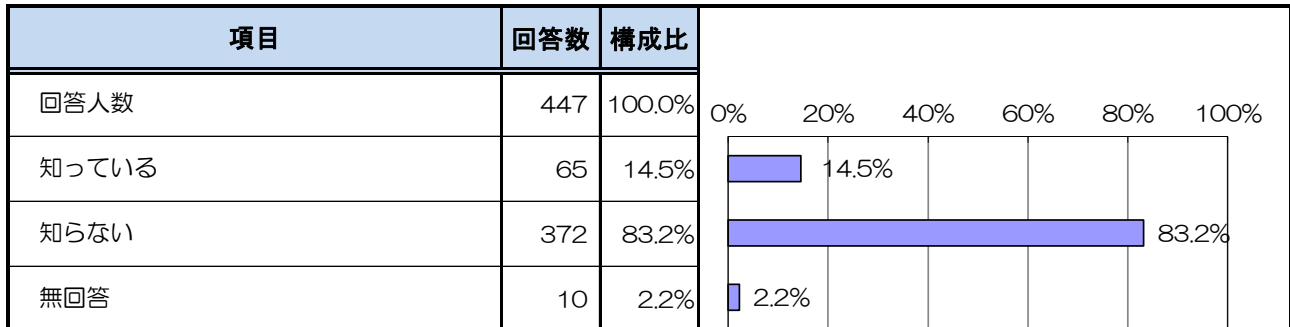
性別・年齢別では、大きな差異は見られない。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		40歳未満		40歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%	161	100.0%	281	100.0%	5	100.0%
知っている	137	30.6%	52	29.4%	84	31.5%	1	33.3%	48	29.8%	87	31.0%	2	40.0%
知らない	304	68.0%	123	69.5%	179	67.0%	2	66.7%	110	68.3%	191	68.0%	3	60.0%
無回答	6	1.3%	2	1.1%	4	1.5%	0	0.0%	3	1.9%	3	1.1%	0	0.0%



問 21 『鹿児島市無料相談窓口』カードを知っていますか。(1つに○)

『鹿児島市無料相談窓口』カードを知っているかについては、「知らない」が83.2%、「知っている」が14.5%となっている。



【属性別特徴】

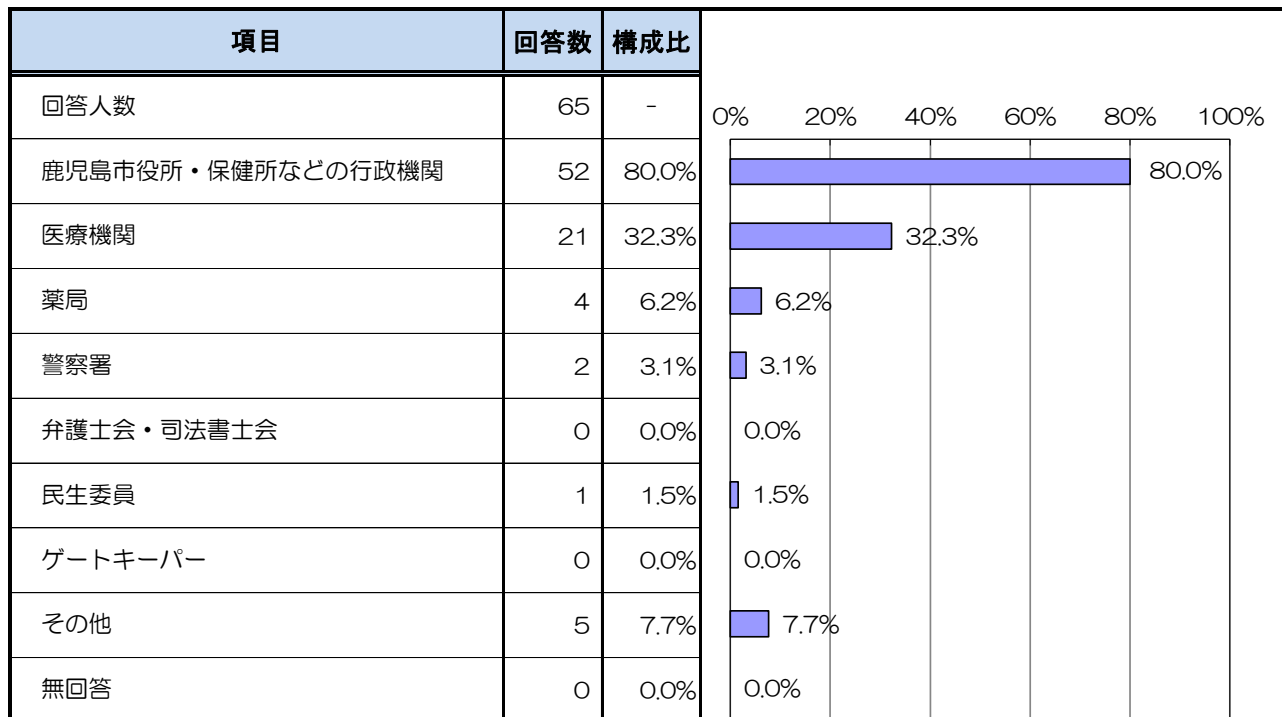
性別では、女性の「知っている」の割合が男性と比較して高くなっている。  
年齢別では、大きな差異は見られない。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		40歳未満		40歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	100.0%	177	100.0%	267	100.0%	3	100.0%	161	100.0%	281	100.0%	5	100.0%
知っている	65	14.5%	19	10.7%	46	17.2%	0	0.0%	22	13.7%	43	15.3%	0	0.0%
知らない	372	83.2%	154	87.0%	215	80.5%	3	100.0%	134	83.2%	233	82.9%	5	100.0%
無回答	10	2.2%	4	2.3%	6	2.2%	0	0.0%	5	3.1%	5	1.8%	0	0.0%

※問 21 で『1. 知っている』とご回答された方にお聞きします。

問 21-1 あなたは、『鹿児島市無料相談窓口』カードをどこで（だれから）知りましたか。  
（あてはまるものすべてに○）

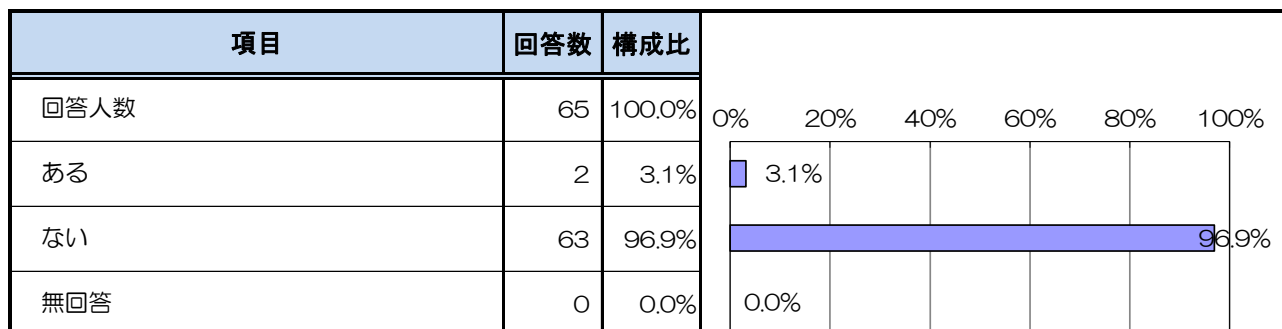
『鹿児島市無料相談窓口』カードをどこで（誰から）知ったかについては、「鹿児島市役所・保健所などの行政機関」が80.0%と最も高く、次いで、「医療機関」の32.3%の順となっている。



※問 21 で『1. 知っている』とご回答された方にお聞きします。

問 21-2 あなたは、『鹿児島市無料相談窓口』カードを使って相談したことがありますか。  
（1つに○）

『鹿児島市無料相談窓口』カードを使って相談したことがあるかについては、「ない」が96.9%、「ある」が3.1%となっている。



※問 21-2 で『1. ある』とご回答された方にお聞きします。

問 21-3 あなたは、『鹿児島市無料相談窓口』カードを使ってどこに相談しましたか。  
(あてはまるものすべてに○)

『鹿児島市無料相談窓口』カードを使ってどこに相談したかについては、「いのちの電話・保健所など（こころの健康）」「弁護士会・司法書士会など（借金や生活・法律のこと）」「サンエールかごしま相談室（配偶者やパートナーとの悩み）」「鹿児島労働基準監督署・市雇用相談窓口など（仕事や職場での悩み）」の回答が得られた。

項目	回答数	構成比	
回答人数	2	-	0% 20% 40% 60% 80% 100%
いのちの電話・保健所など（こころの健康）	1	50.0%	50.0%
弁護士会・司法書士会など（借金や生活・法律のこと）	1	50.0%	50.0%
サンエールかごしま相談室（配偶者やパートナーとの悩み）	1	50.0%	50.0%
鹿児島労働基準監督署・市雇用相談窓口など（仕事や職場での悩み）	1	50.0%	50.0%
市家庭児童相談（子どもの養育）	0	0.0%	0.0%
鹿児島シルバー110番（高齢者のこと）	0	0.0%	0.0%
市介護保険相談（介護保険相談）	0	0.0%	0.0%
NPO法人いじめ対策プロジェクト・市教育相談室など（ひきこもりや不登校）	0	0.0%	0.0%
その他	0	0.0%	0.0%
無回答	0	0.0%	0.0%

問 22 あなたが相談したいと思ったとき、どのようなところに相談の場があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

相談しやすい場所については、「市役所・保健所などの公的機関」が 60.6%と最も高く、次いで、「弁護士会・医療機関などの現在開設している相談機関」の 39.4%、「同じ悩みを持ちながらも回復を目指す取り組みをしている仲間が集う場」の 35.3%の順となっている。

項目	回答数	構成比	
回答人数	447	-	0% 20% 40% 60% 80% 100%
駅の構内	50	11.2%	11.2%
ショッピングセンター、デパート	95	21.3%	21.3%
図書館などの文化施設	79	17.7%	17.7%
ハローワーク	38	8.5%	8.5%
スーパーマーケット	41	9.2%	9.2%
市役所・保健所などの公的機関	271	60.6%	60.6%
弁護士会・医療機関などの現在開設している相談機関	176	39.4%	39.4%
同じ悩みを持ちながらも回復を目指す取り組みをしている仲間が集う場	158	35.3%	35.3%
その他	18	4.0%	4.0%
無回答	19	4.3%	4.3%

## 【属性別特徴】

性別では、女性の「同じ悩みを持ちながらも回復を目指す取り組みをしている仲間が集う場」の割合が男性と比較して高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「図書館などの文化施設」「ハローワーク」の割合、40歳以上の「弁護士会・医療機関などの現在開設している相談機関」の割合がそれぞれ他の年齢区分と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		40歳未満		40歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	-	177	-	267	-	3	-	161	-	281	-	5	-
駅の構内	50	11.2%	26	14.7%	24	9.0%	0	0.0%	24	14.9%	26	9.3%	0	0.0%
ショッピングセンター、デパート	95	21.3%	33	18.6%	60	22.5%	2	66.7%	34	21.1%	59	21.0%	2	40.0%
図書館などの文化施設	79	17.7%	32	18.1%	47	17.6%	0	0.0%	38	23.6%	41	14.6%	0	0.0%
ハローワーク	38	8.5%	12	6.8%	26	9.7%	0	0.0%	24	14.9%	14	5.0%	0	0.0%
スーパーマーケット	41	9.2%	11	6.2%	30	11.2%	0	0.0%	17	10.6%	24	8.5%	0	0.0%
市役所・保健所などの公的機関	271	60.6%	107	60.5%	162	60.7%	2	66.7%	98	60.9%	169	60.1%	4	80.0%
弁護士会・医療機関などの現在開設している相談機関	176	39.4%	70	39.5%	105	39.3%	1	33.3%	54	33.5%	120	42.7%	2	40.0%
同じ悩みを持ちながらも回復を目指す取り組みをしている仲間が集う場	158	35.3%	38	21.5%	119	44.6%	1	33.3%	59	36.6%	98	34.9%	1	20.0%
その他	18	4.0%	10	5.6%	8	3.0%	0	0.0%	11	6.8%	7	2.5%	0	0.0%
無回答	19	4.3%	8	4.5%	11	4.1%	0	0.0%	7	4.3%	12	4.3%	0	0.0%

## 問 23 相談場所を利用しやすい時間帯はいつですか。(希望するもの3つまでに○)

相談しやすい時間帯については、「平日、18：00以降」が50.1%と最も高く、次いで、「日曜日、10：00～12：00」の25.7%、「土曜日、18：00以降」の23.7%の順となっている。

項目	回答数	構成比
回答人数	447	-
平日、10：00～12：00	85	19.0%
平日、12：00～15：00	63	14.1%
平日、15：00～18：00	36	8.1%
平日、18：00以降	224	50.1%
土曜日、10：00～12：00	100	22.4%
土曜日、12：00～15：00	61	13.6%
土曜日、15：00～18：00	54	12.1%
土曜日、18：00以降	106	23.7%
日曜日、10：00～12：00	115	25.7%
日曜日、12：00～15：00	70	15.7%
日曜日、15：00～18：00	44	9.8%
日曜日、18：00以降	96	21.5%
無回答	59	13.2%

## 【属性別特徴】

性別では、男性の18：00以降を希望する割合が高くなっている。

年齢別では、40歳未満の18：00以降を希望する割合が高くなっている。

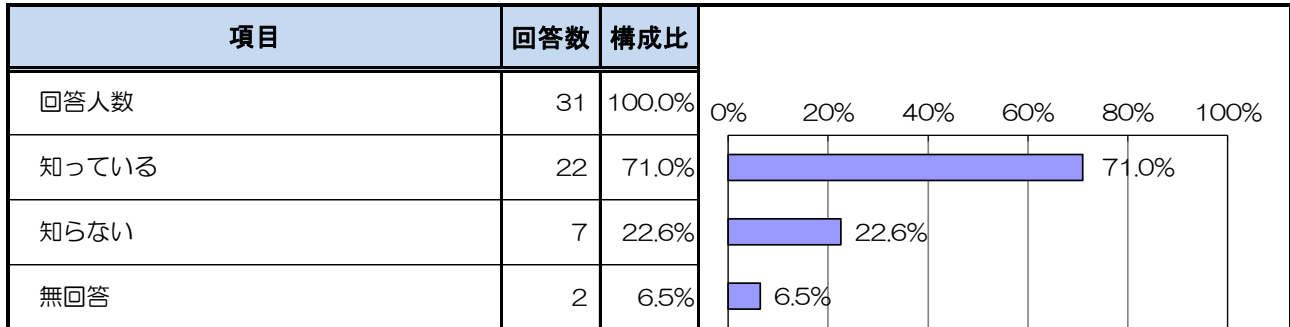
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		40歳未満		40歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	447	-	177	-	267	-	3	-	161	-	281	-	5	-
平日、10：00～12：00	85	19.0%	21	11.9%	63	23.6%	1	33.3%	22	13.7%	62	22.1%	1	20.0%
平日、12：00～15：00	63	14.1%	13	7.3%	50	18.7%	0	0.0%	22	13.7%	41	14.6%	0	0.0%
平日、15：00～18：00	36	8.1%	8	4.5%	27	10.1%	1	33.3%	19	11.8%	16	5.7%	1	20.0%
平日、18：00以降	224	50.1%	102	57.6%	121	45.3%	1	33.3%	89	55.3%	132	47.0%	3	60.0%
土曜日、10：00～12：00	100	22.4%	36	20.3%	64	24.0%	0	0.0%	30	18.6%	69	24.6%	1	20.0%
土曜日、12：00～15：00	61	13.6%	17	9.6%	44	16.5%	0	0.0%	20	12.4%	41	14.6%	0	0.0%
土曜日、15：00～18：00	54	12.1%	18	10.2%	35	13.1%	1	33.3%	19	11.8%	33	11.7%	2	40.0%
土曜日、18：00以降	106	23.7%	55	31.1%	50	18.7%	1	33.3%	51	31.7%	54	19.2%	1	20.0%
日曜日、10：00～12：00	115	25.7%	50	28.2%	65	24.3%	0	0.0%	43	26.7%	71	25.3%	1	20.0%
日曜日、12：00～15：00	70	15.7%	24	13.6%	46	17.2%	0	0.0%	19	11.8%	50	17.8%	1	20.0%
日曜日、15：00～18：00	44	9.8%	18	10.2%	25	9.4%	1	33.3%	15	9.3%	28	10.0%	1	20.0%
日曜日、18：00以降	96	21.5%	50	28.2%	45	16.9%	1	33.3%	45	28.0%	50	17.8%	1	20.0%
無回答	59	13.2%	27	15.3%	32	12.0%	0	0.0%	20	12.4%	39	13.9%	0	0.0%

※問 24～問 25 は桜島にお住まいの方への質問です。

問 24 「桜島大噴火 避難手順書」についてお伺いします。

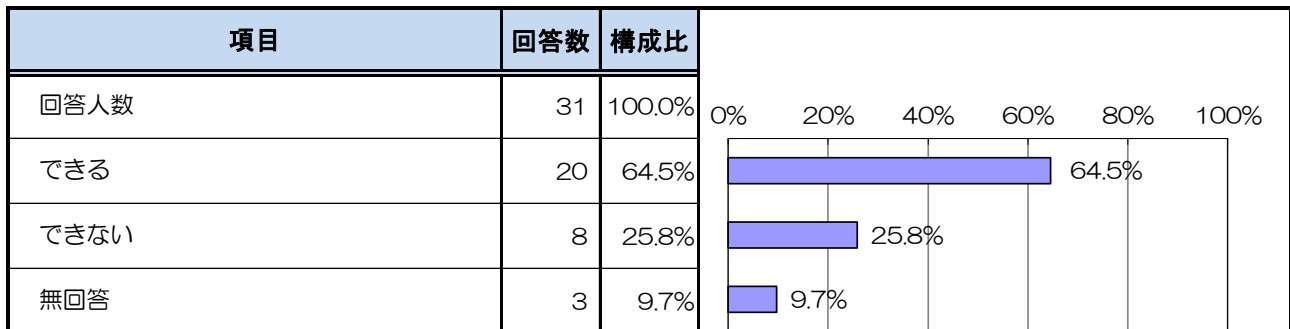
(1) 避難手順書を知っていますか？

「知っている」が71.0%、「知らない」が22.6%となっている。



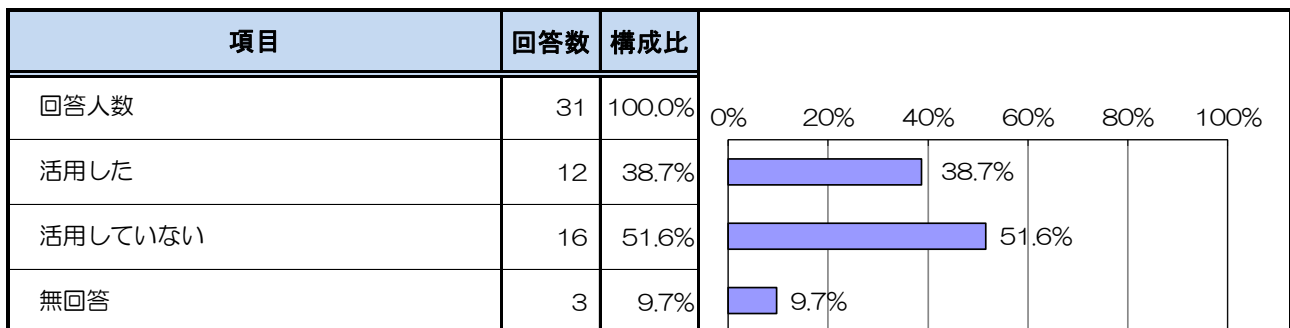
(2) 避難手順書をすぐに確認することはできますか？

「できる」が64.5%、「できない」が25.8%となっている。



(3) 訓練で避難手順書を活用しましたか？

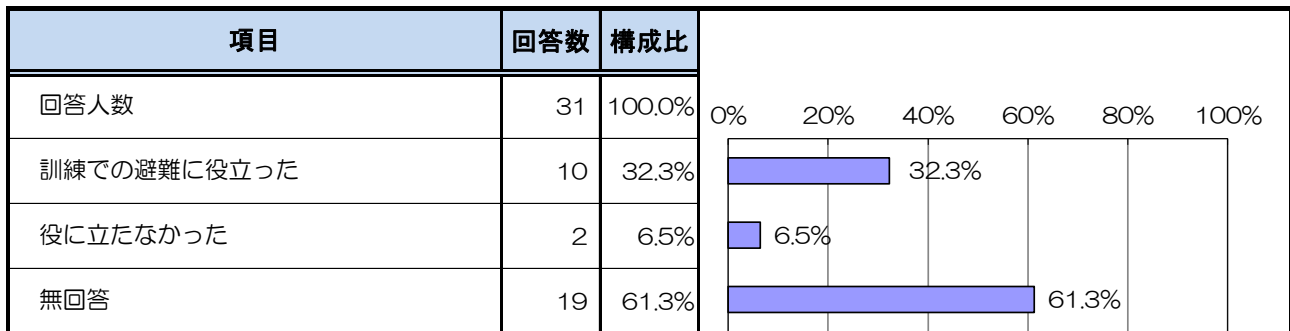
「活用していない」が51.6%、「活用した」が38.7%となっている。





(4) 避難手順書の内容についてはどうでしたか？

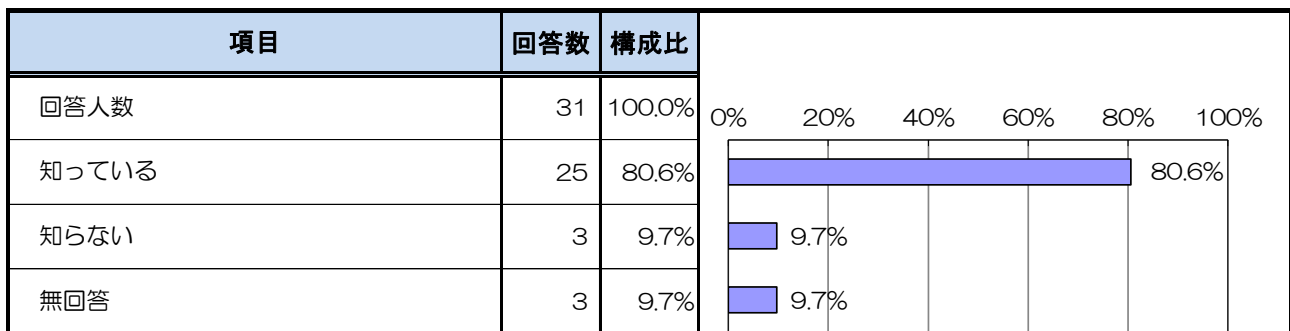
「訓練での避難に役立った」が32.3%、「役に立たなかった」が6.5%となっている。



問 25 「避難用家族カード」についてお伺いします。

(1) 避難用家族カードを知っていますか？

「知っている」が80.6%、「知らない」が9.7%となっている。

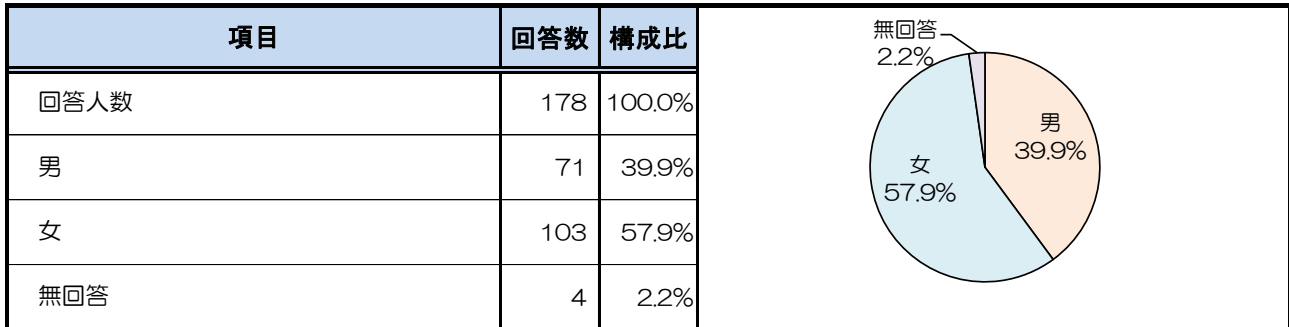


※問 27～問 30 は小中学生のお子さんがいいらっしゃる方への質問です。

問 27 小学生または中学生のお子さんについてお聞きします。

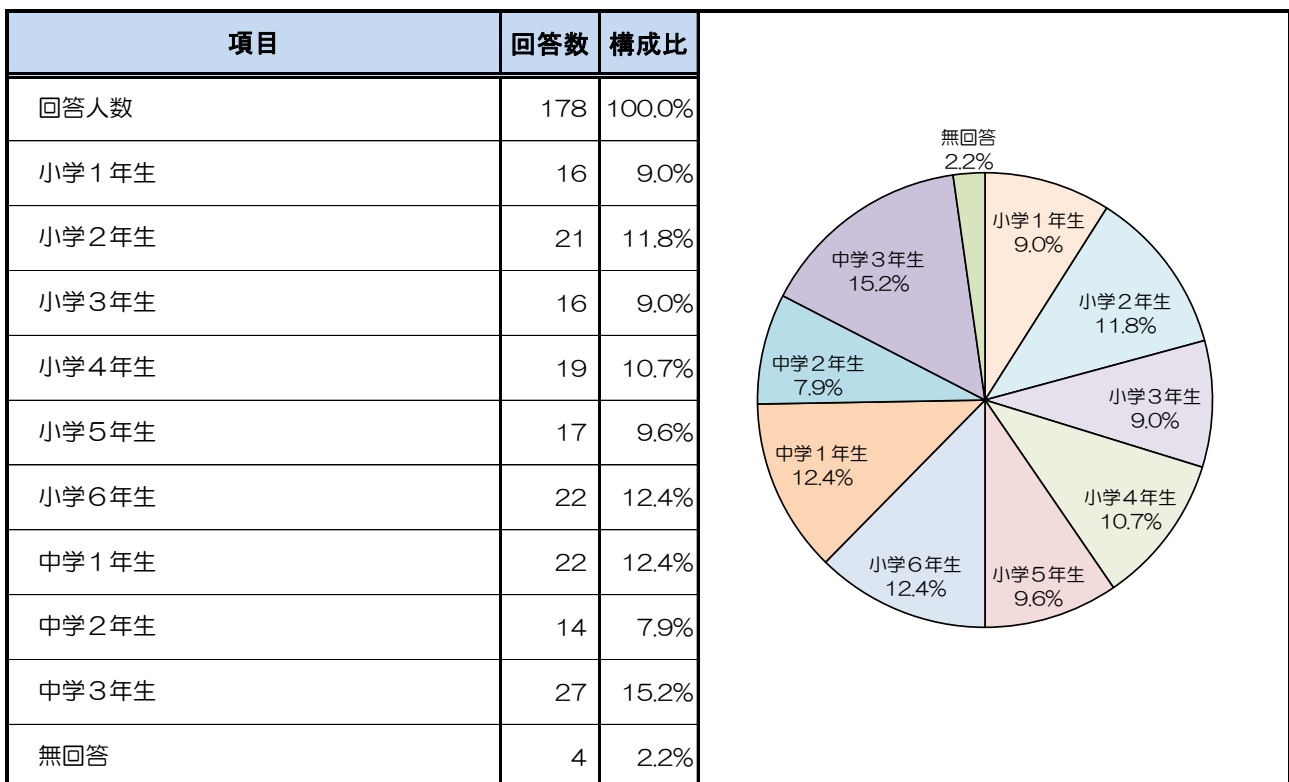
### (1) お子さんの性別

お子さんの性別については、「女」が 57.9%、「男」が 39.9%の順となっている。



### (3) お子さんの学年

お子さんの学年については、「中学 3 年生」が 15.2%と最も高く、次いで、「小学 6 年生」「中学 1 年生」の 12.4%の順となっている。

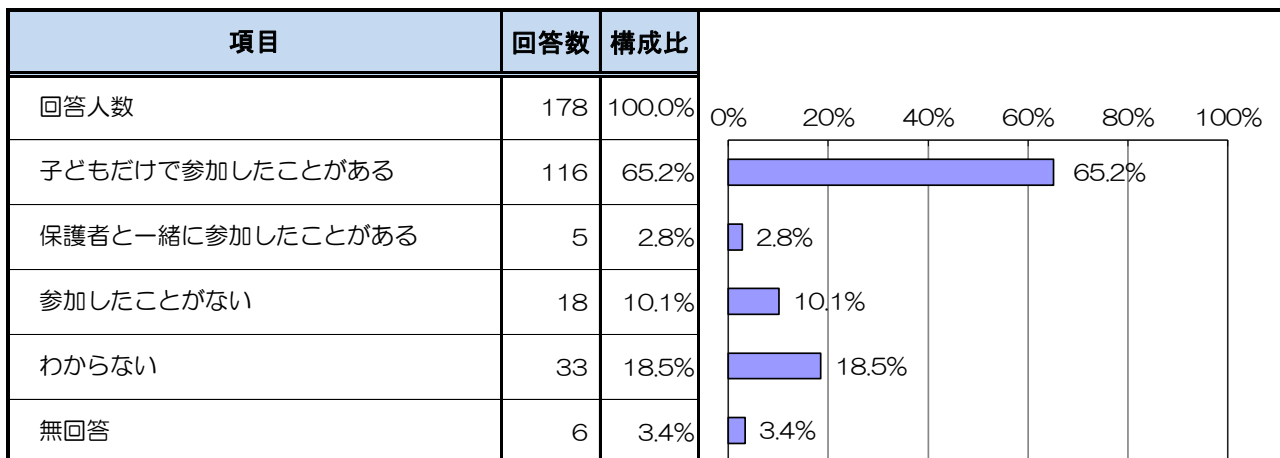


※問 28～問 30 は小中学生のお子さんがいらっしゃる方への質問です。

問 28 お子さんは、この 1 年間（平成 27 年 7 月から平成 28 年 6 月まで）に交通安全教室（小学校や中学校での講習会などを含む）に参加したことがありますか。（ア、イそれぞれ 1 つに○）

ア 歩行者に関する教室

「子どもだけで参加したことがある」が 65.2%と最も高く、次いで、「わからない」の 18.5%、「参加したことがない」の 10.1%の順となっている。



【属性別特徴】

子どもの学年別では、小学校高学年の「子どもだけで参加したことがある」の割合が他の学年と比較して高くなっている。

項目	回答人数		子どもの学年							
			小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	178	100.0%	53	100.0%	58	100.0%	63	100.0%	4	100.0%
子どもだけで参加したことがある	116	65.2%	37	69.8%	47	81.0%	31	49.2%	1	25.0%
保護者と一緒に参加したことがある	5	2.8%	2	3.8%	2	3.4%	1	1.6%	0	0.0%
参加したことがない	18	10.1%	3	5.7%	3	5.2%	12	19.0%	0	0.0%
わからない	33	18.5%	9	17.0%	5	8.6%	19	30.2%	0	0.0%
無回答	6	3.4%	2	3.8%	1	1.7%	0	0.0%	3	75.0%

## 【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		子どもの学年							
			小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	7	100.0%	1	100.0%	2	100.0%	4	100.0%	0	-
子どもだけで参加したことがある	4	57.1%	1	100.0%	2	100.0%	1	25.0%	0	-
保護者と一緒に参加したことがある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
参加したことがない	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	-
わからない	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	50.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

## イ 自転車の運転に関する教室

「子どもだけで参加したことがある」が57.3%と最も高く、次いで、「参加したことがない」の20.8%、「わからない」の18.5%の順となっている。

項目	回答数	構成比
回答人数	178	100.0%
子どもだけで参加したことがある	102	57.3%
保護者と一緒に参加したことがある	3	1.7%
参加したことがない	37	20.8%
わからない	33	18.5%
無回答	3	1.7%

## 【属性別特徴】

子どもの学年別では、小学校低学年の「参加したことがない」の割合、小学校高学年の「子どもだけで参加したことがある」の割合がそれぞれ高くなっている。

項目	回答人数		子どもの学年							
			小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	178	100.0%	53	100.0%	58	100.0%	63	100.0%	4	100.0%
子どもだけで参加したことがある	102	57.3%	16	30.2%	47	81.0%	37	58.7%	2	50.0%
保護者と一緒に参加したことがある	3	1.7%	1	1.9%	1	1.7%	1	1.6%	0	0.0%
参加したことがない	37	20.8%	23	43.4%	5	8.6%	9	14.3%	0	0.0%
わからない	33	18.5%	12	22.6%	5	8.6%	16	25.4%	0	0.0%
無回答	3	1.7%	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	50.0%

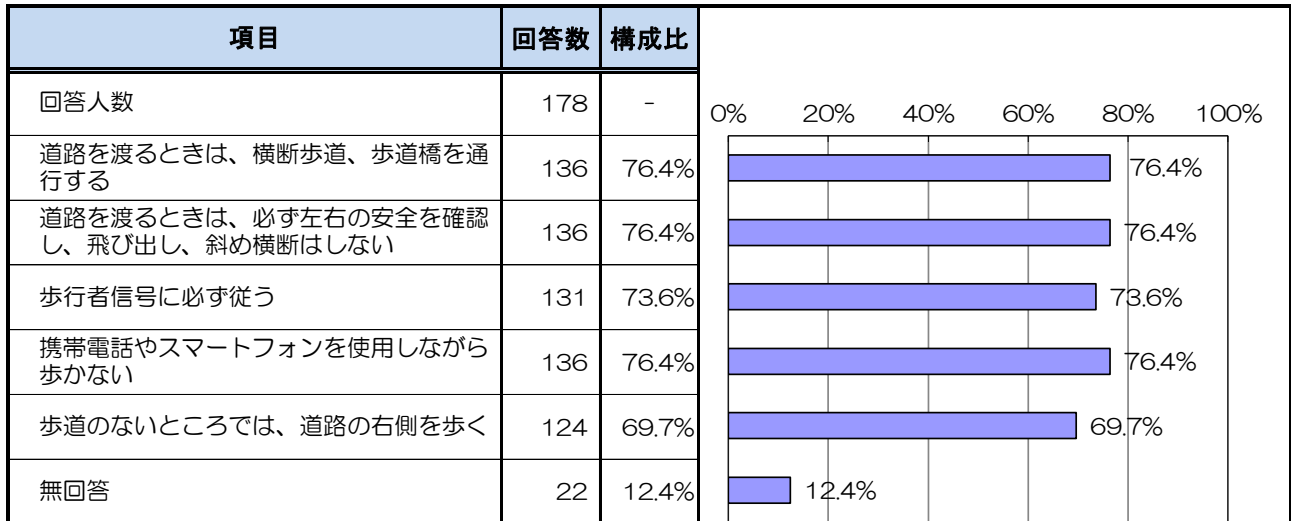
## 【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		子どもの学年							
			小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	7	100.0%	1	100.0%	2	100.0%	4	100.0%	0	-
子どもだけで参加したことがある	2	28.6%	0	0.0%	1	50.0%	1	25.0%	0	-
保護者と一緒に参加したことがある	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	-
参加したことがない	3	42.9%	1	100.0%	1	50.0%	1	25.0%	0	-
わからない	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

問 29 お子さんは、次の歩行者に関する交通ルール・マナーを知っていますか。また、実際に守っていますか。(あてはまるものすべてに○)

ア 知っている

「道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する」「道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない」「携帯電話やスマートフォンを使用しながら歩かない」がいずれも 76.4% で最も高くなっている。



【属性別特徴】

子どもの性別では、大きな差異は見られない。

子どもの学年別では、すべての回答項目において、学年が上がるほど回答割合が高くなっている。

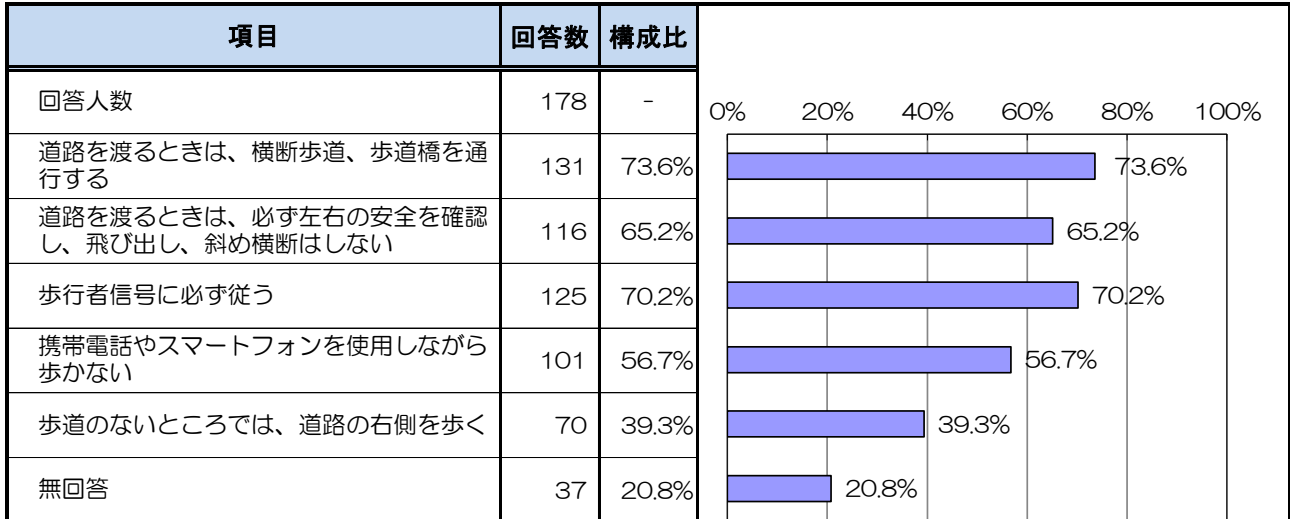
項目	回答人数		子どもの性別						子どもの学年							
			男性		女性		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	178	-	71	-	103	-	4	-	53	-	58	-	63	-	4	-
道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する	136	76.4%	56	78.9%	77	74.8%	3	75.0%	37	69.8%	45	77.6%	52	82.5%	2	50.0%
道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない	136	76.4%	56	78.9%	77	74.8%	3	75.0%	37	69.8%	45	77.6%	52	82.5%	2	50.0%
歩行者信号に必ず従う	131	73.6%	53	74.6%	75	72.8%	3	75.0%	35	66.0%	45	77.6%	49	77.8%	2	50.0%
携帯電話やスマートフォンを使用しながら歩かない	136	76.4%	52	73.2%	81	78.6%	3	75.0%	36	67.9%	41	70.7%	57	90.5%	2	50.0%
歩道のないところでは、道路の右側を歩く	124	69.7%	51	71.8%	70	68.0%	3	75.0%	30	56.6%	42	72.4%	50	79.4%	2	50.0%
無回答	22	12.4%	7	9.9%	14	13.6%	1	25.0%	11	20.8%	7	12.1%	2	3.2%	2	50.0%

## 【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		子どもの性別						子どもの学年							
			男性		女性		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	7	-	3	-	4	-	0	-	1	-	2	-	4	-	0	-
道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する	5	71.4%	2	66.7%	3	75.0%	0	-	1	100.0%	2	100.0%	2	50.0%	0	-
道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない	5	71.4%	2	66.7%	3	75.0%	0	-	1	100.0%	2	100.0%	2	50.0%	0	-
歩行者信号に必ず従う	5	71.4%	2	66.7%	3	75.0%	0	-	1	100.0%	2	100.0%	2	50.0%	0	-
携帯電話やスマートフォンを使用しながら歩かない	6	85.7%	2	66.7%	4	100.0%	0	-	1	100.0%	2	100.0%	3	75.0%	0	-
歩道のないところでは、道路の右側を歩く	6	85.7%	3	100.0%	3	75.0%	0	-	1	100.0%	2	100.0%	3	75.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

イ 守っている

「道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する」が73.6%と最も高く、次いで、「歩行者信号に必ず従う」の70.2%、「道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない」の65.2%の順となっている。



【属性別特徴】

子どもの性別では、女性の「歩道のないところでは、道路の右側を歩く」の割合が男性と比較して高くなっている。

子どもの学年別では、すべての回答項目において、中学生の回答割合が他の学年と比較して低くなっている。

項目	回答人数		子どもの性別						子どもの学年							
			男性		女性		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	178	-	71	-	103	-	4	-	53	-	58	-	63	-	4	-
道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する	131	73.6%	51	71.8%	78	75.7%	2	50.0%	43	81.1%	45	77.6%	42	66.7%	1	25.0%
道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない	116	65.2%	45	63.4%	68	66.0%	3	75.0%	35	66.0%	42	72.4%	37	58.7%	2	50.0%
歩行者信号に必ず従う	125	70.2%	51	71.8%	71	68.9%	3	75.0%	42	79.2%	41	70.7%	40	63.5%	2	50.0%
携帯電話やスマートフォンを使用しながら歩かない	101	56.7%	43	60.6%	57	55.3%	1	25.0%	35	66.0%	37	63.8%	29	46.0%	0	0.0%
歩道のないところでは、道路の右側を歩く	70	39.3%	24	33.8%	43	41.7%	3	75.0%	21	39.6%	28	48.3%	19	30.2%	2	50.0%
無回答	37	20.8%	14	19.7%	22	21.4%	1	25.0%	7	13.2%	10	17.2%	18	28.6%	2	50.0%

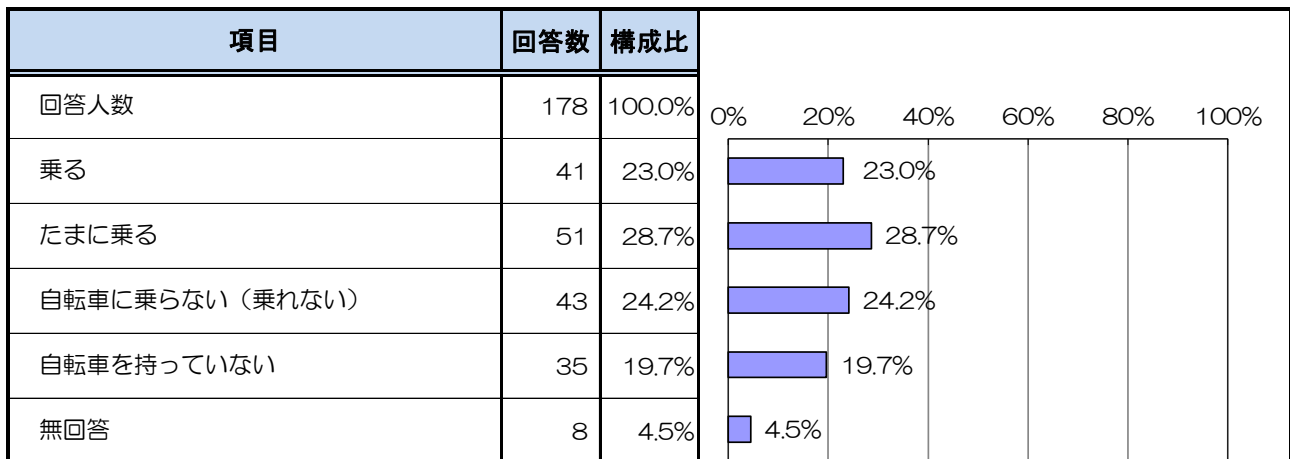


【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		子どもの性別						子どもの学年							
			男性		女性		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	7	-	3	-	4	-	0	-	1	-	2	-	4	-	0	-
道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する	6	85.7%	3	100.0%	3	75.0%	0	-	1	100.0%	2	100.0%	3	75.0%	0	-
道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない	6	85.7%	3	100.0%	3	75.0%	0	-	1	100.0%	2	100.0%	3	75.0%	0	-
歩行者信号に必ず従う	6	85.7%	3	100.0%	3	75.0%	0	-	1	100.0%	2	100.0%	3	75.0%	0	-
携帯電話やスマートフォンを使用しながら歩かない	5	71.4%	2	66.7%	3	75.0%	0	-	1	100.0%	1	50.0%	3	75.0%	0	-
歩道のないところでは、道路の右側を歩く	4	57.1%	2	66.7%	2	50.0%	0	-	0	0.0%	2	100.0%	2	50.0%	0	-
無回答	1	14.3%	0	0.0%	1	25.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	-

問 30 対象のお子さんは、自転車に乗りますか。（1つに○）

子どもの自転車の運転については、「たまに乗る」が 28.7%と最も高く、次いで、「自転車に乗らない（乗れない）」の 24.2%、「乗る」の 23.0%の順となっている。



【モデル地区（吉野小校区）】

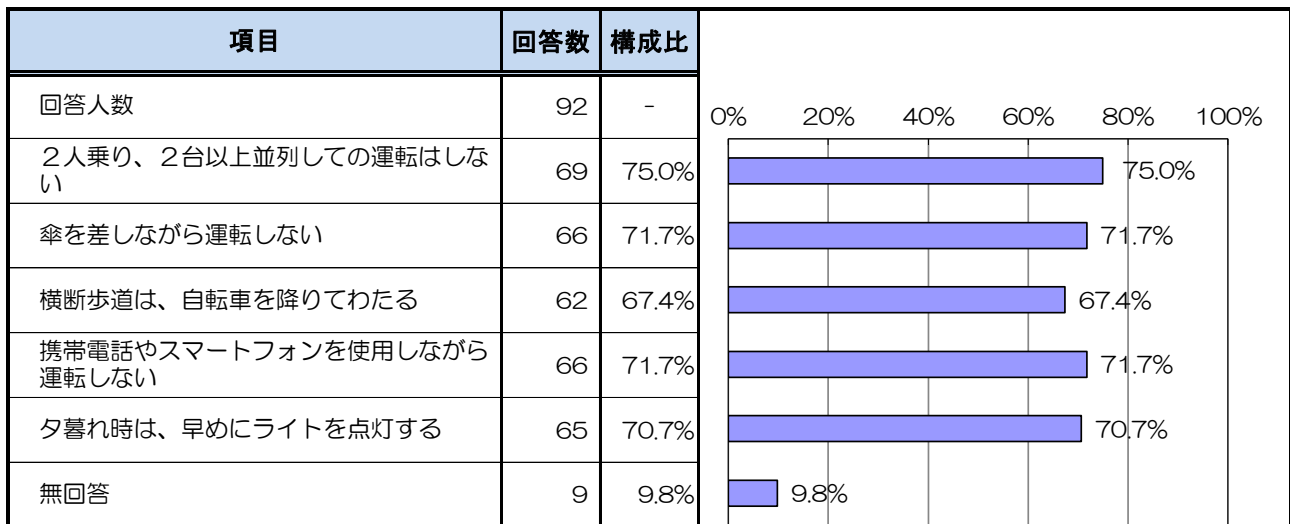
項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	7	100.0%
乗る	1	14.3%
たまに乗る	3	42.9%
自転車に乗らない（乗れない）	3	42.9%
自転車を持っていない	0	0.0%
無回答	0	0.0%

※問 30 で『1. 乗る』『2. たまに乗る』とご回答された方にお聞きします。

問 30-1 対象のお子さんは、次の自転車の運転に関する交通ルール・マナーを知っていますか。また、実際に守っていますか。(あてはまるものすべてに○)

ア 知っている

「2人乗り、2台以上並列しての運転はしない」が75.0%と最も高く、次いで、「傘を差しながら運転しない」「携帯電話やスマートフォンを使用しながら運転しない」の71.7%の順となっている。



【属性別特徴】

子どもの性別では、男性の「傘を差しながら運転しない」「夕暮れ時は、早めにライトを点灯する」の割合が女性と比較して高くなっている。

子どもの学年別では、すべての回答項目において、小学校低学年の回答割合が他の学年と比較して低くなっている。

項目	回答人数		子どもの性別						子どもの学年							
			男性		女性		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	92	-	45	-	44	-	3	-	19	-	38	-	33	-	2	-
2人乗り、2台以上並列しての運転はしない	69	75.0%	33	73.3%	33	75.0%	3	100.0%	9	47.4%	31	81.6%	27	81.8%	2	100.0%
傘を差しながら運転しない	66	71.7%	34	75.6%	29	65.9%	3	100.0%	10	52.6%	29	76.3%	25	75.8%	2	100.0%
横断歩道は、自転車を降りてわたる	62	67.4%	30	66.7%	29	65.9%	3	100.0%	8	42.1%	26	68.4%	26	78.8%	2	100.0%
携帯電話やスマートフォンを使用しながら運転しない	66	71.7%	32	71.1%	31	70.5%	3	100.0%	8	42.1%	30	78.9%	26	78.8%	2	100.0%
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	65	70.7%	34	75.6%	28	63.6%	3	100.0%	7	36.8%	32	84.2%	24	72.7%	2	100.0%
無回答	9	9.8%	5	11.1%	4	9.1%	0	0.0%	7	36.8%	2	5.3%	0	0.0%	0	0.0%

## 【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		子どもの性別						子どもの学年							
			男性		女性		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	4	-	3	-	1	-	0	-	0	-	1	-	3	-	0	-
2人乗り、2台以上並列しての運転はしない	3	75.0%	2	66.7%	1	100.0%	0	-	0	-	1	100.0%	2	66.7%	0	-
傘を差しながら運転しない	3	75.0%	2	66.7%	1	100.0%	0	-	0	-	1	100.0%	2	66.7%	0	-
横断歩道は、自転車を降りてわたる	3	75.0%	3	100.0%	0	0.0%	0	-	0	-	1	100.0%	2	66.7%	0	-
携帯電話やスマートフォンを使用しながら運転しない	3	75.0%	2	66.7%	1	100.0%	0	-	0	-	1	100.0%	2	66.7%	0	-
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	3	75.0%	3	100.0%	0	0.0%	0	-	0	-	1	100.0%	2	66.7%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-

## イ 守っている

「傘を差しながら運転しない」が70.7%と最も高く、次いで、「2人乗り、2台以上並列しての運転はしない」「携帯電話やスマートフォンを使用しながら運転しない」の69.6%の順となっている。

項目	回答数	構成比	0% 20% 40% 60% 80% 100%					
回答人数	92	-						
2人乗り、2台以上並列しての運転はしない	64	69.6%	69.6%					
傘を差しながら運転しない	65	70.7%	70.7%					
横断歩道は、自転車を降りてわたる	30	32.6%	32.6%					
携帯電話やスマートフォンを使用しながら運転しない	64	69.6%	69.6%					
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	49	53.3%	53.3%					
無回答	18	19.6%	19.6%					

## 【属性別特徴】

子どもの性別では、すべての回答項目において、女性の回答割合が男性と比較して高くなっている。

子どもの学年別では、すべての回答項目において、小学校高学年の回答割合が他の学年と比較して高くなっている。また、「横断歩道は、自転車を降りてわたる」は、中学生の回答割合が他の学年と比較して著しく低くなっている。

項目	回答人数		子どもの性別						子どもの学年							
			男性		女性		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	92	-	45	-	44	-	3	-	19	-	38	-	33	-	2	-
2人乗り、2台以上並列しての運転はしない	64	69.6%	30	66.7%	31	70.5%	3	100.0%	11	57.9%	29	76.3%	22	66.7%	2	100.0%
傘を差しながら運転しない	65	70.7%	30	66.7%	32	72.7%	3	100.0%	11	57.9%	30	78.9%	22	66.7%	2	100.0%
横断歩道は、自転車を降りてわたる	30	32.6%	13	28.9%	15	34.1%	2	66.7%	7	36.8%	16	42.1%	6	18.2%	1	50.0%
携帯電話やスマートフォンを使用しながら運転しない	64	69.6%	30	66.7%	31	70.5%	3	100.0%	12	63.2%	29	76.3%	21	63.6%	2	100.0%
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	49	53.3%	21	46.7%	25	56.8%	3	100.0%	8	42.1%	21	55.3%	18	54.5%	2	100.0%
無回答	18	19.6%	9	20.0%	9	20.5%	0	0.0%	4	21.1%	5	13.2%	9	27.3%	0	0.0%

## 【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		子どもの性別						子どもの学年							
			男性		女性		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	4	-	3	-	1	-	0	-	0	-	1	-	3	-	0	-
2人乗り、2台以上並列しての運転はしない	4	100.0%	3	100.0%	1	100.0%	0	-	0	-	1	100.0%	3	100.0%	0	-
傘を差しながら運転しない	4	100.0%	3	100.0%	1	100.0%	0	-	0	-	1	100.0%	3	100.0%	0	-
横断歩道は、自転車を降りてわたる	2	50.0%	2	66.7%	0	0.0%	0	-	0	-	1	100.0%	1	33.3%	0	-
携帯電話やスマートフォンを使用しながら運転しない	3	75.0%	2	66.7%	1	100.0%	0	-	0	-	0	0.0%	3	100.0%	0	-
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	1	25.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	-	0	-	0	0.0%	1	33.3%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-



## 第4章 高齡者

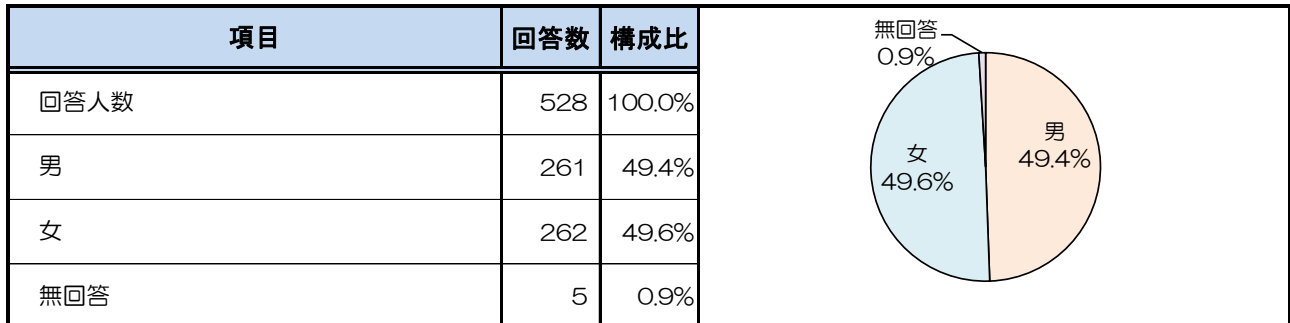




問1 あなた（封書の宛名の方）の性別などについてお聞きします。

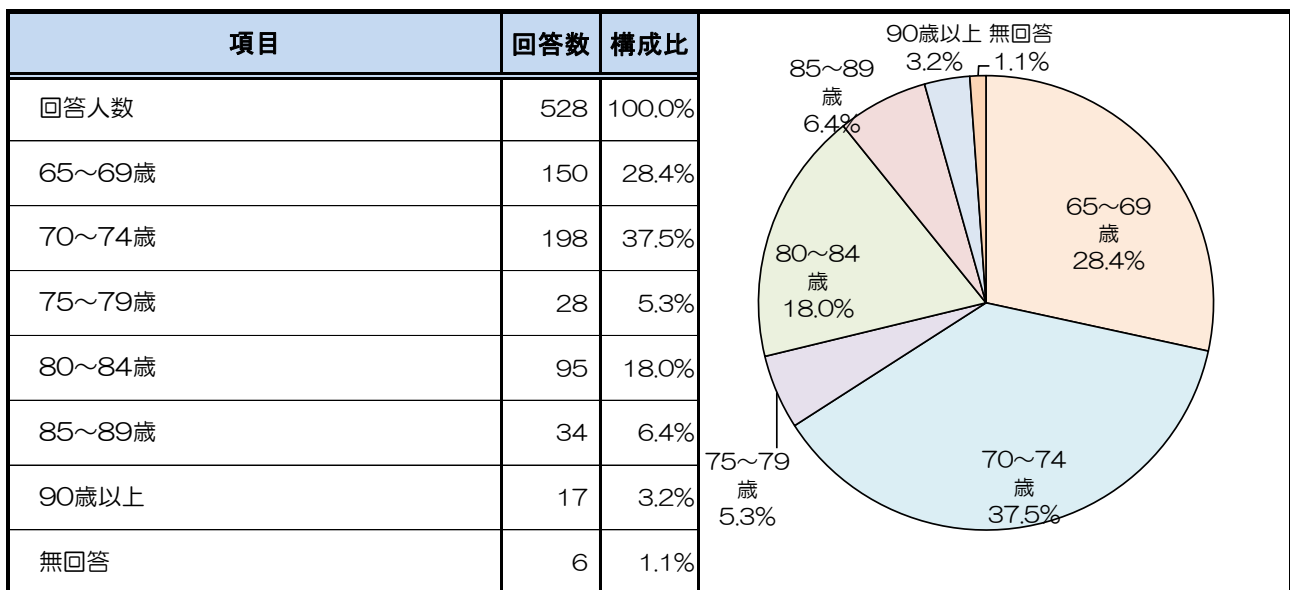
(1) 対象（封書の宛名）の方の性別

性別については、「女」が49.6%、「男」が49.4%となっている。



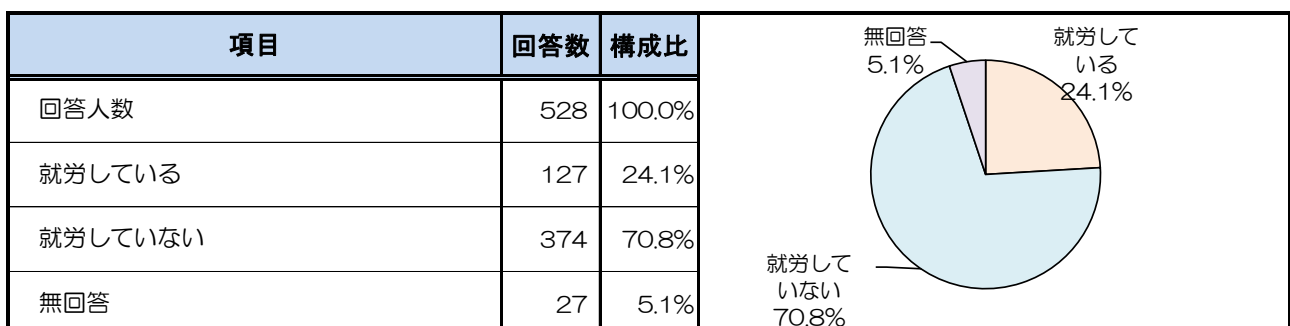
(2) 対象（封書の宛名）の方の年齢（平成28年7月1日現在）

年齢については、「70～74歳」が37.5%と最も高く、次いで、「65～69歳」の28.4%、「80～84歳」の18.0%の順となっている。



(3) 対象（封書の宛名）の方の就労状況（平成28年7月1日現在）

就労状況については、「就労していない」が70.8%、「就労している」が24.1%となっている。



問3 あなたは、鹿児島市が「セーフコミュニティ」に取り組んでいることを知っていますか。  
(1つに○)

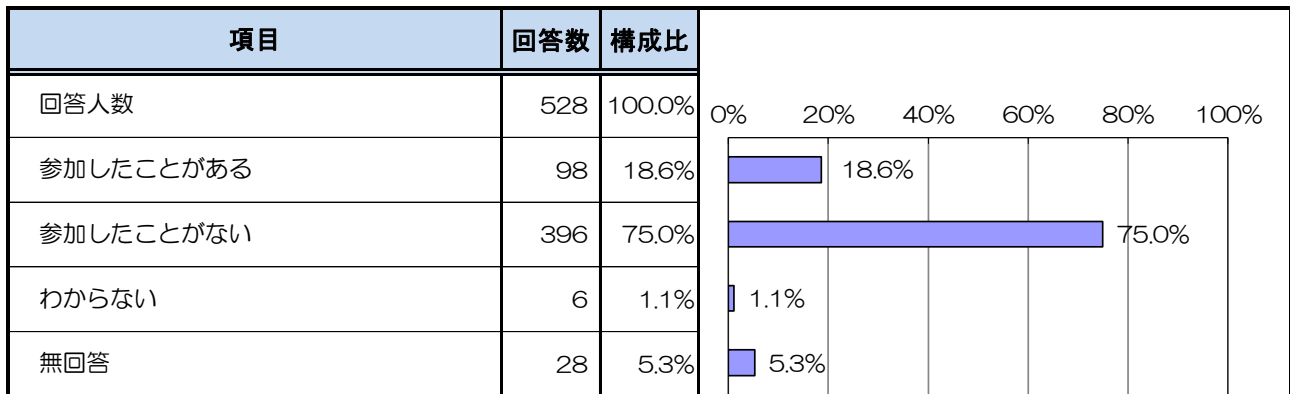
セーフコミュニティの認識度については、「知らない」が55.5%と最も高く、次いで、「聞いた（新聞やテレビ、パンフレットなどで見た）ことはあるが、内容は知らない」の34.3%、「内容も含めて知っている」の7.2%の順となっている。

項目	回答数	構成比
回答人数	528	100.0%
内容も含めて知っている	38	7.2%
聞いた（新聞やテレビ、パンフレットなどで見た）ことはあるが、内容は知らない	181	34.3%
知らない	293	55.5%
無回答	16	3.0%

【高齢者】

問4 あなたは、この1年間（平成27年7月から平成28年6月まで）に交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがありますか。（1つに○）

交通安全教室等に参加したかについては、「参加したことがない」が75.0%、「参加したことがある」が18.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「参加したことがある」の割合が女性と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%
参加したことがある	98	18.6%	55	21.1%	43	16.4%	0	0.0%
参加したことがない	396	75.0%	189	72.4%	203	77.5%	4	80.0%
わからない	6	1.1%	2	0.8%	4	1.5%	0	0.0%
無回答	28	5.3%	15	5.7%	12	4.6%	1	20.0%

【モデル地区（吉野小校区）】

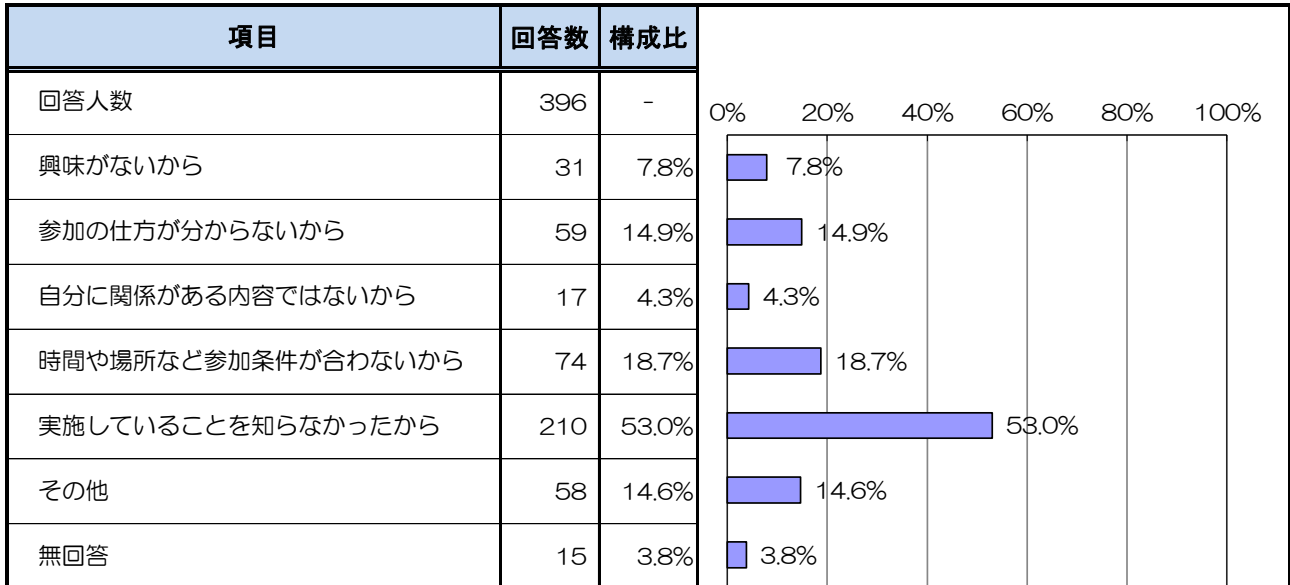
項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	45	100.0%	20	100.0%	25	100.0%	0	-
参加したことがある	8	17.8%	6	30.0%	2	8.0%	0	-
参加したことがない	36	80.0%	14	70.0%	22	88.0%	0	-
わからない	1	2.2%	0	0.0%	1	4.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

【高齢者】

※問4で『2. 参加したことがない』とご回答された方にお聞きします。

問4-1 あなたが、交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがない理由は何ですか。  
（あてはまるものすべてに○）

交通安全教室等に参加したことがない理由については、「実施していることを知らなかったから」が53.0%と最も高く、次いで、「時間や場所など参加条件が合わないから」の18.7%、「参加の仕方が分からないから」の14.9%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異は見られない。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	396	-	189	-	203	-	4	-
興味がないから	31	7.8%	16	8.5%	15	7.4%	0	0.0%
参加の仕方が分からないから	59	14.9%	26	13.8%	33	16.3%	0	0.0%
自分に関係がある内容ではないから	17	4.3%	11	5.8%	6	3.0%	0	0.0%
時間や場所など参加条件が合わないから	74	18.7%	33	17.5%	40	19.7%	1	25.0%
実施していることを知らなかったから	210	53.0%	96	50.8%	111	54.7%	3	75.0%
その他	58	14.6%	27	14.3%	31	15.3%	0	0.0%
無回答	15	3.8%	4	2.1%	11	5.4%	0	0.0%

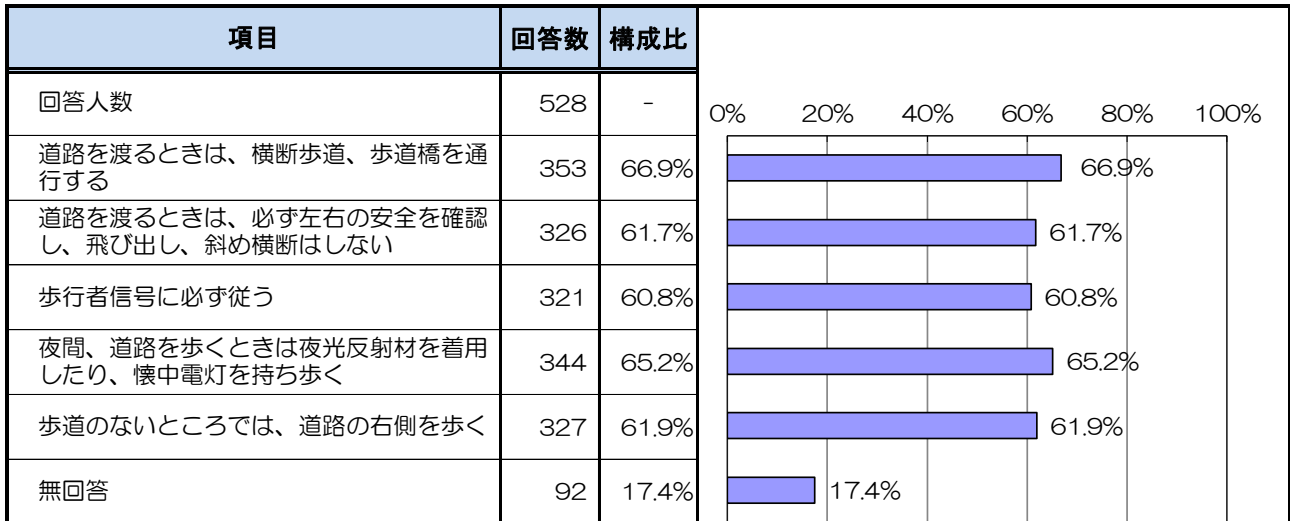
## 【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	36	-	14	-	22	-	0	-
興味がなから	3	8.3%	0	0.0%	3	13.6%	0	-
参加の仕方が分からないから	5	13.9%	2	14.3%	3	13.6%	0	-
自分に関係がある内容ではないから	2	5.6%	1	7.1%	1	4.5%	0	-
時間や場所など参加条件が合わないから	4	11.1%	0	0.0%	4	18.2%	0	-
実施していることを知らなかったから	20	55.6%	9	64.3%	11	50.0%	0	-
その他	5	13.9%	2	14.3%	3	13.6%	0	-
無回答	2	5.6%	1	7.1%	1	4.5%	0	-

問5 あなたは、次の歩行者に関する交通ルール・マナーを知っていますか、また、実際に守っていますか。(あてはまるものすべてに○)

ア 知っている

「道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する」が66.9%と最も高く、次いで、「夜間、道路を歩くときは夜光反射材を着用したり、懐中電灯を持ち歩く」の65.2%、「歩道のないところでは、道路の右側を歩く」の61.9%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、すべての回答項目において、男性の回答割合が女性と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	-	261	-	262	-	5	-
道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する	353	66.9%	177	67.8%	172	65.6%	4	80.0%
道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない	326	61.7%	167	64.0%	157	59.9%	2	40.0%
歩行者信号に必ず従う	321	60.8%	161	61.7%	158	60.3%	2	40.0%
夜間、道路を歩くときは夜光反射材を着用したり、懐中電灯を持ち歩く	344	65.2%	177	67.8%	163	62.2%	4	80.0%
歩道のないところでは、道路の右側を歩く	327	61.9%	174	66.7%	150	57.3%	3	60.0%
無回答	92	17.4%	41	15.7%	50	19.1%	1	20.0%

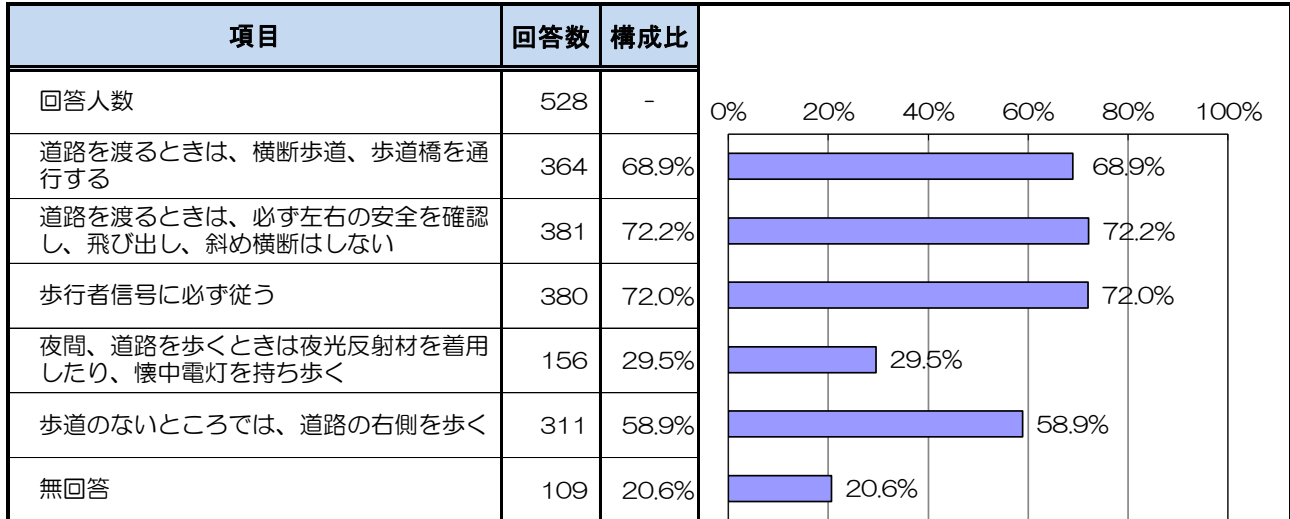
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	45	-	20	-	25	-	0	-
道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する	29	64.4%	11	55.0%	18	72.0%	0	-
道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない	27	60.0%	10	50.0%	17	68.0%	0	-
歩行者信号に必ず従う	27	60.0%	10	50.0%	17	68.0%	0	-
夜間、道路を歩くときは夜光反射材を着用したり、懐中電灯を持ち歩く	28	62.2%	12	60.0%	16	64.0%	0	-
歩道のないところでは、道路の右側を歩く	28	62.2%	11	55.0%	17	68.0%	0	-
無回答	13	28.9%	6	30.0%	7	28.0%	0	-

【高齢者】

イ 守っている

「道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない」が72.2%と最も高く、次いで、「歩行者信号に必ず従う」の72.0%、「道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する」の68.9%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異は見られない。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	-	261	-	262	-	5	-
道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する	364	68.9%	181	69.3%	180	68.7%	3	60.0%
道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない	381	72.2%	188	72.0%	188	71.8%	5	100.0%
歩行者信号に必ず従う	380	72.0%	185	70.9%	190	72.5%	5	100.0%
夜間、道路を歩くときは夜光反射材を着用したり、懐中電灯を持ち歩く	156	29.5%	84	32.2%	70	26.7%	2	40.0%
歩道のないところでは、道路の右側を歩く	311	58.9%	149	57.1%	158	60.3%	4	80.0%
無回答	109	20.6%	56	21.5%	53	20.2%	0	0.0%



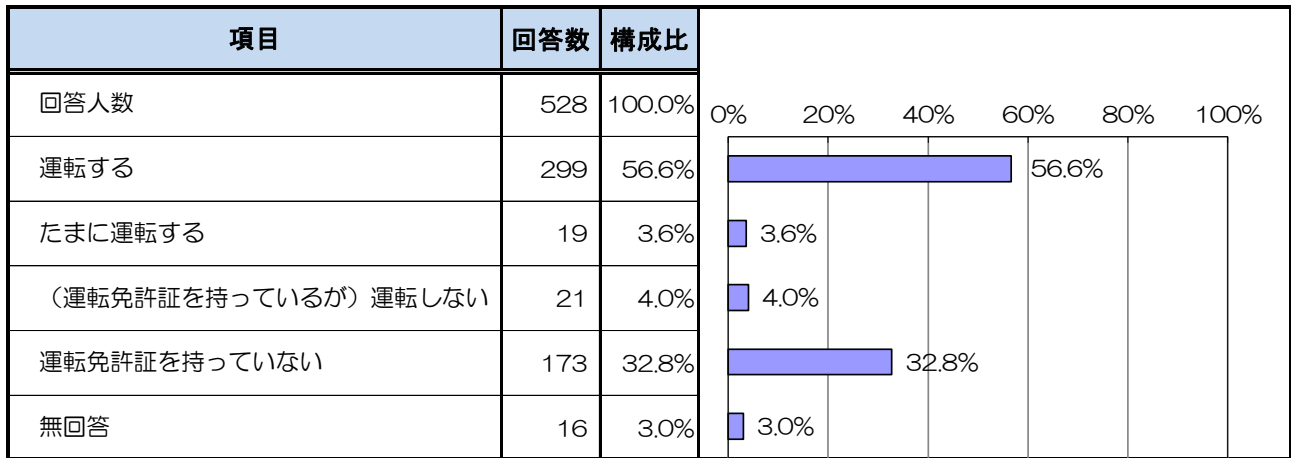
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	45	-	20	-	25	-	0	-
道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する	29	64.4%	16	80.0%	13	52.0%	0	-
道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない	27	60.0%	14	70.0%	13	52.0%	0	-
歩行者信号に必ず従う	29	64.4%	16	80.0%	13	52.0%	0	-
夜間、道路を歩くときは夜光反射材を着用したり、懐中電灯を持ち歩く	15	33.3%	9	45.0%	6	24.0%	0	-
歩道のないところでは、道路の右側を歩く	24	53.3%	13	65.0%	11	44.0%	0	-
無回答	14	31.1%	3	15.0%	11	44.0%	0	-

【高齢者】

問6 あなたは、自動車を運転しますか。(1つに○)

自動車の運転については、「運転する」が56.6%と最も高く、次いで、「運転免許証を持っていない」の32.8%、「(運転免許証を持っているが)運転しない」の4.0%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性では「運転する」、女性では「運転免許証を持っていない」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%
運転する	299	56.6%	201	77.0%	95	36.3%	3	60.0%
たまたに運転する	19	3.6%	13	5.0%	6	2.3%	0	0.0%
(運転免許証を持っているが)運転しない	21	4.0%	7	2.7%	14	5.3%	0	0.0%
運転免許証を持っていない	173	32.8%	39	14.9%	132	50.4%	2	40.0%
無回答	16	3.0%	1	0.4%	15	5.7%	0	0.0%

【モデル地区 (吉野小校区)】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	45	100.0%	20	100.0%	25	100.0%	0	-
運転する	21	46.7%	15	75.0%	6	24.0%	0	-
たまたに運転する	1	2.2%	1	5.0%	0	0.0%	0	-
(運転免許証を持っているが)運転しない	1	2.2%	0	0.0%	1	4.0%	0	-
運転免許証を持っていない	21	46.7%	4	20.0%	17	68.0%	0	-
無回答	1	2.2%	0	0.0%	1	4.0%	0	-

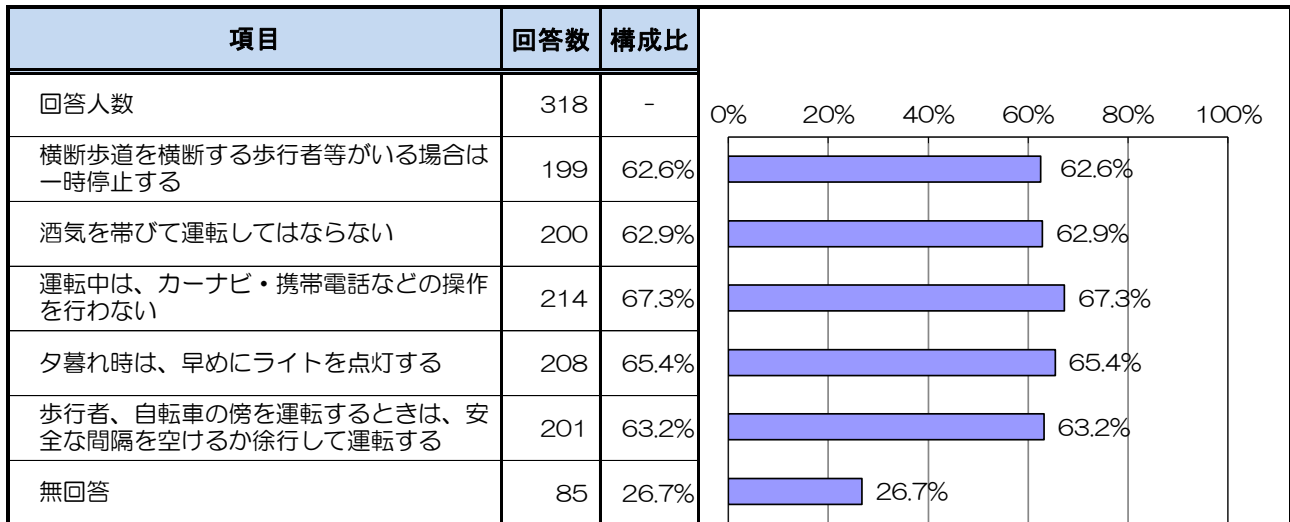
【高齢者】

※問6で『1. 運転する』『2. たまに運転する』とご回答された方にお聞きします。

問6-1 あなたは、次の自動車の運転に関する交通ルール・マナーを知っていますか。また、実際に守っていますか。(あてはまるものすべてに○)

ア 知っている

「運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない」が67.3%と最も高く、次いで、「夕暮れ時は、早めにライトを点灯する」の65.4%、「歩行者、自転車の傍を運転するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する」の63.2%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異は見られない。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	318	-	214	-	101	-	3	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	199	62.6%	134	62.6%	63	62.4%	2	66.7%
酒気を帯びて運転してはならない	200	62.9%	135	63.1%	63	62.4%	2	66.7%
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	214	67.3%	144	67.3%	68	67.3%	2	66.7%
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	208	65.4%	144	67.3%	62	61.4%	2	66.7%
歩行者、自転車の傍を運転するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	201	63.2%	136	63.6%	63	62.4%	2	66.7%
無回答	85	26.7%	54	25.2%	30	29.7%	1	33.3%

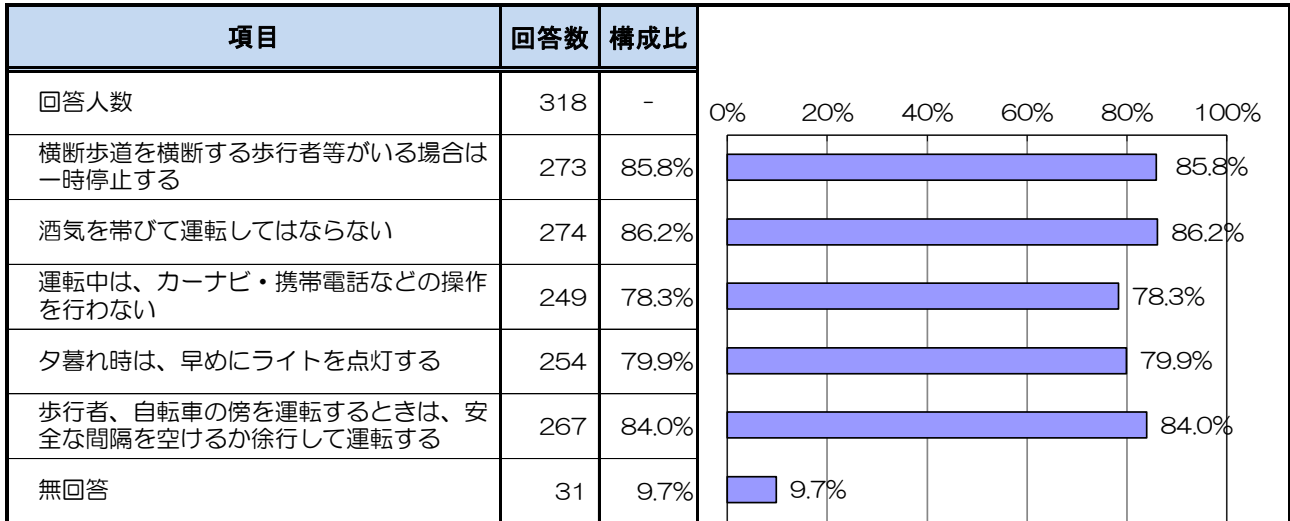
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	22	-	16	-	6	-	0	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	12	54.5%	8	50.0%	4	66.7%	0	-
酒気を帯びて運転してはならない	12	54.5%	8	50.0%	4	66.7%	0	-
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	12	54.5%	8	50.0%	4	66.7%	0	-
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	13	59.1%	9	56.3%	4	66.7%	0	-
歩行者、自転車の傍を運転するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	13	59.1%	9	56.3%	4	66.7%	0	-
無回答	9	40.9%	7	43.8%	2	33.3%	0	-

【高齢者】

イ 守っている

「酒気を帯びて運転してはならない」が86.2%と最も高く、次いで、「横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する」の85.8%、「歩行者、自転車の傍を運転するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する」の84.0%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、すべての回答項目において、女性の遵守度が男性と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	318	-	214	-	101	-	3	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	273	85.8%	181	84.6%	89	88.1%	3	100.0%
酒気を帯びて運転してはならない	274	86.2%	181	84.6%	90	89.1%	3	100.0%
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	249	78.3%	165	77.1%	81	80.2%	3	100.0%
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	254	79.9%	165	77.1%	86	85.1%	3	100.0%
歩行者、自転車の傍を運転するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	267	84.0%	176	82.2%	88	87.1%	3	100.0%
無回答	31	9.7%	24	11.2%	7	6.9%	0	0.0%

【モデル地区（吉野小校区）】

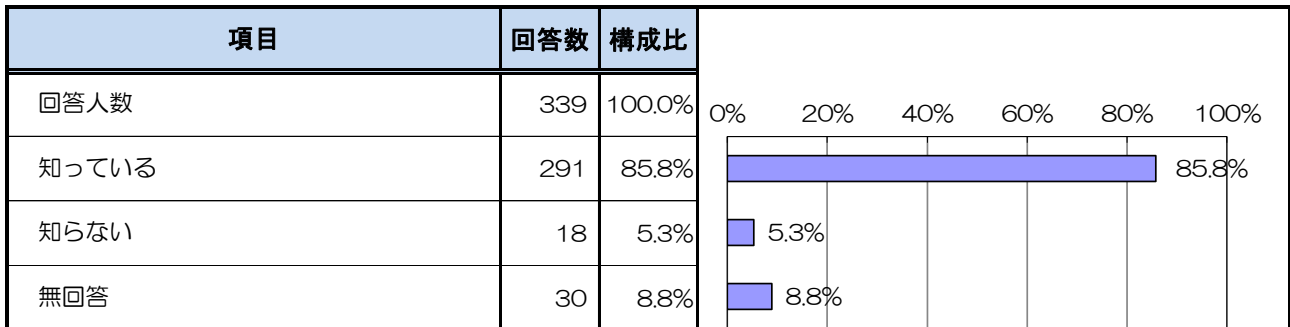
項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	22	-	16	-	6	-	0	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	19	86.4%	14	87.5%	5	83.3%	0	-
酒気を帯びて運転してはならない	19	86.4%	14	87.5%	5	83.3%	0	-
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	18	81.8%	13	81.3%	5	83.3%	0	-
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	16	72.7%	11	68.8%	5	83.3%	0	-
歩行者、自転車の傍を運転するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	17	77.3%	12	75.0%	5	83.3%	0	-
無回答	3	13.6%	2	12.5%	1	16.7%	0	-

【高齢者】

※問6で『1. 運転する』『2. たまに運転する』『3. (運転免許証を持っているが) 運転しない』とご回答された方にお聞きします。

問6-2 あなたは、「高齢者運転免許自主返納支援制度」を知っていますか。(1つに○)

『高齢者運転免許自主返納支援制度』の認識度については、「知っている」が85.8%、「知らない」が5.3%となっている。



【属性別特徴】

性別・年齢別では、大きな差異は見られない。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	339	100.0%	221	100.0%	115	100.0%	3	100.0%	273	100.0%	63	100.0%	3	100.0%
知っている	291	85.8%	186	84.2%	103	89.6%	2	66.7%	234	85.7%	55	87.3%	2	66.7%
知らない	18	5.3%	12	5.4%	6	5.2%	0	0.0%	16	5.9%	2	3.2%	0	0.0%
無回答	30	8.8%	23	10.4%	6	5.2%	1	33.3%	23	8.4%	6	9.5%	1	33.3%

【モデル地区（吉野小校区）】

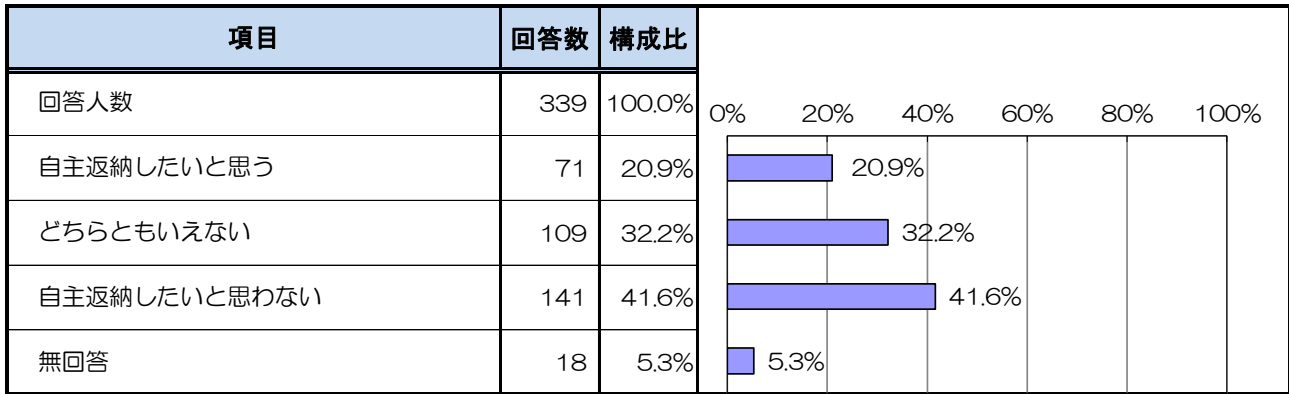
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	23	100.0%	16	100.0%	7	100.0%	0	-	17	100.0%	6	100.0%	0	-
知っている	18	78.3%	11	68.8%	7	100.0%	0	-	14	82.4%	4	66.7%	0	-
知らない	1	4.3%	1	6.3%	0	0.0%	0	-	1	5.9%	0	0.0%	0	-
無回答	4	17.4%	4	25.0%	0	0.0%	0	-	2	11.8%	2	33.3%	0	-

【高齢者】

※問6で『1. 運転する』『2. たまに運転する』『3. (運転免許証を持っているが) 運転しない』とご回答された方にお聞きします。

問6-3 あなたは、運転免許を自主返納したいと思いますか。(1つに○)

運転免許の自主返納については、「自主返納したいと思わない」が41.6%と最も高く、次いで、「どちらともいえない」の32.2%、「自主返納したいと思う」の20.9%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「自主返納したいと思わない」の割合が女性と比較して高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「自主返納したいと思う」の割合が65～74歳と比較して高くなっているが、「自主返納したいと思わない」の割合も同様に75歳以上が高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	339	100.0%	221	100.0%	115	100.0%	3	100.0%	273	100.0%	63	100.0%	3	100.0%
自主返納したいと思う	71	20.9%	40	18.1%	31	27.0%	0	0.0%	54	19.8%	17	27.0%	0	0.0%
どちらともいえない	109	32.2%	60	27.1%	47	40.9%	2	66.7%	97	35.5%	10	15.9%	2	66.7%
自主返納したいと思わない	141	41.6%	110	49.8%	30	26.1%	1	33.3%	108	39.6%	32	50.8%	1	33.3%
無回答	18	5.3%	11	5.0%	7	6.1%	0	0.0%	14	5.1%	4	6.3%	0	0.0%

【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	23	100.0%	16	100.0%	7	100.0%	0	-	17	100.0%	6	100.0%	0	-
自主返納したいと思う	3	13.0%	1	6.3%	2	28.6%	0	-	3	17.6%	0	0.0%	0	-
どちらともいえない	4	17.4%	1	6.3%	3	42.9%	0	-	3	17.6%	1	16.7%	0	-
自主返納したいと思わない	13	56.5%	12	75.0%	1	14.3%	0	-	9	52.9%	4	66.7%	0	-
無回答	3	13.0%	2	12.5%	1	14.3%	0	-	2	11.8%	1	16.7%	0	-

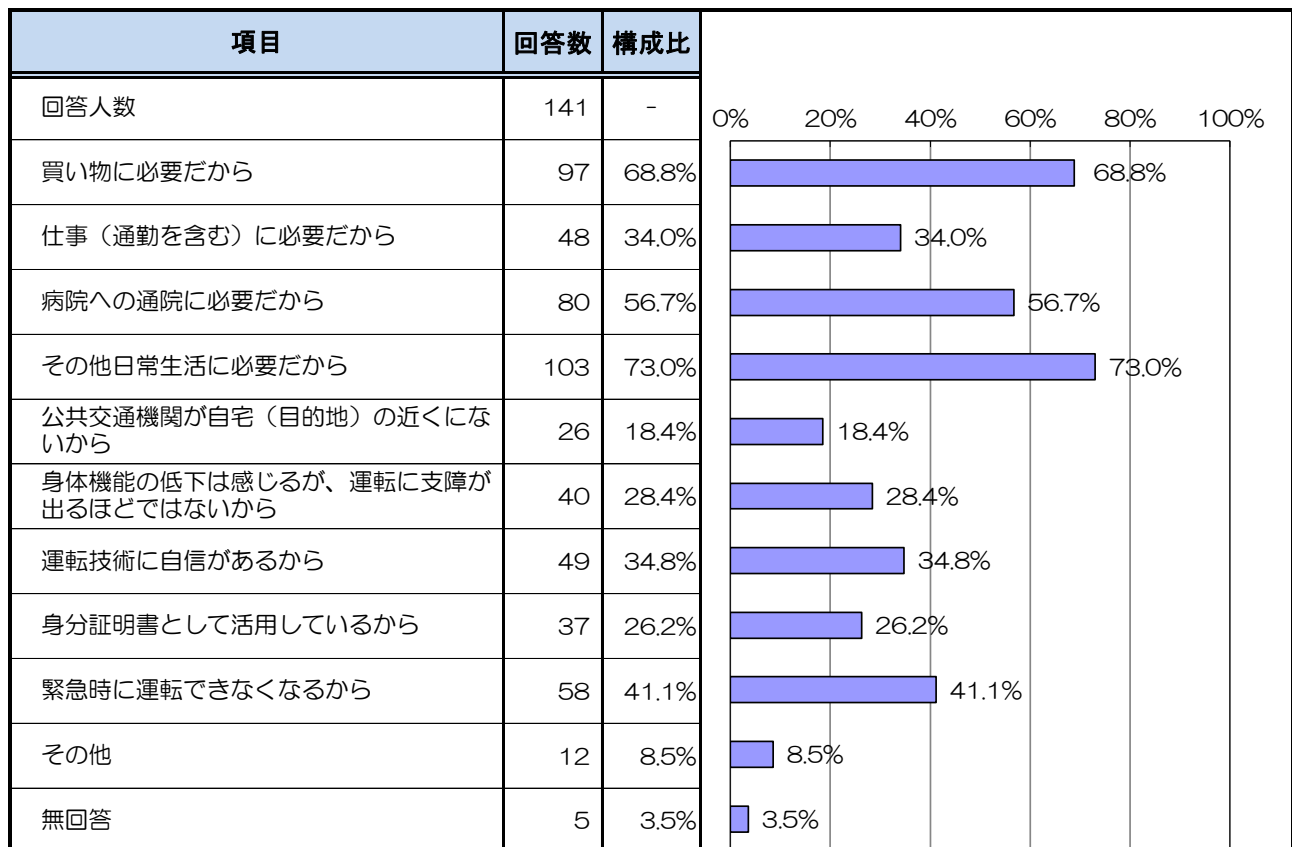


※問6-3で『3. 自主返納したいと思わない』とご回答された方にお聞きします。

問6-4 運転免許証の自主返納をしたいと思わない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

自主返納したいと思わない理由については、「その他日常生活に必要なだから」が73.0%と最も高く、次いで、「買い物に必要なだから」の68.8%、「病院への通院に必要なだから」の56.7%の順となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、男女ともに「その他日常生活に必要なだから」の割合が最も高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「買い物に必要なだから」「病院への通院に必要なだから」「身体機能の低下は感じるが、運転に支障が出るほどではないから」「運転技術に自信があるから」の割合が65～74歳と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	141	-	110	-	30	-	1	-	108	-	32	-	1	-
買い物に必要なだから	97	68.8%	75	68.2%	21	70.0%	1	100.0%	70	64.8%	26	81.3%	1	100.0%
仕事（通勤を含む）に必要なだから	48	34.0%	39	35.5%	9	30.0%	0	0.0%	39	36.1%	9	28.1%	0	0.0%
病院への通院に必要なだから	80	56.7%	69	62.7%	10	33.3%	1	100.0%	54	50.0%	25	78.1%	1	100.0%
その他日常生活に必要なだから	103	73.0%	81	73.6%	22	73.3%	0	0.0%	77	71.3%	26	81.3%	0	0.0%
公共交通機関が自宅（目的地）の近くにないから	26	18.4%	23	20.9%	3	10.0%	0	0.0%	22	20.4%	4	12.5%	0	0.0%
身体機能の低下は感じるが、運転に支障が出るほどではないから	40	28.4%	36	32.7%	4	13.3%	0	0.0%	26	24.1%	14	43.8%	0	0.0%
運転技術に自信があるから	49	34.8%	44	40.0%	5	16.7%	0	0.0%	33	30.6%	16	50.0%	0	0.0%
身分証明書として活用しているから	37	26.2%	30	27.3%	7	23.3%	0	0.0%	28	25.9%	9	28.1%	0	0.0%
緊急時に運転できなくなるから	58	41.1%	49	44.5%	9	30.0%	0	0.0%	46	42.6%	12	37.5%	0	0.0%
その他	12	8.5%	9	8.2%	3	10.0%	0	0.0%	10	9.3%	2	6.3%	0	0.0%
無回答	5	3.5%	5	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	5	4.6%	0	0.0%	0	0.0%

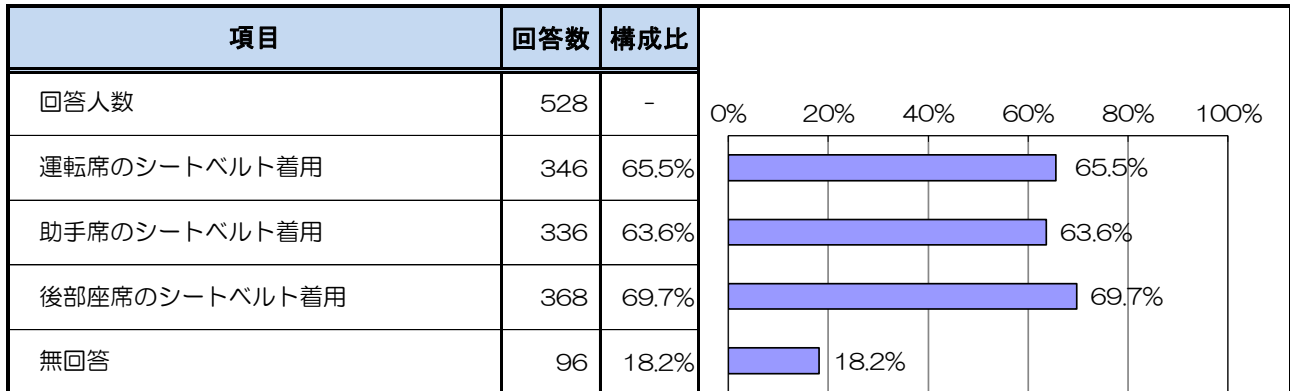
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	13	-	12	-	1	-	0	-	9	-	4	-	0	-
買い物に必要なだから	12	92.3%	11	91.7%	1	100.0%	0	-	9	100.0%	3	75.0%	0	-
仕事（通勤を含む）に必要なだから	4	30.8%	3	25.0%	1	100.0%	0	-	2	22.2%	2	50.0%	0	-
病院への通院に必要なだから	11	84.6%	10	83.3%	1	100.0%	0	-	8	88.9%	3	75.0%	0	-
その他日常生活に必要なだから	12	92.3%	11	91.7%	1	100.0%	0	-	8	88.9%	4	100.0%	0	-
公共交通機関が自宅（目的地）の近くにないから	3	23.1%	3	25.0%	0	0.0%	0	-	3	33.3%	0	0.0%	0	-
身体機能の低下は感じるが、運転に支障が出るほどではないから	6	46.2%	5	41.7%	1	100.0%	0	-	4	44.4%	2	50.0%	0	-
運転技術に自信があるから	6	46.2%	6	50.0%	0	0.0%	0	-	4	44.4%	2	50.0%	0	-
身分証明書として活用しているから	5	38.5%	5	41.7%	0	0.0%	0	-	3	33.3%	2	50.0%	0	-
緊急時に運転できなくなるから	6	46.2%	6	50.0%	0	0.0%	0	-	4	44.4%	2	50.0%	0	-
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-

問7 あなたは、自動車を運転するときに、後部座席同乗者も含め、全席でシートベルトを着用しなければならないことを知っていますか。また、実際に着用していますか。（あてはまるものすべてに○）

ア 知っている

「後部座席のシートベルト着用」が69.7%と最も高く、次いで、「運転席のシートベルト着用」の65.5%、「助手席のシートベルト着用」の63.6%の順となっている。



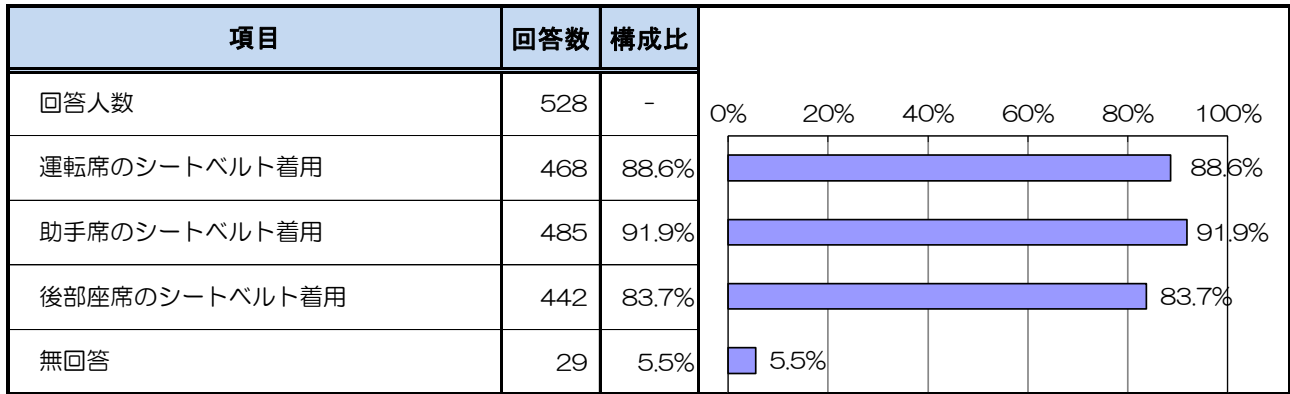
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	45	-
運転席のシートベルト着用	33	73.3%
助手席のシートベルト着用	32	71.1%
後部座席のシートベルト着用	33	73.3%
無回答	6	13.3%

【参考】

問7において、「イ. 着用している」のみへの回答が一定数見られたため、「ア. 知っている」「イ. 着用している」のいずれかに回答した場合を「知っている」と仮定した場合の集計結果を以下に示す。

「助手席のシートベルト着用」が91.9%と最も高く、次いで、「運転席のシートベルト着用」の88.6%、「後部座席のシートベルト着用」の83.7%の順となっている。



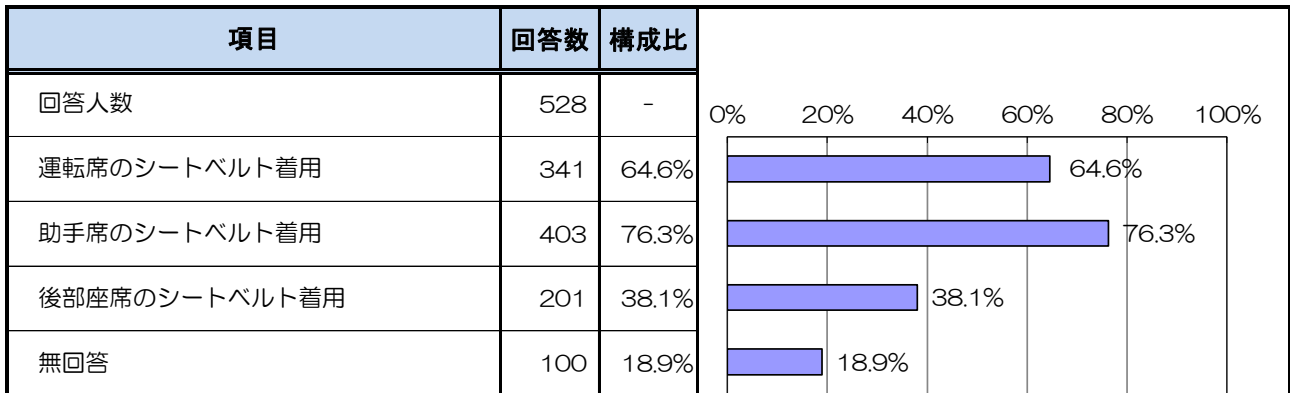
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	45	-
運転席のシートベルト着用	41	91.1%
助手席のシートベルト着用	41	91.1%
後部座席のシートベルト着用	38	84.4%
無回答	2	4.4%

【高齢者】

イ 着用している

「助手席のシートベルト着用」が76.3%と最も高く、次いで、「運転席のシートベルト着用」の64.6%、「後部座席のシートベルト着用」の38.1%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「運転席のシートベルト着用」の割合が女性と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	-	261	-	262	-	5	-
運転席のシートベルト着用	341	64.6%	203	77.8%	135	51.5%	3	60.0%
助手席のシートベルト着用	403	76.3%	208	79.7%	191	72.9%	4	80.0%
後部座席のシートベルト着用	201	38.1%	96	36.8%	102	38.9%	3	60.0%
無回答	100	18.9%	43	16.5%	56	21.4%	1	20.0%

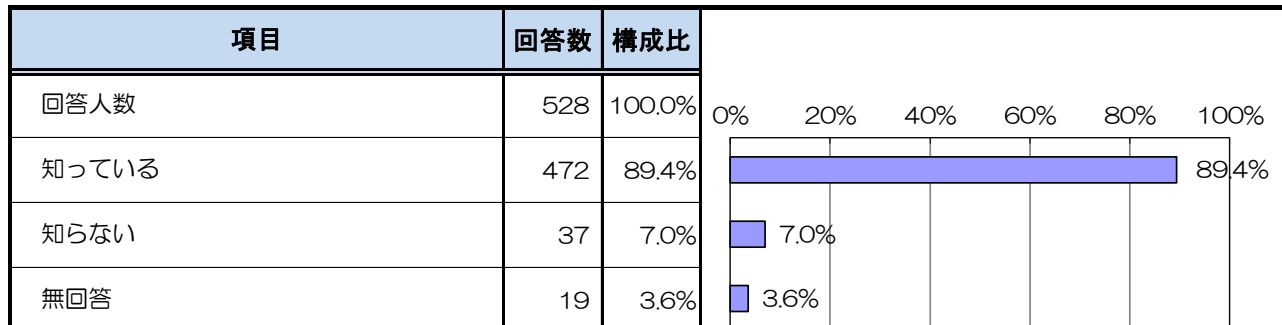
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	45	-	20	-	25	-	0	-
運転席のシートベルト着用	22	48.9%	14	70.0%	8	32.0%	0	-
助手席のシートベルト着用	32	71.1%	15	75.0%	17	68.0%	0	-
後部座席のシートベルト着用	18	40.0%	7	35.0%	11	44.0%	0	-
無回答	9	20.0%	3	15.0%	6	24.0%	0	-

【高齢者】

問8 あなたは、夜間や薄暗いときに外出する際、夜光反射材がついたものを活用することの重要性を知っていますか。(1つに○)

夜光反射材の重要性の認識度については、「知っている」が89.4%、「知らない」が7.0%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「知っている」の割合が女性と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%
知っている	472	89.4%	241	92.3%	227	86.6%	4	80.0%
知らない	37	7.0%	17	6.5%	19	7.3%	1	20.0%
無回答	19	3.6%	3	1.1%	16	6.1%	0	0.0%

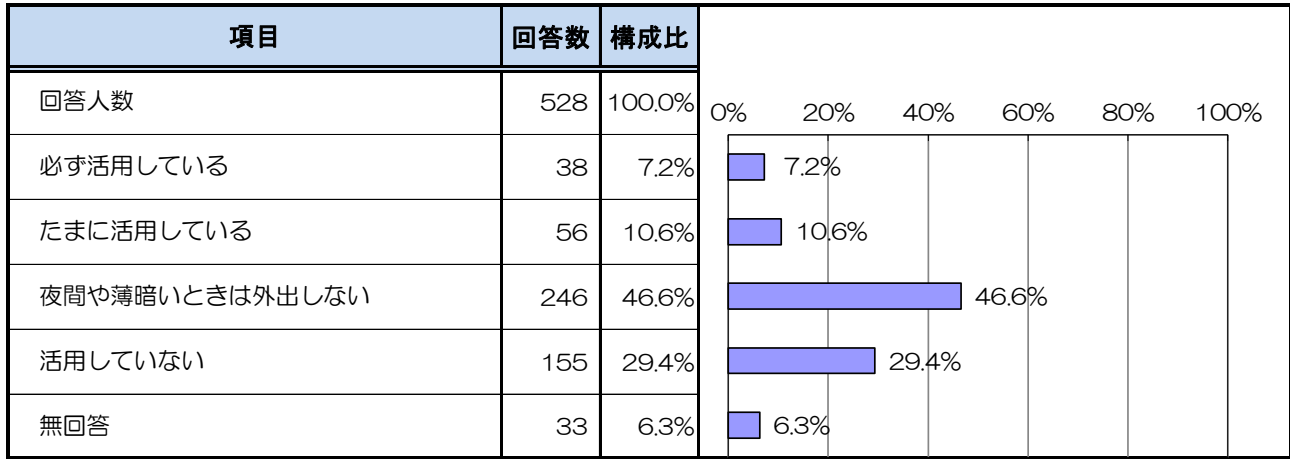
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	45	100.0%	20	100.0%	25	100.0%	0	-
知っている	44	97.8%	20	100.0%	24	96.0%	0	-
知らない	1	2.2%	0	0.0%	1	4.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

【高齢者】

問9 あなたは、夜間や薄暗いときに外出する際、夜光反射材がついたものを活用していますか。  
(1つに○)

夜光反射材の重要性の活用状況については、「夜間や薄暗いときは外出しない」が46.6%と最も高く、次いで、「活用していない」の29.4%、「たまに活用している」の10.6%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「活用していない」の割合、女性の「夜間や薄暗いときは外出しない」の割合がそれぞれ異性と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%
必ず活用している	38	7.2%	23	8.8%	14	5.3%	1	20.0%
たまに活用している	56	10.6%	29	11.1%	26	9.9%	1	20.0%
夜間や薄暗いときは外出しない	246	46.6%	102	39.1%	142	54.2%	2	40.0%
活用していない	155	29.4%	94	36.0%	60	22.9%	1	20.0%
無回答	33	6.3%	13	5.0%	20	7.6%	0	0.0%

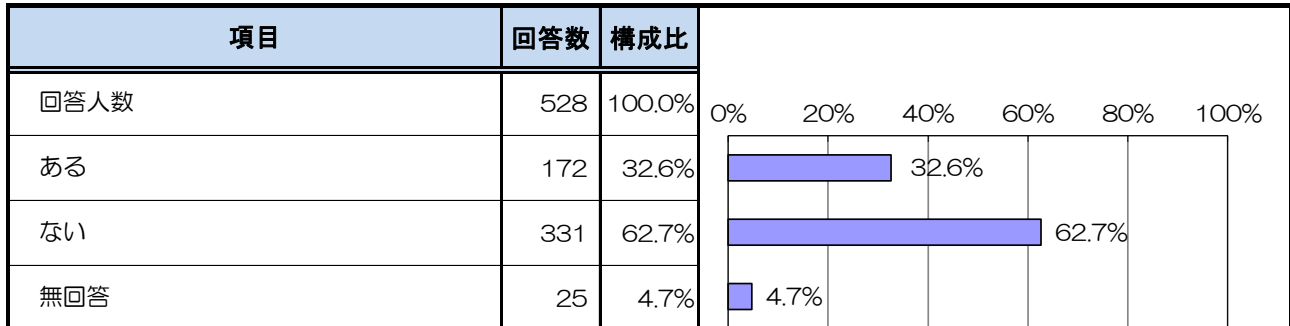
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	45	100.0%	20	100.0%	25	100.0%	0	-
必ず活用している	4	8.9%	4	20.0%	0	0.0%	0	-
たまに活用している	5	11.1%	2	10.0%	3	12.0%	0	-
夜間や薄暗いときは外出しない	28	62.2%	9	45.0%	19	76.0%	0	-
活用していない	8	17.8%	5	25.0%	3	12.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

【高齢者】

問 10 この1年間（平成27年7月から平成28年6月まで）に転んだこと、または、転びそうになりヒヤリとしたことがありますか。（1つに○）

転んだ（転びそうになった）経験の有無については、「ない」が62.7%、「ある」が32.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女性の「ある」の割合が男性と比較して高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「ある」の割合が65～74歳と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%	348	100.0%	174	100.0%	6	100.0%
ある	172	32.6%	72	27.6%	99	37.8%	1	20.0%	84	24.1%	87	50.0%	1	16.7%
ない	331	62.7%	184	70.5%	144	55.0%	3	60.0%	247	71.0%	80	46.0%	4	66.7%
無回答	25	4.7%	5	1.9%	19	7.3%	1	20.0%	17	4.9%	7	4.0%	1	16.7%

【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	44	100.0%	21	100.0%	23	100.0%	0	-	29	100.0%	15	100.0%	0	-
ある	13	29.5%	6	28.6%	7	30.4%	0	-	7	24.1%	6	40.0%	0	-
ない	29	65.9%	15	71.4%	14	60.9%	0	-	20	69.0%	9	60.0%	0	-
無回答	2	4.5%	0	0.0%	2	8.7%	0	-	2	6.9%	0	0.0%	0	-



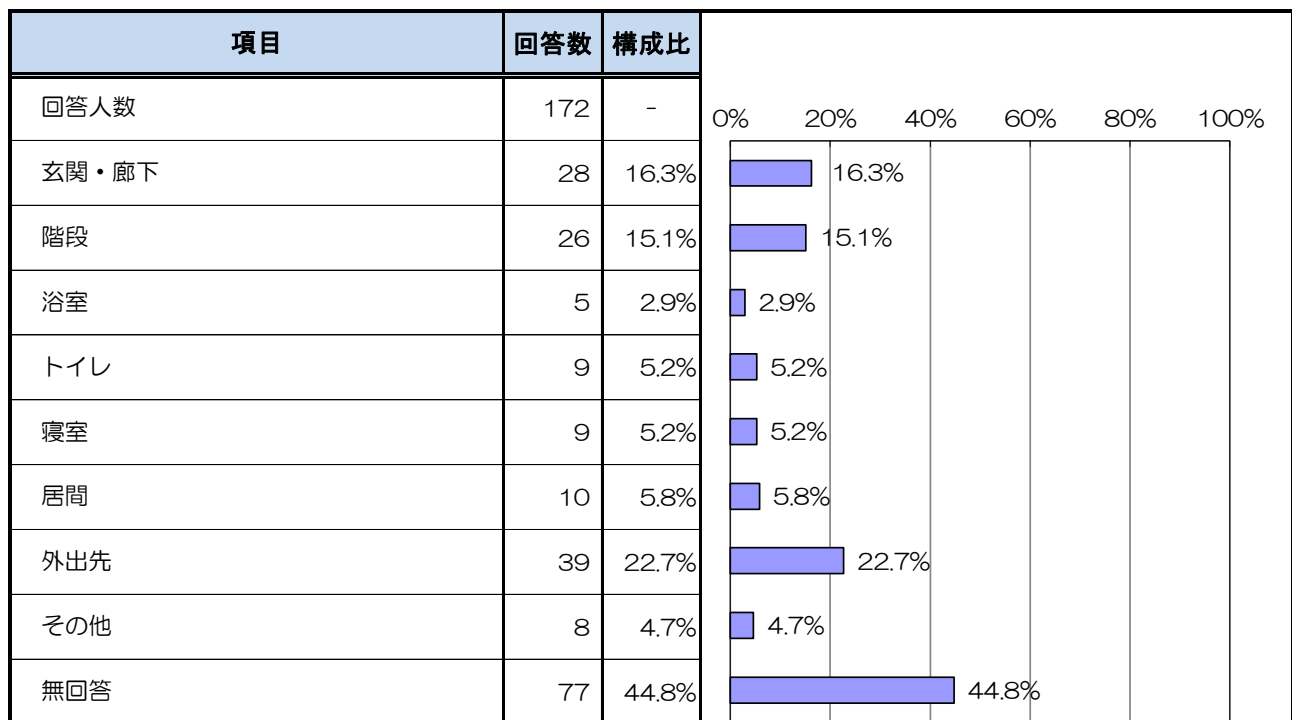
【高齢者】

※問 10 で『1. ある』とご回答された方にお聞きします。

問 10-1 転んだことがある、または、転びそうになりヒヤリとした場所はどこですか。  
(あてはまるものすべてに○)

ア 転んだことがある場所

「無回答」を除くと、「外出先」が 22.7%と最も高く、次いで、「玄関・廊下」の 16.3%の順となっており、無回答を除いた回答総数の 64.9%を「玄関・廊下」「階段」などの屋内が占めている。



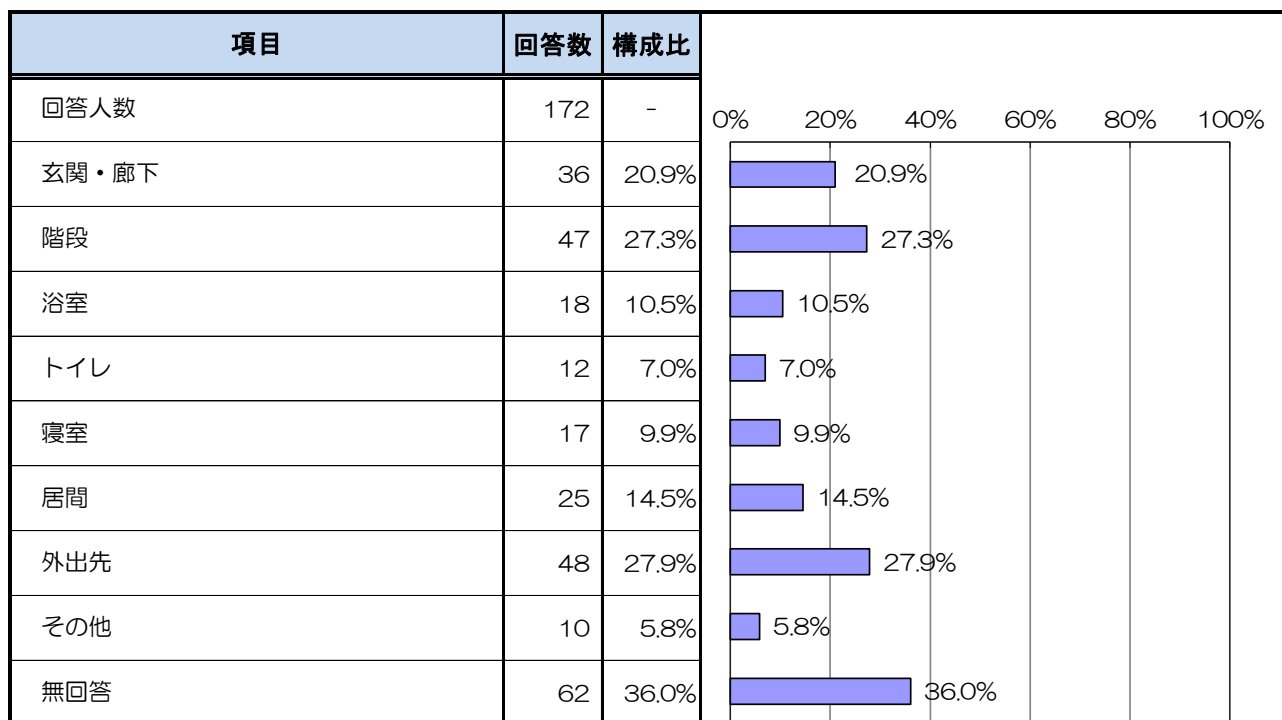
【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	13	-
玄関・廊下	3	23.1%
階段	2	15.4%
浴室	0	0.0%
トイレ	0	0.0%
寝室	0	0.0%
居間	0	0.0%
外出先	4	30.8%
その他	0	0.0%
無回答	6	46.2%

【高齢者】

イ ヒヤリとしたことがある場所

「無回答」を除くと、「外出先」が27.9%と最も高く、次いで、「階段」の27.3%の順となっており、無回答を除いた回答総数の72.8%を「玄関・廊下」「階段」などの屋内が占めている。

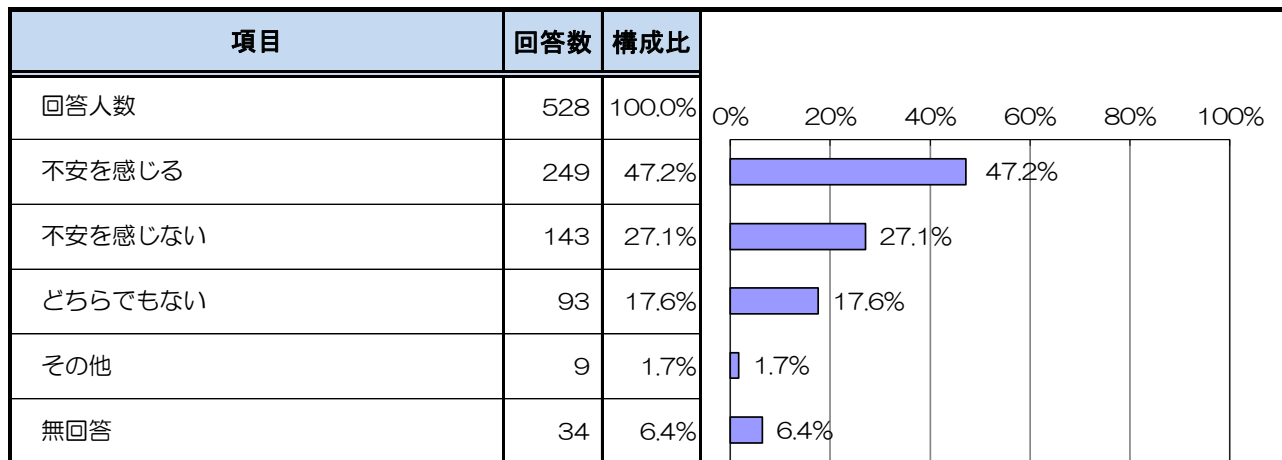


【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	13	-
玄関・廊下	5	38.5%
階段	2	15.4%
浴室	3	23.1%
トイレ	1	7.7%
寝室	1	7.7%
居間	2	15.4%
外出先	4	30.8%
その他	1	7.7%
無回答	3	23.1%

問 11 転倒に対する不安はありますか。(1つに○)

転倒に対する不安については、「不安を感じる」が47.2%と最も高く、次いで、「不安を感じない」の27.1%、「どちらでもない」の17.6%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、女性の「不安を感じる」の割合が男性と比較して高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「不安を感じる」の割合が65～74歳と比較して高くなっている。

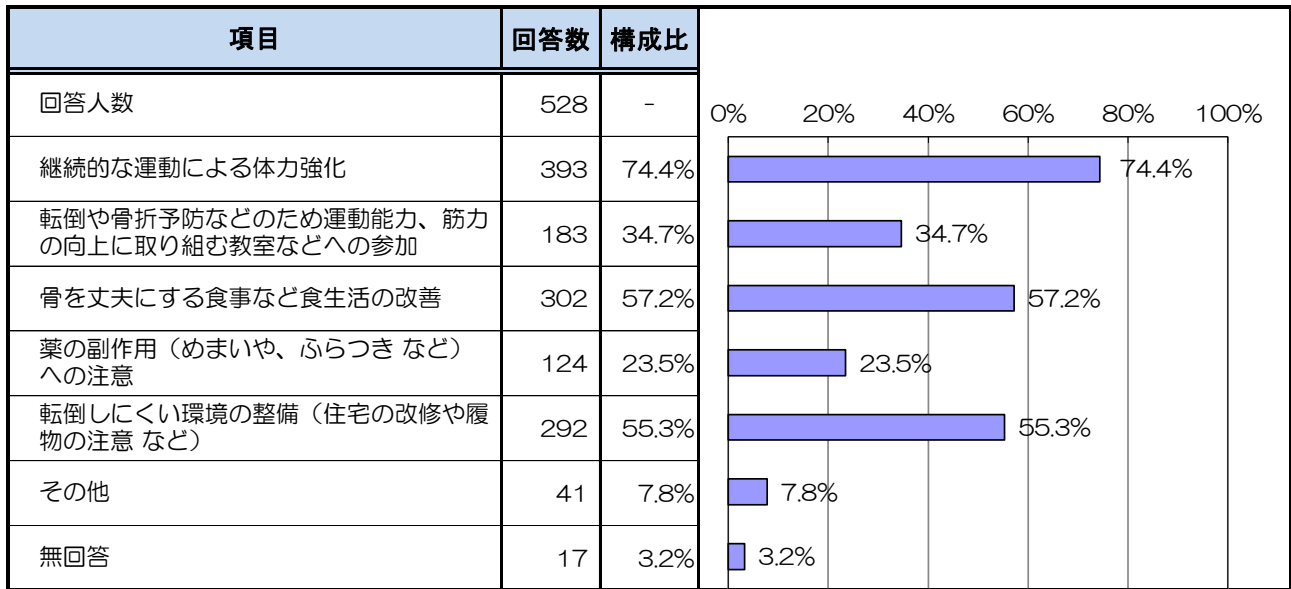
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%	348	100.0%	174	100.0%	6	100.0%
不安を感じる	249	47.2%	95	36.4%	150	57.3%	4	80.0%	133	38.2%	111	63.8%	5	83.3%
不安を感じない	143	27.1%	99	37.9%	44	16.8%	0	0.0%	119	34.2%	24	13.8%	0	0.0%
どちらでもない	93	17.6%	54	20.7%	38	14.5%	1	20.0%	65	18.7%	27	15.5%	1	16.7%
その他	9	1.7%	3	1.1%	6	2.3%	0	0.0%	7	2.0%	2	1.1%	0	0.0%
無回答	34	6.4%	10	3.8%	24	9.2%	0	0.0%	24	6.9%	10	5.7%	0	0.0%

【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	44	100.0%	21	100.0%	23	100.0%	0	-	29	100.0%	15	100.0%	0	-
不安を感じる	22	50.0%	12	57.1%	10	43.5%	0	-	12	41.4%	10	66.7%	0	-
不安を感じない	9	20.5%	5	23.8%	4	17.4%	0	-	7	24.1%	2	13.3%	0	-
どちらでもない	10	22.7%	3	14.3%	7	30.4%	0	-	7	24.1%	3	20.0%	0	-
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	3	6.8%	1	4.8%	2	8.7%	0	-	3	10.3%	0	0.0%	0	-

問 12 転倒事故を予防するために必要であると思うことは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

転倒事故を予防するために必要であると思うことについては、「継続的な運動による体力強化」が74.4%と最も高く、次いで、「骨を丈夫にする食事など食生活の改善」の57.2%、「転倒しにくい環境の整備（住宅の改修や履物の注意 など）」の55.3%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「継続的な運動による体力強化」の割合、女性の「転倒や骨折予防のため運動能力、筋力の向上に取り組む教室などへの参加」「骨を丈夫にする食事など食生活の改善」がそれぞれ異性と比較して高くなっている。

年齢別では、65～74歳の「継続的な運動による体力強化」の割合が75歳以上と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	-	261	-	262	-	5	-	348	-	174	-	6	-
継続的な運動による体力強化	393	74.4%	210	80.5%	180	68.7%	3	60.0%	281	80.7%	109	62.6%	3	50.0%
転倒や骨折予防などのため運動能力、筋力の向上に取り組む教室などへの参加	183	34.7%	77	29.5%	104	39.7%	2	40.0%	125	35.9%	55	31.6%	3	50.0%
骨を丈夫にする食事など食生活の改善	302	57.2%	131	50.2%	169	64.5%	2	40.0%	203	58.3%	96	55.2%	3	50.0%
薬の副作用（めまいや、ふらつきなど）への注意	124	23.5%	63	24.1%	60	22.9%	1	20.0%	73	21.0%	49	28.2%	2	33.3%
転倒しにくい環境の整備（住宅の改修や履物の注意 など）	292	55.3%	137	52.5%	151	57.6%	4	80.0%	184	52.9%	104	59.8%	4	66.7%
その他	41	7.8%	14	5.4%	27	10.3%	0	0.0%	23	6.6%	18	10.3%	0	0.0%
無回答	17	3.2%	7	2.7%	10	3.8%	0	0.0%	10	2.9%	7	4.0%	0	0.0%

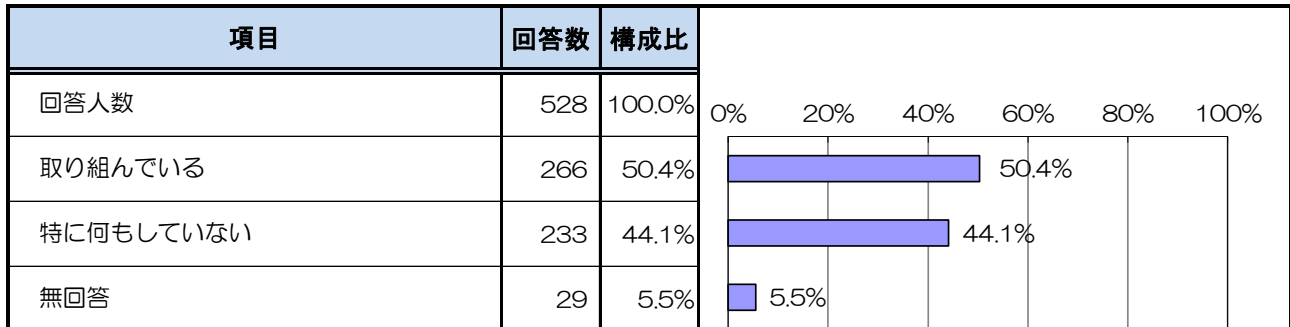
## 【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	44	-	21	-	23	-	0	-	29	-	15	-	0	-
継続的な運動による体力強化	34	77.3%	20	95.2%	14	60.9%	0	-	25	86.2%	9	60.0%	0	-
転倒や骨折予防などのため運動能力、筋力の向上に取り組み教室などへの参加	16	36.4%	11	52.4%	5	21.7%	0	-	10	34.5%	6	40.0%	0	-
骨を丈夫にする食事など食生活の改善	28	63.6%	14	66.7%	14	60.9%	0	-	17	58.6%	11	73.3%	0	-
薬の副作用（めまいや、ふらつきなど）への注意	10	22.7%	2	9.5%	8	34.8%	0	-	7	24.1%	3	20.0%	0	-
転倒しにくい環境の整備（住宅の改修や履物の注意など）	21	47.7%	7	33.3%	14	60.9%	0	-	13	44.8%	8	53.3%	0	-
その他	5	11.4%	2	9.5%	3	13.0%	0	-	1	3.4%	4	26.7%	0	-
無回答	2	4.5%	0	0.0%	2	8.7%	0	-	1	3.4%	1	6.7%	0	-

【高齢者】

問 13 あなたは、転倒事故の予防に取り組んでいますか。(1つに○)

転倒事故の予防に取り組んでいるかについては、「取り組んでいる」が50.4%、「特に何もしていない」が44.1%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「特に何もしていない」の割合が女性と比較して高くなっている。

年齢別では、65～74歳の「特に何もしていない」の割合が75歳以上と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%	348	100.0%	174	100.0%	6	100.0%
取り組んでいる	266	50.4%	123	47.1%	140	53.4%	3	60.0%	167	48.0%	96	55.2%	3	50.0%
特に何もしていない	233	44.1%	129	49.4%	102	38.9%	2	40.0%	169	48.6%	62	35.6%	2	33.3%
無回答	29	5.5%	9	3.4%	20	7.6%	0	0.0%	12	3.4%	16	9.2%	1	16.7%

【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

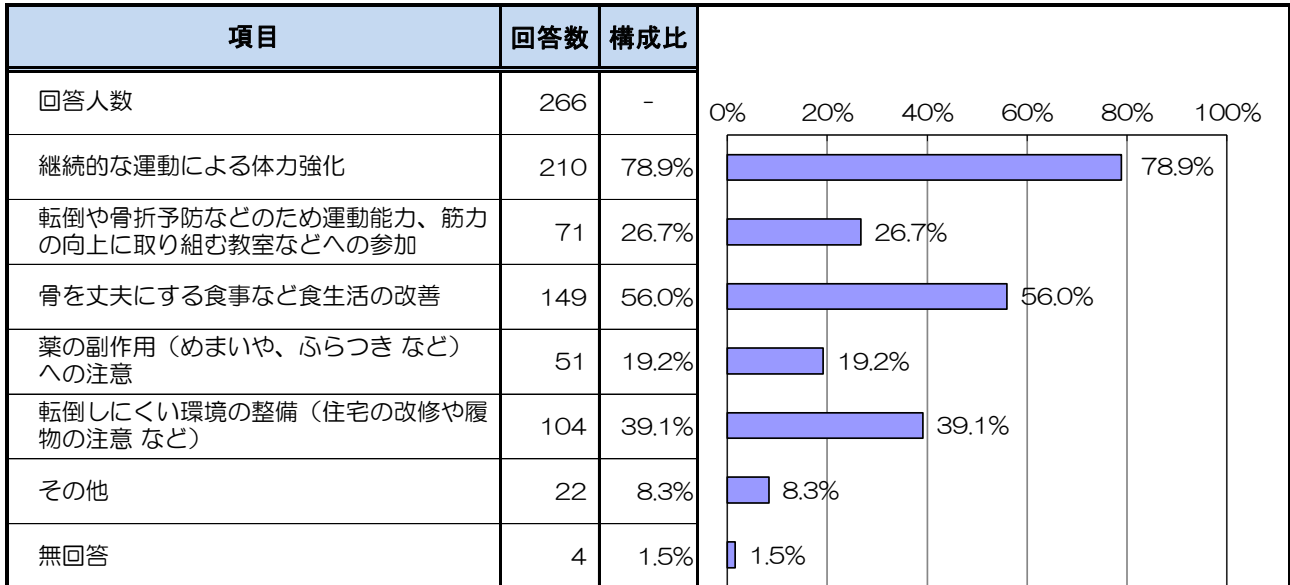
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	44	100.0%	21	100.0%	23	100.0%	0	-	29	100.0%	15	100.0%	0	-
取り組んでいる	26	59.1%	13	61.9%	13	56.5%	0	-	17	58.6%	9	60.0%	0	-
特に何もしていない	17	38.6%	8	38.1%	9	39.1%	0	-	12	41.4%	5	33.3%	0	-
無回答	1	2.3%	0	0.0%	1	4.3%	0	-	0	0.0%	1	6.7%	0	-

【高齢者】

※問 13 で『1. 取り組んでいる』とご回答された方にお聞きします。

問 13-1 あなたが取り組んでいる転倒事故の予防活動は何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

転倒予防のために取り組んでいることについては、「継続的な運動による体力強化」が 78.9%と最も高く、次いで、「骨を丈夫にする食事など食生活の改善」の 56.0%、「転倒しにくい環境の整備（住宅の改修や履物の注意 など）」の 39.1%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「継続的な運動による体力強化」の割合が女性と比較して高くなっている。

年齢別では、65～74歳の「継続的な運動による体力強化」の割合、75歳以上の「転倒しにくい環境の整備（住宅の改修や履物の注意 など）」の割合がそれぞれ他の年齢区分と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	266	-	123	-	140	-	3	-	167	-	96	-	3	-
継続的な運動による体力強化	210	78.9%	106	86.2%	101	72.1%	3	100.0%	141	84.4%	66	68.8%	3	100.0%
転倒や骨折予防などのため運動能力、筋力の向上に取り組む教室などへの参加	71	26.7%	31	25.2%	39	27.9%	1	33.3%	49	29.3%	21	21.9%	1	33.3%
骨を丈夫にする食事など食生活の改善	149	56.0%	63	51.2%	84	60.0%	2	66.7%	93	55.7%	54	56.3%	2	66.7%
薬の副作用（めまいや、ふらつきなど）への注意	51	19.2%	28	22.8%	22	15.7%	1	33.3%	28	16.8%	22	22.9%	1	33.3%
転倒しにくい環境の整備（住宅の改修や履物の注意 など）	104	39.1%	48	39.0%	54	38.6%	2	66.7%	53	31.7%	49	51.0%	2	66.7%
その他	22	8.3%	14	11.4%	7	5.0%	1	33.3%	11	6.6%	10	10.4%	1	33.3%
無回答	4	1.5%	2	1.6%	2	1.4%	0	0.0%	1	0.6%	3	3.1%	0	0.0%

## 【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	26	-	13	-	13	-	0	-	17	-	9	-	0	-
継続的な運動による体力強化	21	80.8%	12	92.3%	9	69.2%	0	-	14	82.4%	7	77.8%	0	-
転倒や骨折予防などのため運動能力、筋力の向上に取り組み教室などへの参加	5	19.2%	4	30.8%	1	7.7%	0	-	3	17.6%	2	22.2%	0	-
骨を丈夫にする食事など食生活の改善	16	61.5%	7	53.8%	9	69.2%	0	-	10	58.8%	6	66.7%	0	-
薬の副作用（めまいや、ふらつきなど）への注意	7	26.9%	3	23.1%	4	30.8%	0	-	4	23.5%	3	33.3%	0	-
転倒しにくい環境の整備（住宅の改修や履物の注意など）	9	34.6%	2	15.4%	7	53.8%	0	-	4	23.5%	5	55.6%	0	-
その他	1	3.8%	1	7.7%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	1	11.1%	0	-
無回答	1	3.8%	1	7.7%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	1	11.1%	0	-

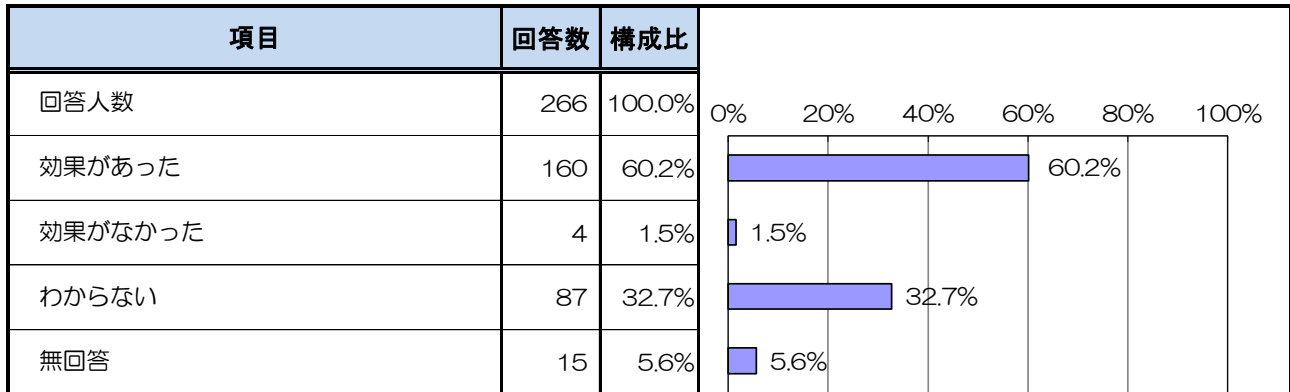


【高齢者】

※問 13 で『1. 取り組んでいる』とご回答された方にお聞きします。

問 13-2 あなたが、転倒事故の予防活動に取り組んだ効果はありましたか。(1つに○)

転倒事故の予防活動に取り組んだ効果については、「効果があった」が 60.2%と最も高く、次いで、「わからない」の 32.7%の順となっている。



【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

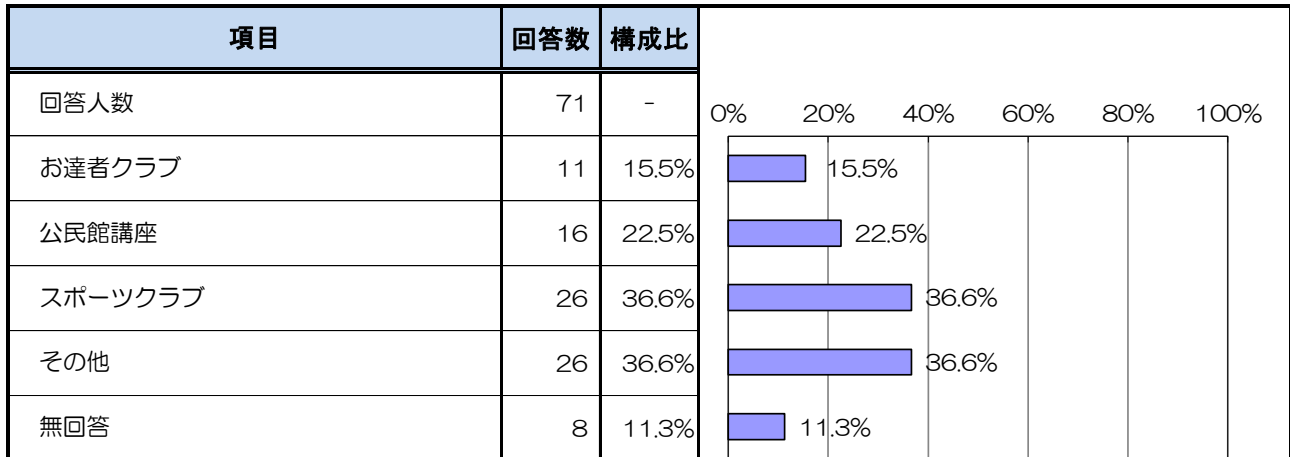
項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	26	100.0%
効果があった	14	53.8%
効果がなかった	0	0.0%
分からない	10	38.5%
無回答	2	7.7%

【高齢者】

※問 13-1で『2. 転倒や骨折予防などのため運動能力、筋力の向上に取り組む教室などへの参加』に取り組んでいるとご回答された方にお聞きします。

問 13-3 次のうち、あなたが、参加されているものはどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

転倒予防のために参加していることについては、「その他」を除くと、「スポーツクラブ」が 36.6%と最も高く、次いで、「公民館講座」の 22.5%、「お達者クラブ」の 15.5%の順となっている。



【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

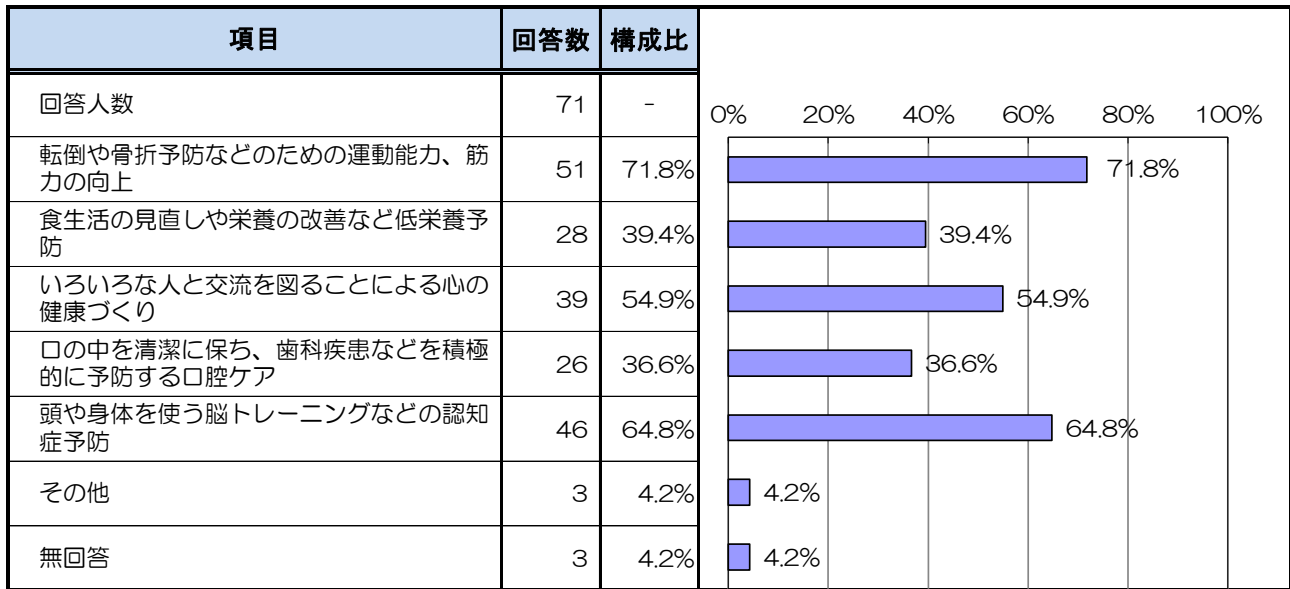
項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	5	-
お達者クラブ	1	20.0%
公民館講座	0	0.0%
スポーツクラブ	1	20.0%
その他	3	60.0%
無回答	1	20.0%

【高齢者】

※問 13-1 で『2. 転倒や骨折予防などのため運動能力、筋力の向上に取り組む教室などへの参加』に取り組んでいるとご回答された方にお聞きします。

問 13-4 次のうち、あなたが、参加したいと思うものは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

転倒予防のために参加したいと思うものについては、「転倒や骨折予防などのための運動能力、筋力の向上」が71.8%と最も高く、次いで、「頭や身体を使う脳トレーニングなどの認知症予防」の64.8%、「いろいろな人と交流を図ることによる心の健康づくり」の54.9%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「転倒や骨折予防などのための運動能力、筋力の向上」「いろいろな人と交流を図ることによる心の健康づくり」の割合が女性と比較して高くなっている。

年齢別では、すべての回答項目において、75歳以上の回答割合が65~74歳と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	71	-	31	-	39	-	1	-	49	-	21	-	1	-
転倒や骨折予防などのための運動能力、筋力の向上	51	71.8%	24	77.4%	26	66.7%	1	100.0%	32	65.3%	18	85.7%	1	100.0%
食生活の見直しや栄養の改善など低栄養予防	28	39.4%	13	41.9%	14	35.9%	1	100.0%	15	30.6%	12	57.1%	1	100.0%
いろいろな人と交流を図ることによる心の健康づくり	39	54.9%	19	61.3%	19	48.7%	1	100.0%	22	44.9%	16	76.2%	1	100.0%
口の中を清潔に保ち、歯科疾患などを積極的に予防する口腔ケア	26	36.6%	10	32.3%	15	38.5%	1	100.0%	17	34.7%	8	38.1%	1	100.0%
頭や身体を使う脳トレーニングなどの認知症予防	46	64.8%	21	67.7%	24	61.5%	1	100.0%	28	57.1%	17	81.0%	1	100.0%
その他	3	4.2%	3	9.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	2	9.5%	0	0.0%
無回答	3	4.2%	1	3.2%	2	5.1%	0	0.0%	3	6.1%	0	0.0%	0	0.0%

## 【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

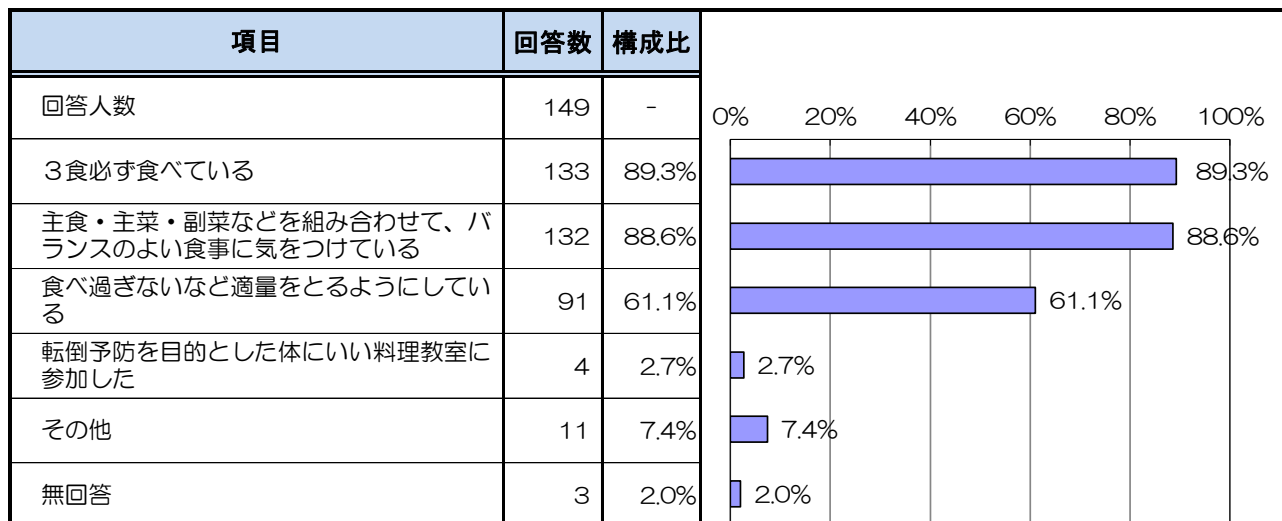
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	5	-	4	-	1	-	0	-	3	-	2	-	0	-
転倒や骨折予防などのための運動能力、筋力の向上	4	80.0%	3	75.0%	1	100.0%	0	-	2	66.7%	2	100.0%	0	-
食生活の見直しや栄養の改善など低栄養予防	3	60.0%	2	50.0%	1	100.0%	0	-	1	33.3%	2	100.0%	0	-
いろいろな人と交流を図ることによる心の健康づくり	2	40.0%	1	25.0%	1	100.0%	0	-	0	0.0%	2	100.0%	0	-
口の中を清潔に保ち、歯科疾患などを積極的に予防する口腔ケア	3	60.0%	2	50.0%	1	100.0%	0	-	1	33.3%	2	100.0%	0	-
頭や身体を使う脳トレーニングなどの認知症予防	4	80.0%	3	75.0%	1	100.0%	0	-	2	66.7%	2	100.0%	0	-
その他	1	20.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	1	50.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-

【高齢者】

※問 13-1 で『3. 骨を丈夫にする食事など食生活の改善』に取り組んでいるとご回答された方にお聞きします。

問 13-5 食生活の改善として気をつけている点や、取り組んだことは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

食生活の改善として気をつけている点や、取り組んだことについては、「3食必ず食べている」が89.3%と最も高く、次いで、「主食・主菜・副菜などを組み合わせて、バランスのよい食事に気をつけている」の88.6%、「食べ過ぎないなど適量をとるようにしている」の61.1%の順となっている。



【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

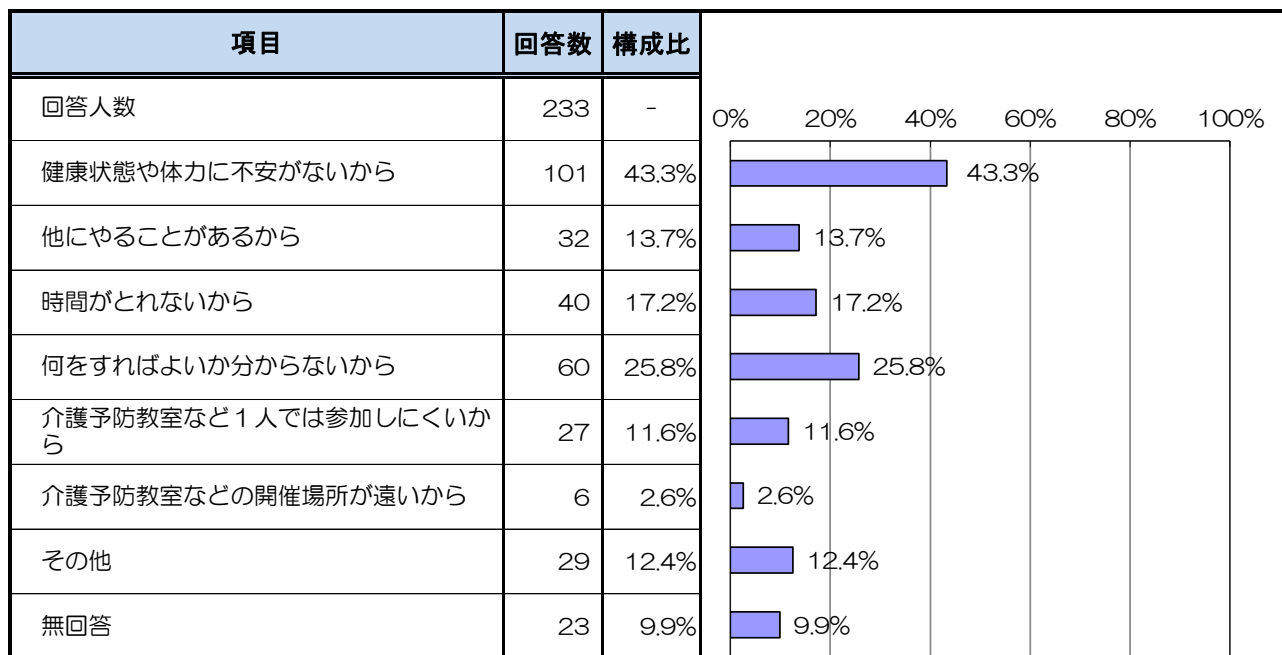
項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	16	-
3食必ず食べている	16	100.0%
主食・主菜・副菜などを組み合わせて、バランスのよい食事に気をつけている	16	100.0%
食べ過ぎないなど適量をとるようにしている	10	62.5%
転倒予防を目的とした体にいい料理教室に参加した	1	6.3%
その他	2	12.5%
無回答	0	0.0%

【高齢者】

※問 13 で『2. 特に何もしていない』とご回答された方にお聞きします。

問 13-6 転倒事故の予防に関して、特に何もしていない理由は何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

転倒予防のための取組をしていない理由については、「健康状態や体力に不安がないから」が 43.3%と最も高く、次いで、「何をすればよいか分からないから」の 25.8%、「時間がとれないから」の 17.2%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「健康状態や体力に不安がないから」「他にやることがあるから」の割合が女性と比較して高くなっている。

年齢別では、65～74歳の「健康状態や体力に不安がないから」「時間がとれないから」の割合、75歳以上の「何をすればよいか分からないから」「介護予防教室など1人では参加しにくいから」の割合がそれぞれ他の年齢区分と比較して高くなっている。

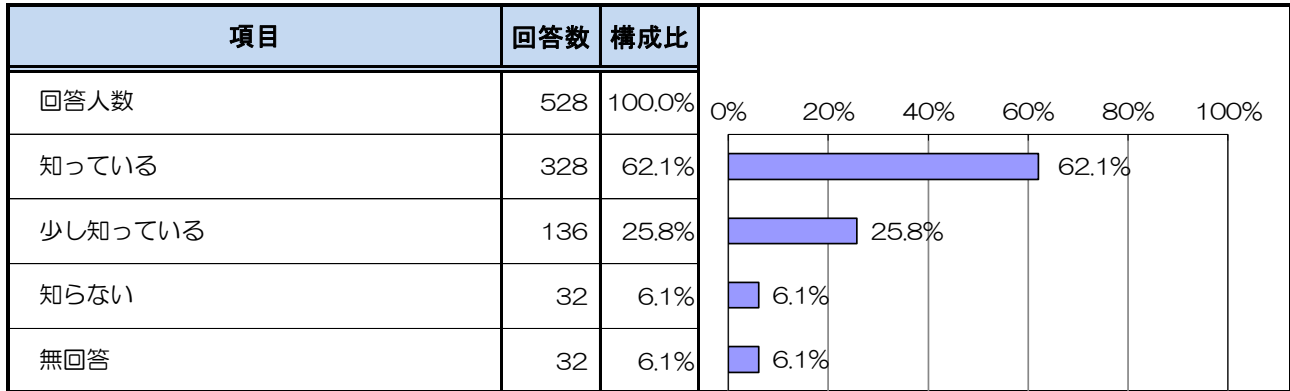
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	233	-	129	-	102	-	2	-	169	-	62	-	2	-
健康状態や体力に不安がないから	101	43.3%	70	54.3%	30	29.4%	1	50.0%	85	50.3%	15	24.2%	1	50.0%
他にやることがあるから	32	13.7%	25	19.4%	7	6.9%	0	0.0%	26	15.4%	6	9.7%	0	0.0%
時間がとれないから	40	17.2%	20	15.5%	19	18.6%	1	50.0%	33	19.5%	6	9.7%	1	50.0%
何をすればよいか分からないから	60	25.8%	29	22.5%	30	29.4%	1	50.0%	38	22.5%	21	33.9%	1	50.0%
介護予防教室など1人では参加しにくいから	27	11.6%	9	7.0%	17	16.7%	1	50.0%	13	7.7%	13	21.0%	1	50.0%
介護予防教室などの開催場所が遠いから	6	2.6%	3	2.3%	3	2.9%	0	0.0%	2	1.2%	4	6.5%	0	0.0%
その他	29	12.4%	8	6.2%	21	20.6%	0	0.0%	16	9.5%	13	21.0%	0	0.0%
無回答	23	9.9%	12	9.3%	11	10.8%	0	0.0%	14	8.3%	9	14.5%	0	0.0%

## 【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	17	-	8	-	9	-	0	-	12	-	5	-	0	-
健康状態や体力に不安がないから	10	58.8%	5	62.5%	5	55.6%	0	-	9	75.0%	1	20.0%	0	-
他にやることがあるから	4	23.5%	4	50.0%	0	0.0%	0	-	3	25.0%	1	20.0%	0	-
時間がとれないから	4	23.5%	1	12.5%	3	33.3%	0	-	4	33.3%	0	0.0%	0	-
何をすればよいか分からないから	10	58.8%	3	37.5%	7	77.8%	0	-	5	41.7%	5	100.0%	0	-
介護予防教室など1人では参加しにくいから	3	17.6%	0	0.0%	3	33.3%	0	-	2	16.7%	1	20.0%	0	-
介護予防教室などの開催場所が遠いから	1	5.9%	1	12.5%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	1	20.0%	0	-
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-

問 14 家の中の転倒しやすい場所や、家の中で転倒する原因を知っていますか。(1つに○)

家の中で転倒しやすい場所や転倒する原因を知っているかについては、「知っている」が62.1%と最も高く、次いで、「少し知っている」の25.8%の順となっている。



【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

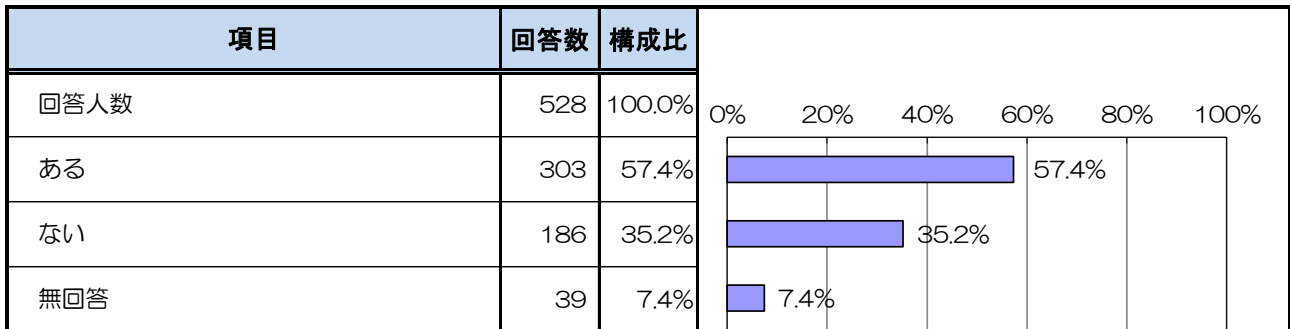
項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	44	100.0%
知っている	28	63.6%
少し知っている	12	27.3%
知らない	3	6.8%
無回答	1	2.3%



【高齢者】

問 15 自宅で転倒予防のため工夫していることがありますか。(1つに○)

自宅での転倒予防のための工夫の有無については、「ある」が57.4%、「ない」が35.2%となっている。



【属性別特徴】

年齢別では、75歳以上の「ある」の割合が65～74歳と比較して高くなっている。

項目	回答人数		年齢					
			65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	348	100.0%	174	100.0%	6	100.0%
ある	303	57.4%	179	51.4%	119	68.4%	5	83.3%
ない	186	35.2%	146	42.0%	40	23.0%	0	0.0%
無回答	39	7.4%	23	6.6%	15	8.6%	1	16.7%

【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

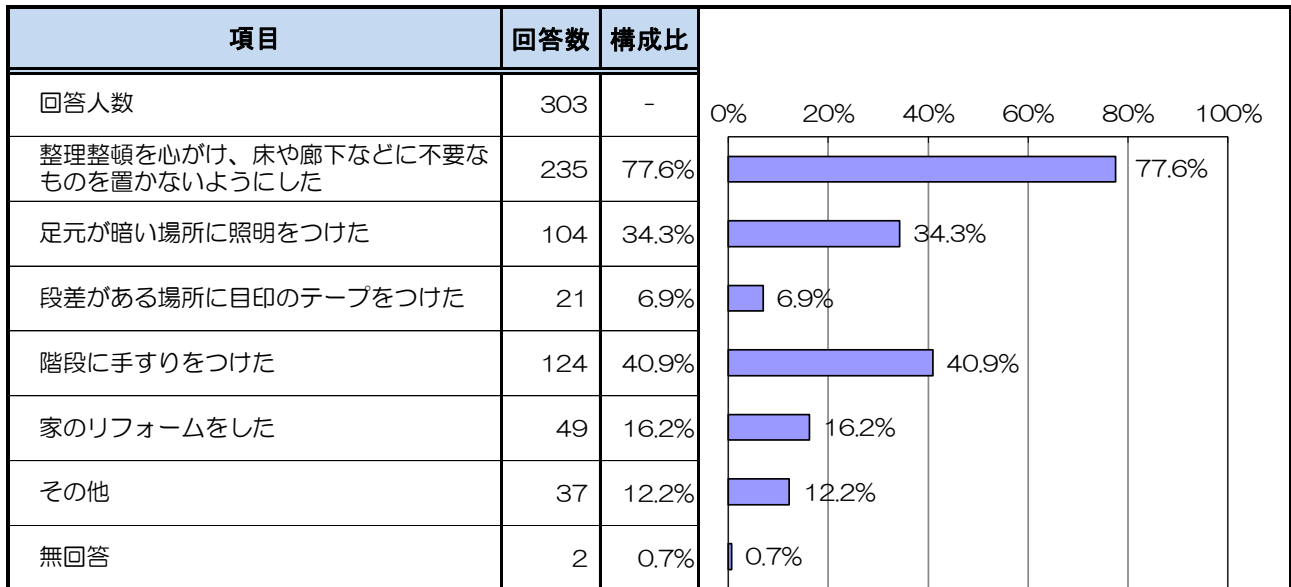
項目	回答人数		年齢					
			65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	44	100.0%	29	100.0%	15	100.0%	0	-
ある	27	61.4%	17	58.6%	10	66.7%	0	-
ない	14	31.8%	11	37.9%	3	20.0%	0	-
無回答	3	6.8%	1	3.4%	2	13.3%	0	-

【高齢者】

※問 15 で『1. ある』とご回答された方にお聞きします。

問 15-1 転倒予防のため工夫していることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

転倒予防のため工夫していることについては、「整理整頓を心がけ、床や廊下などに不要なものを置かないようにした」が 77.6%と最も高く、次いで、「階段に手すりをつけた」の 40.9%、「足元が暗い場所に照明をつけた」の 34.3%の順となっている。

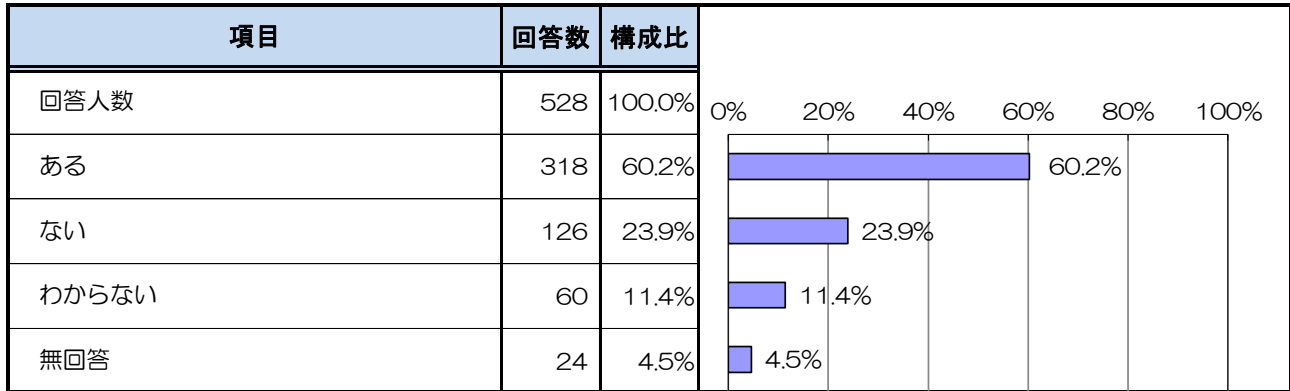


【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	27	-
整理整頓を心がけ、床や廊下などに不要なものを置かないようにした	21	77.8%
足元が暗い場所に照明をつけた	13	48.1%
段差がある場所に目印のテープをつけた	2	7.4%
階段に手すりをつけた	15	55.6%
家のリフォームをした	4	14.8%
その他	3	11.1%
無回答	1	3.7%

問 16 あなたは、ご自身や家族について、認知症に対する不安や心配がありますか。(1つに○)

認知症に対する不安については、「ある」が 60.2%と最も高く、次いで、「ない」の 23.9%、「わからない」の 11.4%の順となっている。

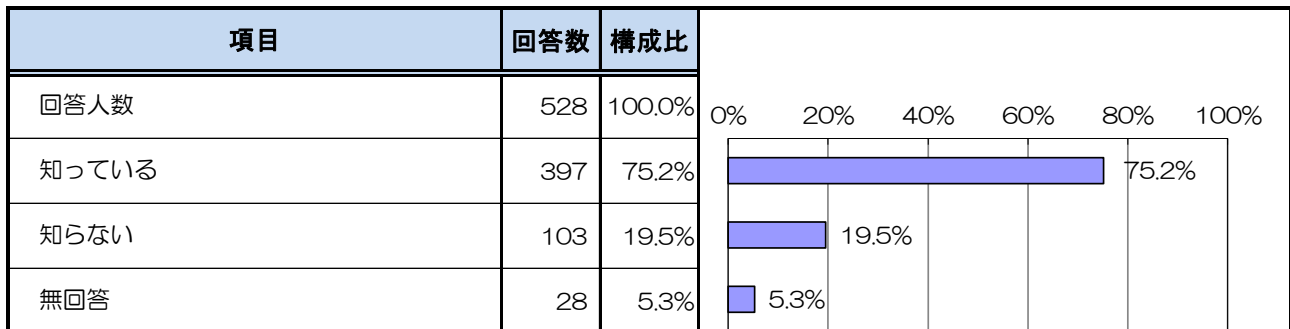


【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	44	100.0%
ある	29	65.9%
ない	9	20.5%
わからない	5	11.4%
無回答	1	2.3%

問 17 あなたは、認知症は病気によるものだと知っていますか。(1つに○)

認知症が病気によるものであることについては、「知っている」が75.2%、「知らない」が19.5%となっている。



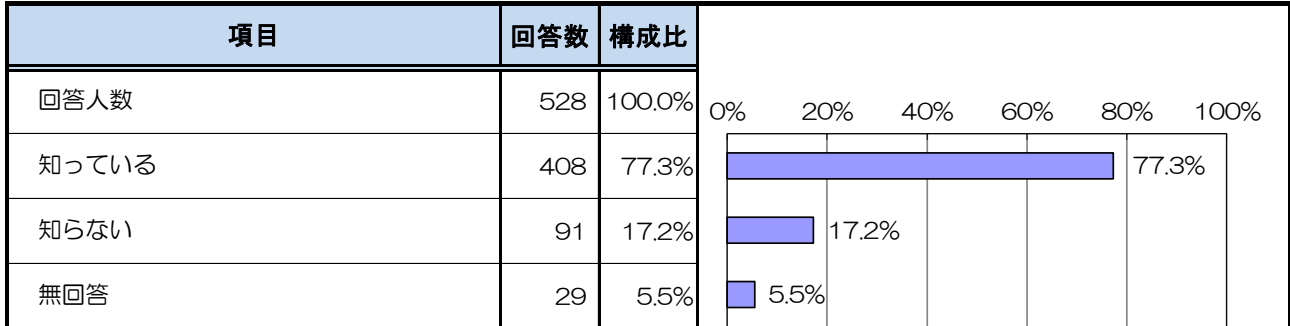
【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	44	100.0%
知っている	36	81.8%
知らない	7	15.9%
無回答	1	2.3%

【高齢者】

問 18 あなたは、認知症への理解不足が高齢者の方への虐待につながることを知っていますか。(1つに○)

認知症への理解不足が高齢者への虐待につながることを知ることについては、「知っている」が77.3%、「知らない」が17.2%となっている。



【属性別特徴】

年齢別では、65～74歳の「知っている」の割合が75歳以上と比較して高くなっている。

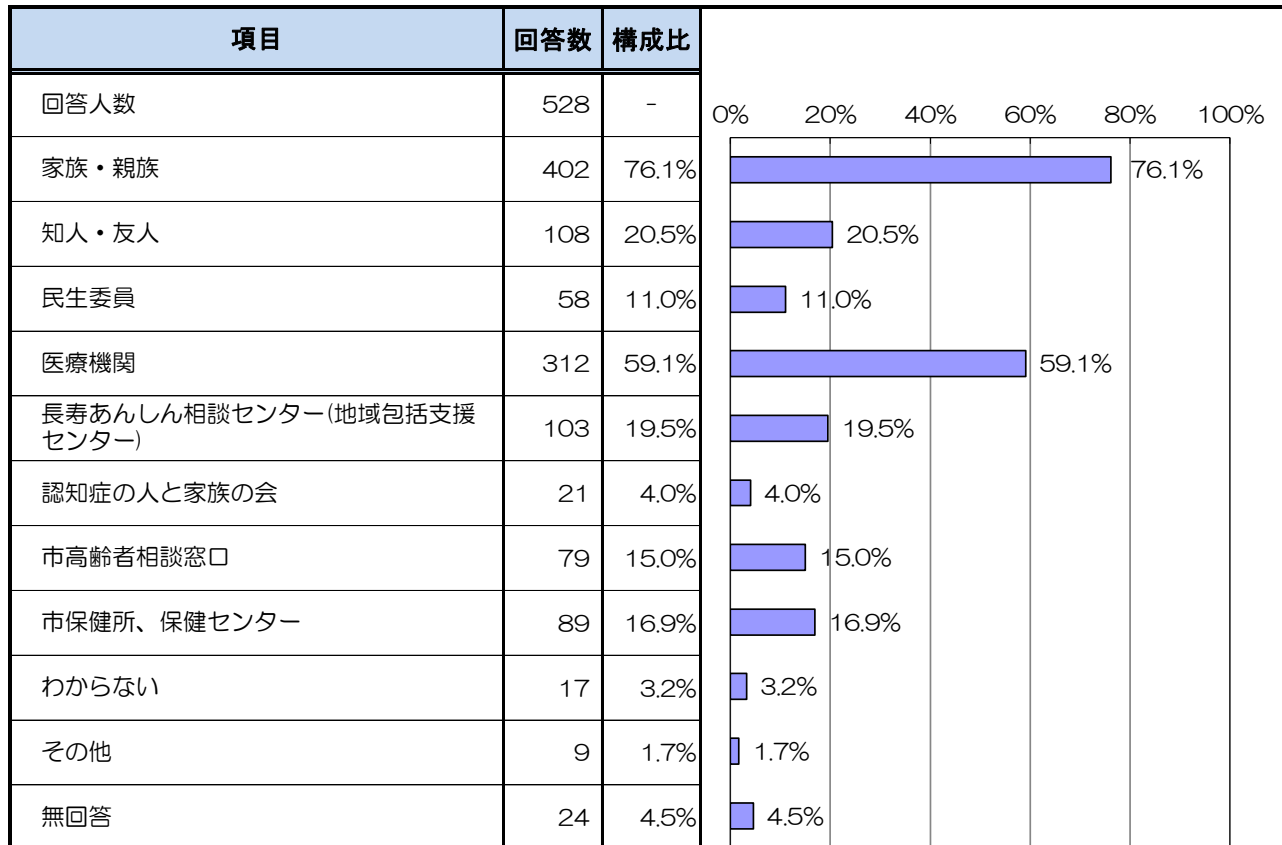
項目	回答人数		年齢					
			65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	348	100.0%	174	100.0%	6	100.0%
知っている	408	77.3%	284	81.6%	120	69.0%	4	66.7%
知らない	91	17.2%	50	14.4%	39	22.4%	2	33.3%
無回答	29	5.5%	14	4.0%	15	8.6%	0	0.0%

【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数		年齢					
			65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	44	100.0%	29	100.0%	15	100.0%	0	-
知っている	35	79.5%	25	86.2%	10	66.7%	0	-
知らない	8	18.2%	4	13.8%	4	26.7%	0	-
無回答	1	2.3%	0	0.0%	1	6.7%	0	-

問 19 あなたが自身や家族について認知症に関する不安をもったとき、相談したいと考えるのはだれ(どこ)ですか。(あてはまるものすべてに○)

認知症について相談したいと思う人や機関については、「家族・親族」が76.1%と最も高く、次いで、「医療機関」の59.1%、「知人・友人」の20.5%の順となっている。

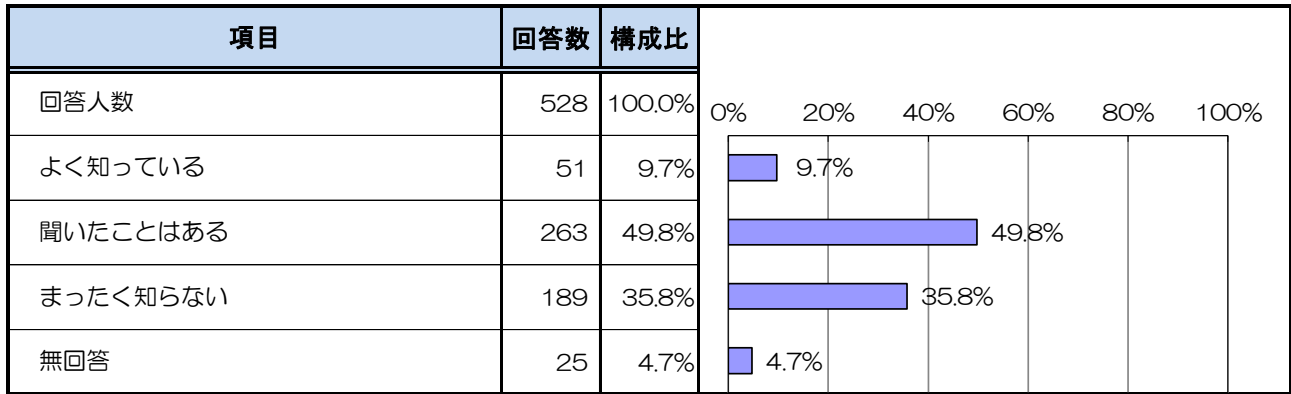


【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	44	-
家族・親族	42	95.5%
知人・友人	11	25.0%
民生委員	1	2.3%
医療機関	30	68.2%
長寿あんしん相談センター(地域包括支援センター)	8	18.2%
認知症の人と家族の会	3	6.8%
市高齢者相談窓口	8	18.2%
市保健所、保健センター	8	18.2%
わからない	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%

問 20 認知症サポーター（認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者）についてご存知ですか。（1つに○）

認知症サポーターについては、「聞いたことはある」が49.8%と最も高く、次いで、「まったく知らない」の35.8%、「よく知っている」の9.7%の順となっている。

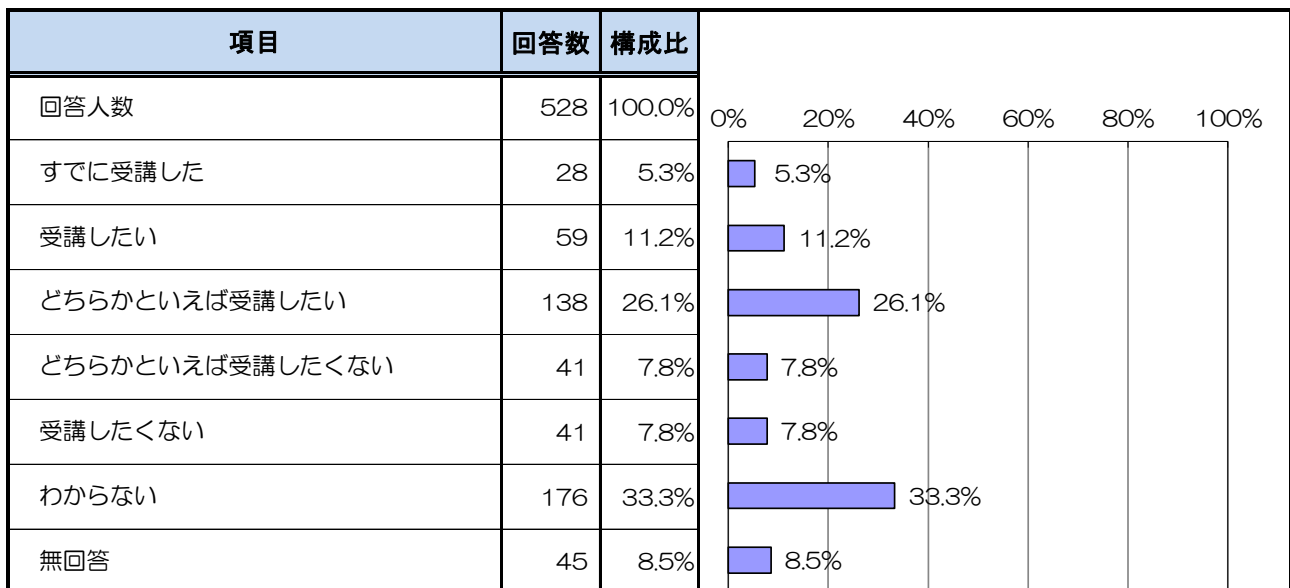


【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	44	100.0%
よく知っている	4	9.1%
聞いたことはある	25	56.8%
まったく知らない	14	31.8%
無回答	1	2.3%

問 21 あなたは、「認知症サポーター養成講座」を受講してみたいと思いますか。(1つに○)

「認知症サポーター養成講座」の受講意思については、「わからない」が33.3%と最も高く、次いで、「どちらかといえば受講したい」の26.1%、「受講したい」の11.2%の順となっている。



【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	44	100.0%
すでに受講した	3	6.8%
受講したい	3	6.8%
どちらかといえば受講したい	9	20.5%
どちらかといえば受講したくない	8	18.2%
受講したくない	3	6.8%
わからない	16	36.4%
無回答	2	4.5%

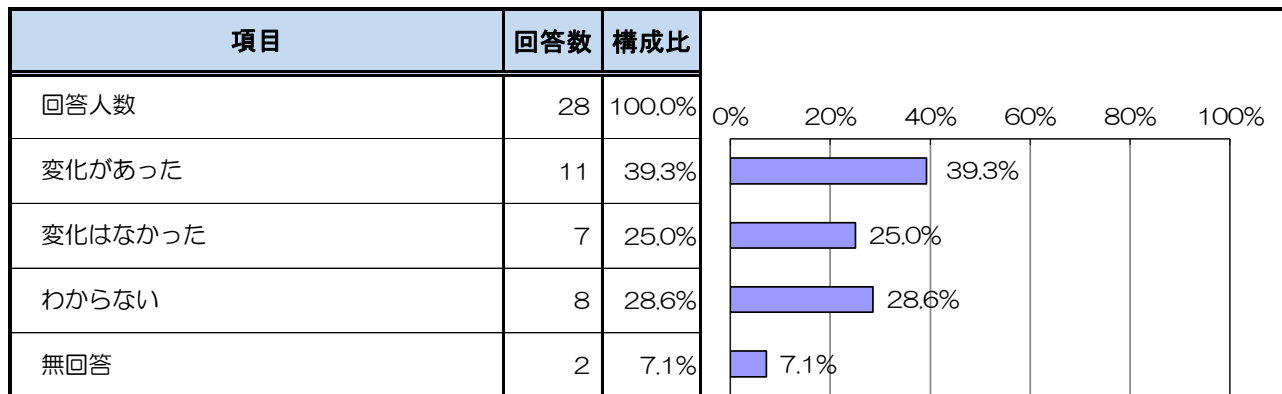


【高齢者】

※問 21 で『1. すでに受講した』とご回答された方にお聞きします。

問 21-1 あなたは、「認知症サポーター養成講座」を受講して、認知症の方への対応に変化がありましたか。(1つに○)

「認知症サポーター養成講座」受講後の認知症の方への対応の変化については、「変化があった」が 39.3%と最も高く、次いで、「わからない」の 28.6%、「変化はなかった」の 25.0%の順となっている。

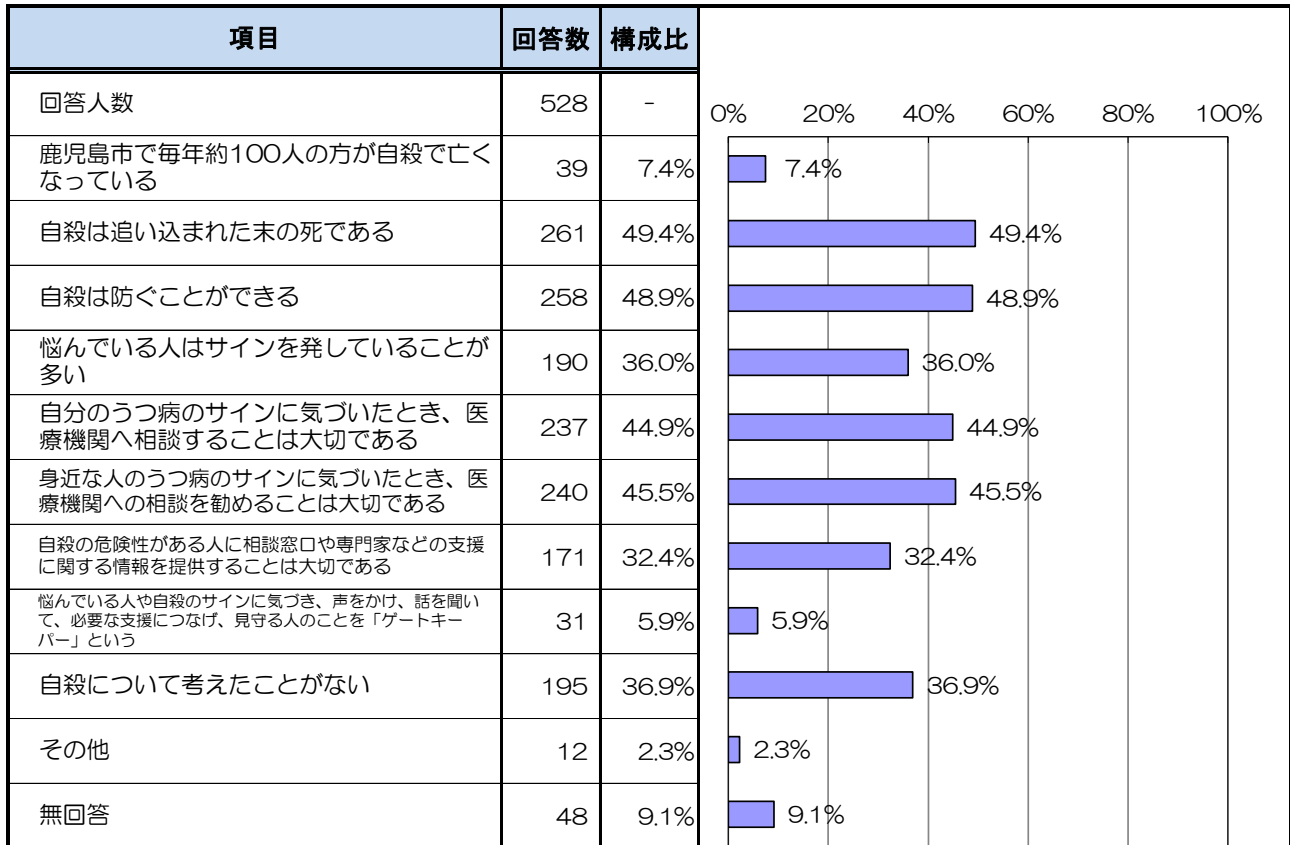


【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	3	100.0%
変化があった	1	33.3%
変化はなかった	1	33.3%
わからない	1	33.3%
無回答	0	0.0%

## 問 22 自殺について知っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

自殺についての認識度については、「自殺は追い込まれた末の死である」が49.4%と最も高く、次いで、「自殺は防ぐことができる」の48.9%、「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である」の45.5%の順となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、男性では「自殺は防ぐことができる」、女性では「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

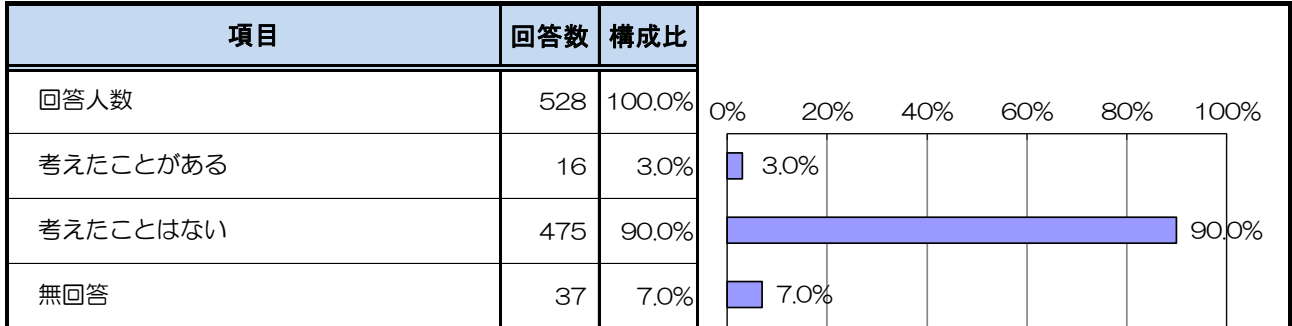
年齢別では、65～74歳では「自殺は防ぐことができる」、75歳以上では「自殺は追い込まれた末の死である」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	-	261	-	262	-	5	-	348	-	174	-	6	-
鹿児島市で毎年約100人の方が自殺で亡くなっている	39	7.4%	20	7.7%	18	6.9%	1	20.0%	22	6.3%	16	9.2%	1	16.7%
自殺は追い込まれた末の死である	261	49.4%	134	51.3%	125	47.7%	2	40.0%	185	53.2%	73	42.0%	3	50.0%
自殺は防ぐことができる	258	48.9%	135	51.7%	120	45.8%	3	60.0%	187	53.7%	67	38.5%	4	66.7%
悩んでいる人はサインを発していることが多い	190	36.0%	99	37.9%	88	33.6%	3	60.0%	147	42.2%	40	23.0%	3	50.0%
自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である	237	44.9%	108	41.4%	126	48.1%	3	60.0%	165	47.4%	68	39.1%	4	66.7%
身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である	240	45.5%	118	45.2%	120	45.8%	2	40.0%	173	49.7%	65	37.4%	2	33.3%
自殺の危険性がある人に相談窓口や専門家などの支援に関する情報を提供することは大切である	171	32.4%	84	32.2%	84	32.1%	3	60.0%	109	31.3%	58	33.3%	4	66.7%
悩んでいる人や自殺のサインに気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のことを「ゲートキーパー」という	31	5.9%	16	6.1%	15	5.7%	0	0.0%	23	6.6%	8	4.6%	0	0.0%
自殺について考えたことがない	195	36.9%	101	38.7%	91	34.7%	3	60.0%	121	34.8%	71	40.8%	3	50.0%
その他	12	2.3%	5	1.9%	7	2.7%	0	0.0%	5	1.4%	7	4.0%	0	0.0%
無回答	48	9.1%	18	6.9%	30	11.5%	0	0.0%	18	5.2%	30	17.2%	0	0.0%

【高齢者】

問 23 あなたは、この1年間（平成27年7月から平成28年6月まで）で自殺したい(死にたい)と考えたことがありますか。（1つに○）

自殺したいと考えたことがあるかについては、「考えたことはない」が90.0%、「考えたことがある」が3.0%となっている。



【属性別特徴】

性別・年齢別では、大きな差異は見られない。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%	348	100.0%	174	100.0%	6	100.0%
考えたことがある	16	3.0%	7	2.7%	9	3.4%	0	0.0%	8	2.3%	8	4.6%	0	0.0%
考えたことはない	475	90.0%	235	90.0%	235	89.7%	5	100.0%	320	92.0%	149	85.6%	6	100.0%
無回答	37	7.0%	19	7.3%	18	6.9%	0	0.0%	20	5.7%	17	9.8%	0	0.0%

※問 23 で『1. 考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

問 23-1 自殺を考えたときの原因は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけ、最もあてはまるものには◎を1つつけてください。

#### ア 自殺を考えたときの原因

「健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）」が62.5%と最も高く、次いで、「家庭問題（家族関係の不和、育児の悩み、介護疲れ等）」の37.5%、「経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）」「孤独感・近隣関係（独居・同居・近所付き合いの悩み等）」の31.3%の順となっている。

項目	回答数	構成比	
回答人数	16	-	0% 20% 40% 60% 80% 100%
家庭問題（家族関係の不和、育児の悩み、介護疲れ等）	6	37.5%	37.5%
健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）	10	62.5%	62.5%
経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）	5	31.3%	31.3%
勤務問題（仕事内容、労働条件、職場の人間関係の悩み等）	2	12.5%	12.5%
男女問題（恋愛、結婚の悩み等）	0	0.0%	0.0%
学校問題（学習や活動、学友・教師との人間関係の悩み等）	0	0.0%	0.0%
孤独感・近隣関係（独居・同居・近所付き合いの悩み等）	5	31.3%	31.3%
その他	0	0.0%	0.0%
無回答	1	6.3%	6.3%

【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、男女ともに「健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）」の割合が最も高くなっている。

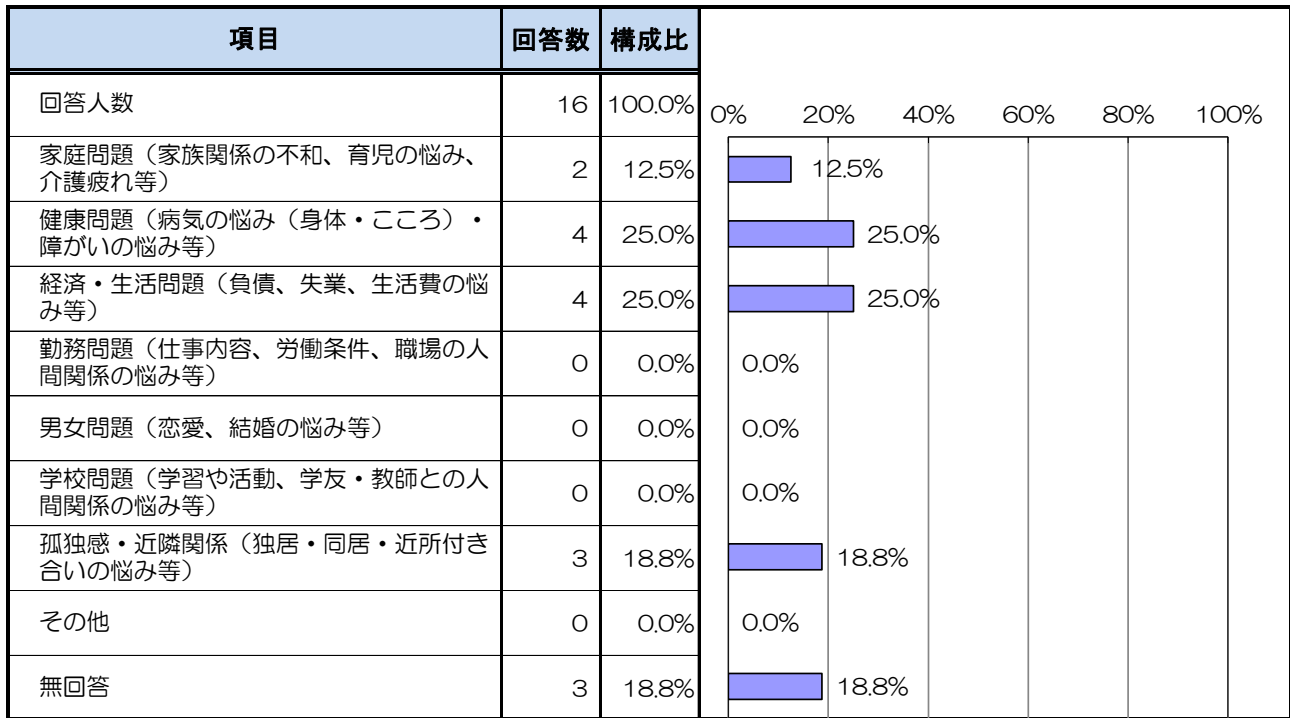
年齢別では、65～74歳・75歳以上ともに「健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）」の割合が最も高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	16	-	7	-	9	-	0	-	8	-	8	-	0	-
家庭問題（家族関係の不和、育児の悩み、介護疲れ等）	6	37.5%	3	42.9%	3	33.3%	0	-	3	37.5%	3	37.5%	0	-
健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）	10	62.5%	6	85.7%	4	44.4%	0	-	6	75.0%	4	50.0%	0	-
経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）	5	31.3%	2	28.6%	3	33.3%	0	-	3	37.5%	2	25.0%	0	-
勤務問題（仕事内容、労働条件、職場の人間関係の悩み等）	2	12.5%	1	14.3%	1	11.1%	0	-	2	25.0%	0	0.0%	0	-
男女問題（恋愛、結婚の悩み等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
学校問題（学習や活動、学友・教師との人間関係の悩み等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
孤独感・近隣関係（独居・同居・近所付き合いの悩み等）	5	31.3%	3	42.9%	2	22.2%	0	-	3	37.5%	2	25.0%	0	-
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	1	6.3%	0	0.0%	1	11.1%	0	-	0	0.0%	1	12.5%	0	-

【高齢者】

イ 自殺を考えたときの一番の原因

「健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）」「経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）」が25.0%と最も高くなっている。



【属性別特徴】

性別では、男性では「健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）」、女性では「孤独感・近隣関係（独居・同居・近所付き合いの悩み等）」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

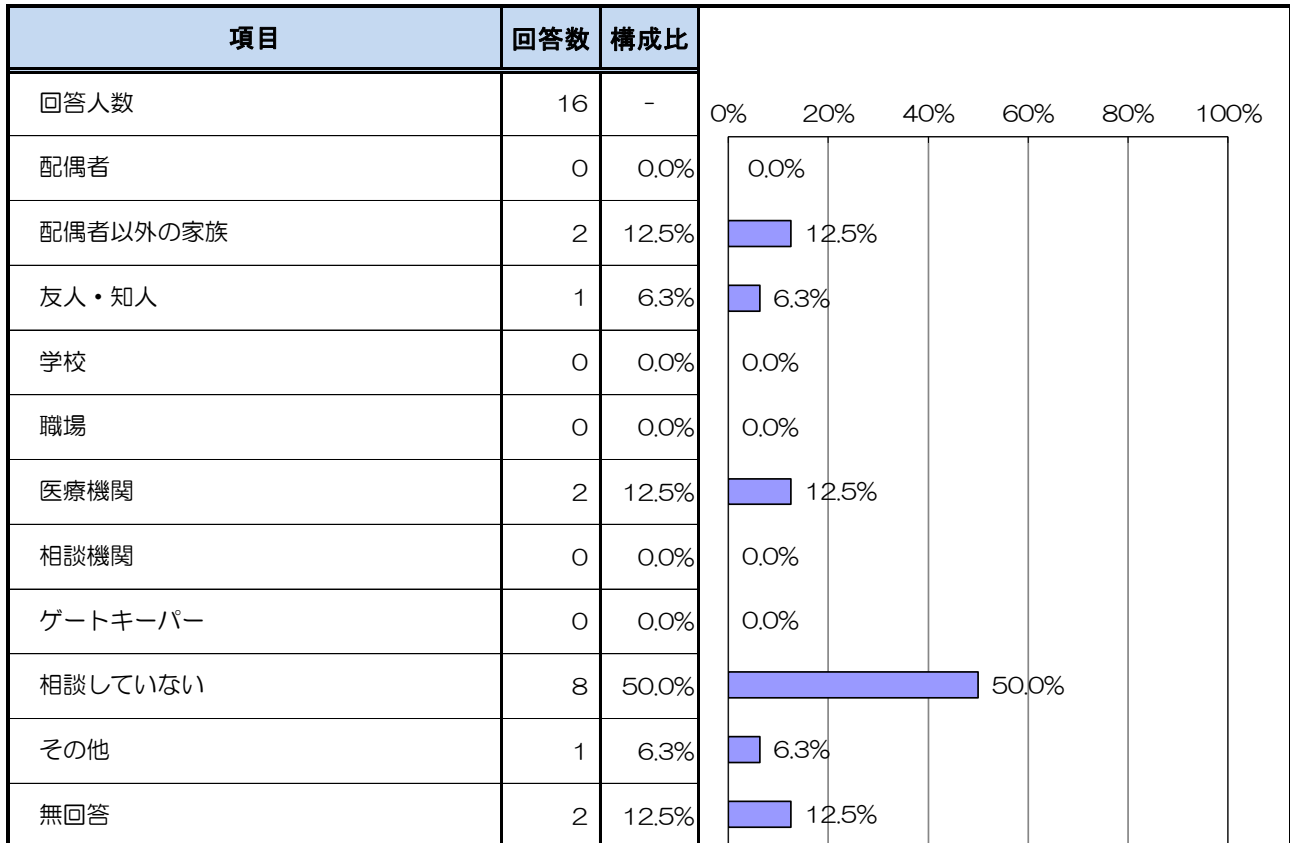
年齢別では、65～74歳では「経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）」、75歳以上では「孤独感・近隣関係（独居・同居・近所付き合いの悩み等）」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	16	100.0%	7	100.0%	9	100.0%	0	-	8	100.0%	8	100.0%	0	-
家庭問題（家族関係の不和、育児の悩み、介護疲れ等）	2	12.5%	0	0.0%	2	22.2%	0	-	0	0.0%	2	25.0%	0	-
健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）	4	25.0%	3	42.9%	1	11.1%	0	-	2	25.0%	2	25.0%	0	-
経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）	4	25.0%	2	28.6%	2	22.2%	0	-	4	50.0%	0	0.0%	0	-
勤務問題（仕事内容、労働条件、職場の人間関係の悩み等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
男女問題（恋愛、結婚の悩み等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
学校問題（学習や活動、学友・教師との人間関係の悩み等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
孤独感・近隣関係（独居・同居・近所付き合いの悩み等）	3	18.8%	0	0.0%	3	33.3%	0	-	0	0.0%	3	37.5%	0	-
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	3	18.8%	2	28.6%	1	11.1%	0	-	2	25.0%	1	12.5%	0	-

※問 23 で『1. 考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

問 23-2 あなたは、自殺をしたいと思ったときにだれか（どこか）に相談しましたか。  
（あてはまるものすべてに○）

自殺したいと考えたときの相談先については、「相談していない」が 50.0%と最も高くなっている。





【属性別特徴】

性別では、男女ともに「相談していない」の割合が最も高くなっている。

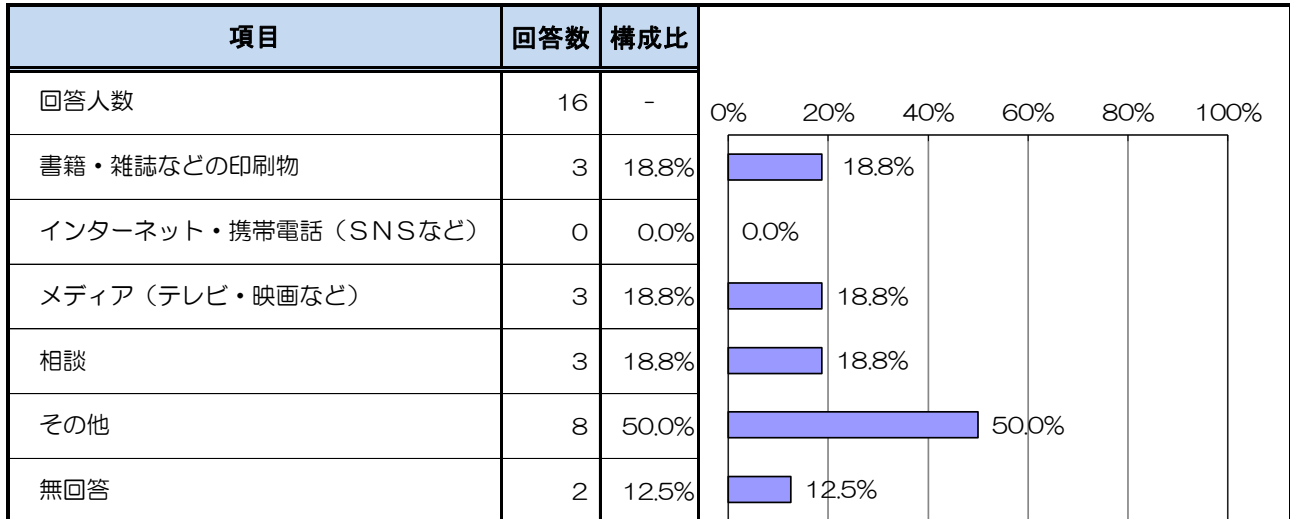
年齢別では、65～74歳・75歳以上ともに「相談していない」の割合が最も高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	16	-	7	-	9	-	0	-	8	-	8	-	0	-
配偶者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
配偶者以外の家族	2	12.5%	0	0.0%	2	22.2%	0	-	0	0.0%	2	25.0%	0	-
友人・知人	1	6.3%	1	14.3%	0	0.0%	0	-	1	12.5%	0	0.0%	0	-
学校	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
職場	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
医療機関	2	12.5%	2	28.6%	0	0.0%	0	-	1	12.5%	1	12.5%	0	-
相談機関（市役所・いのちの電話など）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
ゲートキーパー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
相談していない	8	50.0%	3	42.9%	5	55.6%	0	-	5	62.5%	3	37.5%	0	-
その他	1	6.3%	1	14.3%	0	0.0%	0	-	1	12.5%	0	0.0%	0	-
無回答	2	12.5%	0	0.0%	2	22.2%	0	-	0	0.0%	2	25.0%	0	-

※問 23 で『1. 考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

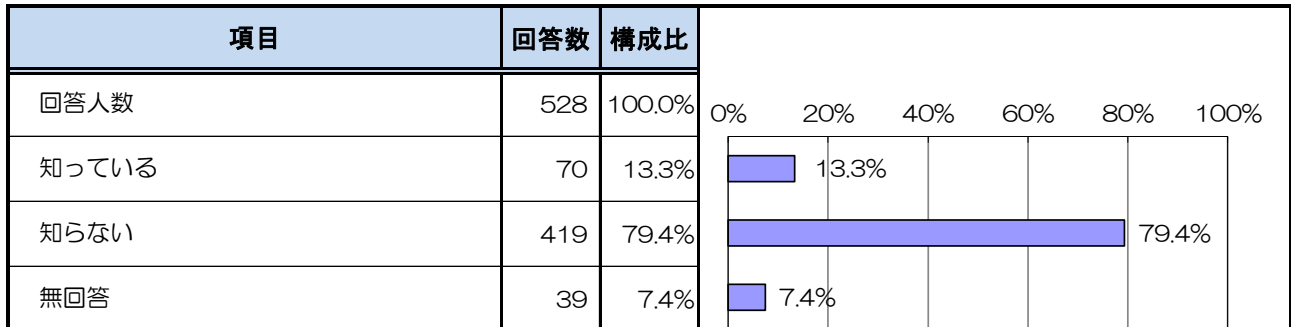
問 23-3 あなたが、自殺したいと思った時に踏みとどまることができた要因は何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

自殺を踏みとどまることができた要因については、「その他」を除くと、「書籍・雑誌などの印刷物」「メディア（テレビ・映画など）」「相談」のみに回答が得られた。



問 24 自殺に関して相談ができる場所を知っていますか。(1つに○)

自殺に関する相談先を知っているかについては、「知らない」が79.4%、「知っている」が13.3%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「知らない」の割合が女性と比較して高くなっている。

年齢別では、65～74歳の「知っている」の割合が75歳以上と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%	348	100.0%	174	100.0%	6	100.0%
知っている	70	13.3%	33	12.6%	35	13.4%	2	40.0%	53	15.2%	15	8.6%	2	33.3%
知らない	419	79.4%	215	82.4%	201	76.7%	3	60.0%	275	79.0%	140	80.5%	4	66.7%
無回答	39	7.4%	13	5.0%	26	9.9%	0	0.0%	20	5.7%	19	10.9%	0	0.0%

問 25 『鹿児島市無料相談窓口』カードを知っていますか。(1つに○)

『鹿児島市無料相談窓口』カードを知っているかについては、「知らない」が80.7%、「知っている」が10.2%となっている。

項目	回答数	構成比
回答人数	528	100.0%
知っている	54	10.2%
知らない	426	80.7%
無回答	48	9.1%

【属性別特徴】

性別では、男性の「知らない」の割合が女性と比較して高くなっている。

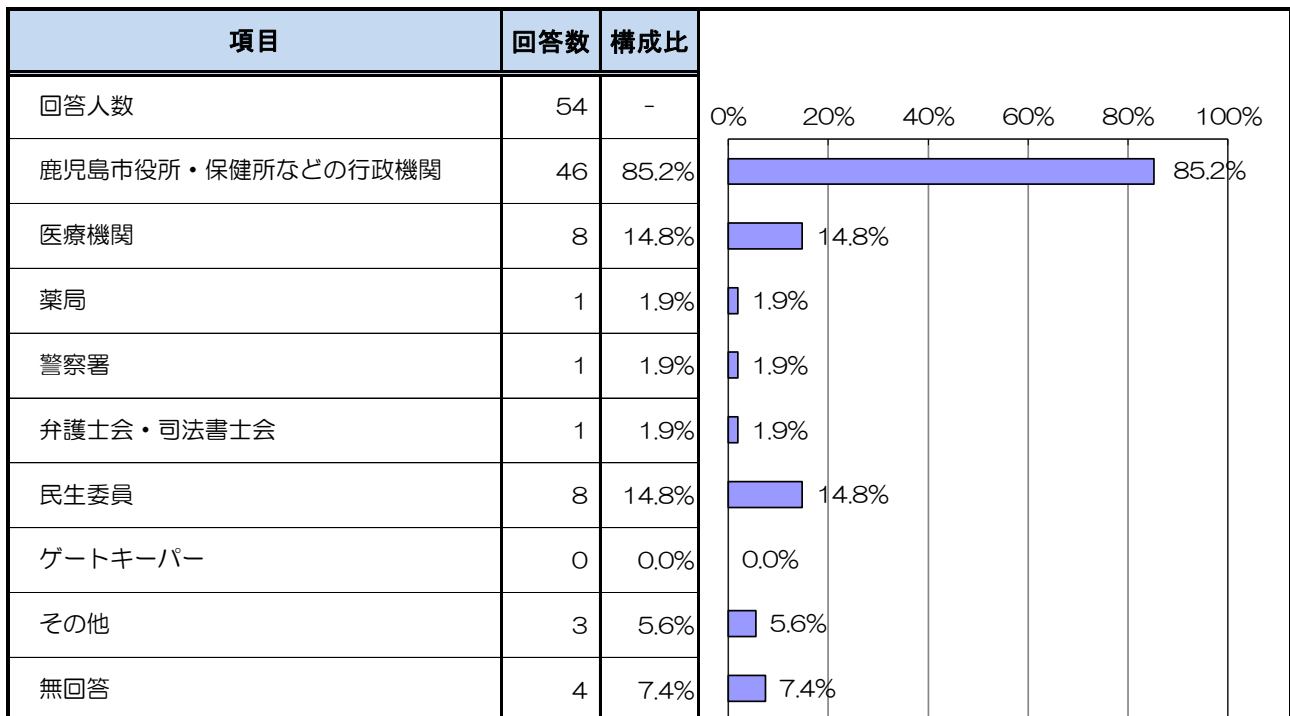
年齢別では、65～74歳の「知っている」の割合が75歳以上と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%	348	100.0%	174	100.0%	6	100.0%
知っている	54	10.2%	21	8.0%	32	12.2%	1	20.0%	39	11.2%	14	8.0%	1	16.7%
知らない	426	80.7%	218	83.5%	204	77.9%	4	80.0%	285	81.9%	137	78.7%	4	66.7%
無回答	48	9.1%	22	8.4%	26	9.9%	0	0.0%	24	6.9%	23	13.2%	1	16.7%

※問 25 で『1. 知っている』とご回答された方にお聞きします。

問 25-1 あなたは、『鹿児島市無料相談窓口』カードをどこで（だれから）知りましたか。  
（あてはまるものすべてに○）

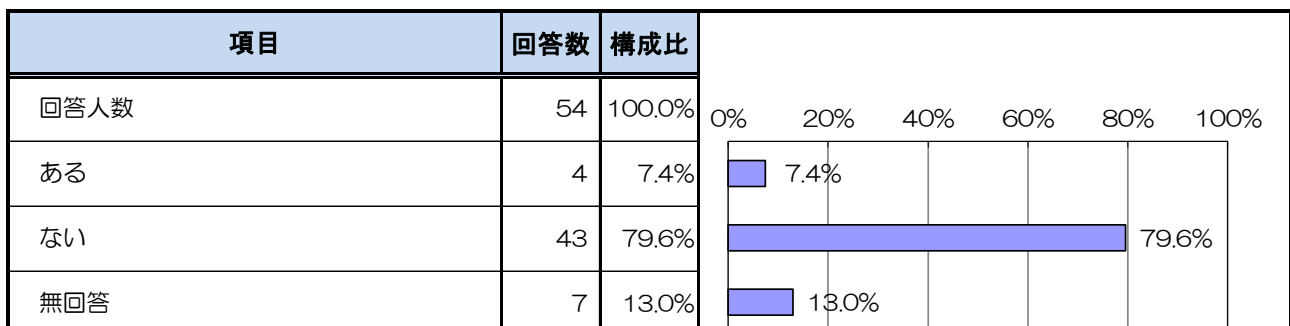
『鹿児島市無料相談窓口』カードをどこで（誰から）知ったかについては、「鹿児島市役所・保健所などの行政機関」が 85.2%と最も高く、次いで、「医療機関」「民生委員」の 14.8%の順となっている。



※問 25 で『1. 知っている』とご回答された方にお聞きします。

問 25-2 あなたは、『鹿児島市無料相談窓口』カードを使って相談したことがありますか。  
（1つに○）

『鹿児島市無料相談窓口』カードを使って相談したことがあるかについては、「ない」が 79.6%、「ある」が 7.4%となっている。



※問 25-2 で『1. ある』とご回答された方にお聞きします。

問 25-3 あなたは、『鹿児島市無料相談窓口』カードを使ってどこに相談しましたか。  
(あてはまるものすべてに○)

『鹿児島市無料相談窓口』カードを使ってどこに相談したかについては、「弁護士会・司法書士会など（借金や生活・法律のこと）」が100.0%と最も高く、次いで、「いのちの電話・保健所など（こころの健康）」の25.0%の順となっている。

項目	回答数	構成比	
回答人数	4	-	0% 20% 40% 60% 80% 100%
いのちの電話・保健所など（こころの健康）	1	25.0%	25.0%
弁護士会・司法書士会など（借金や生活・法律のこと）	4	100.0%	100.0%
サンエールかごしま相談室（配偶者やパートナーとの悩み）	0	0.0%	0.0%
鹿児島労働基準監督署・市雇用相談窓口など（仕事や職場での悩み）	0	0.0%	0.0%
市家庭児童相談（子どもの養育）	0	0.0%	0.0%
鹿児島シルバー110番（高齢者のこと）	0	0.0%	0.0%
市介護保険相談（介護保険相談）	0	0.0%	0.0%
NPO法人いじめ対策プロジェクト・市教育相談室など（ひきこもりや不登校）	0	0.0%	0.0%
その他	0	0.0%	0.0%
無回答	0	0.0%	0.0%

問 26 あなたが相談したいと思ったとき、どのようなところに相談の場があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

相談しやすい場所については、「市役所・保健所などの公的機関」が 62.3%と最も高く、次いで、「弁護士会・医療機関などの現在開設している相談機関」の 24.8%、「同じ悩みを持ちながらも回復を目指す取り組みをしている仲間が集う場」の 16.3%の順となっている。

項目	回答数	構成比	
回答人数	528	-	0% 20% 40% 60% 80% 100%
駅の構内	22	4.2%	4.2%
ショッピングセンター、デパート	62	11.7%	11.7%
図書館などの文化施設	42	8.0%	8.0%
ハローワーク	16	3.0%	3.0%
スーパーマーケット	43	8.1%	8.1%
市役所・保健所などの公的機関	329	62.3%	62.3%
弁護士会・医療機関などの現在開設している相談機関	131	24.8%	24.8%
同じ悩みを持ちながらも回復を目指す取り組みをしている仲間が集う場	86	16.3%	16.3%
その他	24	4.5%	4.5%
無回答	78	14.8%	14.8%

【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、男性の「市役所・保健所などの公的機関」の割合が女性と比較して高くなっている。

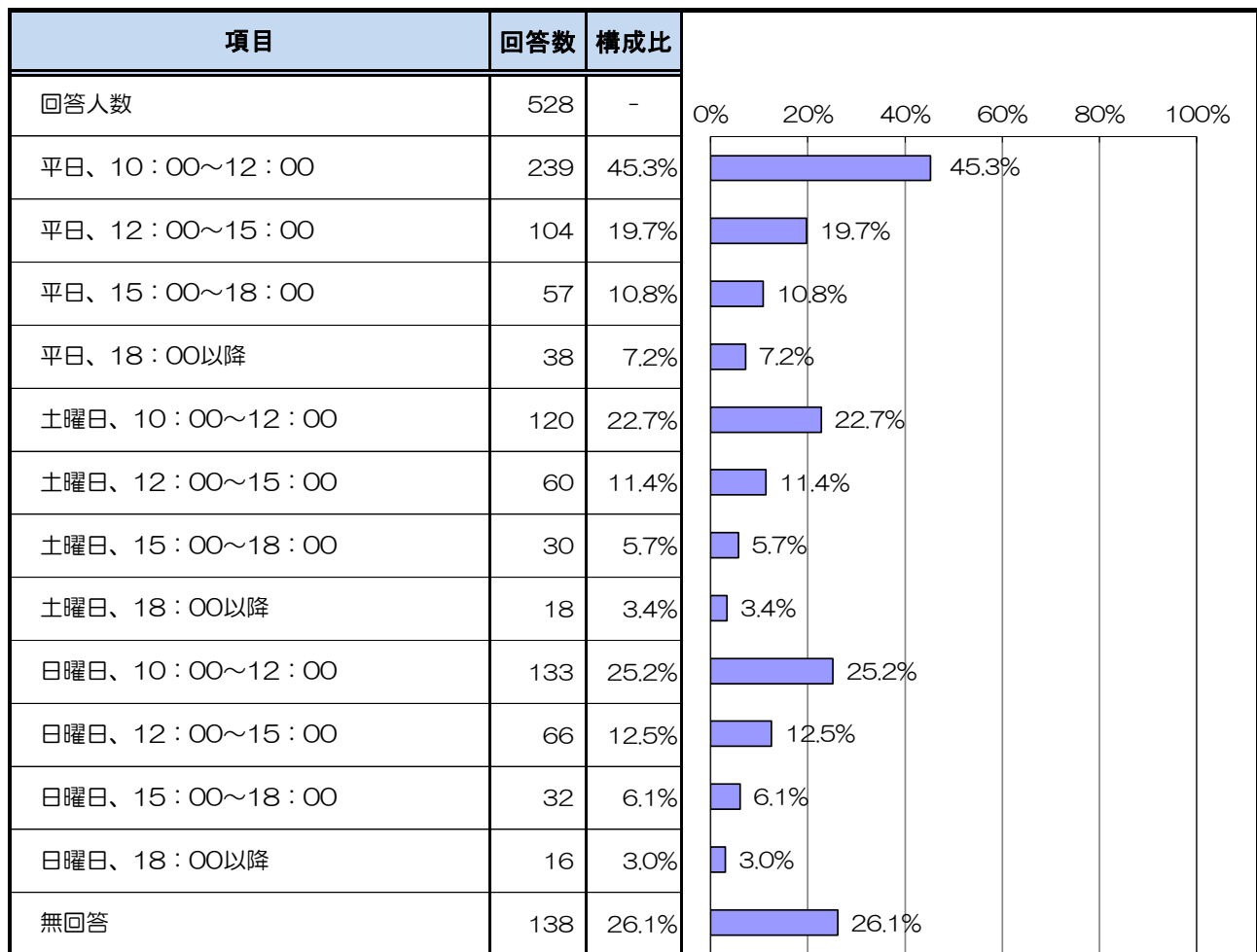
年齢別では、65～74歳の「市役所・保健所などの公的機関」の割合が75歳以上と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	-	261	-	262	-	5	-	348	-	174	-	6	-
駅の構内	22	4.2%	8	3.1%	14	5.3%	0	0.0%	20	5.7%	2	1.1%	0	0.0%
ショッピングセンター、デパート	62	11.7%	30	11.5%	32	12.2%	0	0.0%	48	13.8%	14	8.0%	0	0.0%
図書館などの文化施設	42	8.0%	27	10.3%	14	5.3%	1	20.0%	34	9.8%	7	4.0%	1	16.7%
ハローワーク	16	3.0%	8	3.1%	8	3.1%	0	0.0%	13	3.7%	3	1.7%	0	0.0%
スーパーマーケット	43	8.1%	19	7.3%	24	9.2%	0	0.0%	30	8.6%	13	7.5%	0	0.0%
市役所・保健所などの公的機関	329	62.3%	176	67.4%	149	56.9%	4	80.0%	227	65.2%	98	56.3%	4	66.7%
弁護士会・医療機関などの現在開設している相談機関	131	24.8%	69	26.4%	60	22.9%	2	40.0%	89	25.6%	40	23.0%	2	33.3%
同じ悩みを持ちながらも回復を目指す取り組みをしている仲間が集う場	86	16.3%	31	11.9%	54	20.6%	1	20.0%	63	18.1%	22	12.6%	1	16.7%
その他	24	4.5%	11	4.2%	13	5.0%	0	0.0%	16	4.6%	8	4.6%	0	0.0%
無回答	78	14.8%	34	13.0%	43	16.4%	1	20.0%	37	10.6%	39	22.4%	2	33.3%



## 問 27 相談場所を利用しやすい時間帯はいつですか。(希望するもの3つまでに○)

相談しやすい時間帯については、「平日、10：00～12：00」が45.3%と最も高くなっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、女性の「平日、10：00～12：00」の割合が男性と比較して高くなっている。

年齢別では、65～74歳の土曜日・日曜日を希望する割合が75歳以上と比較して高くなっている。

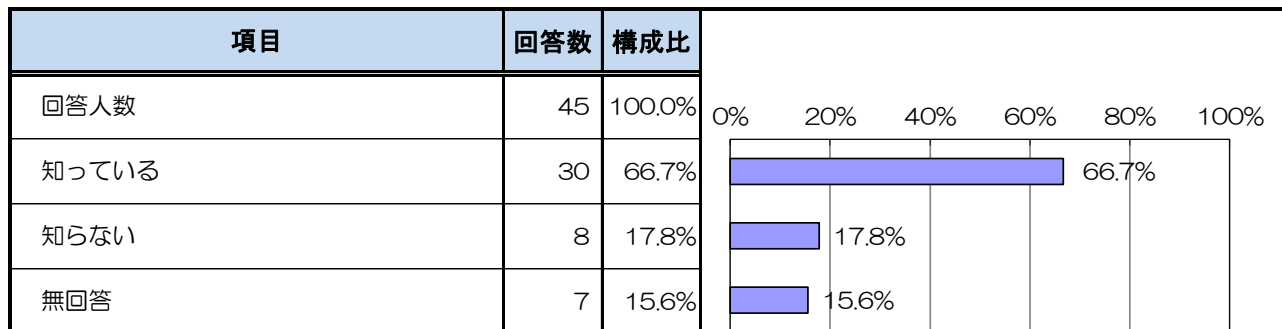
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	-	261	-	262	-	5	-	348	-	174	-	6	-
平日、10：00～12：00	239	45.3%	107	41.0%	130	49.6%	2	40.0%	160	46.0%	77	44.3%	2	33.3%
平日、12：00～15：00	104	19.7%	45	17.2%	59	22.5%	0	0.0%	71	20.4%	33	19.0%	0	0.0%
平日、15：00～18：00	57	10.8%	29	11.1%	28	10.7%	0	0.0%	37	10.6%	20	11.5%	0	0.0%
平日、18：00以降	38	7.2%	26	10.0%	12	4.6%	0	0.0%	34	9.8%	4	2.3%	0	0.0%
土曜日、10：00～12：00	120	22.7%	57	21.8%	61	23.3%	2	40.0%	90	25.9%	28	16.1%	2	33.3%
土曜日、12：00～15：00	60	11.4%	33	12.6%	26	9.9%	1	20.0%	50	14.4%	9	5.2%	1	16.7%
土曜日、15：00～18：00	30	5.7%	13	5.0%	17	6.5%	0	0.0%	23	6.6%	7	4.0%	0	0.0%
土曜日、18：00以降	18	3.4%	12	4.6%	6	2.3%	0	0.0%	14	4.0%	4	2.3%	0	0.0%
日曜日、10：00～12：00	133	25.2%	65	24.9%	65	24.8%	3	60.0%	101	29.0%	29	16.7%	3	50.0%
日曜日、12：00～15：00	66	12.5%	36	13.8%	29	11.1%	1	20.0%	51	14.7%	14	8.0%	1	16.7%
日曜日、15：00～18：00	32	6.1%	17	6.5%	15	5.7%	0	0.0%	24	6.9%	8	4.6%	0	0.0%
日曜日、18：00以降	16	3.0%	12	4.6%	4	1.5%	0	0.0%	11	3.2%	5	2.9%	0	0.0%
無回答	138	26.1%	73	28.0%	63	24.0%	2	40.0%	77	22.1%	58	33.3%	3	50.0%

※問 28～問 29 は桜島にお住まいの方への質問です。

問 28 「桜島大噴火 避難手順書」についてお伺いします。

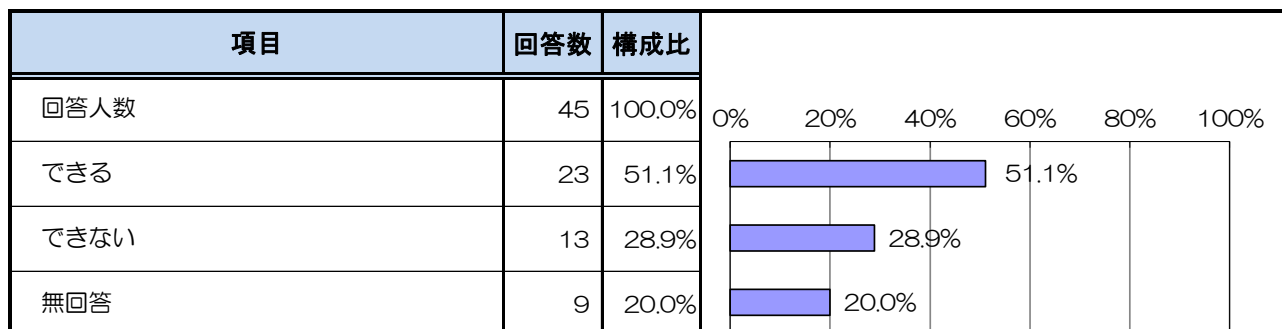
(1) 避難手順書を知っていますか？

「知っている」が66.7%、「知らない」が17.8%となっている。



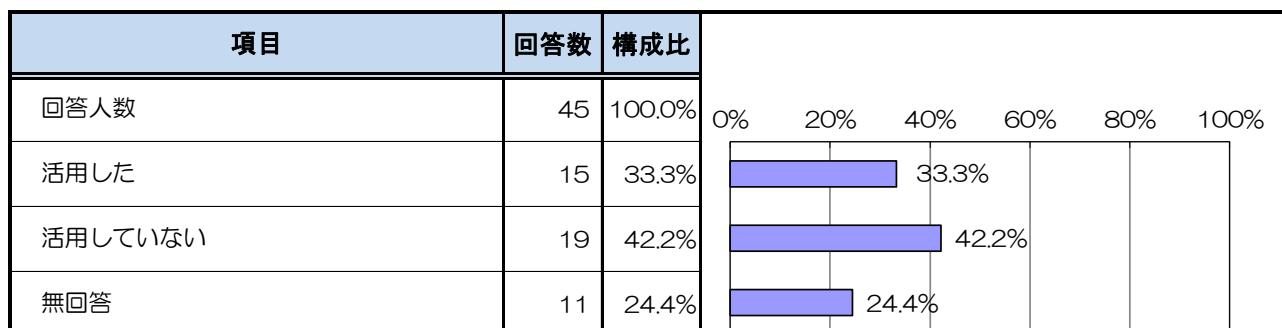
(2) 避難手順書をすぐに確認することはできますか？

「できる」が51.1%、「できない」が28.9%となっている。



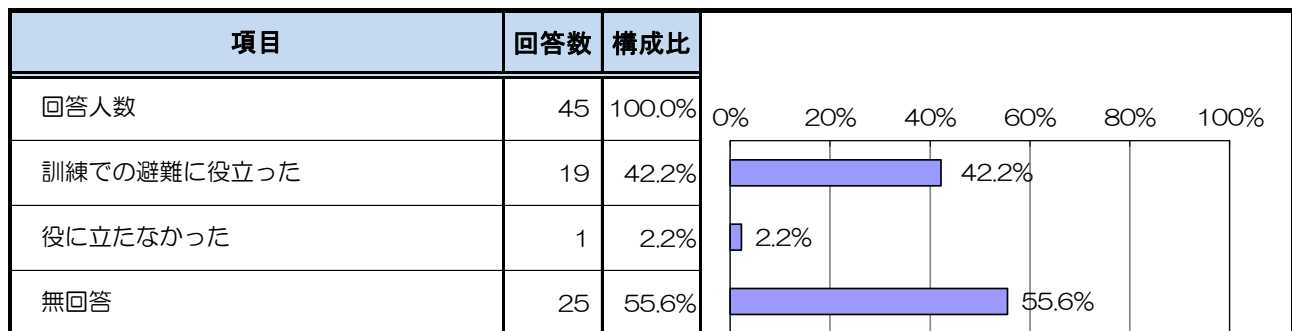
(3) 訓練で避難手順書を活用しましたか？

「活用していない」が42.2%、「活用した」が33.3%となっている。



## (4) 避難手順書の内容についてはどうでしたか？

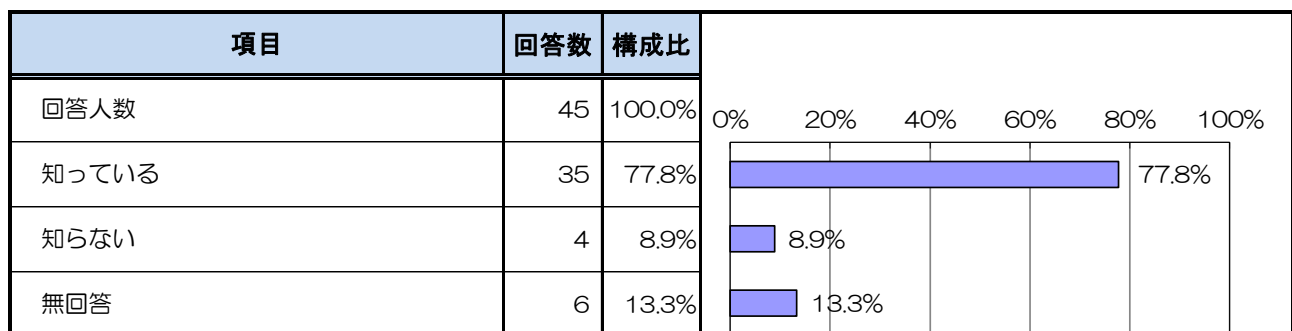
「訓練での避難に役立った」が42.2%、「役に立たなかった」が2.2%となっている。



## 問 29 「避難用家族カード」についてお伺いします。

## (1) 避難用家族カードを知っていますか？

「知っている」が77.8%、「知らない」が8.9%となっている。



# 第5章 総括

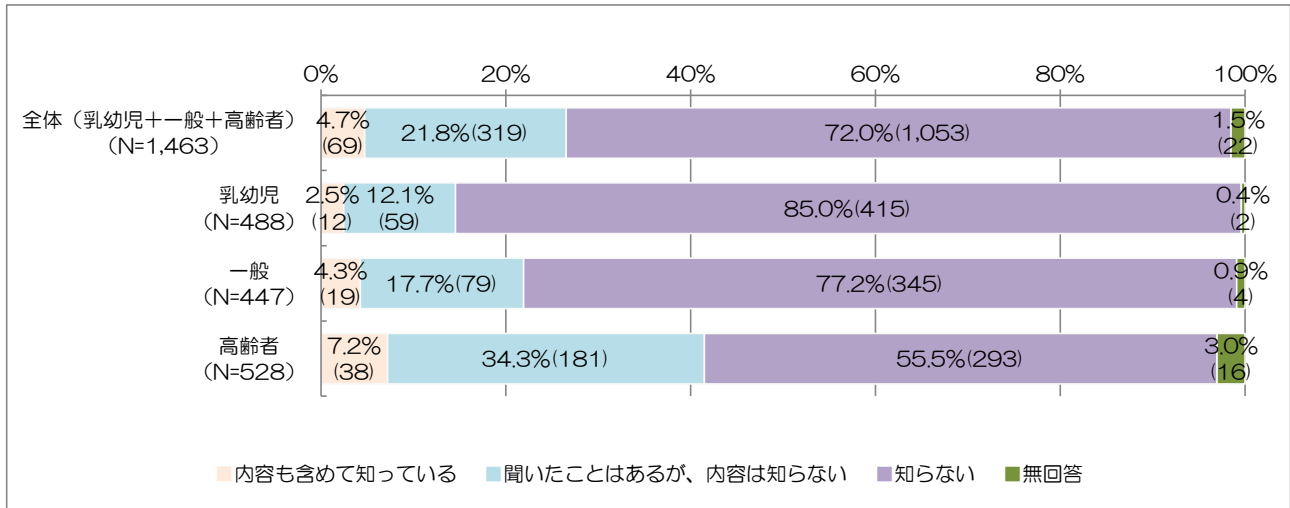


【共通項目】（乳幼児・一般・高齢者）

1 セーフコミュニティについて

【セーフコミュニティの認識度について】（全体・乳幼児・一般・高齢者）

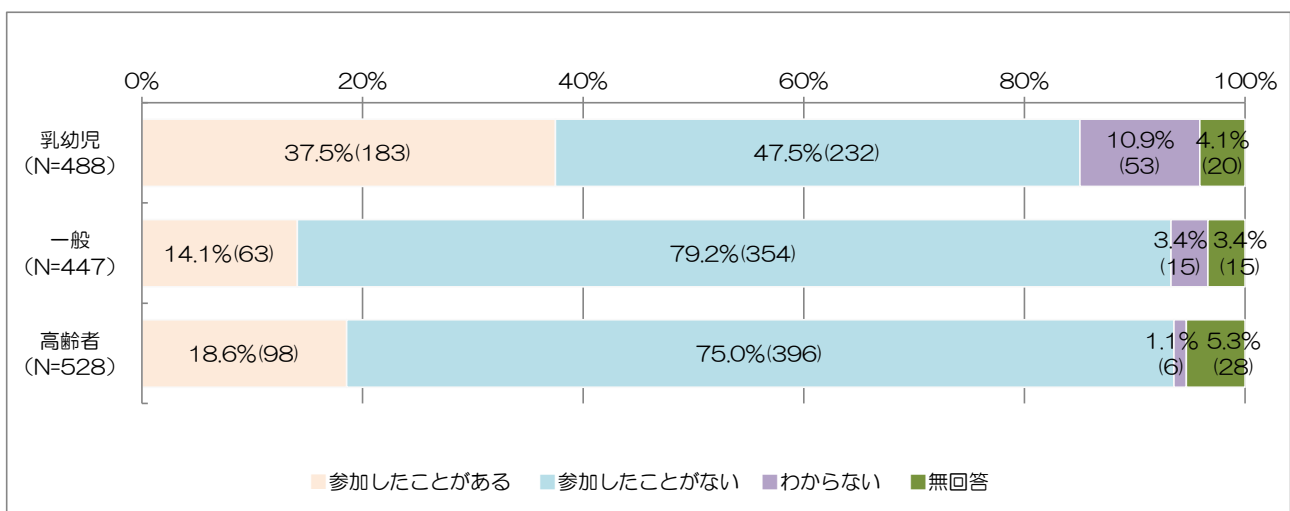
セーフコミュニティの認識度については、「知らない」の割合が、乳幼児が 85.0%、一般が 77.2%、高齢者が 55.5%となっており、乳幼児・一般に比べ、高齢者の認識度が高くなっている。



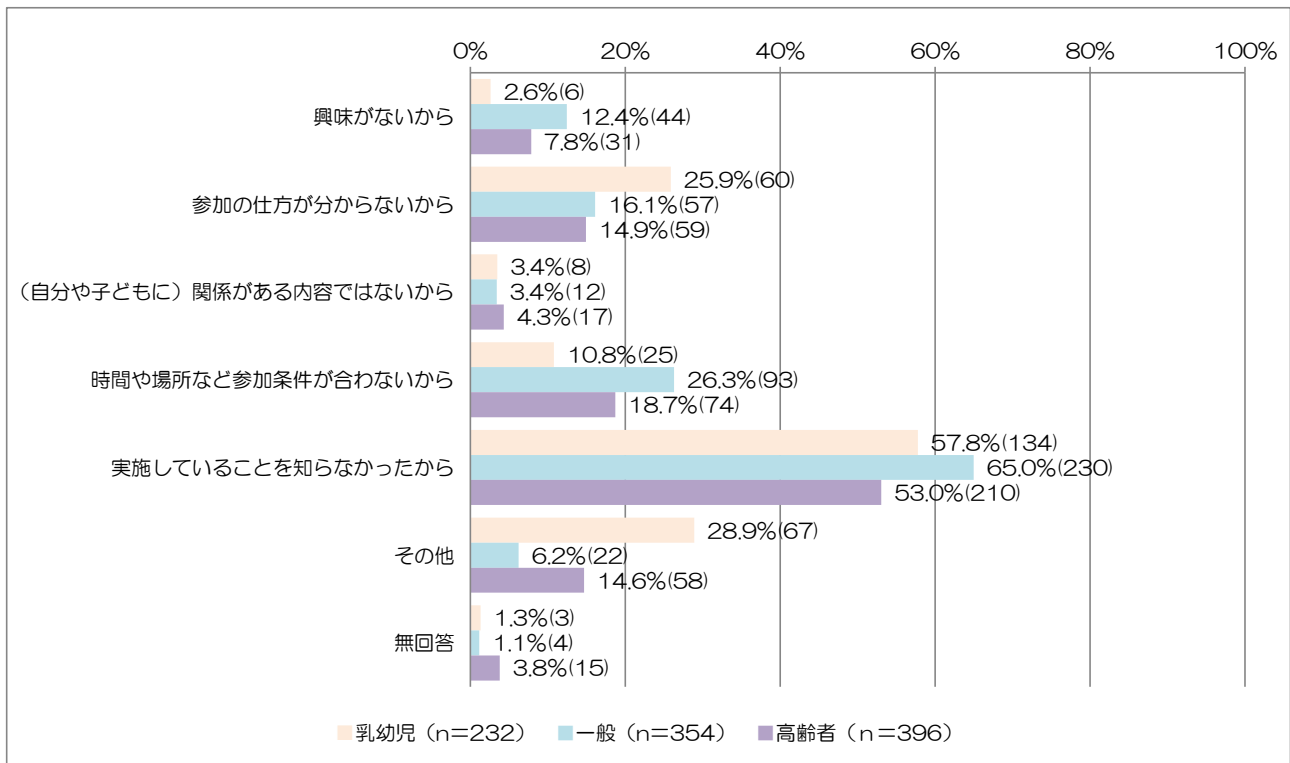
2 交通安全について

【交通安全教室（講習会などを含む）参加状況について】（乳幼児・一般・高齢者）

交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「参加したことがない」の割合が、乳幼児が 47.5%、一般が 79.2%、高齢者が 75.0%となっており、一般・高齢者に比べ、乳幼児の参加率が高くなっている。

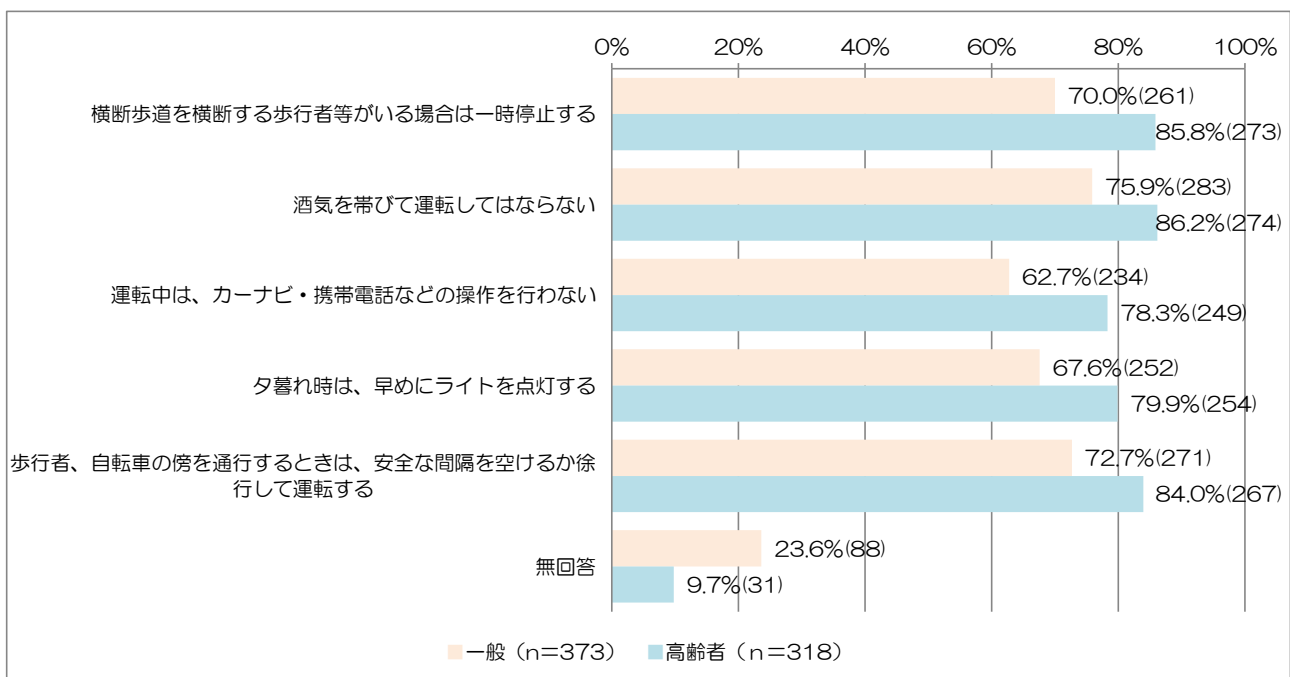


交通安全教室に参加したことがない理由については、いずれの調査においても「実施していることを知らなかったから」の割合が突出して高くなっており、交通安全教室開催の広報周知が必要であると考えられる。



【自動車の運転に関する交通ルールの遵守度について】（一般・高齢者）

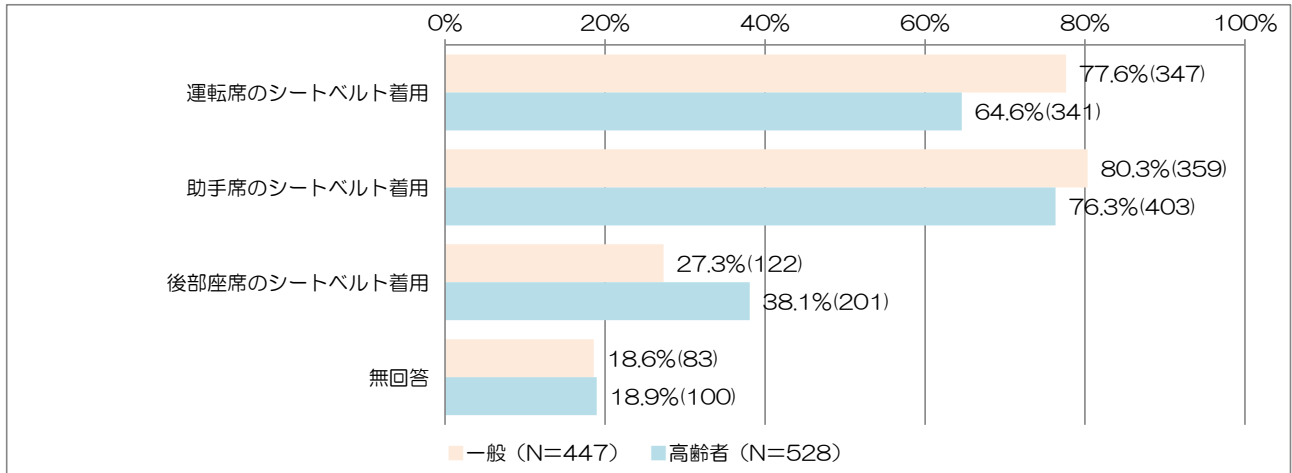
自動車の運転に関する交通ルールの遵守度については、高齢者の78.3%~86.2%に対し、一般は62.7%~75.9%と低くなっている。





【シートベルトの着用状況について】（一般・高齢者）

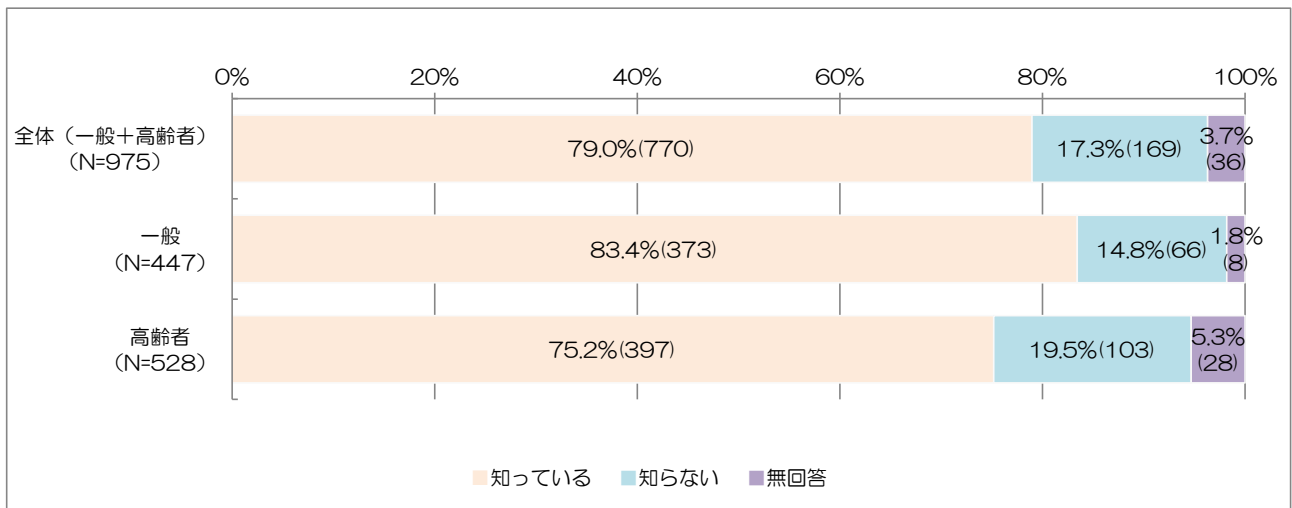
シートベルトの着用状況については、一般の27.3%～80.3%に対し、高齢者は38.1%～76.3%となっており、一般は高齢者と比べ、「運転席のシートベルト着用」の割合が高く、「後部座席のシートベルト着用」の割合が低くなっている。



3 高齢者の安全について

【認知症が病気によるものであることへの理解について】（全体・一般・高齢者）

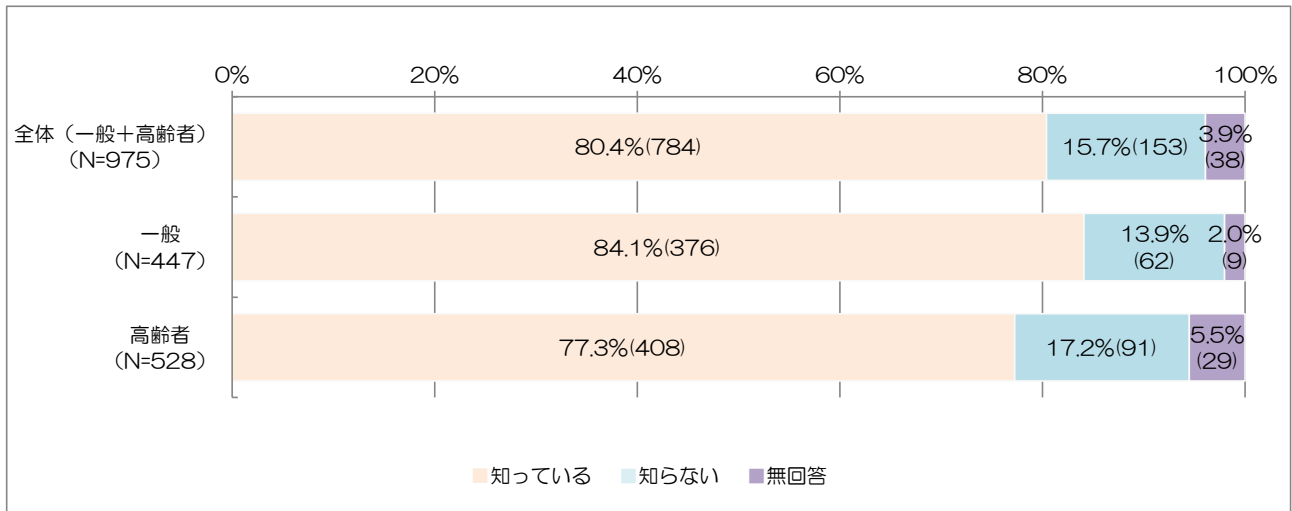
認知症が病気によるものであることについては、「知っている」の割合が、一般が83.4%、高齢者が75.2%となっており、高齢者に比べ、一般の理解度が高くなっている。



【認知症への理解不足が高齢者への虐待につながる可能性があることへの理解について】

(全体・一般・高齢者)

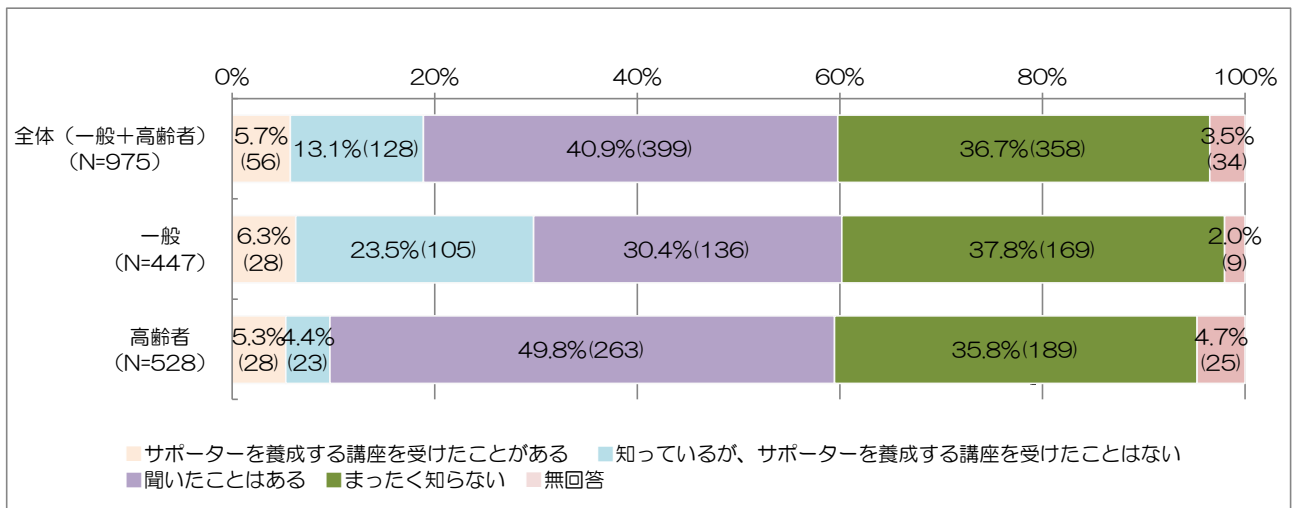
認知症への理解不足が高齢者への虐待につながる可能性があることについては、「知っている」の割合が、一般が84.1%、高齢者が77.3%となっており、高齢者に比べ、一般の理解度が高くなっている。



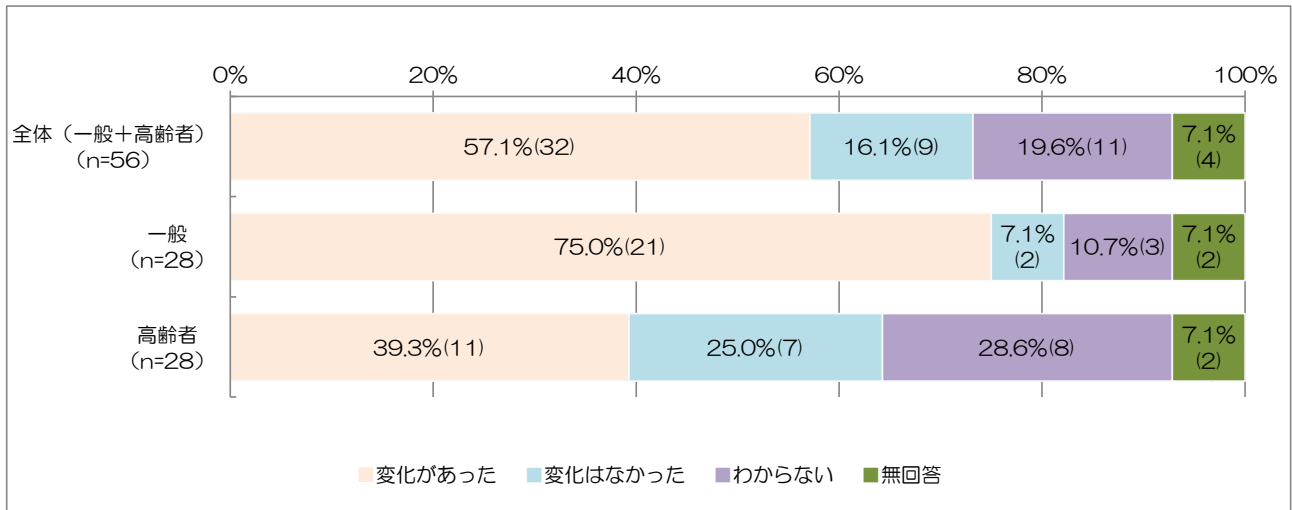
【認知症サポーターの認識度について】 (全体・一般・高齢者)

認知症サポーターについては、「まったく知らない」の割合が、一般が37.8%、高齢者が35.8%と大きな差異は見られない。

「認知症サポーター養成講座」受講率についても、一般が6.3%、高齢者が5.3%と大きな差異は見られない。



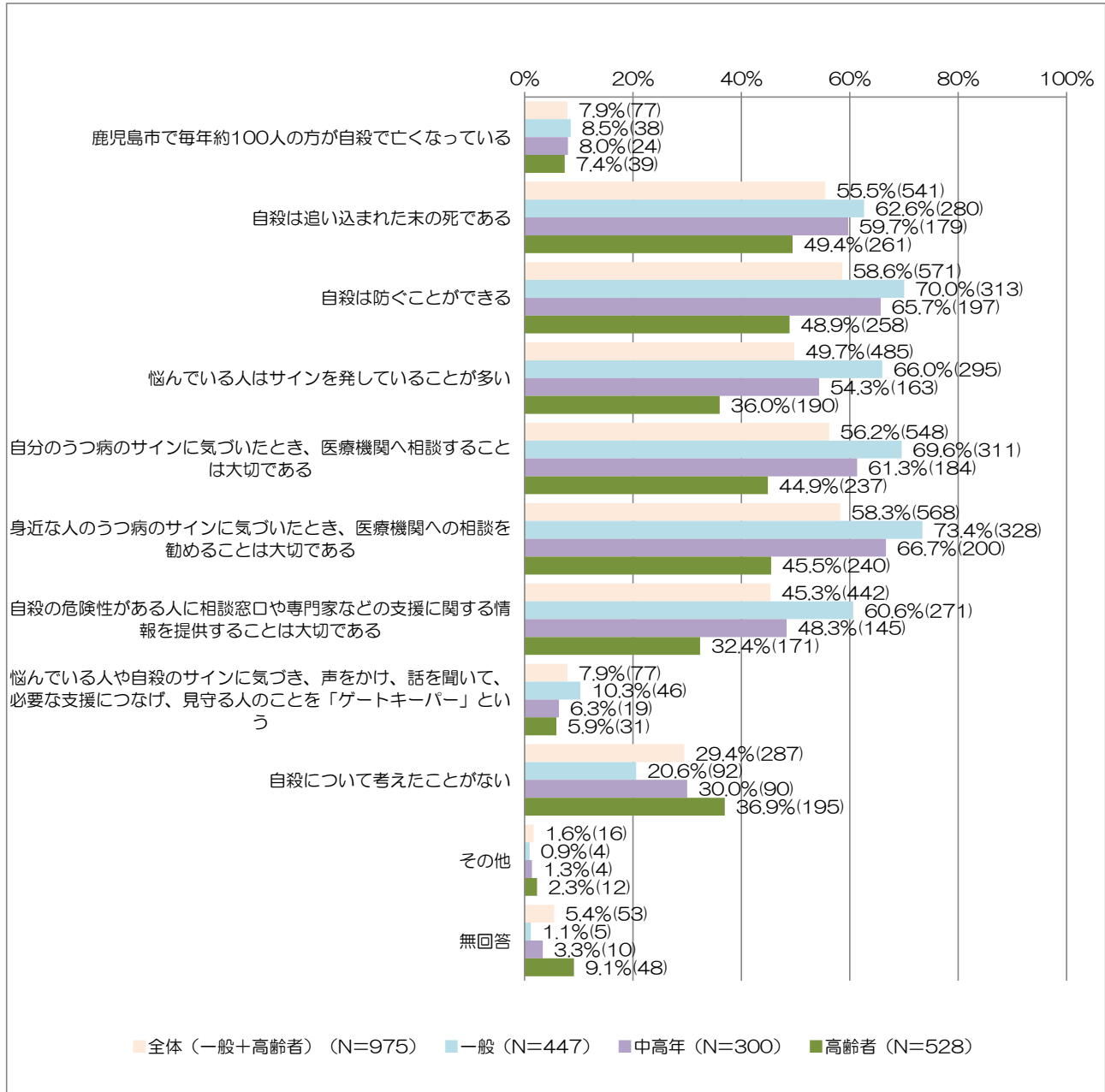
「認知症サポーター養成講座」受講者の認知症の方への対応の変化については、「変化があった」の割合が、一般が75.0%、高齢者が39.3%となっており、高齢者に比べ、一般の変化があった割合が高くなっている。



## 4 自殺予防について

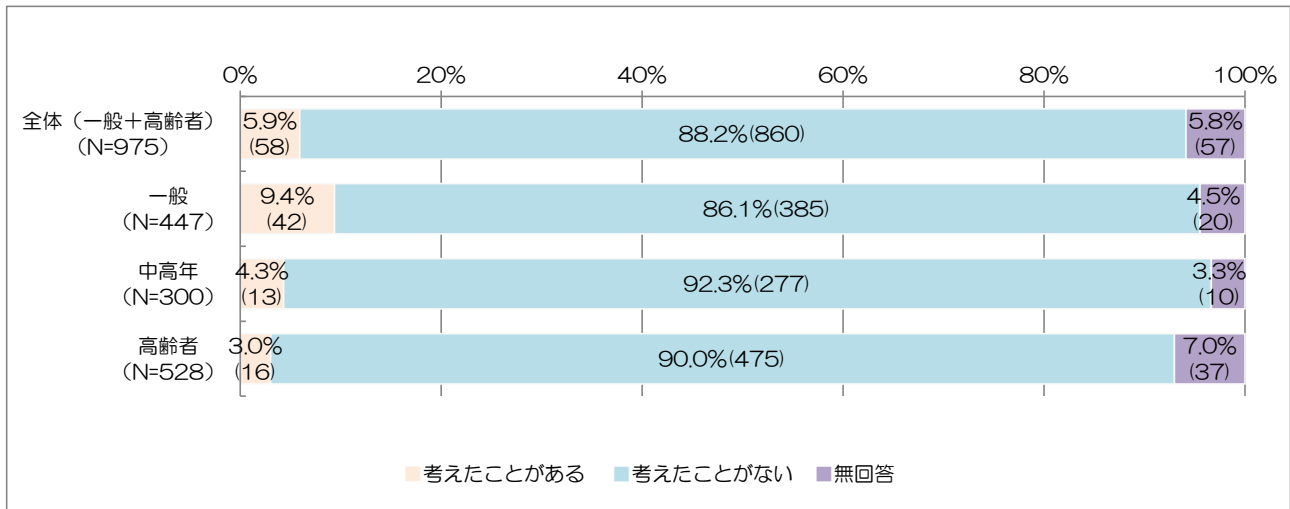
【自殺についての認識度について】（全体・一般・中高年・高齢者） ※中高年…50歳～69歳

自殺についての認識度については、「自殺について考えたことがない」「その他」を除くすべての項目で、一般が高齢より高くなっており、年齢が低くなるほど自殺についての認識度が高くなっている。



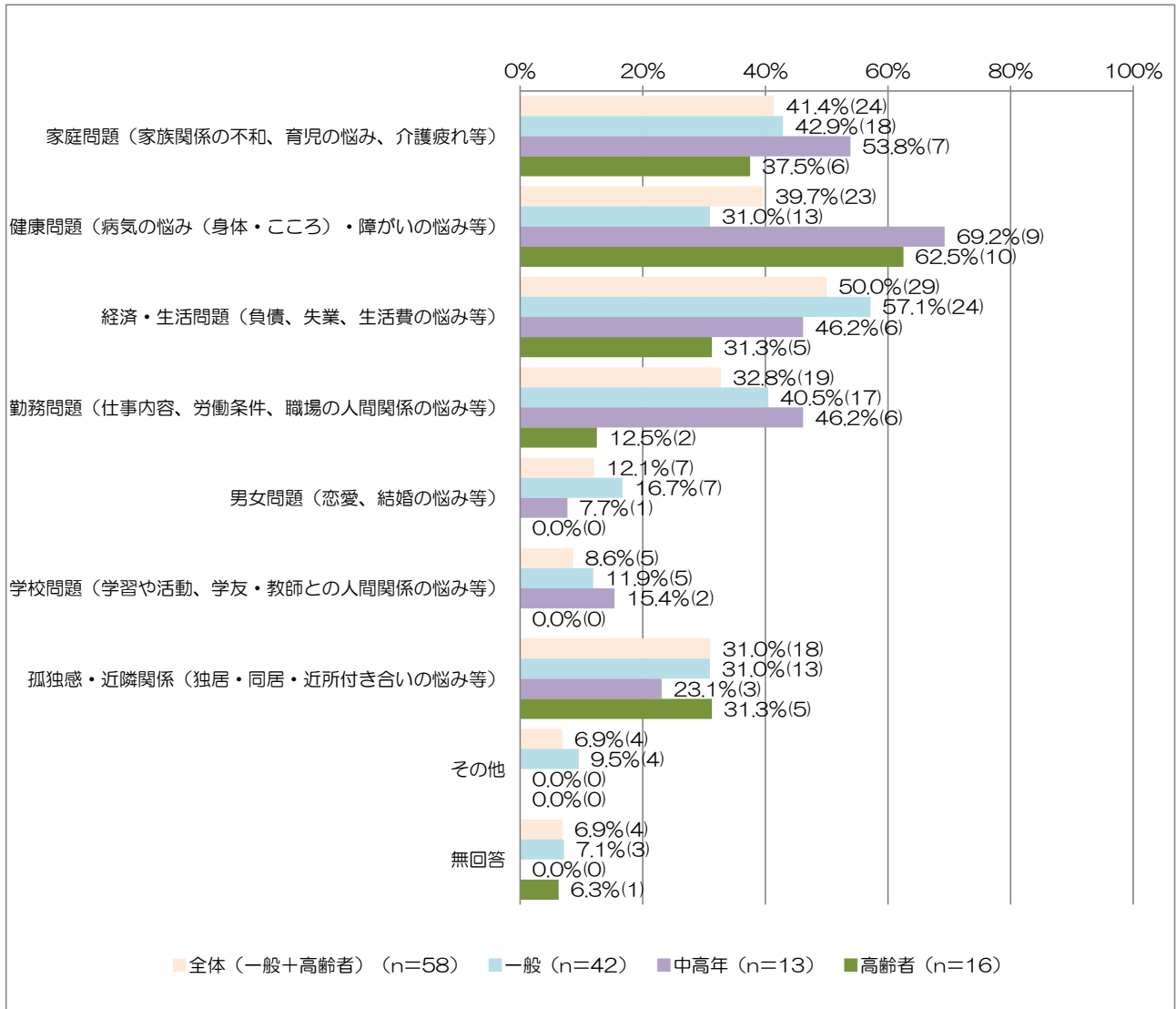
【自殺したいと考えた経験について】（全体・一般・中高年・高齢者）

自殺したいと考えたことがあるかについては、「考えたことがある」の割合が、一般が9.4%、中高年が4.3%、高齢者が3.0%となっており、年齢が低くなるほど自殺したいと考えたことがある割合が高くなっている。

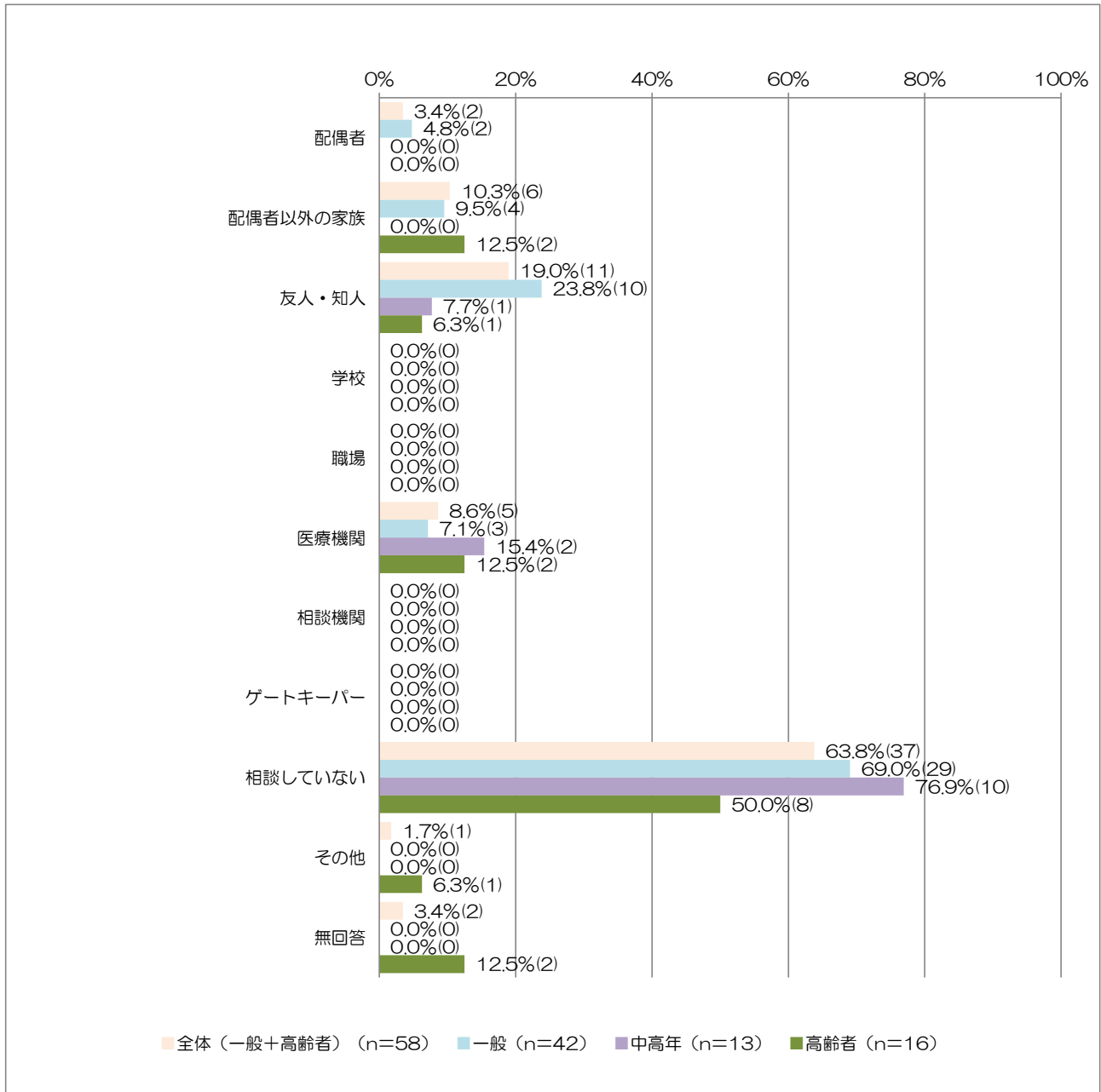


【総括】

自殺したいと考えたときの原因については、一般では「経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）」が57.1%、中高年・高齢者では「健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）」がそれぞれ69.2%、62.5%と最も高くなっている。

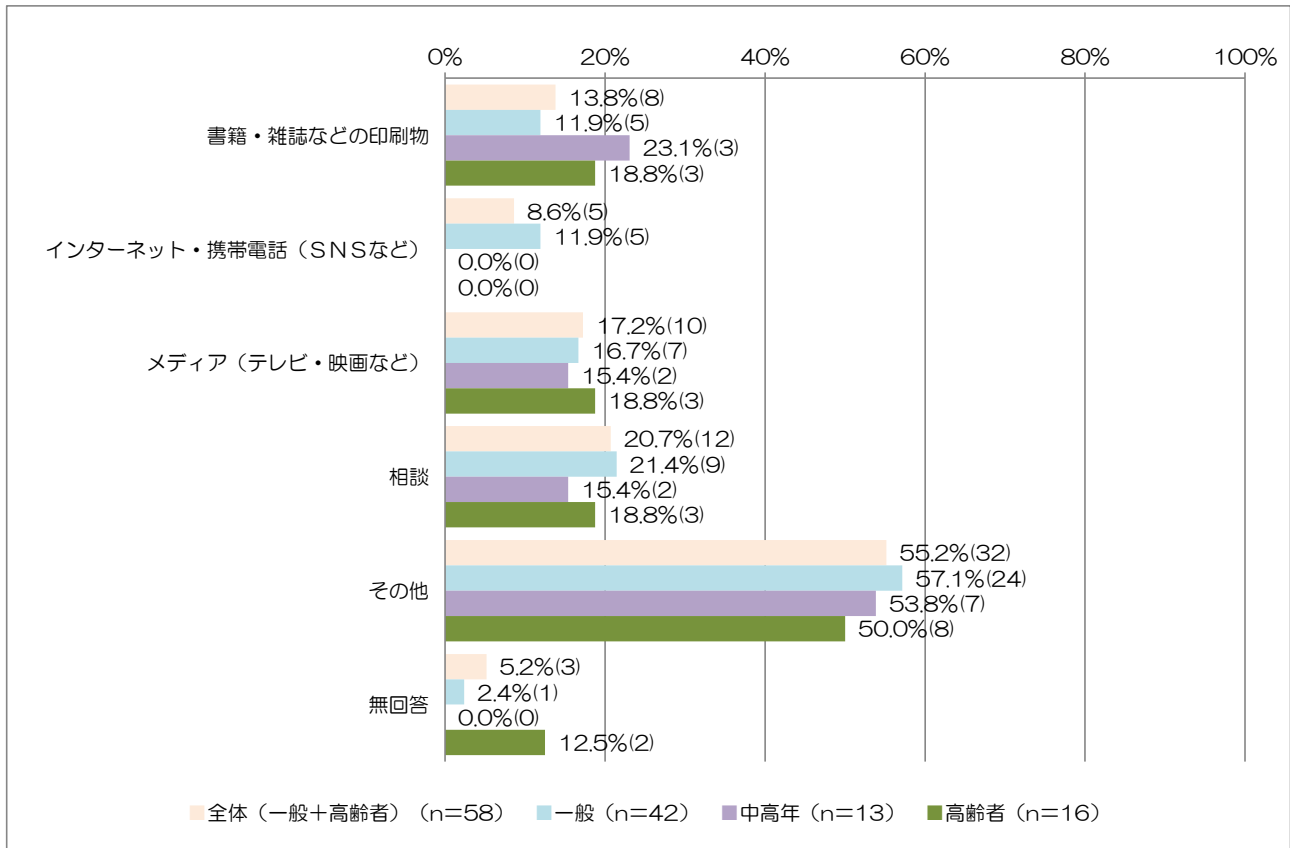


自殺したいと考えたときの相談先については、「相談していない」の割合が、一般が 69.0%、中高年が 76.9%、高齢者が 50.0%とそれぞれ最も高くなっている。



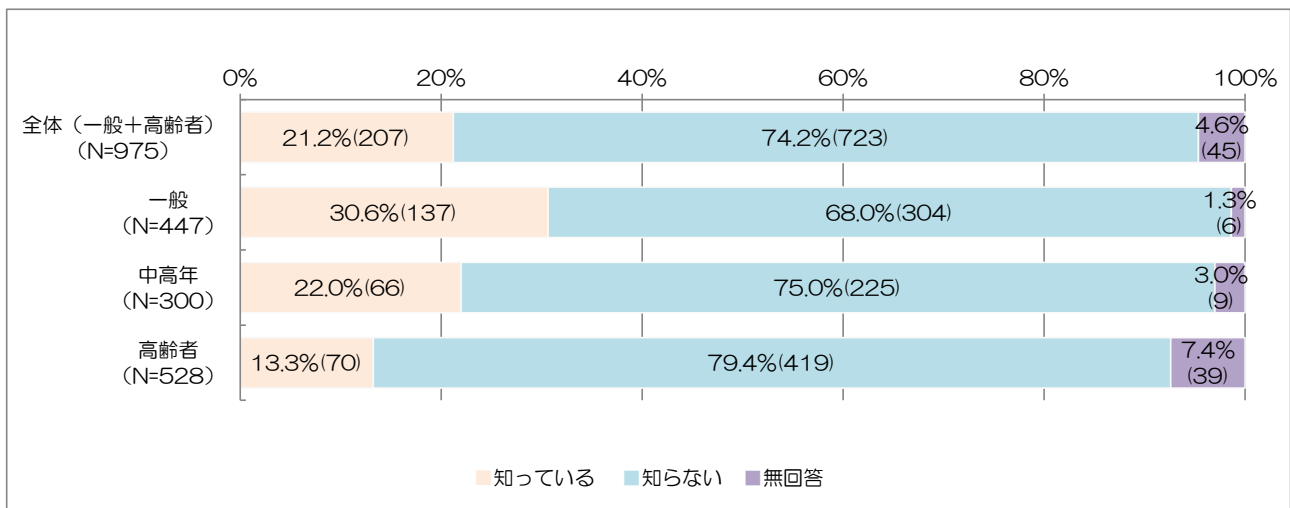
【総括】

自殺を踏みとどまることができた要因については、「その他」を除くと、一般では「相談」が21.4%、中高年では「書籍・雑誌などの印刷物」が23.1%とそれぞれ最も高くなっている。高齢者ではその他を除くと、「書籍・雑誌などの印刷物」「メディア（テレビ・映画など）」「相談」のみに回答が得られた。



【自殺に関する相談先の認識度について】 (全体・一般・中高年・高齢者)

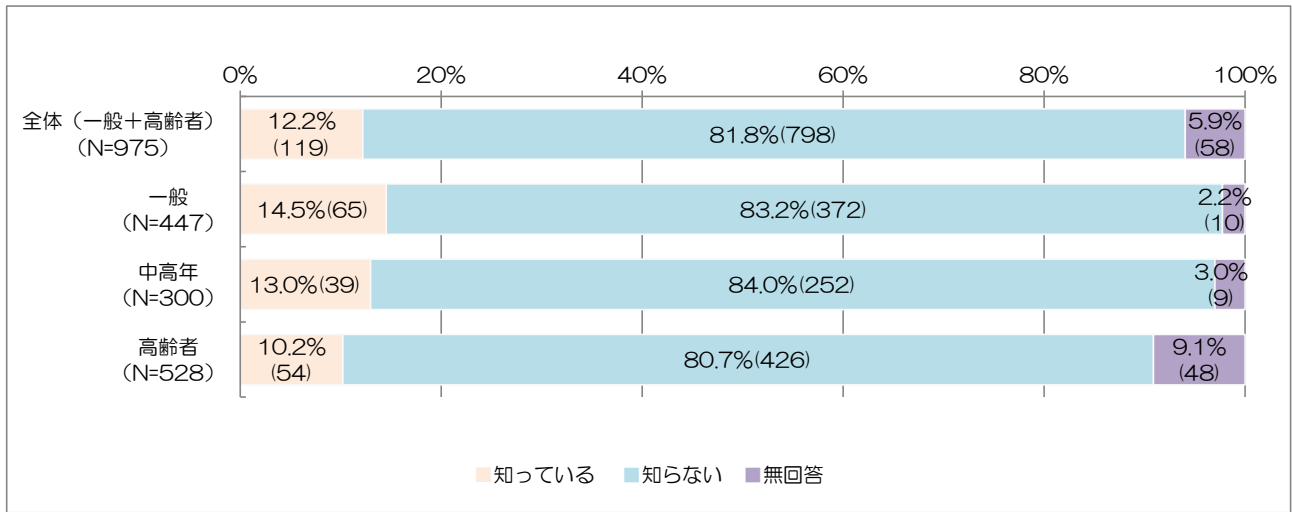
自殺に関する相談先の認識度については、「知っている」の割合が、一般が30.6%、中高年が22.0%、高齢者が13.3%となっており、年齢が低くなるほど自殺に関する相談先の認識度が高くなっている。



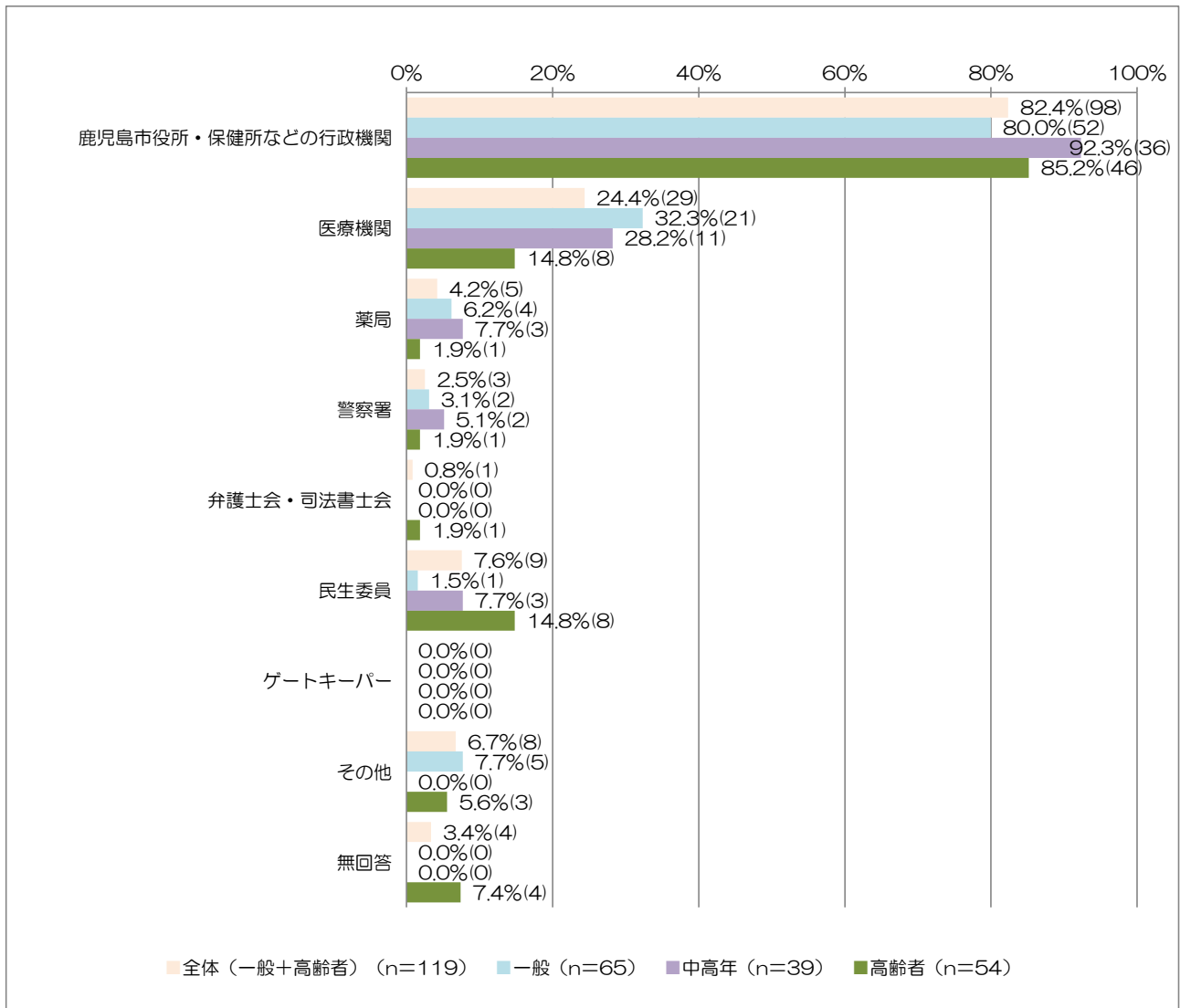


【『鹿児島市無料相談窓口』カードの認識度について】（全体・一般・中高年・高齢者）

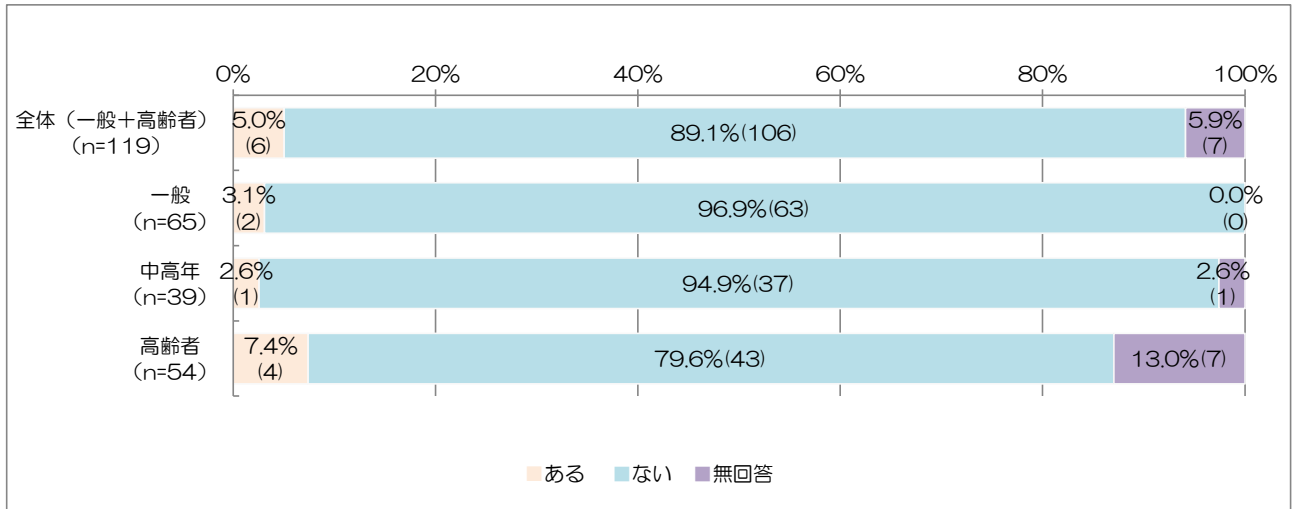
『鹿児島市無料相談窓口』カードの認識度については、「知っている」の割合が、一般が14.5%、中高年が13.0%、高齢者が10.2%と大きな差異は見られない。



『鹿児島市無料相談窓口』カードをどこで（誰から）知ったかについては、一般・中高年・高齢者ともに「鹿児島市役所・保健所などの行政機関」の割合が最も高くなっている。

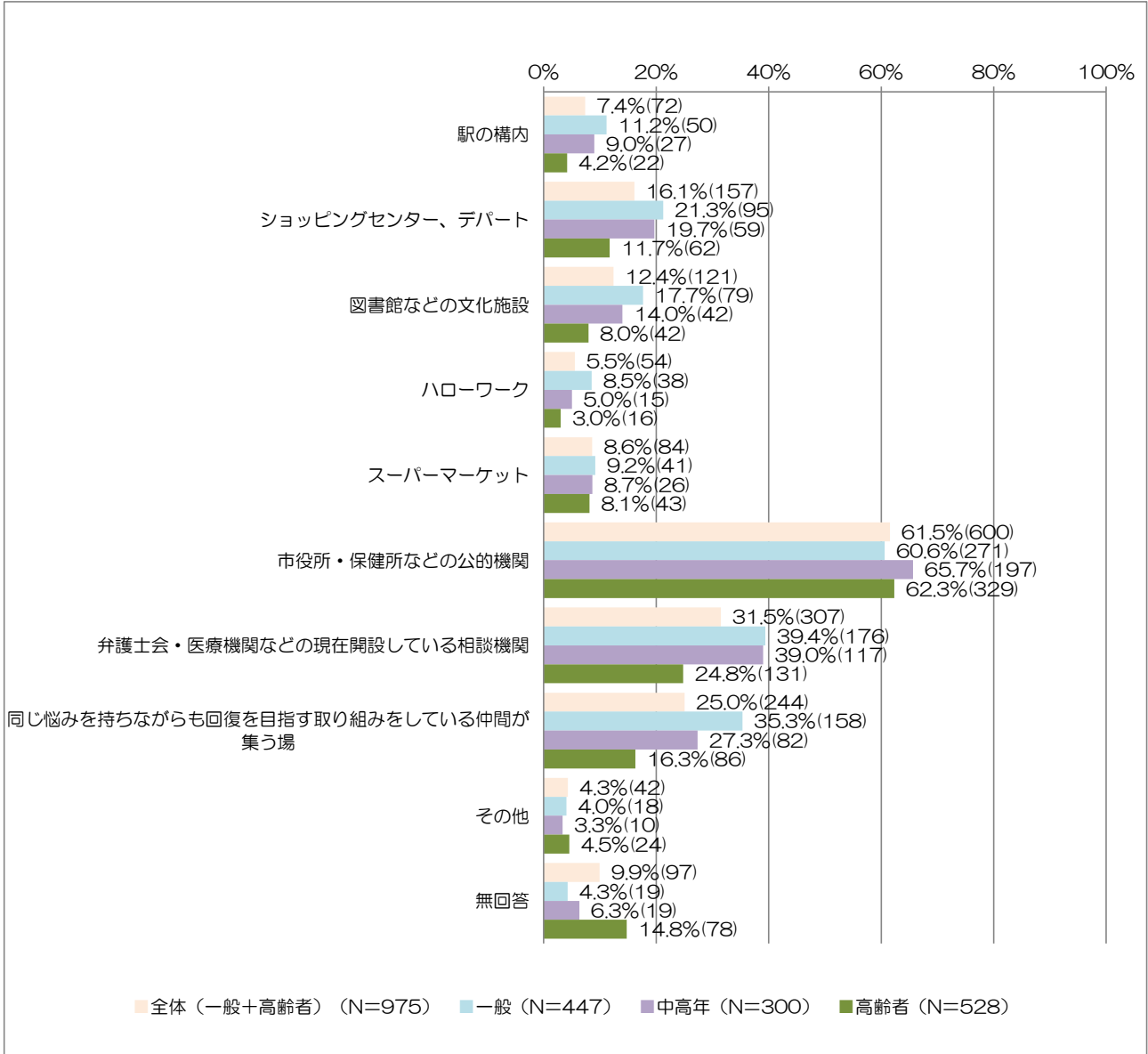


『鹿児島市無料相談窓口』カードを使って相談したことがあるかについては、「ある」の割合が、一般が3.1%、中高年が2.6%、高齢者が7.4%となっている。

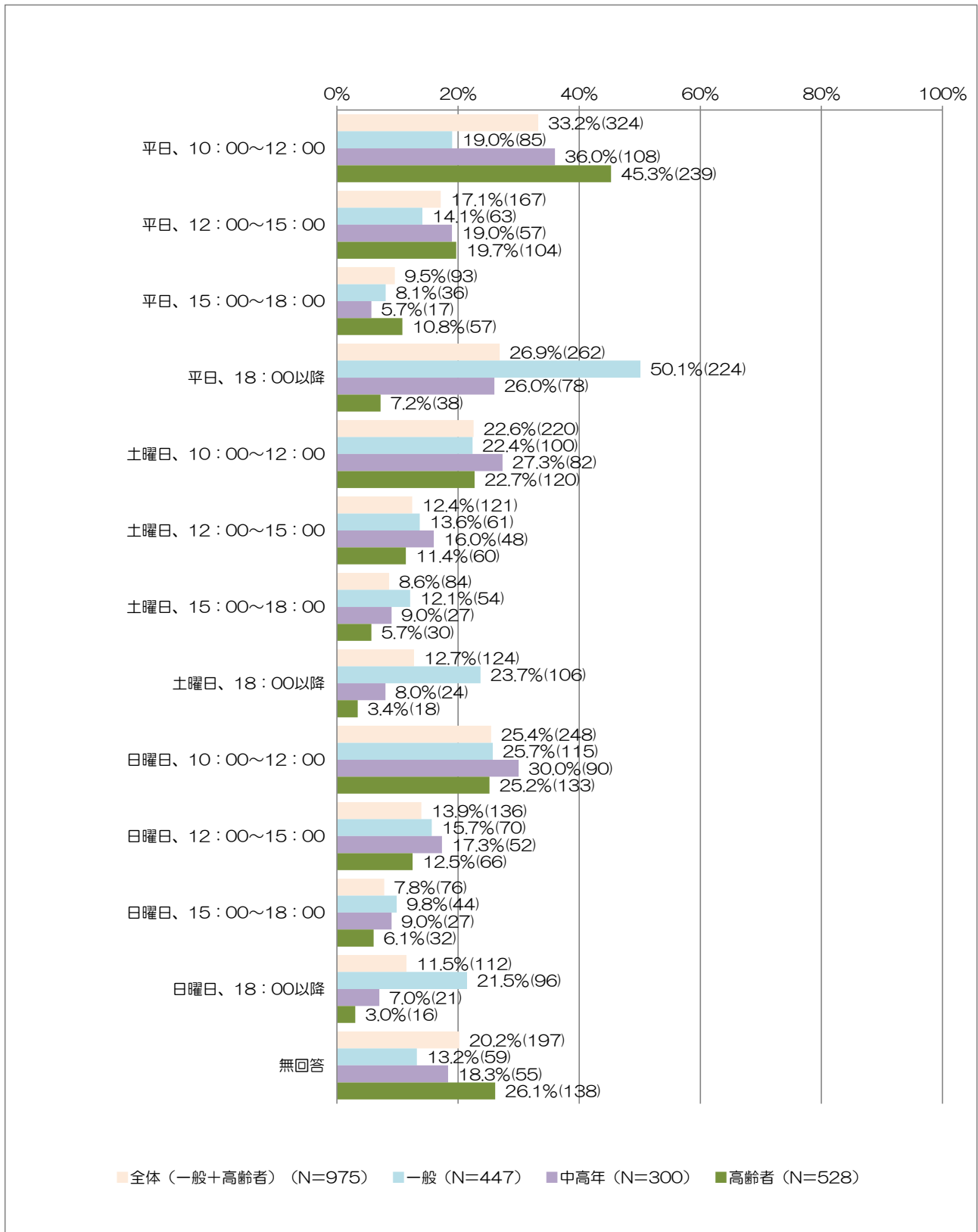


【相談しやすい場所・時間帯について】（全体・一般・中高年・高齢者）

相談しやすい場所については、一般・中高年・高齢者いずれも「市役所・保健所などの公的機関」の割合が最も高く、ともにおよそ6割占めているが、その他の回答項目については、年齢が低くなるほど回答割合が高くなっており、若い世代ほど多様な相談先を求めていると言える。



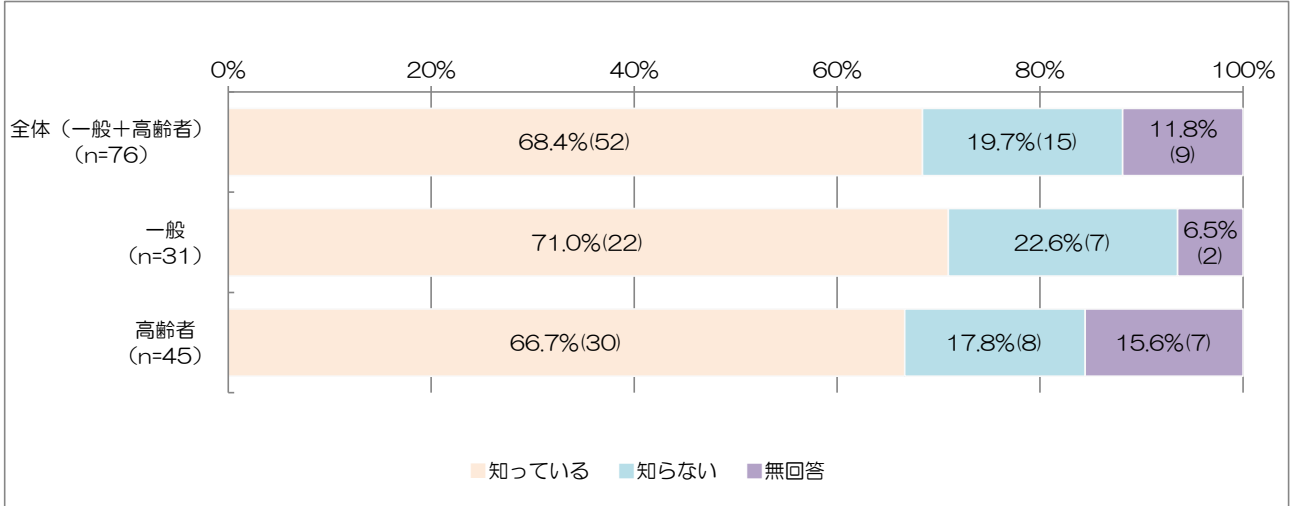
相談しやすい時間帯については、一般では「平日、18：00以降」が50.1%、中高年・高齢者では「平日、10：00～12：00」がそれぞれ36.0%、45.3%と最も高くなっている。



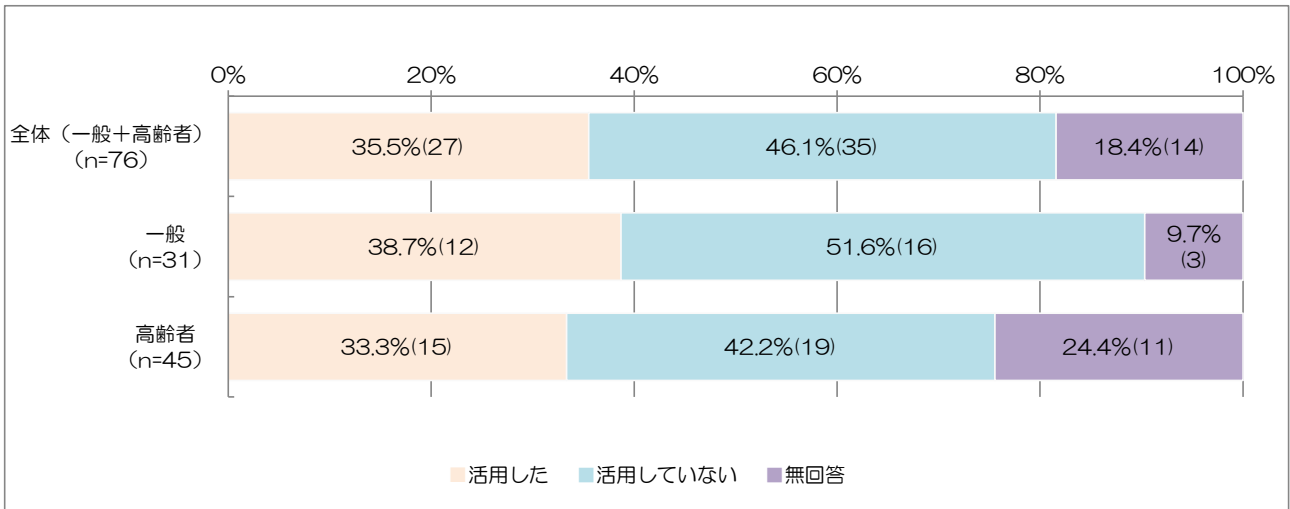
5 桜島の防災について

【「桜島大噴火 避難手順書」について】(全体・一般・高齢者)

『桜島大噴火 避難手順書』の認識度については、「知っている」の割合が、一般が71.0%、高齢者が66.7%となっている。



『桜島大噴火 避難手順書』の訓練での活用状況については、「活用した」の割合が、一般が38.7%、高齢者が33.3%となっている。

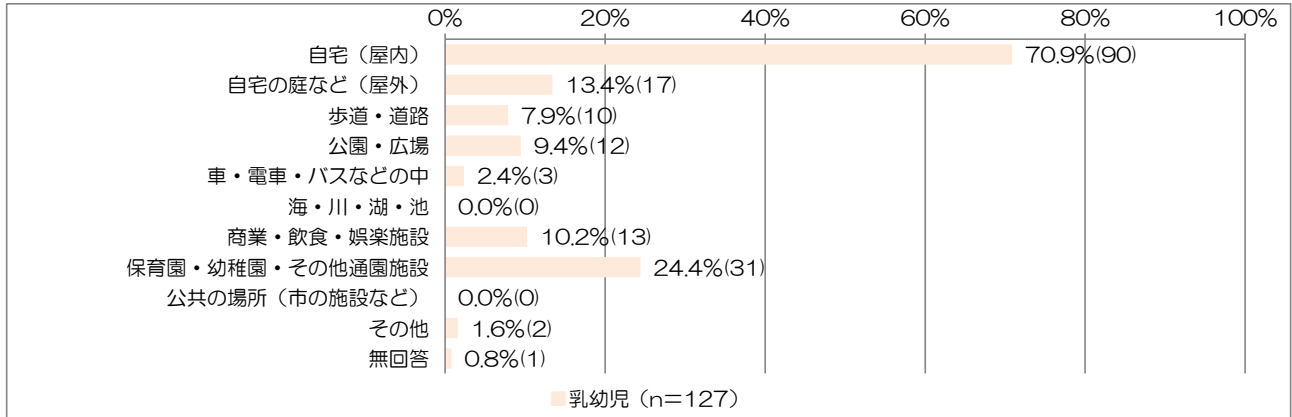


【再掲項目】（乳幼児・一般）

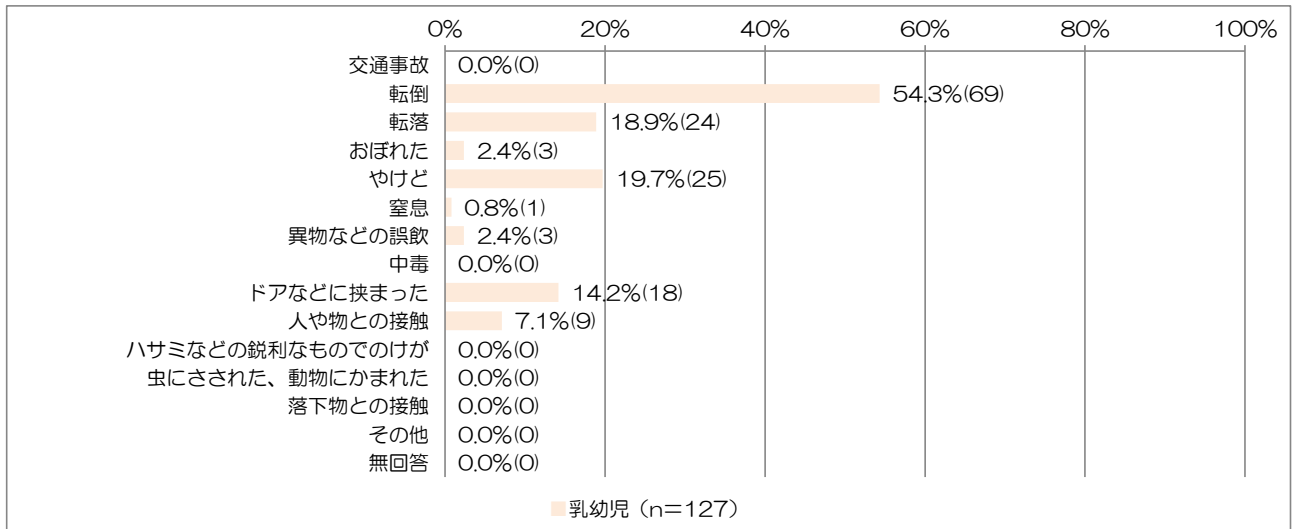
1 子どもの安全について

【事故やけがの経験について】（乳幼児）

事故やけがをした場所については、「自宅（屋内）」が70.9%と最も高く、次いで、「保育園・幼稚園・その他通園施設」の24.4%、「自宅の庭など（屋外）」の13.4%の順となっている。



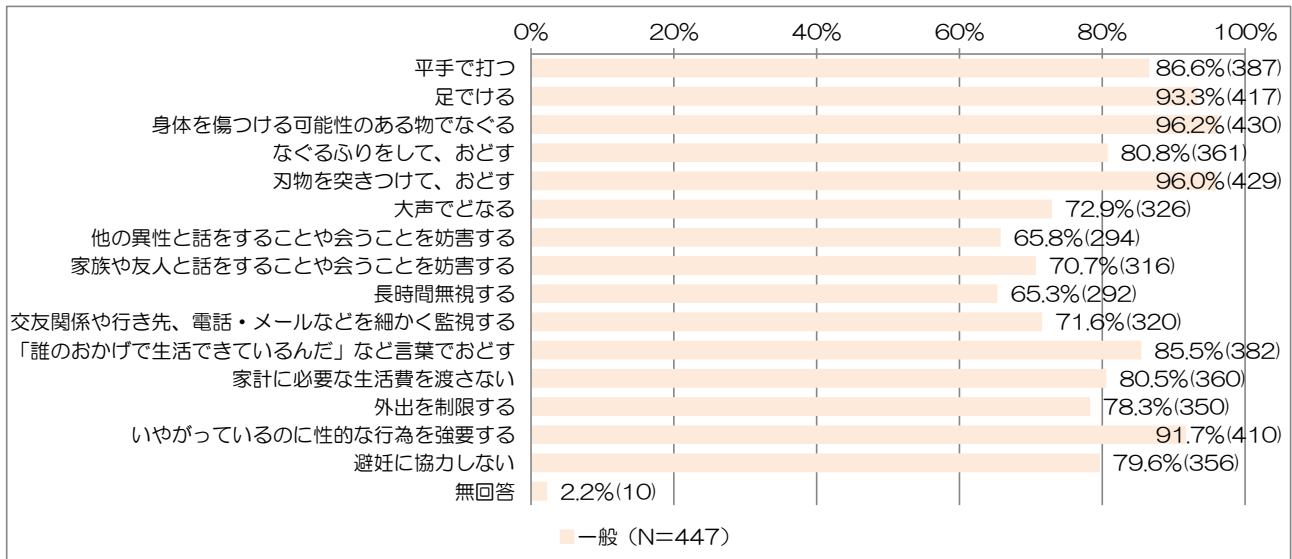
事故やけがの種類については、「転倒」が54.3%と最も高く、次いで、「やけど（熱湯、アイロンなど）」の19.7%、「転落」の18.9%の順となっている。



## 2 配偶者等からの暴力（DV）について

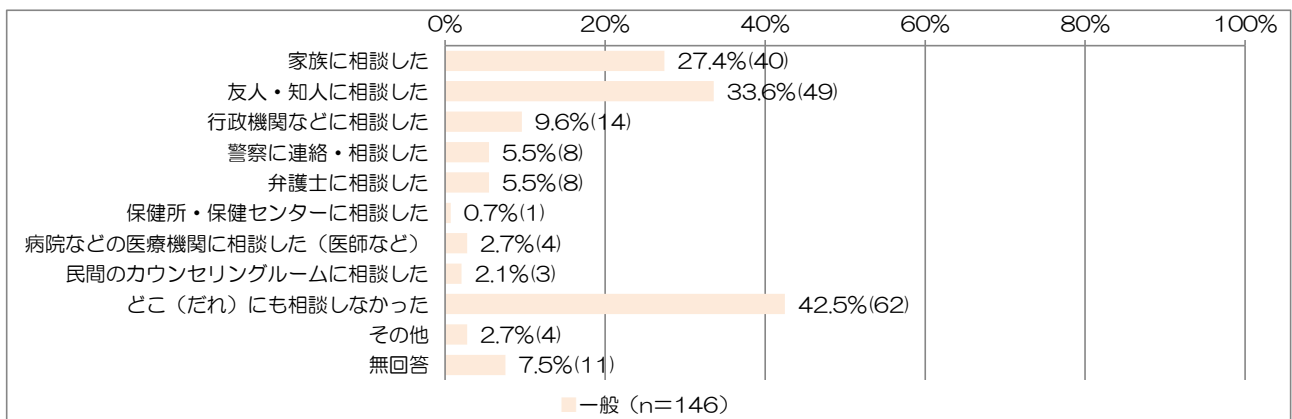
### 【暴力だと思うことについて】（一般）

暴力だと思うことについては、「身体を傷つける可能性のある物でなくる」が96.2%と最も高く、次いで、「刃物を突きつけて、おどす」の96.0%、「足でける」の93.3%の順となっており、「身体的暴力」についての認知に比べ、「精神的暴力」についての認知が進んでいないことが伺える。



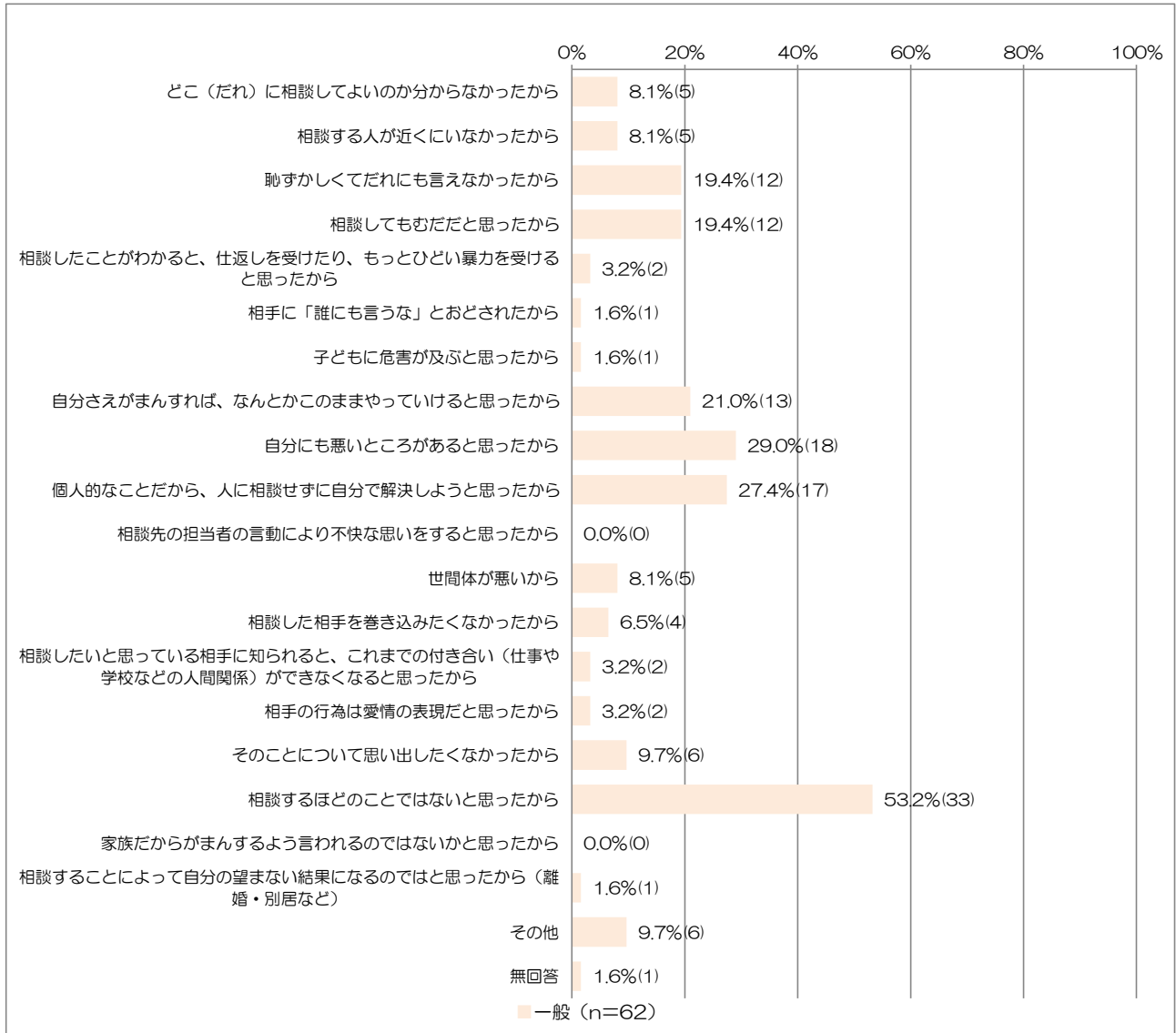
### 【暴力の相談状況について】（一般）

配偶者等からの暴力（DV）の相談状況については、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が42.5%と最も高く、次いで、「友人・知人に相談した」の33.6%、「家族に相談した」の27.4%の順となっている。



【暴力を相談しない理由について】（一般）

配偶者等からの暴力（DV）を相談しない理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が53.2%と最も高く、次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」の29.0%、「個人的なことだから、人に相談せずに自分で解決しようと思ったから」の27.4%の順となっている。





# 第 6 章 調査票



## 乳幼児の事故やけがに関する調査へのご協力のお願い

かねてから、鹿児島市政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

本市では、世界基準の安心安全都市を目指して、WHO（世界保健機関）が推奨する「セーフコミュニティ」の取組を進めており、平成28年1月29日にセーフコミュニティ国際認証を取得しました。

今回の調査は、乳幼児の事故やけがの実態の把握と、これまでのセーフコミュニティの取組による効果の検証等のために実施するもので、本市にお住まいの乳幼児がいらっしゃる世帯の中から1,000人の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いいたします。

※ この調査結果は、セーフコミュニティの推進に関する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、お願いいたします。

セーフコミュニティとは、「事故やけがは原因を調べ対策を行うことにより、予防できる」との考えのもと、さまざまな統計データやアンケートなどの分析結果に基づき、地域住民、行政、関係団体などが協働して事故やけがを予防する取組、またはその取組を進めているコミュニティのことです。

本市では、交通安全、学校の安全、子どもの安全、高齢者の安全、DV防止、自殺予防、防災・災害対策の7つを重点分野として取組を進めています。

### ● 調査票の記入について

- 1 調査対象にしているお子さんの保護者の方がご回答ください。
- 2 特別の注意書きがない限り、平成28年7月1日（金）現在でご回答ください。
- 3 特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲んでください。また、かっこ内には適切な言葉をご記入ください。
- 4 ご回答後の調査票は、お手数ですが平成28年8月19日（金）までに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。
- 5 本調査に関してご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

#### お問合せ先

〒892-8677

鹿児島市山下町11-1 鹿児島市 市民局 危機管理部 安心安全課

セーフコミュニティ推進係

電話 216-1512 FAX 226-0748

鹿児島市

市民用（乳幼児）調査票

## 平成28年度事故やけがに関する調査（乳幼児）

あてはまる番号に○をつけてください。カッコ内には適切な言葉をご記入ください。

## 1 対象のお子さん（封書の宛名）のことやお住まいのことについて

問1 対象のお子さん（封書の宛名）についてお聞きします。

(1)お子さんの性別	1. 男            2. 女
(2)お子さんの年齢 ※7月1日現在	(            ) 歳 (            ) か月
(3)お子さんの就園状況 ※7月1日現在	1. 未就園児            2. 保育園児 3. 幼稚園児            4. 認定こども園児 5. その他 (            )
(4)家族構成	1. 子どもと両親 2. 子どもと母（又は父） 3. 子どもと両親と祖父母等 4. 子どもと母（又は父）と祖父母等 5. その他

問2 あなた（保護者）のお住まいについてお聞きします。

(1) 現住所地 ※町名まで	鹿児島市 (            ) 例) 山下町、谷山中央4丁目
(2) 小学校区	1. (            ) 校区            2. 分からない

## 2 セーフコミュニティについて

問3 あなたは、鹿児島市が「セーフコミュニティ」に取り組んでいることを知っていますか。  
(1つに○)

1. 内容も含めて知っている
2. 聞いた（新聞やテレビ、パンフレットなどで見た）ことはあるが、内容は知らない
3. 知らない

&lt;セーフコミュニティとは&gt;

※ 「事故やけがは原因を調べ、対策を行うことによって予防できる」との考えのもと、さまざまな統計データやアンケートなどの分析結果に基づき、地域住民、行政、団体などが協働して事故やけがを予防する取組のこと。または、その取組を進めているコミュニティ。

**3 交通安全について**

問4 対象のお子さんは、この1年間（平成27年7月から平成28年6月まで）に交通安全教室（保育園や幼稚園等での講習会などを含む）に参加したことがありますか。

（1つに○）

- 1. 子どもだけで参加したことがある
  - 2. 保護者と一緒に参加したことがある
  - 3. 参加したことがない → 問4-1へ
  - 4. わからない → 問5へ
- } → 問5へ

問4で『3. 参加したことがない』とご回答された方にお聞きします。

問4-1 対象のお子さんが、交通安全教室（保育園や幼稚園等での講習会などを含む）に参加したことがない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1. 興味がないから
- 2. 参加の仕方が分からないから
- 3. (子どもに) 関係がある内容ではないから
- 4. 時間や場所など参加条件が合わないから
- 5. 実施していることを知らなかったから
- 6. 子どもと一緒に参加できる内容の教室がないから
- 7. 家庭での教育で十分だから
- 8. その他 ( )

問5 あなたは、6歳未満の乳幼児が自動車に乗車するときに、チャイルドシートの使用が義務付けられていることを知っていますか。（1つに○）

- 1. 知っている
- 2. 知らない

問6 対象のお子さんが自動車に乗車するときに、チャイルドシートを使用していますか。（1つに○）

- 1. 使用している
- 2. たまに使用する
- 3. 使用していない
- 4. 自動車に乗らない

4 不慮の事故について

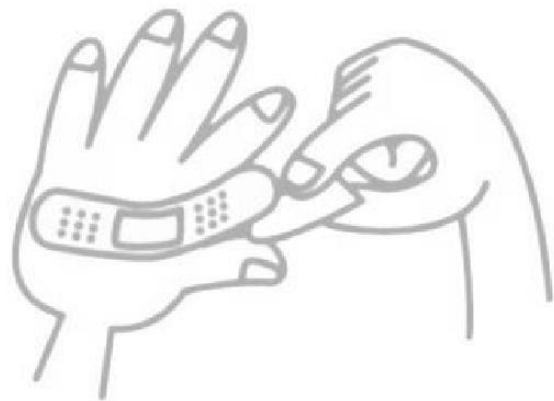
問7 不慮の事故とは、交通事故、転倒、転落、おぼれる、やけど、窒息、中毒などをいいますが、対象のお子さんに対し、特に注意している不慮の事故は何ですか。  
（あてはまるもの3つまで○）

1. 交通事故      2. 転倒      3. 転落      4. おぼれる  
5. やけど      6. 窒息      7. 中毒      8. その他（                      ）

対象（封筒の宛名）のお子さんのこの1年間（平成27年7月～平成28年6月）の「事故やけが」の状況についてお聞きします。この場合の「事故やけが」とは、不慮の事故によるけがなどを指します。

問8 対象のお子さんは、この1年間に「事故やけが」の経験がありますか。  
（1つに○）

1. ある → 次のページ、問9へ  
2. ない → 9ページ、問10へ



鹿児島市

市民用（乳幼児）調査票

問8で『1. ある』とご回答された方にお聞きします。

問9 対象のお子さんのこの1年間（平成27年7月～平成28年6月）にあった事故やけがの詳細について、ご回答ください。

（事故やけがの経験が2件以上ある場合は、次のページに2件目についてもご回答ください。）

1 件目
<b>ア 事故やけがをした場所（1つに○）</b> 1. 自宅（屋内） 2. 自宅の庭など（屋外） 3. 歩道・道路 4. 公園・広場 5. 車・電車・バスなどの中 6. 海・川・湖・池 7. 商業・飲食・娯楽施設 8. 保育園・幼稚園・その他通園施設 9. 公共の場所（市の施設など） 10. その他（ ）
<b>イ 事故やけがの種類（1つに○）</b> 1. 交通事故 2. 転倒 3. 転落 4. おぼれた 5. やけど（熱湯、アイロンなど） 6. 窒息（のどに食べ物をつまらせたなど） 7. 異物などの誤飲（たばこの吸殻など） 8. 中毒（洗剤を飲み込んだ、煙を吸ったなど） 9. ドアなどに挟まった 10. 人や物との接触 11. ハサミなどの鋭利なものでのけが 12. 虫にさされた、動物にかまれた 13. 落下物との接触 14. その他（ ）
<b>ウ 医療機関の受診（1つに○）</b> 1. 家庭などでの応急処理で済んだ 2. 救急車で医療機関に搬送されたが、入院・通院の必要はなかった 3. 救急車で医療機関に搬送され、入院・通院した（している） 4. 医療機関で受診したが、入院・通院の必要はなかった 5. 医療機関で受診し、入院・通院した（している） 6. その他（ ）
<b>エ 未然に防ぐことができた可能性（1つに○）</b> 1. 防ぐことができた 2. 防ぐことはできなかった 3. わからない

2 件目
<p><b>ア 事故やけがをした場所（1つに○）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 自宅（屋内）</li> <li>2. 自宅の庭など（屋外）</li> <li>3. 歩道・道路</li> <li>4. 公園・広場</li> <li>5. 車・電車・バスなどの中</li> <li>6. 海・川・湖・池</li> <li>7. 商業・飲食・娯楽施設</li> <li>8. 保育園・幼稚園・その他通園施設</li> <li>9. 公共の場所（市の施設など）</li> <li>10. その他（   ）</li> </ul>
<p><b>イ 事故やけがの種類（1つに○）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 交通事故</li> <li>2. 転倒</li> <li>3. 転落</li> <li>4. おぼれた</li> <li>5. やけど（熱湯、アイロンなど）</li> <li>6. 窒息（のどに食べ物をつまらせたなど）</li> <li>7. 異物などの誤飲（たばこの吸殻など）</li> <li>8. 中毒（洗剤を飲み込んだ、煙を吸ったなど）</li> <li>9. ドアなどに挟まった</li> <li>10. 人や物との接触</li> <li>11. ハサミなどの鋭利なものでのけが</li> <li>12. 虫にさされた、動物にかまれた</li> <li>13. 落下物との接触</li> <li>14. その他（   ）</li> </ul>
<p><b>ウ 医療機関の受診（1つに○）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭などでの応急処理で済んだ</li> <li>2. 救急車で医療機関に搬送されたが、入院・通院の必要はなかった</li> <li>3. 救急車で医療機関に搬送され、入院・通院した（している）</li> <li>4. 医療機関で受診したが、入院・通院の必要はなかった</li> <li>5. 医療機関で受診し、入院・通院した（している）</li> <li>6. その他（   ）</li> </ul>
<p><b>エ 未然に防ぐことができた可能性（1つに○）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 防ぐことができた</li> <li>2. 防ぐことはできなかった</li> <li>3. わからない</li> </ul>



鹿児島市

市民用（乳幼児）調査票

問9の『イ 事故やけがの種類』で『2. 転倒』、『3. 転落』、『4. おぼれた』、『5. やけど』、『6. 窒息』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

問9-1 問9の事故やけがの後、あなた（保護者）は対象のお子さんに対する考え方や行動の変化はありましたか。（ア・イそれぞれ1つに○）

ア. 考え方の変化	1. あった	2. なかった	3. わからない
-----------	--------	---------	----------

考え方の変化の例

- （子どもを車内に残して車を離れることが危険だと思った。）
- （タバコや灰皿が子どもの手に届くところがあると危険だと思った。）
- （子どもがお箸や歯ブラシをくわえたまま歩き回ることは危険だと思った。）

イ. 行動の変化	1. あった	2. なかった	3. わからない
----------	--------	---------	----------

行動の変化の例

- （子どもを車内に残して車を離れなくなった。）
- （タバコや灰皿を子どもの手の届かないところにおくようになった。）
- （子どもがお箸や歯ブラシをくわえたまま歩き回らないよう注意するようになった。）

問9の『イ 事故やけがの種類』で『2. 転倒』にご回答された方にお聞きします。  
 （※問9で1件目と2件目のどちらも『イ 事故やけがの種類』を『2. 転倒』にご回答された場合は、1件目のものについてご回答ください。）

問9-2 転倒の原因（1つに○）

1. 段差、ものに足をひっかけた
2. 友だちなどに押された
3. 手をひっぱられた（犬の散歩など）
4. すべった
5. 人や物との接触
6. その他（



鹿児島市

市民用（乳幼児）調査票

問9の『イ 事故やけがの種類』で『3. 転落』とご回答された方にお聞きします。  
（※問9で1件目と2件目のどちらも『イ 事故やけがの種類』を『3. 転落』とご回答された場合は、1件目のものについてご回答ください。）

問9-3 転落の原因（1つに○）

1. ベッド、椅子、ソファから落ちた
2. 階段から落ちた
3. 窓、バルコニー、屋上から落ちた
4. 抱き上げていて落としてしまった
5. 遊具（ジャングルジムなど）で遊んでいて落ちた
6. その他（ ）

問9の『イ 事故やけがの種類』で『4. おぼれた』とご回答された方にお聞きします。  
（※問9で1件目と2件目のどちらも『イ 事故やけがの種類』を『4. おぼれた』とご回答された場合は、1件目のものについてご回答ください。）

問9-4 おぼれた場所（1つに○）

1. 風呂場
2. プール（子ども用プールを含む）
3. 海・川・湖・池
4. その他（ ）

問9の『イ 事故やけがの種類』で『5. やけど』とご回答された方にお聞きします。  
（※問9で1件目と2件目のどちらも『イ 事故やけがの種類』を『5. やけど』とご回答された場合は、1件目のものについてご回答ください。）

問9-5 やけどの原因（1つに○）

1. お風呂の湯・シャワー
2. アイロン
3. やかん・ポット
4. ホットプレート、炊飯器など（調理家電）
5. 花火
6. 食べ物・飲み物
7. 暖房機（ストーブなど）
8. その他（ ）

鹿児島市

市民用（乳幼児）調査票

問9の『イ 事故やけがの種類』で『6. 窒息』にご回答された方にお聞きます。  
(※問9で1件目と2件目のどちらも『イ 事故やけがの種類』を『6. 窒息』にご回答された場合は、1件目のものについてご回答ください。)

問9-6 窒息の原因・状況（1つに○）

1. 食べ物を詰ませた
2. 手元にあったもの（おもちゃ、ボタンなど）を口に入れてしまい、詰ませた
3. おう吐物が鼻・口をふさいだ
4. うつぶせ寝
5. ビニール袋等を頭にかぶった・かぶされた
6. 添い寝で、親の腕等が鼻・口をふさいだ
7. 紐（ブラインドの紐やベルトなど）が首にまきついた
8. その他（ )



すべての方にお聞きます。

問 10 あなた（保護者）の家庭内における子どもの安全対策についてお聞きます。  
 1～18の対策がそれぞれ必要だと思いますか。また、実際にその対策をとっていますか。  
 （1～18の項目ごとに1つに○）

	1. 必要だと思 い、対策を とっている	2. 必要だと思 うが、対策 をとってい ない	3. 必要だと思 わないが、 対策をとっ ている	4. 必要だと思 わないし、 対策もとっ ていない
1. かかりつけの医療機関や緊急時の連絡先が分かるようにする	1	2	3	4
2. 熱いお茶、味噌汁などはテーブルの端に置かないようにする	1	2	3	4
3. 調理家電（炊飯器、ポットなど）は手の届かないところに置く	1	2	3	4
4. 箸や歯ブラシなどをくわえたまま歩き回らないよう注意する	1	2	3	4
5. テーブルなどの角にカバーをする	1	2	3	4
6. たんす・食器棚などの扉が開かないように安全グッズを設置する	1	2	3	4
7. 窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置する	1	2	3	4
8. ベランダや窓から身を乗り出さないよう近くに台座などは置かない	1	2	3	4
9. 子どもの首がかかる高さにブラインドやカーテンのひもが垂れ下がらないようにする	1	2	3	4
10. 入浴後は浴槽のお湯を抜く	1	2	3	4
11. 一人で浴室に入れないようドアにカギをつける	1	2	3	4
12. ボタン電池や硬貨などは手の届かないところに置く (ボタン電池を使用した電子機器、財布を含む)	1	2	3	4
13. 飴、お餅、ブドウ、リンゴなど、喉に詰まらせないよう注意する	1	2	3	4
14. ドアや扉に手などを挟まないように注意する (安全グッズを使用するなど)	1	2	3	4

次のページにつづく

鹿児島市

市民用（乳幼児）調査票

	1. 必要だと思 い、 対策をとっ ている	2. 必要だと思 うが、 対策をとっ ていない	3. 必要だと思 わないが、 対策をとっ ている	4. 必要だと思 わないし、 対策もとっ ていない	5. 器具や設 備等がない 等の理由 で危険性が 低い
15. 暖房機（ストーブなど直接触れるとやけどの恐れがあるもの）にガードをする	1	2	3	4	5 暖房機を使 用していな い
16. 階段に転落防止柵を設置する	1	2	3	4	5 階段がない
17. タバコや灰皿（タバコを入れたかばん等も含む）は手の届かないところに置く	1	2	3	4	5 喫煙者がい ない
18. 滑り台やブランコなど遊具の安全な使い方 方を教える	1	2	3	4	5 まだ遊具を 使える年齢 ではない



鹿児島市

市民用（乳幼児）調査票

## 5 子育てへの支援について

問 11 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるものをお答えください。  
（1～19の事業ごとに、ア・イそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○）

	ア 知っている		イ これまでに利用 したことがある	
	はい	いいえ	はい	いいえ
1. 母親・父親になるための準備教室	はい	いいえ	はい	いいえ
2. 保健センターの情報・相談事業	はい	いいえ	はい	いいえ
3. 子育て世代包括支援センター	はい	いいえ	はい	いいえ
4. 教育相談	はい	いいえ	はい	いいえ
5. 保育所や幼稚園の園庭等の開放	はい	いいえ	はい	いいえ
6. ふれあい子育てサロンなど	はい	いいえ	はい	いいえ
7. すこやか子育て交流館（りぼんかん）	はい	いいえ	はい	いいえ
8. 親子つどいの広場（なかまっち、たにっこりん、なかよしの）	はい	いいえ	はい	いいえ
9. 児童館、地域福祉館の児童ルーム	はい	いいえ	はい	いいえ
10. 地域子育て支援センター	はい	いいえ	はい	いいえ
11. ファミリー・サポート・センター	はい	いいえ	はい	いいえ
12. 子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライト）	はい	いいえ	はい	いいえ
13. 育児支援家庭訪問事業	はい	いいえ	はい	いいえ
14. こどもと家庭の相談室 （市役所にある児童についての悩み相談室）	はい	いいえ	はい	いいえ
15. 保育コーディネーター	はい	いいえ	はい	いいえ
16. かごしま市子育てガイド	はい	いいえ	はい	いいえ
17. ひとり親家庭等のしおり	はい	いいえ	はい	いいえ
18. 病児・病後児保育事業 （病気回復期の保育）	はい	いいえ	はい	いいえ
19. その他 （ )	はい	いいえ	はい	いいえ

鹿児島市

市民用（乳幼児）調査票

問 12 事故やけがの予防に関して、ご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

[Empty response box for question 12]

質問は以上です。最後までご協力いただきましてありがとうございました。  
同封の返信用封筒（切手不要）に、この調査票を入れ8月19日（金）までに、郵便ポストに  
投函くださいますようお願いいたします。



## 鹿児島市民の事故やけがに関する調査へのご協力をお願い

かねてから、鹿児島市政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

本市では、世界基準の安心安全都市を目指して、WHO（世界保健機関）が推奨する「セーフコミュニティ」の取組を進めており、平成28年1月29日にセーフコミュニティ国際認証を取得しました。

今回の調査は、事故やけがの実態の把握と、これまでのセーフコミュニティの取組による効果の検証等のために実施するもので、本市にお住まいの16歳から64歳までの方の中から1,500人の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いいたします。

※ この調査結果は、セーフコミュニティの推進に関する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、お願いいたします。

セーフコミュニティとは、「事故やけがは原因を調べ対策を行うことにより、予防できる」との考えのもと、さまざまな統計データやアンケートなどの分析結果に基づき、地域住民、行政、関係団体などが協働して事故やけがを予防する取組、またはその取組を進めているコミュニティのことです。

本市では、交通安全、学校の安全、子どもの安全、高齢者の安全、DV防止、自殺予防、防災・災害対策の7つを重点分野として取組を進めています。

### ● 調査票の記入について

- 1 調査対象としている方がご回答ください。（ご本人様にご回答できない場合は、ご家族の方などが、可能な範囲で聞き取り等を行いご回答ください。）
- 2 特別の注意書きがない限り、平成28年7月1日（金）現在でご回答ください。
- 3 特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲んでください。また、かっこ内には適切な言葉をご記入ください。
- 4 ご回答後の調査票は、お手数ですが平成28年8月19日（金）までに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。
- 5 本調査に関してご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

### お問合せ先

〒892-8677

鹿児島市山下町11-1 鹿児島市 市民局 危機管理部 安心安全課

セーフコミュニティ推進係

電話216-1512 FAX226-0748



鹿児島市

市民用（一般）調査票

平成28年度事故やけがに関する調査（一般）

あてはまる番号に○をつけてください。カッコ内には適切な言葉をご記入ください。

1 あなたのことやお住まいについて

問1 あなた（封書の宛名の方）の性別などについてお聞きします。

(1)性別	1. 男                  2. 女
(2)年齢 ※7月1日現在	(                  ) 歳
(3)就労状況	1. 就労している                          2. 就労していない 3. 学生(アルバイトをしている学生も含む)      4. その他

問2 あなたのお住まいについてお聞きします。

(1) 現住所地 ※町名まで	鹿児島市 (    ) 例) 山下町、谷山中央4丁目
(2) 小学校区	1. (                          ) 校区                  2. 分からない
(3) 家族構成	1. 単身    2. 夫婦のみ 3. 親子など、家族と同居                  4. その他

2 セーフコミュニティについて

問3 あなたは、鹿児島市が「セーフコミュニティ」に取り組んでいることを知っていますか。  
(1つに○)

1. 内容も含めて知っている
2. 聞いた(新聞やテレビ、パンフレットなどで見た)ことはあるが、内容は知らない
3. 知らない

<セーフコミュニティとは>

※ 「事故やけがは原因を調べ、対策を行うことによって予防できる」との考えのもと、さまざまな統計データやアンケートなどの分析結果に基づき、地域住民、行政、団体などが協働して事故やけがを予防する取組のこと。または、その取組を進めているコミュニティ。

鹿児島市

市民用（一般）調査票

**3 交通安全について**

問 4 あなたは、この 1 年間（平成 2 7 年 7 月から平成 2 8 年 6 月まで）に交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがありますか。（1 つに○）

- |              |   |                  |                        |
|--------------|---|------------------|------------------------|
| 1. 参加したことがある | } | → 次のページ<br>問 5 へ | 2. 参加したことがない → 問 4-1 へ |
| 3. わからない     |   |                  |                        |

問 4 で『2. 参加したことがない』とご回答された方にお聞きします。

問 4-1 あなたが、交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 興味がなから
2. 参加の仕方が分らないから
3. 自分に関係がある内容ではないから
4. 時間や場所など参加条件が合わないから
5. 実施していることを知らなかつたから
6. その他 ( )



鹿児島市

市民用（一般）調査票

問5 あなたは、自動車を運転しますか。（1つに○）

- 1. 運転する
  - 2. たまに運転する
  - 3. (運転免許証を持っているが) 運転しない
  - 4. 運転免許証を持っていない
- } → 問5-1へ
- } → 問6へ

問5で『1. 運転する』『2. たまに運転する』とご回答された方にお聞きします。

問5-1 あなたは、次の自動車の運転に関する交通ルール・マナーを知っていますか。また、実際に守っていますか。

	それぞれについてあてはまるものすべてに○	
	知っている	守っている
ア. 横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	1	1
イ. 酒気を帯びて運転してはならない	1	1
ウ. 運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	1	1
エ. 夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	1	1
オ. 歩行者、自転車の傍を通行するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	1	1

問6 あなたは、自動車を運転するときに、後部座席同乗者も含め、全席でシートベルトを着用しなければならないことを知っていますか。また、実際に着用していますか。

	それぞれについてあてはまるものすべてに○	
	知っている	着用している
ア. 運転席のシートベルト着用	1	1
イ. 助手席のシートベルト着用	1	1
ウ. 後部座席のシートベルト着用	1	1

4 認知症に対する理解について

問7 あなたは、認知症は病気によるものだと知っていますか。（1つに○）

1. 知っている      2. 知らない

問8 あなたは、認知症への理解不足が高齢者の方への虐待につながることを知っていますか。（1つに○）

1. 知っている      2. 知らない

問9 認知症サポーター（認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者）についてご存知ですか。（1つに○）

1. サポーターを養成する講座を受けたことがある } → 問9-1へ
2. 知っているが、サポーターを養成する講座を受けたことはない } → 次のページ
3. 聞いたことはある } 問10へ
4. まったく知らない }

問9で『1. サポーターを養成する講座を受けたことがある』とご回答された方にお聞きします。

問9-1 あなたは、「認知症サポーター養成講座」を受講して、認知症の方への対応に変化がありましたか。（1つに○）

1. 変化があった      2. 変化はなかった      3. わからない



5 配偶者等からの暴力（DV）について

※DV（ドメスティック・バイオレンス）とは・・・

一般的に、配偶者や恋人など親密な関係にある又はあった者からふるわれる暴力をいい、女性も男性も被害者となりえます。社会的地位や信用、経済力、腕力などの「力」を背景に、身体的な暴力だけでなく、精神的なもの、経済的なもの、性的なものなど様々な暴力の形をとり、相手を支配しようとする行為であり、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害です。

問10 配偶者等からの暴力（DV）の認識についてお伺いします。

（1つに○）

1. 言葉も意味も知っていた

} → 問11へ

2. 言葉は知っているが、意味はよく知らなかった

} → 次のページ

3. まったく知らなかった

} 問12へ

問10で『1. 言葉も意味も知っていた』とご回答された方にお聞きします。

問11 あなたは、配偶者等からの暴力（DV）の意味を知ったあとにア～エのようなことをしましたか。

項 目	それぞれについて あてはまるもの1つに○	
	1. した	2. していない
ア. 自分と結婚（交際）相手の関係や身近なカップルの状況について改めて考えた	1	2
イ. 実際に誰かに相談した	1	2
ウ. 結婚（交際）相手とDVにあたる行為について話し合った	1	2
エ. DV被害者ではないかと思う知り合いに相談場所を教えるなど助言した	1	2

鹿児島市

市民用（一般）調査票

すべての方にお聞きます。

問 12 あなたは、次のようなことが配偶者や恋人など親密な関係にある者の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。（暴力だと思うものすべてに○）

1. 平手で打つ
2. 足でける
3. 身体を傷つける可能性のある物でなぐる
4. なぐるふりをして、おどす
5. 刃物を突きつけて、おどす
6. 大声でどなる
7. 他の異性と話をすることや会うことを妨害する
8. 家族や友人と話をすることや会うことを妨害する
9. 長時間無視する
10. 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する
11. 「誰のおかげで生活できているんだ」など言葉でおどす
12. 家計に必要な生活費を渡さない
13. 外出を制限する
14. いやがっているのに性的な行為を強要する
15. 避妊に協力しない

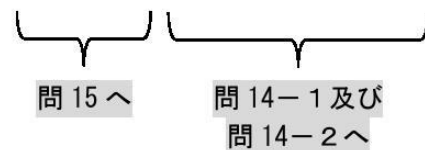
問 13 配偶者等からの暴力（DV）について、あなたはどのように思いますか。

項 目	それぞれについて あてはまるもの1つに○			
	1. そう思う	2. ややそう 思う	3. あまりそ う思わな い	4. そう思わ ない
ア. DVは人権を侵害する行為であると思う	1	2	3	4
イ. どんな理由があっても暴力をふるうべきではないと思う	1	2	3	4
ウ. 暴力をふるわれる方にも問題があると思う	1	2	3	4
エ. 暴力をふるう相手から別れたいと思えばいつでも別れられると思う	1	2	3	4
オ. DVは個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だと思う	1	2	3	4
カ. 夫婦間の暴力であっても、警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきであると思う	1	2	3	4

問 14 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。

		それぞれについて あてはまるもの1つに○		
	項 目	1. まったく ない	2. 1・2度 あった	3. 何度もあ った
ア	身体的な暴力 なぐる、ける、物を投げつける、 突き飛ばすなど	1	2	3
イ	精神的な暴力 人格を否定するような暴言や交友 関係を細かく監視するなどの精神 的な嫌がらせ、 あなたやあなたの家族に危害を加 えるという脅迫など	1	2	3
ウ	経済的な暴力 生活費を渡さない、お金を返さな い、又はお金の使い道を細かく確 認するなど	1	2	3
エ	性的な暴力 避妊に協力しない、嫌がっている のに性的な行為を強要するなど	1	2	3

(注) ※ア～エ、これらはすべてDVです



◆問 14 のア～エいずれかの項目で『2. 1・2度あった』または『3. 何度もあった』  
のどちらかに回答された方 ⇒ 次のページ、問 14-1 及び問 14-2 へ

◆問 14 のア～エすべての項目で『1. まったくない』と回答された方 ⇒ 10 ページ、問 15 へ



鹿児島市

市民用（一般）調査票

問14のア～エのいずれかの項目で『2. 1・2度あった』または『3. 何度もあった』  
 とご回答された方にお聞きします。

問14-1 あなたはその相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。  
 （1つに○）

1. ある                                  2. ない

問14-2 あなたはこれまでに、配偶者等からの暴力（DV）について、だれかに打ち明け  
 たり、相談したりしましたか。（あてはまるものすべてに○）

1. 家族に相談した
2. 友人・知人に相談した
3. 行政機関（鹿児島市男女共同参画センター（サンエールかごしま相談室）、かごしま県民交流センター内の鹿児島県男女共同参画センター、鹿児島市役所内のこどもと女性の相談室、鹿児島県女性相談センター、法務局）などに相談した
4. 警察に連絡・相談した
5. 弁護士に相談した
6. 保健所・保健センターに相談した
7. 病院などの医療機関に相談した（医師など）
8. 民間のカウンセリングルームに相談した
9. どこ（だれ）にも相談しなかった → 次のページ、問14-3へ
10. その他（                                  ）

◆問14-2で『9. どこ（だれ）にも相談しなかった』とご回答された方 ⇒ 問14-3へ

◆問14-2で『9. どこ（だれ）にも相談しなかった』以外に○をつけた方 ⇒ 10ページ  
 問15へ





問 14-2 で『9. どこ（だれ）にも相談しなかった』とご回答された方にお聞きします。

問 14-3 どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。

（あてはまるものすべてに○）

1. どこ（だれ）に相談してよいのか分からなかったから
2. 相談する人が近くにいなかったから
3. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
4. 相談してもむだだと思ったから
5. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
6. 相手に「誰にも言うな」とおどされたから
7. 子どもに危害が及ぶと思ったから
8. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
9. 自分にも悪いところがあると思ったから
10. 個人的なことだから、人に相談せずに自分で解決しようと思ったから
11. 相談先の担当者の言動により不快な思いをすと思ったから
12. 世間体が悪いから
13. 相談した相手を巻き込みたくなかったから
14. 相談したいと思っている相手に知られると、これまでの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
15. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
16. そのことについて思い出したくなかったから
17. 相談するほどのことではないと思ったから
18. 家族だからがまんするよう言われるのではないかと思ったから
19. 相談することによって自分の望まない結果になるのではと思ったから（離婚・別居など）
20. その他（ ）

鹿児島市

市民用（一般）調査票

すべての方にお聞きます。

問 15 配偶者等からの暴力（DV）についての具体的な相談先や鹿児島市などが発行しているDVに関するリーフレット等について、知っていますか。

（1）DVについての具体的な相談先について（ア～オの項目ごとに1つに○）

項 目	1. 相談したことがある	2. 知っていて相談する必要があつたが、しなかつた	3. 知っていたが、相談する必要がなかつた	4. まったく知らなかつた
ア. サンエールかごしま相談室	1	2	3	4
イ. 鹿児島市役所内のこどもと女性の相談室	1	2	3	4
ウ. 鹿児島県女性相談センター	1	2	3	4
エ. かごしま県民交流センター内の鹿児島県男女共同参画センター	1	2	3	4
オ. 警察署の生活安全課	1	2	3	4

（2）病院や金融機関、公共施設等に設置している鹿児島市などが発行しているDVの相談先を紹介するリーフレット等について  
（次のページのア～オの項目ごとに1つに○）

項 目	1. 読んだことがある	2. い読んだことはな知っているが、	3. かまったく知らなかつた
ア. カードサイズDVリーフレット（鹿児島市）	1	2	3
イ. 男性相談カード（鹿児島市）	1	2	3
ウ. DVリーフレット（鹿児島県）	1	2	3
エ. デートDV啓発誌（鹿児島県）	1	2	3
オ. DVリーフレット（鹿児島県女性相談センター）	1	2	3

鹿児島市

市民用（一般）調査票

鹿児島市などが発行しているDVの相談先を紹介するリーフレット等

ア カードサイズDVリーフレット（鹿児島市）



イ 男性相談カード（鹿児島市）

### 男性のための相談室

099-813-0853

「パートナーにどう向き合えばいいのかわからない…」  
「仕事をがんばっているのに正当に評価されない…」

夫婦・子ども・親の問題、仕事に関する悩み、健康や性に関する悩みなど、男性が抱える様々な悩みについて、男性相談員が相談をお受けします。

相談日	偶数月・第3日曜日の午後 奇数月・第3土曜日の午前	面接・電話 予約優先
-----	------------------------------	---------------

平成28年度 相談日程【一人あたり60分まで】(予約優先)

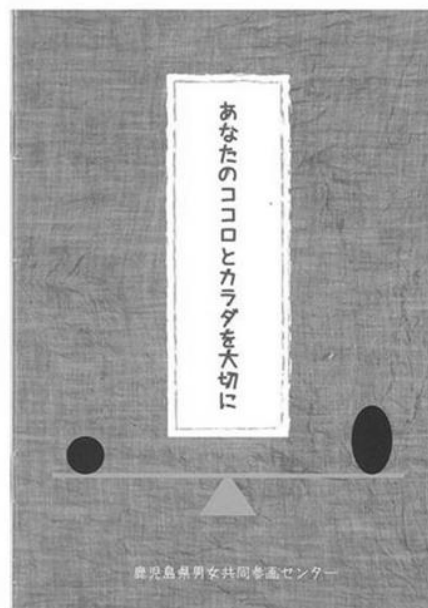
偶数月の日曜日 13:00～16:00	奇数月の土曜日 10:00～13:00
平成28年 4月17日	5月21日
6月19日	7月16日
8月21日	9月17日
10月16日	11月19日
12月18日	平成29年 1月21日
2月19日	3月18日

発行：鹿児島市男女共同参画推進課 Tel.099-813-0852

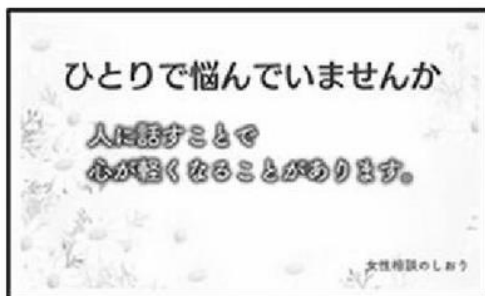
ウ DVリーフレット（鹿児島県）



エ デートDV啓発誌（鹿児島県）



オ DVリーフレット（鹿児島県女性相談センター）





鹿児島市

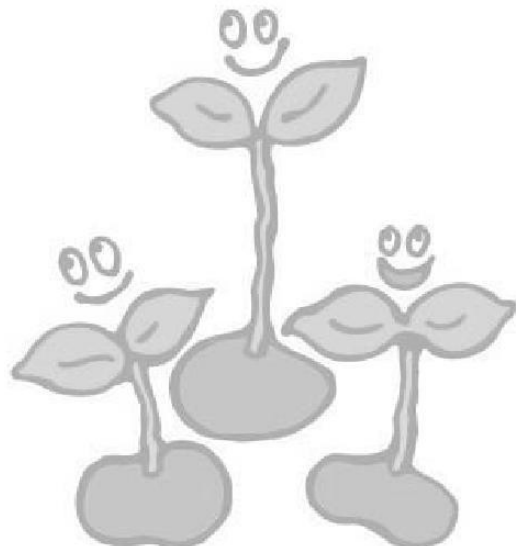
市民用（一般）調査票

6 自殺について

すべての方にお聞きます。

問 18 自殺について知っていることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 鹿児島市で毎年約 100 人の方が自殺で亡くなっている
2. 自殺は追い込まれた末の死である
3. 自殺は防ぐことができる
4. 悩んでいる人はサインを発していることが多い
5. 自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である
6. 身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である
7. 自殺の危険性がある人に相談窓口や専門家などの支援に関する情報を提供することは大切である
8. 悩んでいる人や自殺のサインに気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のことを「ゲートキーパー」という
9. 自殺について考えたことがない
10. その他（ ）



鹿児島市

市民用（一般）調査票

問 19 あなたは、この1年間（平成27年7月から平成28年6月まで）で自殺したい(死にたい)と考えたことがありますか。（1つに○）

- 1. 考えたことがある → 問 19-1 へ
- 2. 考えたことはない → 16 ページ、問 20 へ

問 19 で『1. 考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

問 19-1 自殺を考えたときの原因は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけ、最もあてはまるものには◎を1つつけてください。

	あてはまる ものすべて に○	最もあては まるもの1 つに◎
1. 家庭問題（家族関係の不和、育児の悩み、介護疲れ等）	1	1
2. 健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）	2	2
3. 経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）	3	3
4. 勤務問題（仕事内容、労働条件、職場の人間関係の悩み等）	4	4
5. 男女問題（恋愛、結婚の悩み等）	5	5
6. 学校問題（学習や活動、学友・教師との人間関係の悩み等）	6	6
7. 孤独感・近隣関係（独居・同居・近所付き合いの悩み等）	7	7
8. その他（ ）	8	8



鹿児島市

市民用（一般）調査票

問 19-2 あなたは、自殺をしたいと思ったときにだれか（どこか）に相談しましたか。  
（あてはまるものすべてに○）

1. 配偶者
2. 配偶者以外の家族
3. 友人・知人
4. 学校
5. 職場
6. 医療機関
7. 相談機関（市役所・いのちの電話など）
8. ゲートキーパー
9. 相談していない
10. その他（                                    ）

問 19-3 あなたが、自殺したいと思った時に踏みとどまることのできた要因は何ですか。  
（あてはまるものすべてに○）

1. 書籍・雑誌などの印刷物
2. インターネット・携帯電話（SNSなど）
3. メディア（テレビ・映画など）
4. 相談
5. その他（                                    ）

鹿児島市

市民用（一般）調査票

すべての方にお聞きます。

問 20 自殺に関して相談ができるところを知っていますか。（1つに○）

1. 知っている

2. 知らない

問 21 『鹿児島市無料相談窓口』カード（※1）を知っていますか。（1つに○）

1. 知っている

→ 問 21-1 へ

2. 知らない

→ 18 ページ

問 22 へ

※1 困りごとや悩みに関する『鹿児島市無料相談窓口』カードがあります。ひとりで悩まずにご相談ください。

**ひとりで悩んでいませんか？**  
～誰かに相談したら、きっと心が軽くなる～

**鹿児島市無料相談窓口**

自死予防対策は生きる支援

鹿児島市自死予防対策委員会

(表)

**自死予防やこころの健康を支援する相談窓口**

- こころの健康相談ダイヤル（内閣府） ☎0570-064556
- 「こころの耳」働く人のメンタルヘルス・ポータルサイト（厚生労働省）  
<http://kokoro.mhlw.go.jp/>
- みんなのメンタルヘルス総合サイト（厚生労働省）  
<http://www.mhlw.go.jp/kokoro/>
- いきる 自殺予防総合対策センター  
<http://kikuru.nonq.go.jp/kiku-hp/index.html>
- 鹿児島市ホームページ 自殺予防 検索

発行 鹿児島市保健所保健予防課 ☎099-258-2351 fax099-258-2392  
平成27年2月

(裏)

**こころの健康**

保健所精神保健福祉相談 ☎099-258-2351 平日 8:30～17:15

市精神保健福祉交流センター ☎099-214-3352 9:00～21:00 休館火

**借金や生活・法律のごと**

市消費生活センター ☎099-252-1919 平日 8:30～17:15

鹿児島県弁護士会 ☎099-226-3765 平日 9:00～12:00  
13:00～17:00

**配偶者やパートナーとの悩み（DVなど）**

サンエールかごしま相談室 ☎099-813-0853 10:00～17:00（水 20:00まで）休館月  
（鹿児島市配偶者暴力相談支援センター）

**仕事や職場での悩み**

ハローワークかごしま ☎099-250-6060 平日 8:30～17:15

鹿児島労働基準監督署 ☎099-214-9175 平日 8:30～17:15

**子どもの養育**

市家庭児童相談 ☎099-216-1262 平日 8:30～17:15

**高齢者のこと**

鹿児島シルバー110番 ☎0120-165270 平日 9:00～17:00

**市介護保険相談**

市介護保険相談 ☎099-216-1277 平日 8:30～17:15  
※もよりの長寿あんしん相談センター

**鹿児島いのちの電話**  
☎099-250-7000 24時間 365日受付

**鹿児島県精神保健福祉センター**  
☎099-218-4755 平日 8:30～17:00

**法テラス・サポートダイヤル**  
☎0570-078374 平日 9:00～21:00  
土 8:00～17:00

**鹿児島県司法書士会**  
☎099-256-0335 平日 9:00～17:00

**市雇用相談窓口**  
☎099-216-1329 平日 9:00～15:45

**鹿児島産業保健総合支援センター**  
☎099-252-8002 平日 8:30～17:15（要予約）

**ひきこもりや不登校・いじめ**

かごしま子ども・若者総合相談センター ☎099-257-8230 火～日 10:00～17:00

**市教育相談室**  
☎099-226-1345 平日 9:30～20:00  
土 9:00～12:00

**NPO法人いじめ対策プロジェクト**  
☎090-4475-9351 HP

(内面)



鹿児島市

市民用（一般）調査票

問 21 で『1. 知っている』とご回答された方にお聞きします。

問 21-1 あなたは、『鹿児島市無料相談窓口』カードをどこで（だれから）知りましたか。  
（あてはまるものすべてに○）

1. 鹿児島市役所・保健所などの行政機関
2. 医療機関
3. 薬局
4. 警察署
5. 弁護士会・司法書士会
6. 民生委員
7. ゲートキーパー
8. その他（ ）

問 21-2 あなたは、『鹿児島市無料相談窓口』カードを使って相談したことがありますか。（1つに○）

1. ある → 問 21-3 へ                      2. ない → 次のページ、問 22 へ

問 21-2 で『1. ある』とご回答された方にお聞きします。

問 21-3 あなたは、『鹿児島市無料相談窓口』カードを使ってどこに相談しましたか。  
（あてはまるものすべてに○）

1. いのちの電話・保健所など（こころの健康）
2. 弁護士会・司法書士会など（借金や生活・法律のこと）
3. サンエールかごしま相談室（配偶者やパートナーとの悩み）
4. 鹿児島労働基準監督署・市雇用相談窓口など（仕事や職場での悩み）
5. 市家庭児童相談（子どもの養育）
6. 鹿児島シルバー110番（高齢者のこと）
7. 市介護保険相談（介護保険相談）
8. NPO 法人いじめ対策プロジェクト・市教育相談室など（ひきこもりや不登校）
9. その他（ ）

鹿児島市

市民用（一般）調査票

すべての方にお聞きます。

問 22 あなたが相談したいと思ったとき、どのようなところに相談の場があればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 駅の構内
2. ショッピングセンター、デパート
3. 図書館などの文化施設
4. ハローワーク
5. スーパーマーケット
6. 市役所・保健所などの公的機関
7. 弁護士会・医療機関などの現在開設している相談機関
8. 同じ悩みを持ちながらも回復を目指す取り組みをしている仲間が集う場
9. その他（                                  ）

問 23 相談場所を利用しやすい時間帯はいつですか。（希望するもの3つまでに○）

	10：00～12：00	12：00～15：00	15：00～18：00	18：00以降
平日				
土曜日				
日曜日				





## 8 交通安全について（小中学生の保護者の方対象）

問 26 あなたの世帯には小中学生のお子さんがいらっしゃいますか。（1つに○）

1. いる → 問 27～問 30 へ      2. いない → 22 ページ  
問 31 へ

問 27 小学生または中学生のお子さんについてお聞きします。複数いらっしゃる世帯は、小学生または中学生のうち、最も年長のお子さんについてお答えください。

(1)お子さんの性別	1. 男                  2. 女
(2)お子さんの年齢 ※7月1日現在	(                  ) 歳
(3)お子さんの学年	1. 小学1年生                  2. 小学2年生                  3. 小学3年生
	4. 小学4年生                  5. 小学5年生                  6. 小学6年生
	7. 中学1年生                  8. 中学2年生                  9. 中学3年生

※問 27 にてご回答いただいたお子さんについてお聞きします。

問 28 対象のお子さんは、この1年間（平成27年7月から平成28年6月まで）に交通安全教室（小学校や中学校での講習会などを含む）に参加したことがありますか。（ア・イそれぞれ1つに○）

ア 歩行者に関する 教室	1. 子どもだけで参加したことがある 2. 保護者と一緒に参加したことがある 3. 参加したことがない 4. わからない
イ 自転車の運転に 関する教室	1. 子どもだけで参加したことがある 2. 保護者と一緒に参加したことがある 3. 参加したことがない 4. わからない

鹿児島市

市民用（一般）調査票

問 29 対象のお子さんは、次の歩行者に関する交通ルール・マナーを知っていますか。また、実際に守っていますか。

	それぞれについてあてはまるものすべてに○	
	知っている	守っている
ア. 道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する	1	1
イ. 道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない	1	1
ウ. 歩行者信号に必ず従う	1	1
エ. 携帯電話やスマートフォンを使用しながら歩かない	1	1
オ. 歩道のないところでは、道路の右側を歩く	1	1

問 30 対象のお子さんは、自転車に乗りますか。（1つに○）

- |                   |   |                |
|-------------------|---|----------------|
| 1. 乗る             | } | → 問 30-1 へ     |
| 2. たまに乗る          |   |                |
| 3. 自転車に乗らない（乗れない） | } | → 次のページ、問 31 へ |
| 4. 自転車を持っていない     |   |                |

問 30 で『1. 乗る』『2. たまに乗る』とご回答された方にお聞きします。

問 30-1 対象のお子さんは、次の自転車の運転に関する交通ルール・マナーを知っていますか。また、実際に守っていますか。

	それぞれについてあてはまるものすべてに○	
	知っている	守っている
ア. 2人乗り、2台以上並列しての運転はしない	1	1
イ. 傘を差しながら運転しない	1	1
ウ. 横断歩道は、自転車を降りてわたる	1	1
エ. 携帯電話やスマートフォンを使用しながら運転しない	1	1
オ. 夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	1	1

鹿児島市

市民用（一般）調査票

すべての方にお聞きします。

問 31 事故やけがの予防に関して、ご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

[ ]

質問は以上です。最後までご協力いただきましてありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手不要）に、この調査票を入れ8月19日（金）までに、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。



## 高齢者の事故やけがに関する調査へのご協力のお願い

かねてから、鹿児島市政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

本市では、世界基準の安心安全都市を目指して、WHO（世界保健機関）が推奨する「セーフコミュニティ」の取組を進めており、平成28年1月29日にセーフコミュニティ国際認証を取得しました。

今回の調査は、高齢者の事故やけがの実態の把握と、これまでのセーフコミュニティの取組による効果の検証等のために実施するもので、本市にお住まいの65歳以上の方の中から1,000人の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いいたします。

※ この調査結果は、セーフコミュニティの推進に関する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、お願いいたします。

セーフコミュニティとは、「事故やけがは原因を調べ対策を行うことにより、予防できる」との考えのもと、さまざまな統計データやアンケートなどの分析結果に基づき、地域住民、行政、関係団体などが協働して事故やけがを予防する取組、またはその取組を進めているコミュニティのことです。

本市では、交通安全、学校の安全、子どもの安全、高齢者の安全、DV防止、自殺予防、防災・災害対策の7つを重点分野として取組を進めています。

### ● 調査票の記入について

- 1 調査対象としている方がご回答ください。（ご本人様にご回答できない場合は、ご家族の方などが、可能な範囲で聞き取り等を行いご回答ください。）
- 2 特別の注意書きがない限り、平成28年7月1日（金）現在でご回答ください。
- 3 特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲んでください。また、かっこ内には適切な言葉をご記入ください。
- 4 ご回答後の調査票は、お手数ですが平成28年8月19日（金）までに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。
- 5 本調査に関してご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

#### お問合せ先

〒892-8677

鹿児島市山下町11-1 鹿児島市 市民局 危機管理部 安心安全課  
セーフコミュニティ推進係

電話 216-1512 FAX 226-0748

鹿児島市

市民用（高齢者）調査票

平成28年度事故やけがに関する調査（高齢者）

あてはまる番号に○をつけてください。カッコ内には適切な言葉をご記入ください。

1 あなたのことやお住まいについて

問1 あなた（封書の宛名の方）の性別などについてお聞きします。

(1)性別	1. 男                      2. 女
(2)年齢 ※7月1日現在	(                      ) 歳
(3)就労状況	1. 就労している                      2. 就労していない
(4)世帯構成	1. 単身                      2. 夫婦のみ 3. 親子など、家族と同居                      4. その他

問2 あなたのお住まいについてお聞きします。

(1) 現住所地 ※町名まで	鹿児島市（                      ） 例）山下町、谷山中央4丁目
(2) 小学校区	1. （                      ）校区                      2. 分からない

2 セーフコミュニティについて

問3 あなたは、鹿児島市が「セーフコミュニティ」に取り組んでいることを知っていますか。  
(1つに○)

1. 内容も含めて知っている
2. 聞いた（新聞やテレビ、パンフレットなどで見た）ことはあるが、内容は知らない
3. 知らない

<セーフコミュニティとは>

※ 「事故やけがは原因を調べ、対策を行うことによって予防できる」との考えのもと、さまざまな統計データやアンケートなどの分析結果に基づき、地域住民、行政、団体などが協働して事故やけがを予防する取組のこと。または、その取組を進めているコミュニティ。





鹿児島市

市民用（高齢者）調査票

問6 あなたは、自動車を運転しますか。（1つに○）

- 1. 運転する
  - 2. たまに運転する
  - 3. (運転免許証を持っているが) 運転しない
  - 4. 運転免許証を持っていない
- } → 問6-1へ
- 次のページ、問6-2へ
- 5ページ、問7へ

問6で『1. 運転する』『2. たまに運転する』とご回答された方にお聞きします。

問6-1 あなたは、次の自動車の運転に関する交通ルール・マナーを知っていますか。  
また、実際に守っていますか。

	それぞれについてあてはまるものすべてに○	
	知っている	守っている
ア. 横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	1	1
イ. 酒気を帯びて運転してはならない	1	1
ウ. 運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	1	1
エ. 夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	1	1
オ. 歩行者、自転車の傍を運転するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	1	1



鹿児島市

市民用（高齢者）調査票

問6で『1. 運転する』『2. たまに運転する』『3. (運転免許証を持っているが) 運転しない』とご回答された方にお聞きします。

問6-2 あなたは、「高齢者運転免許自主返納支援制度」を知っていますか。(1つに○)

1. 知っている
2. 知らない

問6-3 あなたは、運転免許を自主返納したいと思いますか。(1つに○)

- |                 |   |             |
|-----------------|---|-------------|
| 1. 自主返納したいと思う   | } | → 次のページ、問7へ |
| 2. どちらともいえない    |   |             |
| 3. 自主返納したいと思わない |   | → 問6-4へ     |

＜運転免許の自主返納とは＞

身体機能の低下などにより、運転を継続する意思がなく、運転をやめる場合、本人の申請により、運転免許を取り消すことができます。

運転免許を返納した場合、警察署長が発行する「運転免許自主返納カード」や、身分証明書として使用できる「運転経歴証明書」(有料)の交付を受けることができます。

○ 高齢者運転免許自主返納支援制度

- ・鹿児島市営バス、市電、JR九州バス、南国交通バスの割引(空港バス、高速バス、観光バス、コミュニティバス等を除く)

【問い合わせ先】

県警察本部交通企画課 099-206-0110 (代表)

問6-3で『3. 自主返納したいと思わない』とご回答された方にお聞きします。

問6-4 運転免許証の自主返納をしたいと思わない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 買い物に必要だから
2. 仕事(通勤を含む)に必要だから
3. 病院への通院に必要だから
4. その他日常生活に必要だから
5. 公共交通機関が自宅(目的地)の近くにないから
6. 身体機能の低下は感じるが、運転に支障が出るほどではないから
7. 運転技術に自信があるから
8. 身分証明書として活用しているから
9. 緊急時に運転できなくなるから
10. その他 ( )



鹿児島市

市民用（高齢者）調査票

## 4 転倒予防について

※歩行や転倒についてお聞きします。

問 10 この1年間（平成27年7月から平成28年6月まで）に転んだこと、または、転びそうになりヒヤリとしたことがありますか。（1つに○）

1. ある → 問10-1へ

2. ない → 問11へ

問10で『1. ある』とご回答された方にお聞きします。

問10-1 転んだことがある、または、転びそうになりヒヤリとした場所はどこですか。

	それぞれについてあてはまるものすべてに○	
	転んだことがある場所	ヒヤリとしたことがある場所
1. 玄関・廊下	1	1
2. 階段	2	2
3. 浴室	3	3
4. トイレ	4	4
5. 寝室	5	5
6. 居間	6	6
7. 外出先 具体的な場所（ ）	7	7
8. その他（ ）	8	8

問 11 転倒に対する不安はありますか。（1つに○）

1. 不安を感じる

2. 不安を感じない

3. どちらでもない

4. その他（ ）



鹿児島市

市民用（高齢者）調査票

問 13 あなたは、転倒事故の予防に取り組んでいますか。（1つに○）

- 1. 取り組んでいる → 問 13-1 へ
- 2. 特に何もしていない → 10 ページ、問 13-6 へ

問 13 で『1. 取り組んでいる』とご回答された方にお聞きします。

問 13-1 あなたが取り組んでいる転倒事故の予防活動は何ですか。  
（あてはまるものすべてに○）

- 1. 継続的な運動による体力強化
- 2. 転倒や骨折予防などのため運動能力、筋力の向上に取り組む教室などへの参加
- 3. 骨を丈夫にする食事など食生活の改善
- 4. 薬の副作用（めまいや、ふらつき など）への注意
- 5. 転倒しにくい環境の整備（住宅の改修や履物の注意 など）
- 6. その他（ ）

問 13-2 あなたが、転倒事故の予防活動に取り組んだ効果はありましたか。  
（1つに○）

- 1. 効果があった
- 2. 効果がなかった
- 3. わからない



鹿児島市

市民用（高齢者）調査票

問 13-1 で『2. 転倒や骨折予防などのため運動能力、筋力の向上に取り組む教室などへの参加』に取り組んでいるとご回答された方にお聞きします。

問 13-3 次のうち、あなたが、参加されているものはどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. お達者クラブ
2. 公民館講座
3. スポーツクラブ
4. その他 ( )

問 13-4 次のうち、あなたが、参加したいと思うものは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 転倒や骨折予防などのための運動能力、筋力の向上
2. 食生活の見直しや栄養の改善など低栄養予防
3. いろいろな人と交流を図ることによる心の健康づくり
4. 口の中を清潔に保ち、歯科疾患などを積極的に予防する口腔ケア
5. 頭や身体を使う脳トレーニングなどの認知症予防
6. その他 ( )

問 13-1 で『3. 骨を丈夫にする食事など食生活の改善』に取り組んでいるとご回答された方にお聞きします。

問 13-5 食生活の改善として気をつけている点や、取り組んだことは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 3食必ず食べている
2. 主食（ごはん、パンなど）・主菜（肉、魚など）・副菜（野菜、海そうなど）などを組み合わせて、バランスのよい食事に気をつけている
3. 食べ過ぎないなど適量をとるようにしている
4. 転倒予防を目的とした体にいい料理教室に参加した
5. その他 ( )

11 ページ、問 14 へお進みください。



鹿児島市

市民用（高齢者）調査票

問 13 で『2. 特に何もしていない』とご回答された方にお聞きします。

問 13-6 転倒事故の予防に関して、特に何もしていない理由は何ですか。  
 （あてはまるものすべてに○）

1. 健康状態や体力に不安がないから
2. 他にやることがあるから
3. 時間がとれないから
4. 何をすればよいか分からないから
5. 介護予防教室など1人では参加しにくいから
6. 介護予防教室などの開催場所が遠いから
7. その他（                          ）





5 認知症に対する理解について

すべての方にお聞きします。

問 16 あなたは、ご自身や家族について、認知症に対する不安や心配がありますか。（1つに○）

1. ある                                  2. ない                                  3. わからない

問 17 あなたは、認知症は病気によるものだと知っていますか。（1つに○）

1. 知っている                          2. 知らない

問 18 あなたは、認知症への理解不足が高齢者の方への虐待につながることを知っていますか。（1つに○）

1. 知っている                          2. 知らない

問 19 あなたが自身や家族について認知症に関する不安をもったとき、相談したいと考えるのはだれ（どこ）ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 家族・親族
2. 知人・友人
3. 民生委員
4. 医療機関
5. 長寿あんしん相談センター(地域包括支援センター)
6. 認知症の人と家族の会
7. 市高齢者相談窓口
8. 市保健所、保健センター
9. わからない
10. その他 (                                  )

鹿児島市

市民用（高齢者）調査票

問 20 認知症サポーター（認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者）についてご存知ですか。（1つに○）

- 1. よく知っている
- 2. 聞いたことはある
- 3. まったく知らない

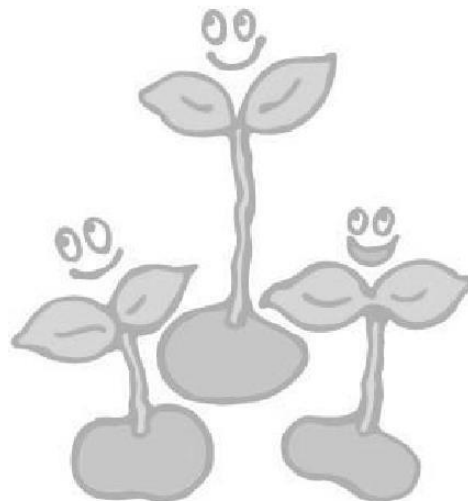
問 21 あなたは、「認知症サポーター養成講座」を受講してみたいと思いますか。（1つに○）

- 1. すでに受講した
  - 2. 受講したい
  - 3. どちらかといえば受講したい
  - 4. どちらかといえば受講したくない
  - 5. 受講したくない
  - 6. わからない
- 問 21-1 へ
- 次ページ、問 22 へ

問 21 で『1. すでに受講した』とご回答された方にお聞きします。

問 21-1 あなたは、「認知症サポーター養成講座」を受講して、認知症の方への対応に変化がありましたか。（1つに○）

- 1. 変化があった
- 2. 変化はなかった
- 3. わからない





鹿児島市

市民用（高齢者）調査票

問 23 あなたは、この1年間（平成27年7月から平成28年6月まで）で自殺したい(死にたい)と考えたことがありますか。（1つに○）

- 1. 考えたことがある → 問 23-1 へ
- 2. 考えたことはない → 17 ページ、問 24 へ

問 23 で『1. 考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

問 23-1 自殺を考えたときの原因は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけ、最もあてはまるものには◎を1つつけてください。

	あてはまるものすべてに○	最もあてはまるもの1つに◎
1. 家庭問題（家族関係の不和、育児の悩み、介護疲れ等）	1	1
2. 健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）	2	2
3. 経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）	3	3
4. 勤務問題（仕事内容、労働条件、職場の人間関係の悩み等）	4	4
5. 男女問題（恋愛、結婚の悩み等）	5	5
6. 学校問題（学習や活動、学友・教師との人間関係の悩み等）	6	6
7. 孤独感・近隣関係（独居・同居・近所付き合いの悩み等）	7	7
8. その他（ ）	8	8



鹿児島市

市民用（高齢者）調査票

問 23-2 あなたは、自殺をしたいと思ったときにだれか（どこか）に相談しましたか。  
（あてはまるものすべてに○）

1. 配偶者
2. 配偶者以外の家族
3. 友人・知人
4. 学校
5. 職場
6. 医療機関
7. 相談機関（市役所・いのちの電話など）
8. ゲートキーパー
9. 相談していない
10. その他（ )

問 23-3 あなたが、自殺したいと思った時に踏みとどまることができた要因は何ですか。  
（あてはまるものすべてに○）

1. 書籍・雑誌などの印刷物
2. インターネット・携帯電話（SNSなど）
3. メディア（テレビ・映画など）
4. 相談
5. その他（ )

鹿児島市

市民用（高齢者）調査票

すべての方にお聞きます。

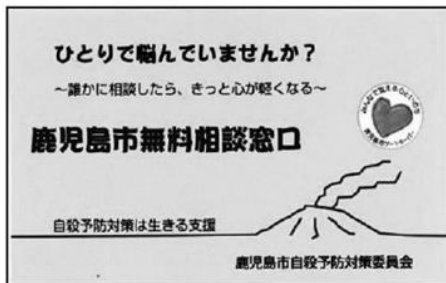
問 24 自殺に関して相談ができるところを知っていますか。（1つに○）

- 1. 知っている
- 2. 知らない

問 25 『鹿児島市無料相談窓口』カード（※1）を知っていますか。（1つに○）

- 1. 知っている → 次のページ 問 25-1 へ
- 2. 知らない → 19 ページ 問 26 へ

※1 困りごとや悩みに関する『鹿児島市無料相談窓口』カードがあります。ひとりで悩まずにご相談ください。



(表)



(裏)

<p><b>こころの健康</b></p> <p>保健所精神保健福祉相談 ☎099-258-2351 平日 8:30～17:15</p> <p>市精神保健福祉交流センター ☎099-214-3352 9:00～21:00 休館火</p> <p><b>借金や生活・法律のごと</b></p> <p>市消費生活センター ☎099-252-1919 平日 8:30～17:15</p> <p>鹿児島県弁護士会 ☎099-226-3765 平日 9:00～12:00 13:00～17:00</p> <p><b>配偶者やパートナーとの悩み（DVなど）</b></p> <p>サンエールかごしま相談室 ☎099-813-0853 10:00～17:00（水20:00まで）休館月 （鹿児島市配偶者暴力相談支援センター）</p> <p><b>仕事や職場での悩み</b></p> <p>ハローワークかごしま ☎099-250-6060 平日 8:30～17:15</p> <p>鹿児島労働基準監督署 ☎099-214-9175 平日 8:30～17:15</p> <p><b>子どもの養育</b></p> <p>市家庭児童相談 ☎099-216-1262 平日 8:30～17:15</p> <p><b>高齢者のこと</b></p> <p>鹿児島シルバー 110 番 ☎0120-165270 平日 9:00～17:00</p> <p><b>市介護保険相談</b></p> <p>市介護保険相談 ☎099-216-1277 平日 8:30～17:15 ※もよりの長寿あんしん相談センター</p>	<p>鹿児島いのちの電話 ☎099-250-7000 24時間 365日受付</p> <p>鹿児島県精神保健福祉センター ☎099-218-4755 平日 8:30～17:00</p> <p>法テラス・サポートダイヤル ☎0570-078374 平日 9:00～21:00 土 9:00～17:00</p> <p>鹿児島県司法書士会 ☎099-256-0335 平日 9:00～17:00</p> <p><b>ひきこもりや不登校・いじめ</b></p> <p>かごしま子ども・若者総合相談センター ☎099-257-8230 火～日 10:00～17:00</p> <p>市教育相談室 ☎099-226-1345 平日 9:30～20:00 土 9:00～12:00</p> <p>NPO法人いじめ対策プロジェクト ☎090-4475-9351 </p>
---	---

(内面)





鹿児島市

市民用（高齢者）調査票

すべての方にお聞きます。

問 26 あなたが相談したいと思ったとき、どのようなところに相談の場があればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1. 駅の構内
- 2. ショッピングセンター、デパート
- 3. 図書館などの文化施設
- 4. ハローワーク
- 5. スーパーマーケット
- 6. 市役所・保健所などの公的機関
- 7. 弁護士会・医療機関などの現在開設している相談機関
- 8. 同じ悩みを持ちながらも回復を目指す取り組みをしている仲間が集う場
- 9. その他（ ）

問 27 相談場所を利用しやすい時間帯はいつですか。（希望するもの3つまでに○）

	10:00~12:00	12:00~15:00	15:00~18:00	18:00以降
平日				
土曜日				
日曜日				





鹿児島市

市民用（高齢者）調査票

すべての方にお聞きします。

問 30 事故やけがの予防に関して、ご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

[ ]

質問は以上です。最後までご協力いただきましてありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手不要）に、この調査票を入れ8月19日（金）までに、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。

